

ま え が き

本校は、令和2年度の義務教育学校の開校と同時に、文部科学省から学習指導要領等現行の教育課程の基準によらない教育課程を編成し、新しい教育課程、指導方法等について研究開発を行う「研究開発学校」としての指定をいただきました。その研究開発課題として「主として新たな教科等の設定や教科等の再編に関する研究」を行っており、それが本校で創設した新領域「どう生きるか」です。

本領域は、学校の仲間や、社会で生きる様々な人々との出会いを通して、実生活や実社会の課題（リアルな世界にある「よりよく生きるための課題」）と向き合い、そこから自分なりの納得解や最適解を見いだしていく探究的な学びです。また本領域は、「総合的な学習の時間」、「生活科」、「特別の教科 道徳」を融合させた新領域であり、各教科等の学びとの連携を図りながら、主題にある「自己実現に向かう児童生徒の育成」を目指しています。

現代は将来の予測が困難な「VUCA」の時代とも言われています。少子化・人口減少や高齢化、グローバル化の進展と国際的な地位の低下、地球規模の課題、格差の固定化、DXの進展、AIやロボットの発達など、様々な社会の課題や変化があり、それに対応しなくてはなりません。そんな中、発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大や国際情勢の不安定化は、正に予測困難な時代を象徴する事態であったと言えます。児童生徒が生きる未来社会は、これまで以上に先行き不透明で将来の予測が困難になることは確かです。だからこそ、実生活や実社会の課題や変化と向き合い、多様な他者の価値観を理解し、周りの人々と協調するとともに、「自分はどう生きるか」を問い続けながら、自分なりの解を見だし、自分が進むべき道を力強く切り拓いていこうとする資質・能力の育成を目的とした新領域の学びは重要なのだと考えます。

本年度は、昨年度教育研究会で参観された皆様からいただいたご意見や、研究実践を進める中で見えてきた課題、第18回研究開発学校フォーラムでの指導を踏まえ、自己実現に向かうための資質・能力を発揮した姿を明確にし、評価方法を工夫した指導と評価の一体化を図ること、各単元における道徳的諸価値との出会わせ方や向き合い方の工夫、児童生徒の学びの累積の仕方や内省の工夫に重点をおいて研究を進めてまいりました。本研究も後1年となり、現時点ではまだまだ課題が山積しておりますが、御参会の皆様方からの御意見や御助言、今後の研究への御批正を糧として、最終年度の研究を実り多きものにしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本校の研究に対して御指導いただきました、京都大学大学院准教授 石井英真様、東京学芸大学教育学部教授 高橋純様、国立教育政策研究所教育課程研究センター総括研究官 西野真由美様、岐阜県教育委員会義務教育課教育主管 山田高秀様、岐阜県立岐阜工業高等学校長 堀秀樹様、岐阜市立岐阜小学校長 藤田忠久様、郡上市立郡南中学校長 三島晃陽様、岐阜大学教育学部長 山田雅博様、同学部教授 益子典文様、今村光章様に心から厚く御礼申し上げます。

令和5年11月4日
岐阜大学教育学部附属小中学校
統括校長 丸山早苗

自己実現に向かう児童生徒の育成（第三年次）

1 主題設定の理由

（1）本校の教育目標

本校は、教育目標を「独歩・信愛・協働」とし、教育理念「人間教育」を基軸に、児童生徒が人生をよりよく生き、幸せを実感できるようになる教育とは何か、そして教師は何をすべきなのかを常に考え歩んできた。そして今も、大切な児童生徒に私たちがすべきことは何かを問い続け、教育活動を行っている。本校の言う「幸せ」とは、大きく三つのことを大切にした生き方につながる。一つ目は「自分らしく」である。かけがえのないたった一度の人生だからこそ、頭で考え、自分の足で立ち、歩めること、つまり「自分らしく」生きることは幸せにつながるからである。二つ目は「人とのつながり」である。私たちの周りには様々な人がいる。その人たちとの出会いを通して、感動、喜び、勇気、大切な思い出などを得て、人生を豊かにできるからである。三つ目は「貢献できること」である。誰かの役に立ち、自分の存在価値を見いだすことで、自己有用感が高まり、よりよく生きていこうとするからである。

（2）児童生徒が生きるこれからの社会

児童生徒が生きていくこれからの社会は、情報化がいつそう進み、社会の在り方そのものも変化し続ける。こうした時代を生きていくには、自ら社会やテクノロジーの進化に対応しつつ、情報を取捨選択し、新しい知識を取り込み、そして活用していく必要がある。そのためには、生涯にわたって学び続けられるかどうか鍵になる。また、テクノロジーの飛躍的な進化を背景として、経済や文化など社会のあらゆる分野でのつながりが国境や地域を超えて活性化し、多様な人々や地域同士のつながりはますます緊密さを増してきている。こうしたグローバル化が進展する社会では、多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を創り出していくことが重要である。

常識も価値観も多様化する時代においては、多様な価値観を理解し、他者と協働しながら目的に応じた納得解や最適解を見いだしていくことが求められている。そして、よりよい社会と人生を創り出していくためには、人任せにするのではなく、自分の存在意義を感じながら、自分で幸福を実現していくことが求められている。

（3）自己有用感や自己実現への意欲

内閣府による我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成30年度 対象：各国13歳から29歳までの男女）

（表1）では、「うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む」の質問に『そう思う』と答えた日本の若者の割合は10.8%であり、調査した国の中でも低いことが分かる。また、同じ調査の「自分には長所がある」の質問についても、調査を行った国の中で最下位となっている。平成25年度の結果と比べると、どちらの質問についても、肯定的に回答した日本の若者の割合は減少している。これらの

表1 平成30年度 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査

うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む	
各国	そう思う
アメリカ	42.3%
フランス	41.8%
イギリス	32.7%
ドイツ	29.4%
韓国	24.2%
スウェーデン	23.6%
日本	10.8%

結果から、日本の若者たちの自身に対する満足感の低下から自己有用感も低下していることが分かる。

本校児童生徒についても過去の質問紙調査（令和4年度全国学力・学習状況調査、本校6年生105人・9年生105人対象、表2）から次のような結果が得られている。「当てはまる」と回答した児童生徒の割合を全国、岐阜県、本校で比べた結果から、児童生徒は、自分は人の役に立ちたいという思いはあるが、なかなか行動に移すことができていないことが分かる。本校の結果も同じようになっており、本校の児童生徒においても自己有用感が低いということが推察できる。

表2 令和4年度全国学力・学習状況調査

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果			
	本校	岐阜県	全国
人の役に立つ人間になりたいと思いますか			
6年生	79%	75%	75%
9年生	73%	74%	73%
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか			
6年生	28%	27%	27%
9年生	29%	21%	21%
自分には、よいところがあると思いますか			
6年生	38%	39%	39%
9年生	43%	38%	36%
将来の夢や目標を持っていますか			
6年生	61%	59%	60%
9年生	41%	40%	39%

（4）価値観の多様化

本校においても生徒指導上の諸課題はある。児童生徒間のトラブルを自分たちで解決することができずにずっと悩んだり、こじれたりする事例が多い。その中で「自分は悪くない。」「〇〇が悪い。」「自分は（よいと信じて）こうしたのに〇〇は分かってくれない。」「〇〇はこういう子だから（考えだから）仕方がない。」など、自分とは違う価値観に対する排他的な姿が見られることもある。

その原因の一つには生活環境の変化がある。中央教育審議会においても「近年の都市化、核家族化等により地縁的つながりの中で子育ての知恵を得る機会が乏しくなったことや個人重視の風潮、マスメディアの影響等による人々の価値観の大きな変化に伴い、親の家庭教育に関する考え方も変化が生じている。」と久しく言われている。生活環境の変化により、個人のもつ価値観が多様化し、その許容量が狭小化している。本校でも少子化、核家族化、共働き家庭の増加、児童生徒の生活の変化等が進んでいる。

（1）～（4）から、児童生徒の自己有用感を高めるためには、「人の役に立ちたい。」という思いを行動に移し、実現していく体験活動が必要であると考え、活動の中で「難しいことも自分で解決することができた。」「自分にも人や社会のためにできることがある。」という満足感や充実感を得ることで、自己有用感を高めることができる。また、これまで行ってきた教科等における日常の中での生き方追究のみならず、児童生徒の発達に応じて、家庭や地域社会で経験することが望ましい生活体験、社会体験、自然体験などを学校教育に取り入れ、それらを体験させることによって、多様な価値観を受け入れることにつながり、自分の生き方をよりよく考えることができるようにする必要がある。

ゆえに、本校の研究主題を「自己実現に向かう児童生徒の育成」とし、自己実現に向かうために必要な資質・能力を育む義務教育9年間を一貫した教育課程を構築することとした。そして、本研究主題に迫ることが、本校の教育目標、教育理念である「人間教育」につながると考えている。

「自己実現に向かう」とは、「予見不可能な未来社会において、自分らしく生きるため、一人一人が『自分はどう生きるか』を問い続け、納得解や最適解を求め、学び続けること」と本校では定義している。

2 自己実現に向かう児童生徒の姿

主題設定の経緯を含め、今後の情勢や児童生徒の実態から、私たちは自己実現に向かう児童生徒を次のように考えた。

- 自分の願いをもって、願いを達成するために学び続ける子
- 他者の考え方に共感し、他者と協働し問題を解決していく子
- 自分のよさを生かして、人や社会に貢献していく子

3 育みたい資質・能力

自己実現に向かう児童生徒の姿に迫るために育みたい資質・能力を「自己実現に向かうための資質・能力」とし、その中に「問題解決力」「関係構築力」「貢献する人間性」を設定した。(表3)

表3 自己実現に向かうための資質・能力

問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現するなど、どんな状況でも自分で何ができるのかを考え、困難を乗り越えて行動する。	他者を受容して共感的に理解し、他者と力を合わせて考え、行動することができる。	自分らしさを生かし、自分や他者、社会をよりよくするために行動しようとする。

4 研究仮説

設定した自己実現に向かうための資質・能力を育むために、次のような研究仮説を立てた。

○実社会・実生活にあるテーマに対して探究的で創造的な学びを位置付けることで、児童生徒はどんな状況でも「自分はどう生きるか」を考え、判断し行動することができ、自己実現に向かうための資質・能力を実践的な場面で育成することができる。
○実社会・実生活にあるジレンマやエラーに対して、他者と共に道徳的な議論を繰り返すことにより、他者を受容して共感的に理解し、他者と自分の幸せのために何ができるのかを考え、行動につながる実践的な道徳性を養うことができる。
○9年間にわたり、多様な分野や社会で活躍し貢献する人々との出会いを通して、キャリア形成していくことで、児童生徒は多様な価値観から自分の生き方を見つめ、目標をもって学び続けることができる。
○児童生徒が自身の変容や成長を実感することにより、自分らしさを生かし、他者や社会を受け入れながら、自分と社会の未来に夢と責任をもって行動しようとするようになる。
○全ての教育活動で自己実現に向かうための資質・能力を育成するためのカリキュラムづくりの方法原理や、教師の指導原理を見だし、実践していくことで、児童生徒の自己実現に向かうための資質・能力を効果的に育成することができる。

5 教育課程の構成

学習指導要領(平成29年告示)では、育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養という三つの柱で記している。各教科等の目標及び内容はこの三つの柱に沿って再整理されている。また、学習の基盤となる資質・能力として、言語能力、情報活用能力、問題解決・発見能力等が挙げられ、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るように明記されている。学習指導要領は、従来の教科等の内容を、資質・能力の三つの柱で整理して教育課程を編成するとともに、学習の基盤となる資質・能力等を教科等横断的な視点に立って育成する構造となっている。

本校は自己実現に向かうための児童生徒の資質・能力として、「問題解決力」「関係構築力」「貢献する人間性」の三つを設定している。これは、学習指導要領における学習の基盤となる資質・能力と捉えることができる。そして、これらの資質・能力を育むためには、次のような学びが必要であると考えた。

(1) 実社会・実生活をテーマにした探究的な学び

自己実現やキャリア形成のためには、自分や他者、社会を知り、自分の立場や状況を把握することが必要である。そこから自分に必要なものが何かを考え、それを得るためにはどうしたらよいかを判断

し、行動していくことが重要となる。そこで、自分や他者、社会をテーマにした探究的な学びを位置付ける。探究的な学びのテーマを、9年間を通してバランスよく仕組み、各教科等と関連付けていくことで、様々な教科で学んだ考え方を生かして教科横断的に学び、自分や他者、社会を知り、自分はどう生きるのかと考えていくことができると思う。

(2) 事柄や価値そのものを議論する学び

児童生徒は探究的な学びを通して、また「それでいいのか」と誰かに問いたくなるようなことや、「そんな考えもあるのか」と新しい考えに出会うだろう。これらのことをきっかけに、「本当にそれが大切なのか」「自分はどうしたらいいのか」と問いをもち、自分や他者、社会のためにはどんな事柄や価値こそ大切にしなければいけないのかを考える学びを位置付ける。自己実現に向かうための資質・能力を育てていくためには、児童生徒が自ら大切にしなければならないものを見いだしていく必要がある。さらに、事柄や価値そのものを議論することが、道徳の目標であるよりよく生きるための基盤となる道徳性を育成することにもつながると考える。こういった議論を行い、他者と深く考え、妥協した解ではなく納得解や最適解を見いだす活動は、自己実現のために必要なことであると思う。

(3) 自分と社会の未来に夢と責任をもてる学び

学校生活の中で、他者（学級の仲間、教師、家族など）からの認めや、行事等の成就感を味わう機会が保障されていると、自己有用感や自己実現への意欲の高まりはある程度期待できる。しかし、児童生徒たちの周りの環境も変化しており、常に他者からの認めがあるという保障がなくなってきている。これからは、他者からの認めだけではなく、自分で自分に問うたり、自分で自分を認めたりできることも必要であると思う。このように自分を見つめたり、どうしたからよかったのかと振り返ったりする、児童生徒が主体的に自己の存在感を確かめる行為に目を向け、自身の変容や成長を自覚することにより、自分らしさを生かし、他者や社会を受け入れながら学びを進め、自分と社会の未来に夢と責任をもつことができるようになると考える。

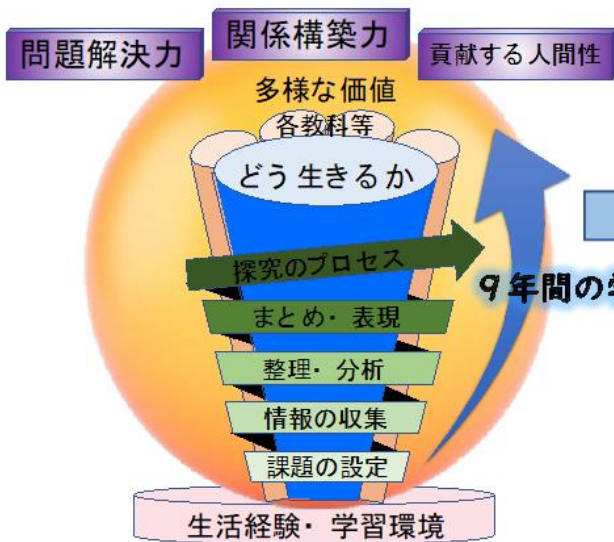
以上の学びの実現に向かって、本研究では、「自己実現に向かう児童生徒」を願い、学校教育全体で三つの資質・能力を直接的に育むために、総合的な学習の時間、生活科、特別の教科 道徳の時間を充て、新領域「どう生きるか」を創設した。

6 新領域「どう生きるか」

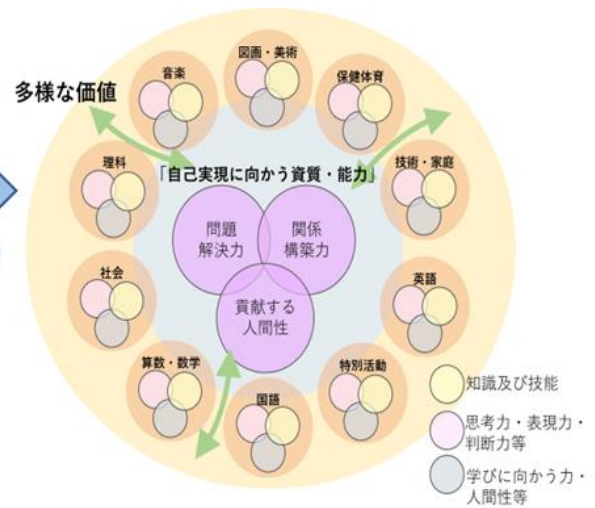
「どう生きるか」は、本研究の教育課程の中で軸となるものであり、各教科や領域を含め、全教育活動で「自己実現に向かうための資質・能力」を育むことを目指すものである。

学習内容は、「5 教育課程の構成」の(1)～(3)までの学びを具体化するものであり、実社会・実生活をテーマにした探究的な学びを設定し、その中で生まれた問いや、学校や社会の中にある現代的課題、特別活動や生活上の人間関係でのジレンマやエラーを乗り越えるために、道徳的諸価値を基にして議論する活動を取り入れる。この議論を通して、他者の価値観を受容して共感的に理解し、他者と自分の幸せのために何ができるのかを考え、行動できることを考える。「ジレンマ」とは、二つ以上の価値で葛藤すること、「エラー」とは、児童生徒にとって、探究の中でうまくいかないこと、乗り越えるべき壁と本校では定義している。

次ページの図1・2のように、本校で育みたい資質・能力について、学習指導要領の三つの資質・能力との関係性を整理し、「どう生きるか」及び各教科等を系統的かつ横断的に紡いでいながら育てていくことができるように構成した。さらに、その中で自分が学んだことを蓄積し、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。これを、義務教育9年間で一貫して行う。この自己評価の蓄積が自己実現に強く結び付いていくと考えている。



(図1) 本校の9年間の教育課程の構成



(図2) 本校の1年間の教育課程の構成

また、本校は、特別支援学級を設置している。特別支援教育においては、児童生徒が願いをもって精一杯活動し、他者と関わることを有益であると感じられるよう、新たな体験をしたり、自分の好きなことを追究したりするような主体的な生活を送っている。そのため、上述した内容を個の特性や生活経験に応じて柔軟に展開していく。自分の願いをもって、活動に没頭する充実感や身近な仲間や教師と一緒に活動する楽しさを味わう時期から始まり、学校内外に視野を広げ、学級の仲間や地域へ願いや活動を発信したり、多くの人から認められたり、感謝されたりする経験を味わえるようにする。さらに、作業学習で育む勤労観とも関連付け、余暇活動にも着目し、状況に応じてどう過ごしていくかを考えられるようにし、実社会で生きていく力を育てていく。

7 どう生きるかの目標と成立条件

以上の構想をふまえ、どう生きるかの目標と成立条件を以下のようにまとめた。

【目標】

新領域「どう生きるか」の目標は、次のとおりである。

実生活や実社会の課題を自分ごととして解決する過程において、ジレンマやエラーを乗り越え、自己の在り方や生き方についての考えを深め、個人の体験や経験、客観的な情報や科学的根拠、道徳的諸価値を基に、主体的・協働的に納得解や最適解を導いていくことを通して、自己実現に向かうための資質・能力を育成する。

- (1) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現するなど、どんな状況でも自分で何ができるのかを考え、困難を乗り越えて行動する「問題解決力」を育むことができるようにする。
- (2) 他者を受容して共感的に理解し、他者と力を合わせて考え、行動することができる「関係構築力」を育むことができるようにする。
- (3) 自分らしさを生かし、自分や他者、社会をよりよくするために行動しようとする「貢献する人間性」を養う。

【成立条件】

- ・学習者の「問題解決力」「関係構築力」「貢献する人間性」を育成する目的に対する手段として、学習過程が位置付けられていること。
- ・学習者の「生き方」に影響を与える社会に生きる人々と出会い、学びにつなげることのできる機会が意図的・計画的に位置付けられていること。
- ・児童生徒が、課題を「自分ごと」として捉えながら探究していく単元構想であること。
- ・児童生徒は、探究的な学びを通して起こる「ジレンマ」や「エラー」に対して、道徳的諸価値を基に「自分ごと」で考え、判断し、行動しようとする学びであること。
- ・教科等の学びを実践的に活用する教科等横断的な位置付けがなされていること。（「どう生きるか」と教科等の関連）
- ・将来へのキャリアプラン構築の土台の育成を目指すことができるように、学年の発達の段階を考慮した9年間の系統的・発展的な学びが実現されていること。

8 研究内容

本校で目指す児童生徒の姿に迫るためには、これまでの教育課程を児童生徒の姿を基に問い直していくこと、「どう生きるか」において資質・能力を育てていくために年間、単元、単位時間における「目標ならびに指導と評価の一体化」を図ることが大切である。その上で、意図的に指導・援助、評価を行っていかなくてはならない。そこで、研究内容を以下の通りとした。

(1) 研究内容1 教育課程

- ① 自己実現に向かうための資質・能力の整理
- ② 「学びのカテゴリー」の設定
- ③ 指導計画の作成

(2) 研究内容2 指導の充実

- ① 学習過程の整理
- ② 各々の過程の充実を図るための指導・援助
 - ア 課題の設定
 - イ 情報の収集
 - ウ 整理・分析
 - エ まとめ・表現
 - オ 内省

(3) 研究内容3 学習評価

- ① どう生きるかの特性に合わせたルーブリックの作成
- ② 系統性を意識したポートフォリオの活用

(1) 研究内容1 教育課程

① 自己実現に向かうための資質・能力の整理

自己実現に向かうための資質・能力を「どう生きるか」で直接的に且つ、教科等横断的に育むためには、教師の指導や学習評価を児童生徒の姿を基に考えていく必要がある。そのために、実際の授業の中で資質・能力を発揮した姿を描くことを目指した。

ア (一年次) 自己実現に向かうための資質・能力の細項目化

「自己実現に向かうための資質・能力」である「主体的な問題解決力」「協働的な関係構築力」「貢献する人間性」を細項目化した。(表4)

その結果、指導計画を立てる際、教師が計画する学習活動に意図性や計画性をもたせて実践することができた。しかし、それぞれの力を発揮した姿の捉えが教師によって違うこと、その力を育むことができたのかを全体として共有することができないという課題が残った。

表4 三つの資質・能力の細項目化(一年次)

自己実現に向かう資質・能力	資質・能力の細項目	
主体的な問題解決力	【問題解決のプロセスを歩んでいく力】 ・問題発見する力 ・計画する力 ・意思決定する力 ・実行する力 ・自己を省察して、調整する力	【よりよい解決のために必要な力】 ・批判的思考力 ・ジレンマやエラーを乗り越える力 ・最適解や納得解に導く力
協働的な関係構築力	・相手のことを共感的に理解する力 ・自分の考えを相手に理解してもらう力 ・合意形成に向かう力 ・リーダーシップ ・マネジメント力	
貢献する人間性	・感性、芸術性を大事にして様々なことに興味・関心がもてる態度 ・他者や社会に貢献しようとする態度 ・自己有用感の高まり	

イ (二年次) 自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿と、その内面に働く子供の状態の描き出し

二年次の研究では、一年次の課題から、細項目化した力を、授業や生活の中で児童生徒が資質・能力を発揮している姿として描き直した。(表5)

こうすることで、教師が授業の中でどのような姿を目指すのが明確になった。また、児童生徒が資質・能力を発揮しているときの、児童生徒の内面の状態も描くことで、教師が児童生徒の姿を見届ける際の視点が明らかになった。

しかし、授業実践をしていくと児童生徒が資質・能力を発揮している姿は一様でないことが職員間の姿の共有の上で課題となり、学年の発達の段階に応じて、児童生徒が資質・能力を発揮した姿をさらに詳しく描くことが必要となった。

表5 三つの資質・能力及び資質・能力が発揮されている姿(二年次)

自己実現に向かう資質・能力	資質・能力が発揮されている姿	子供の内面の状態(教師が見届ける着眼点)
問題解決力	・自分の問題を持ち、問題を解決するために考え、判断し、行動する ・あきらめずに最後までやりぬく ・今の自分に満足することなく、自分の考えをさらに広げ、深める	・学んだことを活かす ・思いや願いをもつ ・問題を発見する ・活動を計画する ・計画を実行する ・貫く ・批判的思考 ・自分のアプローチを柔軟に変えていく
関係構築力	・他者の考えを理解し、対話を通してひと、もの、こととの対立やジレンマを乗り越える	・学んだことを活かす ・寄り添う ・折り合いをつける ・分ち合う ・共に向かう
貢献する人間性	・自分の長所と短所、相手が行っていることやものごとの価値に気づき、相手や社会に対して敬意をもって自分にできることを考え行動する	・学んだことを活かす ・自分を認める ・相手や社会への敬意 ・創造性

ウ (三年次) 学年の発達に合わせた自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の整理

三年次の研究では、前年度の課題を踏まえ、表6に示すようにより学年の発達の段階に合わせた三つの資質・能力を発揮し

表6 学年の発達に合わせた三つの資質・能力が発揮されている姿(三年次)

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9
問題解決力	学級の仲間と共通の願いをもち、願いを達成するために、行動することができる。	学級の仲間と共通する、または、問題別グループで問題を見だし、解決するための方法を考え、問題解決に向かって行動することができる。(探究の形・サイクルを身に付ける)	問題別グループで問題を見だし、問題が解決できなかった時にも、多様な考え方をもとに、問題解決に向かい続けることができる。(探究活動に必要な資質・能力を身に付ける)	個人で問題を見だし、自立した探究(自ら問題解決のための計画から実行・振り返りを行う)ができる。					
関係構築力	情報をもっている人に出会い、関係を作りつつ、情報を集めることができる。また、学級の仲間の考えを分かち合いながら、エラーやジレンマを乗り越えることができる。	情報をもっている人に出会い、関係を作りつつ、情報を集めることができる。また、学級や願(課題)別グループ内の考えの共通点や相違点をみいだしながら、エラーやジレンマを乗り越えることができる。	情報をもっている人に出会い、関係を作りつつ、情報を集めることができる。また、課題別グループ内で建設的な話し合い活動を通して、考えの折り合いをつけることを通して、エラーやジレンマを乗り越えることができる。	課題解決に必要な人を自ら選択し、関係を作りつつ、情報を集めることができる。また、考えや価値観の違いが生じたときは、話し合い活動を通して合意形成に向かうことで、エラーやジレンマを乗り越えることができる。					
貢献する人間性	「(他者のために)できた!」「うれしかった!」といった実感を得ることができる。	活動を振り返って、どうしてよかったのかを自ら考えることができる。どうすれば貢献できるかを考えることができる。	貢献できる活動を自ら行おうとする。						

ている姿を描き、それを踏まえて各学年で指導計画を立て、資質・能力を育んでいくことを考えた。

なお、特別支援教育においては、表6のような姿を描くことは困難である。一人一人の実態に合わせた目指す姿を描き、その姿に迫るために、どんな資質・能力を身に付けていけばよいか、段階を示すようにする。その段階も、エレベーターのように順番に上がっていくのではなく、行ったり来たりを繰り返しながら成長していくことも加味して姿を描くようにしている。

② 「学びの 카테고리」の設定

自己実現に向かうための資質・能力を育成することを目標にした学びにおいても、児童生徒が学ぶ内容によってその効果は変わってくる。そこで、児童生徒の興味・関心や生活環境などの実態、発達の段階を考慮し、自分や他者、社会をテーマにした探究領域「学びの 카테고리」を設定した。学びの 카테고리を、9年間を通してバランスよく仕組み、各教科等と関連付けていくことで、教科等で学んだことを生かして横断的に学び、自分や他者、社会を知り、自分はどう生きるのかと学び続けていくことができる考えた。

ア (一年次) 切実感があり、具体から抽象へ進化することを意図した学びの 카테고리

一年次、学びの 카테고리を設定するに当たり意図したことは、発達の段階に応じた、9年間の学びが児童生徒にとって切実感があり、未来社会に必要な体験や経験を通して、「自分はどう生きるか」を探究し、資質・能力を育むことができる学びの題材としたことである。また、題材の配列は学

表7 一年次「学びの 카테고리」

学年	1～3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
カテゴリ	植物 人	動物 人	食品ロス	まじり	文化	幸せな生き方	

学年	特別支援学級 1・2年生	特別支援学級 3・4年生	特別支援学級 5～7年生	特別支援学級 8～9年生
カテゴリ	野菜栽培体験 仲間との遊び	野菜の育て方	情報 学校の周りの地域	進路 余暇

年とともに、具体から抽象に内容が進化すること、身近な人・もの・ことから広い空間で多様な人々と関係を作っていくように学びのフィールドの広がりも考慮して設定した。(表7)

しかし、1年間の実践を振り返ったときに、カテゴリをしばり過ぎてしまうこと(例えば5年生「食品ロス」)により、毎年、同じ実践の繰り返しになってしまい、児童自ら問題を発見し解決していくことが難しく、児童にとって自分ごとの学びになっていかないことが課題となった。

イ (二年次) 自分ごととして捉え、児童生徒が自ら学びのフィールドを広げることを期待した学びの 카테고리

二年次では、一年次の課題であった学びを自分ごととして捉え、かつ探究の幅をもたせ、児童生徒が自ら学びのフィールドを広げられるようにするために、(表8)のように学びの 카테고리を変更した。

表8 二年次「学びの 카테고리」

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
カテゴリ	遊び	野菜	花	動物	暮らし	まじり	多様性	働く	生きる

学年	特別支援学級 1～4年生	特別支援学級 5～7年生	特別支援学級 8～9年生
カテゴリ	遊び・生活づくり	地域・情報	進路・余暇

年度末の振り返りでは、実践の中での児童生徒の姿をもとに話し合いを行った結果、各学年において、それぞれ設定した課題を自分ごととして捉える姿が増えてきた。一方、9年生の後期の学習において、進路選択の時期と重なって時間的制約があり、目指す児童生徒の姿に迫りきることができないといった課題が見られた。

ウ (三年次) 発達の段階や系統性を踏まえて見直した学びのカテゴリー

三年次は、前年度の課題を踏まえ、8・9年生2年間で1つのテーマを進めるように変更した。(表9)

表9 三年次 「学びのカテゴリー」

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
カテゴリ	遊び	野菜	花	動物	暮らし	暮らし	多様性	社会に生きる	

以上のように、毎年の年度末に「カテゴリーは児童生徒の学びに適したものになっているか」を発達の側面、切実感や自分

学年	特別支援学級 1～4年生	特別支援学級 5～7年生	特別支援学級 8～9年生
カテゴリ	遊び・生活づくり	地域・情報	進路・余暇

ごととして捉えるといった意欲の側面、9年間の系統性の側面などから検討を重ねている。

③ 指導計画の作成

自己実現に向かうための資質・能力は、学年の発達の段階に応じて計画的に育む必要がある。そのために、指導計画に発達の段階に応じて、意図的に資質・能力を位置付けるとともに、単元の構成を工夫することが大切であると考えた。そこで、年間指導計画、単元指導計画(単元シート)を次のように作成した。

ア 年間指導計画(図3)

自己実現に向かうための資質・能力を系統的、計画的に育むために、資質・能力を具体化し、内容を整理し、年間の単元を構成することで、学年の発達の段階に応じて指導しようと考えた。

まず、各学年の学びのカテゴリーの設定理由を踏まえて、各学年の育む資質・能力を目標として設定する。そして、学年の学びの出会いから出口の活動まで、児童生徒が探究していくプロセスを描き、どのような単元をいつ行うことが、資質・能力を育むためには効果的であるかを考えて単元配列を行い、年間指導計画を作成する。

また、学びの基盤となる道徳的諸価値を設定することで、事柄や価値そのものを議論する学びを教師が意図的に仕組んだり、各教科等の内容と関連付けて、様々な教科等で学んだことを生かしてどう生きるかの学習をより深いものにしたりすることを考えた。

資質・能力の設定
学年のカテゴリーを通した学びの中で育む資質・能力を設定

カテゴリーの設定理由
学年間のつながりの明確化

学びの基盤となる道徳的諸価値の設定
学びの中で、考え、判断する基となる道徳的諸価値の設定

活動内容
子供にとって必然ある学びになるように、1年間の出口の姿を描き、単元を配列

各教科等とのつながり
どう生きるかと各学教科等の内容のつながりを明確化

図3 どう生きるか 年間指導計画

イ 単元シート（図4）

年間指導計画を基に、より具体的な活動や姿を描いたものが単元シートである。本単元の目標や活動内容、児童生徒の想定される姿を記述するが、この単元シートの特徴的なところは、まず、「加筆修正欄」や「実際の姿」を書く欄を設けているところである。どう生きるかの学びは、学習者の生き方に影響を与える社会に生きる人々と出会い、学びにつなげることで課題を自分ごととして捉えながら探究していく学びであり、教師の指導計画や想定と異なる学びなることも少なくない。そこで、加筆修正欄を設定しておくことで、教師が柔軟に指導計画を修正してよいことを示している。こうすることによって、教師が無意識のうちに教師自身が描いた指導計画に乗せようとするのを防ぐこともねらっている。同時に加筆修正欄や実際の姿に学びの記録を残すことによって、次年度以降の実践の参考にすることもできる。

また、どう生きるかは事柄や価値そのものを議論する学びである。その場面をジレンマやエラーとしてより具体化して記述することで、教師が意図的に指導し、児童生徒は、道徳的諸価値を基に考え、判断、議論し、納得解や最適解を導けるようにすることをねらった。

単元名 「あらいとげんきのあひを伝えよう」 ～にあたり動物園をめぐって～	本単元の目標		
	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。
「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。
「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。
「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。
「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。
「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。
「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。	「あらいとげんきのあひを伝えよう」の学習を通して、児童生徒が「あらいとげんきのあひ」について理解を深め、その大切さを伝えようとする態度を育て、自ら積極的に行動し、周囲の人々と協力して課題を解決しようとする姿を育てる。

資質・能力の設定
単元を通して育む資質・能力の具体化

活動内容
児童生徒にとって切実感や必然性のある学びになるように、出口の姿を描き、姿に迫るための活動内容の設定
実際の姿を基にした活動内容の見直し(加筆修正欄に記入)

ジレンマやエラー
子供の学びの中で出会うジレンマやエラーの想定
道徳的諸価値を基に考え、判断、議論し、納得解や最適解を導き出す姿

図4 どう生きるか 単元シート

(2) 研究内容2 指導の充実

① 学習過程の整理

ア (二次次まで) 探究サイクルをベースとした学びの確立

どう生きるかの学びは、実社会・実生活をテーマにした探究的な学びである。そこで、総合的な学習の時間等の基盤となっている「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の過程を回していく、いわゆる探究サイクルをもとに、どう生きるかの学びを確立しようとした。その過程の中で「子供にとって必然のある学びとは何か」

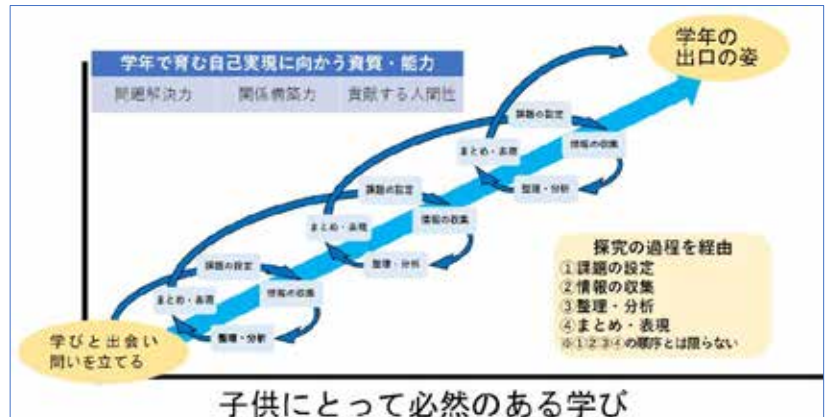


図5 二次次までの「どう生きるか」学習過程

「道徳的諸価値を指導の中にどう位置付けていくのか」などの、どう生きるかとしての学びの色付けを行っていた。(図5)

イ (三年次) 探究の過程の役割を明確化し、内省を加えたどう生きるかの特徴が分かる学び

前年度までの研究の蓄積を踏まえ、どう生きるかの特徴が分かるように学習過程を整理したのが、図6である。

まず、どう生きるかの学びの特徴を大きく三つに整理した。

一つ目は、どう生きるかは探究サイクルの過程を行き来して深めていく学びである。図6に示した通り、最初に課題の設定は行うが、それを単元の出口まで進めていくの

ではなく、情報の収集や整理・分析を行っているときにも課題を見直して修正していく学びであることを明確にした。これによって、児童生徒は切実感や必然性をもって学びを進められると考えている。

二つ目は、ジレンマやエラーを想定した学びである。実際に体験して集めていく形の情報の収集や集めた情報を比較したり分類したりしながら整理・分析を進めていく中で、児童生徒はジレンマやエラーにぶつかる。これは、偶然出会うものも存在するが、教師がある程度想定したジレンマやエラーであることによって、その後の学びをより深いものにしていけるようにする。

三つ目は、道徳的諸価値と向き合うための時間を確保した学びである。どう生きるかの目標は、問題解決の過程で生じるジレンマやエラーを乗り越えるために、道徳的諸価値を基に、主体的・協働的に納得解や最適解を導いていく学びである。教師は、ジレンマやエラーを乗り越えるために必要な道徳的諸価値を想定し、それを単元計画の中に位置付け、道徳的諸価値を基に考える時間を十分に確保することによって、児童生徒は自ら納得解や最適解を導くことができるようにする。

そして、探究サイクルの枠組みは維持した中に、内省という過程を位置付けた。内省を位置付けることにより、児童生徒が主体的に自己の存在感を確かめる行為を通して、自身の変容や成長を自覚することにより、自分らしさを生かし、自分と社会の未来に夢と責任をもてるような人になることを目指す。内省は単元の構造によって、内容のまとまりごとに位置付けるものであり、どの学習過程でも行うもの可能性がある。また、内省の仕方も、発達の段階に合わせて、学習活動の振り返りを行ったり、今後の生き方について自分自身を見つめたりするなど多岐にわたる。

② 各々の過程の充実を図るための指導・援助

ア 課題の設定

児童生徒が探究課題を設定する場合、その課題に切実感や必然性がなければ、児童生徒は他人事のように考えたり、課題意識を単元の終わりまで継続させたりすることが難しく、学びを深めることはできない。そこで、切実感や必然性が生まれるような指導・援助を考えていきたい。

例えば、学校内外の人に実際に会ったり、ものを実際に見たりする場面を設定し、児童生徒が願いや疑問をもてるように事前に視点や出会う目的を学級全体で確認する。その裏側で、教師は意図的な出会いを仕組むために、出会う人に学びの目的などを事前に伝えておくといった手立てを講じる。

カテゴリーが野菜や花、動物といったものであれば、前年度からの引継ぎを利用し、「〇年生のようにやってみたい。」という憧れから出発することも考えられる。そして、まずは活動をやってみることに

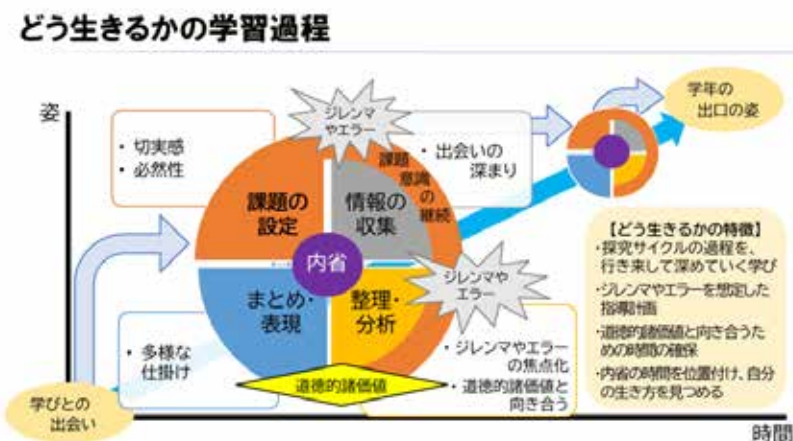


図6 三年次「どう生きるか」学習過程

って、おそらく出会うであろう数多くのジレンマやエラーから学びを深めていくといった学習計画を描くこともできる。

学年が上がるにつれて、具体物から抽象的なカテゴリーに変化していくので、学びの出発の仕方は異なってくる。例えば、「〇〇（カテゴリー名）とは？」の発問からブレインストーミングを行い、思考ツールを使ってまとめる活動を位置付け、ブレインストーミングから出た児童生徒が感じている疑問や、「もっとこうしたい」という願いを出発点として「どうして〇〇を学びたいのか」「〇〇のために何ができるのか」と問うことによって、今後の学びを進められるようにする。また、児童生徒の願いを実現するためにプロジェクト活動を立ち上げ、学習の出口の像をはっきりさせる工夫も考えられる。

イ 情報の収集

一般的に情報の収集と聞くと、観察や体験、本やインターネットを手段として想像するが、どう生きるかの学びは、自己の生き方を見つめる学びであるので、課題の設定の時に会った人や、実際に見たものと関わることで深めていくことによって、考え方や価値に気付き、自分の生き方と比べたり、自分の中へ取り入れたりするようにしていく学びをつくる。

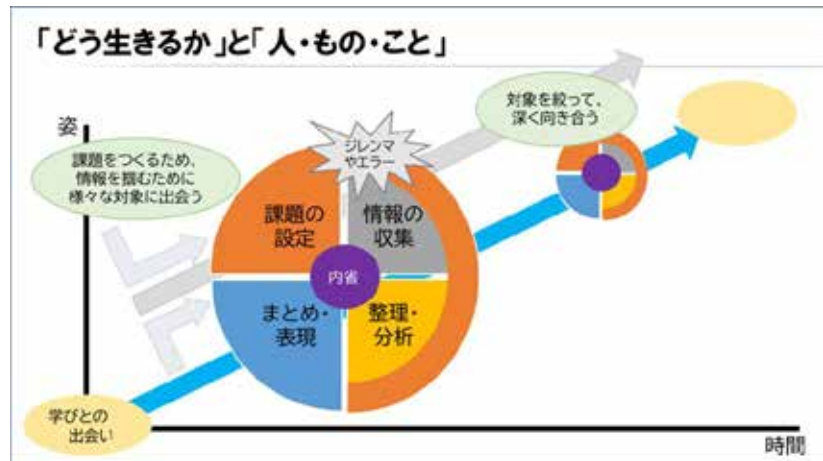


図7 どう生きるかにおける「人・もの・こと」との関わり方

そのために、学び始めは様々な対象に出会うことから始めるが、学びを進めていくうえで、児童生徒が自ら対象を選び、願いの実現に向かって何をすればよいかを確かめながら情報を集めていくことで、相手意識や目的意識の醸成を行う。（図7）

また、誰に出会いたいのかだけではなく、目的や方法、内容までの計画や今後の見通しを児童生徒で考え、準備や出会いを児童生徒が中心に進めることで、自分ごととして捉えることができることを目指し、発達の段階や学びの進度などを見極め、適切に指導・援助できるようにする。その中で、事前に児童生徒の疑問を講師に伝えるなど、出口を見据えながら、講師との対話の中身についてよく打ち合わせすることで、児童生徒のもっている課題についての対話ができるように準備する。そして、対話をする中で、自分たちが設定していた課題を見直し、修正できるような時間も位置付け、学びに柔軟性をもたせることも意識する。

また、集めた情報を、自分たちの生活や生き方と結び付け、児童生徒が実践したり、社会に参画したりしていけるような糸口を得られるような意見を集められるように促すことや、専門家の考えを鵜呑みにするのではなく、「自分だったら…」「計画に合わせて考えると…」など、批判的思考を尊重する指導も合わせて行っていく。

ウ 整理・分析

課題を設定するときや、情報を収集するときに、児童生徒は数多くのジレンマやエラーに遭遇する。教師は、児童生徒がどんなジレンマやエラーに出会ったのかを集めておき、どう乗り越えていくのかの道筋を描いておく。児童生徒が設定した課題を解決するためには、収集した情報を整理・分析する際に、ジレンマやエラーを乗り越える必要がある。そのときに、道徳的諸価値をもとに、事柄や価値そのものを議論する学びを通して解決してほしいと願っている。つまり、整理・分析の学習過程では、教師と児

児童生徒はジレンマやエラーの焦点化を図り、道徳的諸価値と向き合う時間をつくることが大切となると考えている。

まずは、自分の考えを整理するために、思考ツールを用いたり、探検マップや探検図鑑を作成したりするなど工夫の仕方を学ぶ必要がある。その中でグラフを使って視覚的に捉えやすいようにしたり、探究前の素朴な考え、広がった考え、深まった考えを追記したりすることで、内容が充実するようにする。

さらに、個人やチーム毎に調べてきたものを共有する場を設定し、どんな手段がより有効なものかを分析、判断する場面をつくる。そのときにその手段は「願い」の実現につながるかどうかを吟味したり、道徳的諸価値に基づいて、有効なものであるかを判断したりする。例えば、「命を大切にすることはどうすることか」など道徳的諸価値そのものを問いとして考えたり、「そもそも、なぜ落書きを消す必要があるのか」といった課題の設定自体に立ち返って考えたりするときに、道徳的諸価値に基づいて考えられる。

学級全体で話し合っって納得解や最適解を導くときには、教師のかじ取りを効果的に行い、児童生徒が自分事として考えられるようにする。例えば、曖昧な質問・発言・根拠や、要点がつかめない発言に対して教師が問い返したり、問い直したりすることや、児童生徒が考えの立場をはっきりさせて挙手することなど、意見や考えが交流できるような手立てが考えられる。さらに、この話合いの出口を想定したときに、拡散的に終わらせるように向かうのか、収束させる方向に向かうのかをはっきりさせて、展開させていく必要がある。

そして、整理・分析したことで、新たな問いを見つけ情報の収集をさらに続けたり、次の専門家との対話の計画を立てるなど、活動への見通しをもったりできるようにする。見通しをもつ中で大切にしたいのは、課題の設定時に考えた探究テーマの筋に沿って考えられているかと、常に立ち返るところはどこかを明確にしておくことや、これからの自分の生き方について考える材料やきっかけは何かを明確にしておくことである。

エ まとめ・表現

課題の設定をする際に、自分の願いの実現に向けて何をすればよいのかを考えているので、今まで集めてきた情報をもとに実行する学習過程が、まとめ・表現に当たる。単に新聞やポスターを作って、仲間に発表するだけでない、多様な仕掛けが考えられる。

この過程で大切にしたいのは、学年の発達や実態に合わせた形であること、相手意識・目的意識をもたせて活動を仕組むことである。特に、課題の設定時から協力してくれた人に学習の成果を伝え、その人から感想や評価をもらい、達成感を味わう活動は効果が見られる。

プロジェクト活動を立案している場合は、ロードマップを作成し、逆算的に計画を立てられるようにしたり、活動に向けての計画（いつ・どこで・なにを・どうするのか）を具体化したりすることを児童生徒と共有し、何時間、何に使えるか、児童生徒が見通すことができるようにする。児童生徒が見通しをもつために、教師が見通しをもち、できる限り突発的な変更や大人の都合による変更がないようにすることも求められる。

オ 内省

児童生徒が主体的に自己の存在感を確かめることができることを目指すために、まず、内省の目的を児童生徒と共有する。内容は学習活動の振り返りに始まり自分の思い・願い・目標・考え方まで多岐にわたるが、内省の仕方を次のように整理し、学習で絶えず自分を見つめられるように時間を確保する。

- 「できたこと」「できなかったこと」は何かを整理する
- 「なぜできたのか」「どうしてできなかったのか」を考える

- 「計画のどの段階に問題があったのか」と見返す
- 「修正する必要があることは何か」「どのように修正するのか」と振り返る
- 「次はどうするのか」「自分はどうしたいのか」と先を見る
- 「仲間のどの意見が参考になりそうか」「どのような意見が心に刻まれたのか」と仲間の姿から得られるものを見つける
- 「自分だったら…」と自分に置き換えて考える など

(3) 研究内容3 学習評価

表10 ルーブリック評価表(4年生問題解決力の例)

① どう生きるかの特性に合わせたルーブリックの作成

資質・能力が育まれたかどうか、年間通してどのように児童生徒は成長したのを見届けるための指標が必要である。どう生きるかで設定される探究的な学びは、それぞれ展開や出口の形が異なるため、全職員で資質・能力が育まれたかどうかを検証することは、画一的な方法、例えば、点数化(いわゆるペーパーテスト)や学年統一の作品による評価に馴染まない。一方で、教師の単なる主観による評価に陥ることも避けなければならない。

そこで、目標となるパフォーマンスを収集し、整理すれば、全職員で理解が進むと考え、自己実現に向かうための資質・能力がどのようなものであるか、どう育めばよいかを全職員で共有できる方法として、ルーブリックを用いた評価方法を採用した。

探究的な学習の場合、学習者自身が問いを設定することが重視され、単一の作品で適切なルーブリックを作ることは困難であるため、どう生きるかのルーブリック評価表は、学年1枚・年間1枚とし、自己実現に向かうための資質・能力である「問題解決力」「関係構築力」「貢献する人間性」ごとに3段階(素晴らしい・よい・がんばろう)とした。(表10)

今年度より作成を開始したため、まだまだ実践的に使える状態には至っていないが、単元の終わりごとに職員でルーブリックの見直しを行うことで、評価表の充実を図るとともに、全職員で資質・能力を発揮した姿が共有できるようにしていく。

	問題解決力
3 (素晴らしい)	<p>自分達の飼育活動に対して、飼育の在り方や動物への関わりについて問題意識をもち、動物の幸せを願って、飼育活動を見直すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飼育のやり方が分からないまま飼育活動をすると動物達のストレスがかかってしまう。ストレスがかからないようにするために、餌やりや掃除の方法を確認した。 ・ 飼育の仕方が分からなかったけれど、もっと動物のことを知りたい、動物と関わりたいと願い、命を大切にしたい飼育活動ができるようになった。 ・ 最初は動物に触れなかったけれど、動物の幸せを願って、関わっていくうちに、飼育のやり方が分かって、触れるようになった。 ・ 動物が怖くて触れなかったり、飼育がいい加減だったりしたけれど、動物の気持ちになって飼育をしようと考え、忘れずに飼育活動ができるようになった。
2 (よい)	<p>自分達の飼育活動に対して、飼育の在り方や動物への関わりについて問題意識をもち、飼育活動を見直すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月は動物たちの気持ちを考えずに自分の気持ちで飼育していたけれど、今は動物たちの気持ちを考えて飼育できるようになった。 ・ 4月の時は、何をしようか分からなかったけれど、今は前よりも何をしたらよいのか考えて飼育活動ができている。 ・ 最初は飼育活動ができるか不安だったけれど、今では飼育活動に自信をもってできるようになった。 ・ 最初は、「これやって。」と言われたことだけをやっていたけれど、今では動物のことを考えて飼育活動ができるようになった。 ・ 初めは、動物と触れ合うことが怖かったけれど、人に教えてもらったり、農林高校の人たちからコツを教えてもらったりして動物に触れるようになった。
1 (がんばろう)	<p>飼育活動を見直すことができる。 自分のできたことや分かったことが書けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 色々な動物のことが分かった。 ・ 飼育活動の手順がよく分かった。 ・ 長靴が揃っていないのはよくないと思う。
0	行われていない。

・ は予想される児童生徒の振り返り

② 系統性を意識したポートフォリオの活用

どう生きるかを通して児童生徒が自分の探究活動の実態を具体的に振り返り、成果を実感したり、課題の改善につなげたりするため、また、教師が自己実現に向かうための資質・能力がどのくらい育むことができたのかを見届けるためにポートフォリオを活用する。

ポートフォリオの基本となるワークシートについては、各学級で学習活動が異なるため、児童生徒の実態や学年の発達に応じて学びを振り返ることができるように各担任が作成している。

例えば、1年生及び2年生の場合は、自己課題や課題に対するメモ、振り返りを記録していくことは難しい。しかし、学びの対象と繰り返し関わる中で、多くの発見をしたり、自分の思いや考えを生み出したりしていく。その発見や自分の思いや考えが可視化できるように、動画を撮ったり、絵日記を書いたりするなどして、児童の内面が素直に表現された記録を残していくようにした。

3年生以降は、発達の段階に応じて、自己課題や課題に応じたメモ（自身の行動とその内面、納得したこと、新たな問い、生じたジレンマやエラー、新たな発見、新たな出会い等）、課題に対する振り返りを記録していくようにした。（写真1）同時に、記録する意味が感じられるように、記録をすることが学びの中に位置付けている環境づくりも心掛けた。

ポートフォリオを活用することで、(3) - ①のルーブリック評価表と連携し、指導と評価に好影響を与えたり、児童生徒同士の相互評価に生かしたりすることを目指した。

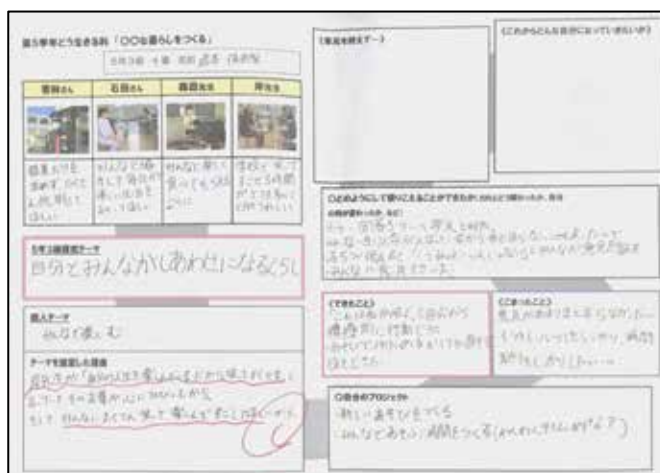


写真1 どう生きるか 振り返りワークシート

また、ICTを活用してデジタル化された学びの蓄積（スタディ・ログ）による学びの深まりも進めている。

9 成果と課題

① 児童生徒への効果（アンケート調査から）

研究開発一年次は、質問項目を自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿に合わせて設定した。（表11）4件法（4当てはまる・3どちらかという当てはまる・2どちらかという当てはまらない・1当てはまらない）と自由記述で回答するアンケート調査を行い、年度ごとの児童生徒の達成度を測るだけでなく、経年での調査結果を分析していくことを目指した。

表11 アンケート調査 調査項目（問題解決力①～③、関係構築力④～⑥、貢献する人間性⑦～⑪）

① 学校や普段の生活の中で、問題を解決する方法を自分で考えて行動することができていますか。【主体性】	⑦ お互いのよさや得意なことを認め合い、生かすことができていますか。【自他の価値】
② 学校や普段の生活の中で、上手くいかないことがあっても、あきらめずに最後までやり抜くことができていますか。【粘り強さ】	⑧ 生活している中にある様々な物事について、興味をもち、気になったりすることはありますか。
③ 問題解決する中で、様々な見方や考え方をもち、取り組むことができていますか。【アプローチの多様性】	⑨ 誰かを進んで助けたり、支えたりしていますか。【積極性（他者）】
④ 相手と活動するときに相手の思いや考えを受け入れながら、聞くことができていますか。【他者理解】	⑩ 地域や社会のために進んで貢献していますか。【積極性（社会）】
⑤ 自分の気持ちや考えが相手に伝わるように、伝え方を工夫していますか。【対話の仕方】	⑪ 人や社会に貢献することを通して自分の成長を実感することはありますか。【自己有用感】
⑥ 周りの人との考え方や感じ方の違いを大切に、力を合わせて取り組んでいますか。【協働性】	⑫ あなたにとって大切にしたい生き方は何ですか。そのわけもくわしく教えてください。（自由記述）

一年次は、6月と10月の2回実施し、数値の平均値を求めた。(図8)から分かるように、児童生徒の意識としては、最大値4(当てはまる)に対して平均値が3以上(どちらかという当てはまる)の項目が多く見られた。それは、どう生きるかの学びの達成度としては、全体的に高い傾向にあるといえる。しかし、項目⑩「地域や社会のために進んで貢献していますか。」では、平均値が6月(2.868)から10月(2.977)にかけて伸びは見られたものの、結果の数値は3を下回っている。このことは、実践において、児童生徒自身の貢献する活動や、活動を通して貢献したという実感がもてる場面の工夫が足りていなかったと考えられる。今後は、教師が意図的・計画的に貢献する場面を学習活動に位置付け、さらに貢献できたという自覚を促す振り返りの機会をつくる必要があると考えた。

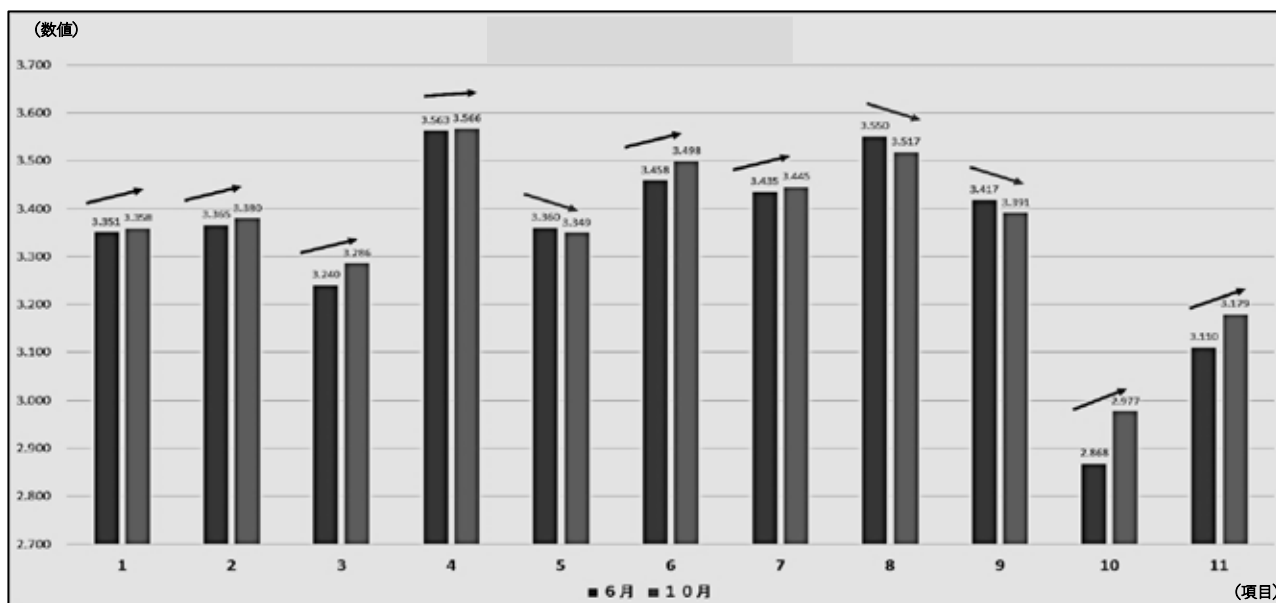


図8 一年次の児童生徒の質問紙アンケート結果 (R3.6とR3.10実施)

二年次は同じ項目で教師や保護者へも回答を求めた。また、分析においては、平均値を求めるのではなく、「当てはまる」と回答した割合で比較することとした。(表12)

表12 二年次のアンケート調査結果 (R4.12実施)

	質問項目	児童生徒		教師	保護者
		R3	R4	R4	R4
問題解決力	【主体性】質問項目①	44%	54% (+10)	13%	38%
	【粘り強さ】質問項目②	49%	53% (+4)	26%	66%
	【アプローチの多様性】質問項目③	42%	50% (+8)	28%	33%
関係構築力	【他者理解】質問項目④	63%	62% (-1)	10%	
	【対話の仕方】質問項目⑤	46%	53% (+6)	28%	25%
	【協働性】質問項目⑥	58%	59% (+1)	33%	41%
貢献する人間性	【自他の価値】質問項目⑦	56%	60% (+4)	49%	27%
	【積極性(他者)】質問項目⑨	50%	60% (+10)	8%	32%
	【積極性(社会)】質問項目⑩	31%	41% (+10)	13%	36%
	【自己有用感】質問項目⑪	41%	46% (+5)	26%	18%

児童生徒の結果を見ると、関係構築力の「他者理解」に関する項目以外で「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は増えており、自己実現に向かうための資質・能力を自覚することができている児童生徒が増えつつあると言える。しかし、貢献する人間性について肯定的に解答した児童生徒の割合は増加し

たとは言え、40%台の項目も依然として残っており、引き続き課題である。

そこで、肯定的に回答する割合の低かった「地域や社会のために自分にできることをしていますか」「人や社会に貢献することを通して自分のよさを実感することはありますか」について「そう思う」ではなく「どちらかとそう思う」と答えた生徒にそう答えた理由を直接尋ねた。

- どう生きるかでは、柳ヶ瀬商店街のために貢献することができたけど、自分の住んでいる地域では、人や社会に貢献することができていない。（7年生）
- 人や社会に貢献することが自分のよさではないと思う。自分のよさがあるから、人や社会に貢献しているわけではないから。（9年生）

二年次の7年生では、商店街を盛り上げるための活動を行っており、9年生では、生きることの価値観について考えてきた。これらの理由から、どう生きるかの授業の中での社会に貢献しているように見える活動が、児童生徒にとって、人や社会に対して貢献しているということにつながっていないということが分かった。今後の指導計画をつくる上で、このことを意識する必要がある。

② 教師への効果

ア アンケート調査から

表12で分かるように、児童生徒、保護者よりもほとんどの項目で低くなっている。原因として考えられることは、どう生きるかの授業は行っている、そこで自己実現に向かうための資質・能力を育てているのかが分からないという自信のなさから、このような結果になったのではないかと考えられる。つまり、職員間での資質・能力の共有が弱かったと言える。

この状態が続けば、教師による児童生徒の姿の価値付けも適切に行うことができず、前述の児童生徒の貢献する人間性の回答の低さにもつながっていくと考えられる。日常からどう生きるかの学びの姿について交流を深めたり、8-(3)-①で説明したルーブリックを活用して、教職員間で自己実現に向かうための資質・能力を発揮した姿の共有を進めたりする必要がある。

イ インタビューから

〈第2学年担当 若手教諭（教員5年目）〉

私は「どう生きるか」の実践を通して、大きく三点のことで自分が成長したと感じています。

一点目は、子供の願いや「やってみたい」という意欲をこれまで以上に大切にすることになったことです。「僕の野菜をこんなふうに育てたい。」という子供の願いを具体化し、看板に位置付け、野菜ブック（ポートフォリオ）で願いに対しての今を記録したことで、子供たちが常に願いを意識して学習活動に取り組むようになりました。このことから、子供自身が願いをもち、その願いを意識して活動・学習することの大切さを改めて実感しました。

そこで、次の単元である「かろうのまちたんけんたい」の学習では、町探検に行く度に子供たちに「何のために町探検に行くのか」と問いかけ、子供の願いを具体化していく営みを大事にできました。そうすることで、子供たちの願いが町探検を行うごとに広がっていくのを実感しました。このような子供の願いを大切にしたい学びを繰り返すことで、子供たちの町探検への意欲も高まり、目的をもって活動するため、見ている視点や気付きの質が高まり、「見付けたこと・気付いたこと」だけの報告から「○○になっているのは、こんな理由があるからではないか。」と自分の考えをもち、表現できるようになってきました。

二点目は、子供が自分の頭で考えてやってみたり、失敗したりする過程を大切に「待つ」ようになったことです。夏野菜づくりでは、子供たち個々の願いを大切に、個の探究活動の時間を長く位置付けました。そうすると、今までついつい口を出してしまっていた自分から、より子供のつまずきや次の行動にどう対応しようかという想定ができるようになりました。さらに子供は自分の頭で考えて行動することを大事にできるようになってきました。

三点目は、一人一人の願いに応じて、複数のグループや個人で活動する場を積極的に設定するようになったことです。夏野菜づくりで、個の願いを大切にすることで、子供たちがより意欲的に活動や学習に向かっていく姿を見ることができました。そこで、次の単元や他教科でもグループ活動や個の活動を多く設定するようになりました。さらに、子供たちが個で活動しているだけでは、仲間と活動する切実性がない場合もあるため、仲間と関わる切実性をもたせるため、意図的に場を設定したり、教師から声をかけるタイミングを考えたりするようになりました。

「願いを意識して活動・学習することの大切さ」「願いを具体化していく営みを大事にしていくこと」「考えてやってみたり、失敗したりする過程を大切に『待つ』ようになったこと」「切実性を

もたせるため、意図的に場を設定したり、教師から声をかけるタイミングを考えたりすること」など、どう生きるかの学習を通して、教師としての力量が高まっていることを実感できる者もいる。アのアンケート調査で分析したように、教師の自信のなさが払拭できる動きをつくっていく必要がある。

③ 保護者への効果

ア アンケート調査から

どう生きるかのカリキュラムは、保護者の理解や協力を得られた上で実践していくことにより、学びの効果は高まる。前掲の表 12 から、ほとんどの項目で 50%を切っており、保護者に自己実現に向かうための資質・能力が育てているかどうか、まだ十分に伝わっていないことが分かる。

また、学校評価に関わる保護者アンケートにおいて「学校では、どう生きるかにおいて実生活や実社会にある問題を解決することを通して、自分に自信をもって生きるための指導がなされている。」という設問（4当てはまる・3どちらかという当てはまる・2どちらかという当てはまらない・1当てはまらない）を設けて、2020年度から経年比較をした結果が表 13

表 13 学校では、どう生きるかにおいて実生活や実社会にある問題を解決することを通して、自分に自信をもって生きるための指導がなされているか。

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
4	56.6%	59.0%	50.3%	50.1%
3	39.3%	37.5%	46.5%	47.8%
2	3.9%	3.5%	3.0%	2.1%
1	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%

である。約9割が、どう生きるかについて、前向きに捉えてもらっていることが分かる一方、「当てはまる」と答えた割合が減っており、理念等が十分に浸透しているとは言い切れない。保護者に情報発信を積極的に行っていくと共に、広く学びの様子を公開し、学校と家庭が連携して、自己実現に向かう児童生徒の育成を目指していきたい。

イ 自由記述から

表 14 保護者アンケート（R4.12）自由記述の分析

アンケート調査と同時に「探究的な学び『どう生きるか』に期待していること『『どう生きるか』の学びについてどのように思われているか』について自由記述での回答も求めた。記述された文章と、その文章内にどのような単語が数多く書かれたのかを取り出し、分析した。(表 14)

1～4年生の保護者は、「仲間」「他者」といった言葉が多く、他者との関わりについて期待している記述が多く見られた。これらから関係構築力に関わることについて期待していることが分かる。5～7年生の保護者になると、「自主性をも

1～4年生		5～7年生		8・9年生	
単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
期待	34	期待	21	社会	14
仲間	29	行動	20	期待	9
行動	27	意見	14	考え	8
意見	26	学び	13	授業	8
身	24	科	13	将来	7
考え	22	社会	12	身	6
学び	17	身	12	行動	6
解決	14	大切	12	仲間	6
他者	12	機会	11	学び	5
体験	12	成長	9	成長	5

ってもらいたい」「社会を生き抜く力を身に付けてほしい」という記述が見られ、問題解決力に関わることに期待していることが分かった。さらに、8・9年生の保護者では、「社会」という言葉が比較的多くなり、将来のことや貢献することについての記述が多く見られる特徴があった。これらから貢献する人間性に期待していることが分かった。

以上のことから、本校で考えている自己実現に向かうための資質・能力を身に付けることは、保護者の期待していることと一致していることも分かった。

10 今後の研究開発の方向

以上を踏まえ、今後の研究開発において、以下のことを重点に進めていきたいと考える。

- 自己実現に向かうための資質・能力を発揮した姿を集約することにより、全職員で資質・能力を発揮した姿の共有を進めていき、目指す姿をはっきりさせた上で、指導できるようにする。これを進めることにより、ルーブリック評価も充実することにつながり、指導と評価を一体化させて学びを進めることができる。
- 道徳的諸価値との向き合い方について、どの場面でどのような手立てを打てばよいかといった実践の収集と手立ての確立を目指す。実践を収集することで、ジレンマやエラーをどう乗り越えていくのかを教師がある程度想定することができ、指導の充実を図ることができる。
- ポートフォリオの利活用を推進し、学年の発達や学習内容に合った情報の蓄積の仕方を確立する。単に記録を残すのではなく、自分の足跡を見つめながら学びを深めていく児童生徒に育ててほしい。
- 内省の時間の手立ての充実を図る。どう生きるかは、自分の生き方について考える学びであり、内省の時間を充実させることは、どう生きるかの目標を達成させることに直接つながる。
- 保護者への情報発信および、協働の場を設定する。保護者へのアンケート調査で分かった通り、自己実現に向かうための資質・能力を学校だけでなく家庭でも育める場としたい。学習計画によっては、保護者が積極的に参加する場をつくり、共に学んでいけるようにすることも考えられる。

《参考文献》

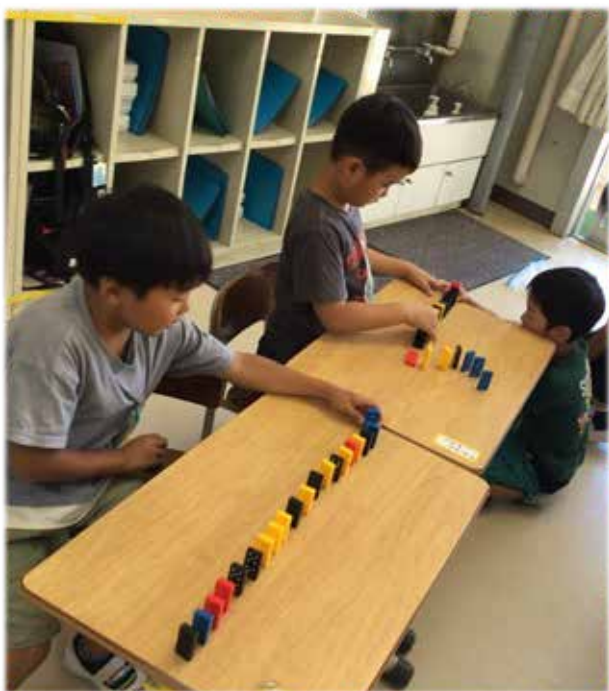
- ・ 畠山美穂・倉盛美穂子・山崎晃「幼児の自己実現—社会的行動との関連から」幼年教育研究年報 23 号 p43-48 2001
- ・ 樟本千里・伊藤順子・山崎晃「幼児・児童の自己制御機能と自己実現との関連」広島大学大学院教育研究科紀要 第三部 教育人間科学関連領域 52 号 p363-369 2004
- ・ OECD 教育研究革新センター「学習の本質 —研究の活用から実践へ」明石書店 2013
- ・ 大杉昭英「中央教育審議会答申全文と読み解き解説」明治図書出版 2017
- ・ 文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編」「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編」2018
- ・ 内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」2019
- ・ マーガレット・ハリス、ガート・ウェスターマン「発達心理学ガイドブック 子どもの発達理解のために」明石書店 2019
- ・ 白井俊「ECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来 —エージェンシー、資質・能力とカリキュラム—」ミネルヴァ書房 2020
- ・ 石井英真「授業づくりの深め方」ミネルヴァ書房 2020
- ・ 小塩真司「非認知能力 概念・測定と教育の可能性」北大路書房 2021
- ・ 教育調査研究所「変革の時代の学校教育を展望するⅡ 子どもが主体的に学びを深める学校教育の在り方」2021
- ・ 高橋純「学び続ける力と問題解決」東洋館出版社 2022
- ・ 新潟県上越市立大手町小学校「探究力 —本質に迫る問いを生み出すカリキュラム・マネジメント—」ぎょうせい 2022

どう生きるか

メモ

第1学年 学びのカテゴリー「遊び」

1
年
生



1年2組は、鬼ごっこやドミノ倒しなどをする中で、「じぶんもみんなもえがおになるあそび」を目指して探究してきた。毎時間、自分たちがしたい遊びを選択し、繰り返し遊ぶ中で、仲間と一緒に活動することのよさや楽しさに気付いた。自分のしたいことと、仲間のしたいことにずれが生じたり、遊びが思うように進まなかったりしたときは、学級で話し合い、ルールや約束を工夫することで、願いに近づくような遊びをつくり出してきた。

1年3組は、毎月加納城址公園へ行き、生き物と繰り返し関わる中で、遊びを探究してきた。何度も公園へ行くことで、四季の変化によって植物の様子が変わったり、見つけられる虫の数や種が異なったりすることに気付いた。その中で、「自然の中でかくれんぼをしたい」「花でアクセサリをつくりたい」などの願いをもって遊んできた。計画通り進まないときは方法を修正しながら、楽しさや満足感などの手応えを感じてきている。



舟橋 和恵
田中 雄也
上原 純

本単元の目標			
1年2組 単元シート	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
単元名 もっと！みんななかよし だいさくせん (30)	遊び集会に向けて遊びを工夫する活動を通して、学級遊びでの体験や経験を基に、粘り強く遊びの計画を立てたり、改善したりすることができるようにする。	遊び集会に向けて遊びを工夫する過程で、様々な立場の仲間の気持ちに寄り添いながら、遊びの計画を立てたり、改善したりできるようにする。	遊びを工夫する過程で、自分や仲間が笑顔になるために、自分にできることと考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ○「学年の仲間とも遊びたい」「もっと多くの仲間と関わりたい」と願いをもつ。 ○これまでの経験や体験を生かして、遊びたい遊びの案を出す。(5) 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊び集会の計画を立てる。 ○遊びが楽しくなるように工夫する。 ○保護者を招いて、遊びを検証する。(14) 	<ul style="list-style-type: none"> ○工夫したことや多くの仲間と遊んでみた感想をまとめる。 ○他にどんな人と一緒に遊びたいか考える。(3)
加筆修正欄			
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・学年朝の会の姿を想起し、「他の学級の仲間とも楽しく遊びたい」と願いをもつ。 ・鬼遊びやボール遊びなど多くの仲間と楽しめそうな遊びの案を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加してくれた仲間に遊びの感想を聞く。 ・会を運営することの達成感を感じ、次もやりたいと願いを膨らませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの仲間と遊ぶことの楽しさを感じる。 ・2年生や新1年生など、他の仲間とも遊びたいと願いをもつ。
実際の姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●ジレンマ ■エラー 	<ul style="list-style-type: none"> ■どの遊びにすれば、みんなが喜んでくれるか分からない。 ●仲間とやりたい遊びが違う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■様々な立場の仲間が楽しめる遊びにするために、何を工夫できるか分からない。 ■自分の思うように会の役割が決まらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ■恥ずかしくて、他の学級の仲間と思うように話ができない。

1年2組 本時案

(1) 目標

遊び集会で実施する遊びを考えたり、実際に遊ぶことで検証したりする活動を通して、「じぶんもみんなもえがおになるあそび」という学級の願いを基に話し合い、遊びに参加する仲間の気持ちを考えて、願いに合った遊びに改善することができると期待する。(関係構築力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

親切や思いやりの価値に関わって、自分だけでなく遊びに参加する仲間の気持ちを考えて、遊びを改善する。(親切、思いやり)

本時 (10/30)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け
<p>1 本時大切にしたいことを共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今日は、紙コップタワーで遊びます。遊ぶときにどんなことを大切にしたいですか。 ・学年遊び集会でできそうかを考えて遊びたいです。 ・本場に「じぶんもみんなもえがおになるあそび」かを考えて遊びたいな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>じぶんもみんなも えがおになるあそびになるかを かんがえてあそぼう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○どんな遊びでも、学級で大切にしたい願いは変わらないことを確認する。遊びは、ただ楽しむだけでなく、遊び集会でできるかどうかを考える必要があることを共有する。 ○願いに合った遊びとなるような工夫をして、笑顔になっている児童には、「どんなところが楽しいの。」「この遊びのどんなところがよいの。」などと問いかけ、他の遊びを考えるときにも生かすことができるようにする。 ○学級で困ったことを共有できるように、困っていたり、楽しめなかったりする児童には、「困っていることがあるの。」「もう少しみんなまで考えてみたいことはある。」などと問いかける。 ○自分が楽しむだけでなく、相手意識をもって遊べるように「もっと楽しめるように工夫できる場所はあかな。」と声をかける。
<p>2 実際に遊びながら、改善点を見つける</p> <p>3 困ったことを共有し、改善の方向を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○AさんやBさんは困ったことがあるそうです。みんなならどうしますか。 ・□□さんが、一人で紙コップタワーをつくっていて、一緒に遊んでも楽しくなかったよ。 <ul style="list-style-type: none"> →順番に紙コップを置いたらどうかかな。 ・もっと高いところに紙コップを置きたいけど、手が届かなかったよ。 →椅子や台を用意するとよいと思うよ。周りの仲間が椅子や台を支えれば安全にできるのでないかな。 	<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>遊びに参加する仲間の気持ちを考えて、自分も仲間も笑顔になる遊びであるかを見直し、遊びを改善している。(関係構築力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・願いに合った遊びが検証したり、遊びの改善案を考えたりする場における言動や振り返りでの発言 (動画) で見届ける。
<p>4 改善点を踏まえ、もう一度遊ぶ</p> <p>5 本時の活動で見つけたことや工夫したことなどを学級で共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今日見つけたことや工夫したことは何ですか。 ・自分の順番でないときは、チームの仲間を応援することで、一緒に楽しむことができました。 ・自分も仲間も笑顔になるように、譲り合って遊ぶことができましたよ。 <p>6 本時の活動を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動の振り返りをペアで撮りましょう。(iPad で録画) ・今日は紙コップタワーで遊びました。Cさんが、「みんなが遊べるように順番に紙コップを置く」というルールを考えてくれて、そのルールを守ることができました。(仲間との関わりで見つけたこと) 他の遊びでも、みんなが遊べているかをよく考えて、ルールを工夫できるようにしたいです。(次にやってみたいことや考えたいこと) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「仲間との関わりで見つけたこと」と「次にやってみよう」という2つの視点から遊びを振り返る。 ○振り返りに困っている児童には、前時の振り返りの動画を観るように促したり、「どんなことが楽しかった。」や「誰と一緒に活動できた。」などと声をかけて、考えを整理できるようにしたりする。

1年3組

年間指導計画

「遊びのカテゴリー」：遊び（全136時間）

	<p>(1) 問題解決力に関わって 願いに合った遊びを目指すことを通して、よりよい遊びになるように工夫したり、自分ができることを考えたりし、やり切ることができるようにする。</p>											
<p>第1学年の目標</p>	<p>遊の中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>	<p>願いに合った遊びを目指すことを通して、自分や仲間が幸せになるための方法を考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。</p>	<p>子供たちは、小学校入学前までに遊びを通して、自立心や協同性等が育まれてきた。入学後大きく環境が変わる子供たちの安心感を高めることができよう。遊びを通じて、自分の第1学年で願う姿に迫っていく。</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>	<p>願いに合った遊びを目指すことを通して、自分や仲間が幸せになるための方法を考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。</p>	<p>子供たちは、小学校入学前までに遊びを通して、自立心や協同性等が育まれてきた。入学後大きく環境が変わる子供たちの安心感を高めることができよう。遊びを通じて、自分の第1学年で願う姿に迫っていく。</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>	<p>願いに合った遊びを目指すことを通して、自分や仲間が幸せになるための方法を考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。</p>	<p>子供たちは、小学校入学前までに遊びを通して、自立心や協同性等が育まれてきた。入学後大きく環境が変わる子供たちの安心感を高めることができよう。遊びを通じて、自分の第1学年で願う姿に迫っていく。</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>		
<p>カテゴリー設定の理由</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>	<p>願いに合った遊びを目指すことを通して、自分や仲間が幸せになるための方法を考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。</p>	<p>子供たちは、小学校入学前までに遊びを通して、自立心や協同性等が育まれてきた。入学後大きく環境が変わる子供たちの安心感を高めることができよう。遊びを通じて、自分の第1学年で願う姿に迫っていく。</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>	<p>願いに合った遊びを目指すことを通して、自分や仲間が幸せになるための方法を考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。</p>	<p>子供たちは、小学校入学前までに遊びを通して、自立心や協同性等が育まれてきた。入学後大きく環境が変わる子供たちの安心感を高めることができよう。遊びを通じて、自分の第1学年で願う姿に迫っていく。</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>	<p>願いに合った遊びを目指すことを通して、自分や仲間が幸せになるための方法を考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。</p>	<p>子供たちは、小学校入学前までに遊びを通して、自立心や協同性等が育まれてきた。入学後大きく環境が変わる子供たちの安心感を高めることができよう。遊びを通じて、自分の第1学年で願う姿に迫っていく。</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>		
<p>学びの基礎となる道徳的諸価値</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>	<p>願いに合った遊びを目指すことを通して、自分や仲間が幸せになるための方法を考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。</p>	<p>子供たちは、小学校入学前までに遊びを通して、自立心や協同性等が育まれてきた。入学後大きく環境が変わる子供たちの安心感を高めることができよう。遊びを通じて、自分の第1学年で願う姿に迫っていく。</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>	<p>願いに合った遊びを目指すことを通して、自分や仲間が幸せになるための方法を考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。</p>	<p>子供たちは、小学校入学前までに遊びを通して、自立心や協同性等が育まれてきた。入学後大きく環境が変わる子供たちの安心感を高めることができよう。遊びを通じて、自分の第1学年で願う姿に迫っていく。</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>	<p>願いに合った遊びを目指すことを通して、自分や仲間が幸せになるための方法を考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。</p>	<p>子供たちは、小学校入学前までに遊びを通して、自立心や協同性等が育まれてきた。入学後大きく環境が変わる子供たちの安心感を高めることができよう。遊びを通じて、自分の第1学年で願う姿に迫っていく。</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>		
<p>学びを構成する要素</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>	<p>願いに合った遊びを目指すことを通して、自分や仲間が幸せになるための方法を考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。</p>	<p>子供たちは、小学校入学前までに遊びを通して、自立心や協同性等が育まれてきた。入学後大きく環境が変わる子供たちの安心感を高めることができよう。遊びを通じて、自分の第1学年で願う姿に迫っていく。</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>	<p>願いに合った遊びを目指すことを通して、自分や仲間が幸せになるための方法を考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。</p>	<p>子供たちは、小学校入学前までに遊びを通して、自立心や協同性等が育まれてきた。入学後大きく環境が変わる子供たちの安心感を高めることができよう。遊びを通じて、自分の第1学年で願う姿に迫っていく。</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>	<p>願いに合った遊びを目指すことを通して、自分や仲間が幸せになるための方法を考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。</p>	<p>子供たちは、小学校入学前までに遊びを通して、自立心や協同性等が育まれてきた。入学後大きく環境が変わる子供たちの安心感を高めることができよう。遊びを通じて、自分の第1学年で願う姿に迫っていく。</p>	<p>遊びの中で生じるジレンマやエラーに対して、より願いに合った遊びに近付けるための話し合い活動を通して、仲間への考えを肯定的に聞き、よりよい考えを生み出し、活動することができるようにする。</p>		
<p>月</p>	<p>4月</p>	<p>5月</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>	<p>10月</p>	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>	<p>2月</p>	<p>3月</p>
<p>単元名(時数)</p>	<p>がっこうであそぼう (18時間) たいごくせん (20時間) たいごくせん (20時間) おにいさん・おねえさんにまかしてよ！ (28時間)</p>											
<p>主な学習活動</p>	<p>○新入生が遊びの楽しさを知るために、学校探検に対する願いをもつ。 ○学校探検する。(学校のみんなを案内する)の仲間とコミュニケーションをとる。 ○自分や知りたかったことを発表する。学校の職員にインタビューする。 ○仲間に分かれたことと発表する。学校の職員にインタビューする。 ○個人遊びの中から自分が楽しいと思うものを見つめる。 ○2年生からのプリントで遊ぶアサガオの種に対して願いをもつ。 ○種の方を自分たちで考えたり2年生に教えてもらったりする。 ○アサガオの世話をする。 ○アサガオの生き物と慣れ親しむ。 ○春の生き物と慣れ親しむ。 ○加納城址公園での遊びを見つめる。</p>											
<p>想定されるシレンマ・エラー</p>	<p>●「水やりなどの世話を忘れてしまう。」 ●「おむすびをして芽が腐るのが嫌だ。」 ●「水やりなどの世話を忘れてしまう。」 ●「おむすびをして芽が腐るのが嫌だ。」 ●「水やりなどの世話を忘れてしまう。」 ●「おむすびをして芽が腐るのが嫌だ。」</p>											
<p>人材活用施設</p>	<p>●「水やりなどの世話を忘れてしまう。」 ●「おむすびをして芽が腐るのが嫌だ。」 ●「水やりなどの世話を忘れてしまう。」 ●「おむすびをして芽が腐るのが嫌だ。」 ●「水やりなどの世話を忘れてしまう。」 ●「おむすびをして芽が腐るのが嫌だ。」</p>											
<p>教科等との関連</p>	<p>●「水やりなどの世話を忘れてしまう。」 ●「おむすびをして芽が腐るのが嫌だ。」 ●「水やりなどの世話を忘れてしまう。」 ●「おむすびをして芽が腐るのが嫌だ。」 ●「水やりなどの世話を忘れてしまう。」 ●「おむすびをして芽が腐るのが嫌だ。」</p>											
<p>その他</p>	<p>●「水やりなどの世話を忘れてしまう。」 ●「おむすびをして芽が腐るのが嫌だ。」 ●「水やりなどの世話を忘れてしまう。」 ●「おむすびをして芽が腐るのが嫌だ。」 ●「水やりなどの世話を忘れてしまう。」 ●「おむすびをして芽が腐るのが嫌だ。」</p>											

1年3組 単元シート		本単元の目標		
単元名	いきものとなかよし (30)	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
		四季の自然と触れ合いながら遊ぶことを通して、自分のしたい遊びを決め出し、よりよい遊びになるように工夫することができるようにする。	自分のしたい遊びを仲間へ伝えたり、仲間の考えを肯定的に受け入れたりしながら、自分も仲間も楽しむことのできる遊びをつくることのできるようにする。	願いに合った遊びを目指すことを通して、自分や自然のよさに気付き、そのよさを生かしながら仲間が楽しむことのできる遊びをつくるうとする態度を養う。
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ○春の自然と触れ合い、お気に入りの生き物を見つけたら、特徴を調べたりまとめたりする。 ○お気に入りの生き物について、特徴を調べたりまとめたりする。 ○加納城址公園へ行き、自然を生かした遊びを考え、実際に遊ぶ。(8) 	<ul style="list-style-type: none"> ○夏の自然と触れ合い、特徴を図や言葉でまとめる。 ○春の自然との違いを見つける。 ○加納城址公園へ行き、仲間を誘って遊ぶ。(6) 	<ul style="list-style-type: none"> ○秋の自然と触れ合い、気付いたことを自分なりにまとめる。 ○秋の自然で遊べることを考え、自分と仲間が楽しめるようになるように工夫する。(6) 	<ul style="list-style-type: none"> ○冬の自然と触れ合い、発見した事実を基にして四季の変化をまとめる。 ○まとめたことを学級や他学年の仲間へ伝える。(10)
加筆修正欄	<ul style="list-style-type: none"> ・加納城址公園でしたい遊びを見つける。 ・加納城址公園で見つけた生き物をまとめ、仲間や家族に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ遊びを計画した仲間と一緒に遊ぶ。 ・見つけた生き物を、色や数、大きさなどの視点をもちつて観察し、自分なりに記録する。 		
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・タンポポの綿毛がどこまで飛ばるかやってみる。 ・ナズナで音を鳴らして遊ぶ。 ・シロツメクサでアークセサリーを作る。 ・加納城址公園で昆虫さがしをする。 ・アサガオの成長を喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アサガオの花で色水をつくって仲間と比べる。 ・加納城址公園にいる虫の種類や数を調べ、春の頃と比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の色が変わったり、枯れていたり、発見した虫の種類が変わったりしていることに気付く。 ・他学級や他学年の仲間を誘って、計画した遊びを実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節によって生き物の様子が変わることや、自分たちの楽しめる遊びがたくさんあることを、紙芝居や動画にしてまとめる。 ・まとめたことを仲間へ伝える。
実際の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中でのかくれんぼを楽しめたよ。 ・ダンゴムシを30匹以上見つけたよ。 ・次も虫見つけをしたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アサガオできれいな色水ができたから他の花でもやってみよう。 ・加納城址公園には蚊がたくさんいたし、5月よりもバッタが増えていた。 		
●ジレンマ ■エラー	<ul style="list-style-type: none"> ■やりたい遊びが見つかからない。 ■思ったようにアサガオが成長しない。 ●ある生き物で遊んでよいか悩む。 ●見つけた虫を持って帰りたいけれど、もあって悩む。 	<ul style="list-style-type: none"> ■計画したことが思うようにいかない。 ■誘った仲間が楽しめていない。 ■計画していたことよりも楽しそうなのがある、その遊びを優先してしまう。 ●自分がしたいことと、仲間がしたいことが一致しない。 		

1年3組 本時案

(1) 目標

加納城址公園での遊びを通して、公園にある自然を大切にしたり生かしたりしながら、遊びを充実したものにしようという願いを基に、自分や仲間が楽しめるように工夫して遊ぶことができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

規則の尊重や自然愛護の価値に関わって、みんなでするものや自然を大切にしながら遊ぶ。(規則の尊重、自然愛護)

本時 (18/30)

<p>活動内容 (○教師の発問 ・予想される児童生徒の発言)</p>	<p>○教師の手立てと見届け</p>
<p>1 本時のそれぞれのかくれんぼの課題を確かめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今日は、どのように遊びますか。 ・○○さんと一緒に自然の中でかくれんぼをするよ。 ・10月に来た時も虫を見つけたから、今日は秘密基地をもっとかっこよくしたいな。 ・今まで秘密基地で遊んできたから、今日は秘密基地を作ったからお母さんが喜んでくれたから、今日もアクセサリーを作ってプレゼントしたいな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>かろうじょうしこうえんの しぜんのなかで たのしく あそぼう。</p> </div> <p>2 それぞれの計画を基にして遊ぶ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="901 1758 1204 2092" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【自然の中でかくれんぼ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蚊が減ってきて、森の中に入りやすくなっているな。 ・葉が減っているところがあって隠れるのが難しいから、落ちていた葉を集めよう。 </div> <div data-bbox="901 1433 1204 1747" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【虫見つけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バッタの数が少し減ってコロギが増えた。 ・ダンゴムシは変わらずたくさんいる。 ・珍しい虫がいたから持って帰りたいけれど、かわいそうかな。 </div> <div data-bbox="901 1108 1204 1422" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【秘密基地】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月や10月は虫が多くて秘密基地に入りやすかったけれど、今日は虫が減ってたくさん遊べる。 ・枝や落ち葉が増えたからこれらを使ってかっこよくしたい。 </div> <div data-bbox="901 772 1204 1097" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【アクセサリーづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シロツメクサが全然咲いていないな。 ・ドングリも無いな。 ・咲いている花を使ってアクセサリーをつくりたいけれど、たくさん抜いてもよいかな。 </div> </div>	<p>○見通しをもって活動できるようにするために、今日の遊びの計画を仲間へ伝える場を位置付け、計画を想起することが難しい児童には iPad に残っている記録を見直すように促す。</p> <p>○児童が遊びを工夫していることを自覚できるようにするために、「どうしてその遊び方をしているの。」と問ったり、自然を生かしている姿をその場で価値付けたりする。</p> <p>○自然を大切にしようとする価値判断を価値付け、広めたりするために、「どうして生えている木を使わないの。」と問い、児童が遊びを工夫するための根拠となる価値観を表出できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>目標に迫った姿をどのように見届けられるか</p> <p>事前に計画したことを基にしなが、目の前の自然を大切にしたり生かしたりして、自分や仲間が楽しめるように遊びを工夫している。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊んでいるときの姿や、仲間と話しているときの発言、振り返りから見届けられる。 </div> <p>○遊びを振り返るときに、工夫したことや仲間との関わりの中で学んだこと、公園の自然を大切にしたいこと、次回への願いなどを自覚できるようにするために、振り返りの視点を明確にしておく。</p> <p>○振り返ることが難しい児童には、「どのように遊んだの。」「どうして計画から遊び方を変えたの。」と問い、自分の成長を見つめられるようにする。</p>
<p>3 今日の遊びを振り返り、仲間へ伝えたり、iPad を用いて記録を残したりする</p> <p>○今日の遊びを振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕は、秘密基地で遊びました。9月に来た時と比べて、落ちていた木の枝の種類が変わっていたから、それを使ったら秘密基地をかっこよくすることができたよ。本当は生えている木を切って使いたかったけれど、○○さんと相談して、折るのはかわいそうだからやめたよ。次に来た時は、秘密基地でキャンプごっこをしたかったな。 	

メモ

第2学年 学びのカテゴリー「野菜」

2
年
生



2年1組は、「野菜を育ててどうしたい？」という問いかけから探究が始まった。子供たちは、野菜の日々の変化や成長を見付けては、どのように世話をするとよいか考え、仲間と相談したり、協力したりしながら活動を進めてきた。夏野菜を収穫し、家族に食べてもらい喜んでもらったことから、「今度は全校の仲間に食べてもらいたい」と新たな願いをもち、「給食に出せる野菜にするには・・・」と更なる探究を進めている。

2年2組は、自分の願いをもとに、自分の野菜を育てることから探究が始まった。野菜の変化に喜びを感じながら、世話の仕方を調べては実際に行動し、具体的なものとの関わることのよさを味わってきた。また、収穫した野菜を家族に食べてもらい、喜んでもらえたことから探究したよさを感じた。新たに給食プロジェクトに挑んでいる。全校の仲間のためを思い、安全で美味しい野菜を目指し、自分や仲間と共に歩んでいる。



2年1組 単元シート		本単元の目標		
単元名	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性	
<p>もりもり野菜大作戦 ～ぜん校のなかまのために～ (57)</p>	<p>願いをもとに全校のために野菜を栽培する活動を通して、野菜と向き合い、試行錯誤しながら野菜作りや給食に携わる人と関わり続けたり、実現可能かどうかを立ち止まって考えたりし、やり切ることができるようになる。</p>	<p>給食に出せる野菜にするために必要だと思ふことを人に伝えたり、伝えられたことを受け入れたらして、その上で、これまでに調べたことや聞いたことをもとに、行動に移すことができるようになる。</p>	<p>自分の野菜が成長し、給食に提供できたことに、うれしさや楽しさ、喜びを感じたり、学びを振り返り人から認められたりすることで、願いを実現するために大切なことを踏まえ、自分の良さを生かして、願いを実現しようとする態度を養う。</p>	
<p>活動の計画</p> <p>○夏野菜を収穫した経験や、食べたり食べてもらったりしたことを振り返り、探究したことよさを確かめる。 ○4月の児童の願いの中の言葉から、全校の仲間のための「給食もりもり大作戦」の方向付けをする。 ○「全校の仲間のために」どんな野菜を育てたいのか、願いを明確にする。(10)</p>	<p>○調理室の見学や栄養教諭や調理員さんとの対話を通して思いを知り、野菜との向き合い方を考える。 ○安全で美味しい野菜づくりを目指すために、専門家と出会い、野菜を育てる際の新たな視点や解決方法を知る。 ○自分や他者の考えをもとにしながらか野菜づくりに取り組み、試行錯誤を続ける。(10)</p>	<p>○全校の仲間に野菜を食べてもらうだけでなく、思いや過程を知ってもらうために、歩みをまとめ、伝える。 ○全校からの実際の声を受けて、人のために野菜を育てることや、難しいことよさを実感する。(10)</p>	<p>○「全校」給食に携わる人の両方のためになる野菜づくりを目指し、試行錯誤しながら世話を続ける。 ○野菜を収穫し、栄養教諭や調理員さんに確かめてもらい、これまでの取組の違いを感じて味わう。(10)</p>	<p>○これまで探究してきたことを振り返る。 ○冬休み明けの学習の見通しをもつ。(7)</p>
<p>加筆修正欄</p>				
<p>想定される姿</p> <p>・夏野菜を育ててきた自分の活動に満足感もち、「全校の仲間のために」という願いをもつ。</p>	<p>・給食に携わる人の思いや、自分の育てた野菜を学校給食に出すためには条件があることを理解する。 ・調べたことをもとに育てる。</p>	<p>・育てた野菜をどのように調理するとおいしく食べられるか考える。 ・給食に自分たちが育てた野菜が出ることを伝える方法を考える。</p>	<p>・野菜の成長を観察することで、その変化に気付く。 ・大きくおいしく育てるための方法を知り、自分の野菜作りに必要なことを行う。</p>	<p>・自分たちの活動が、多くの人の笑顔と自分の喜びにつながることに気付く。 ・自分の成長に気付く。</p>
<p>実際の姿</p>				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■人のために、継続して世話をすることが難しい ■多くの人に食べてもらうためには、考えなければならぬことが多くあり、全てを解決することが難しい ■学級や学年の仲間と協力する必要があるが、意見がまとまらぬことが多くあり、活動することが難しい ■どれだけ丁寧に育てても、廃棄される野菜が生まれてしまい、廃棄を無にするのが難しい ●たくさんつくろうとすると、一つ一つの野菜の世話が疎かになってしまふ ●一つ一つを大切にしようとするとき、たくさん野菜をつくることは難しい。どちらにすればよいのだろうか ●作った野菜を給食で食べてもらえなかつたが、実際には育てた野菜に問題があつたことがわかつた。本当にこれから大切にしなければならぬことは何だろうか</p> </div>				

2年1組 本時案

(1) 目標

給食のために作った野菜が虫に食べられていたことで多くの部分を廃棄していた事実を受けて、給食大作戦についてもう一度見詰め直す活動を通して、願いや自分の探究のあり方を変えていかなければならないことに気づき、今後の活動への願いを考えられることができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

これまで探究してきたことをもとにして、これから活動を進めるにあたって大切にすべきことや願いを考える。(希望と勇氣、努力と強い意志)

本時 (31/57)

<p>活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)</p>	<p>○教師の手立てと見届け</p>
<p>1 栄養教諭から「給食大作戦」で使用した野菜の量について聞き、本時の課題をもつ</p> <p>みんなが一生懸命頑張って育てて、収穫してくれた野菜。実は給食に使えた量は、半分以上です。野菜をよく見ると、虫によって食べられてしまっているもの、傷んでしまっているものがあったのです。だから、調理員さんたちと時間をかけて、使えるものを選びました。使わずに処分した分はこれだけあります(写真提示)。どうしても全校のみんなに食べてほしいと思うので、足りない分については、業者さんに届けてもらって、なんとか給食に出すことができました。一生懸命やってきましたみんなだからこそ、このことをしっかりと伝えておかないといけないと思います。伝えさせてもらいました。</p> <p>これから、どのようにかっどどうをおこなっていくとよいだろう。</p> <p>2 栄養教諭の話から自分が感じたことについて話す</p> <p><自分たちの認識とのギャップ></p> <ul style="list-style-type: none"> 給食大作戦は大成功だと思っていたけど、そうじゃなかったんだ。 処分した野菜がもったいないな。せっかく作ったのに……。 これでは、給食大作戦は、失敗じゃないのかな。 <p><自分たちの活動に対する肯定感></p> <ul style="list-style-type: none"> でも、全校のみんなは喜んでくれたよ。 全校のみんなは喜んでくれたから、いいんじゃないかな。 僕たちは一生懸命野菜のお世話したよ。全校の仲間は喜んでくれたし、失敗というわけではないよ。 <p><自分たちの願いに関わって></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの願いは達成できたのかな。 お世話でもっとできるところはなかったかな。まだ甘かったのかな。もう一度給食大作戦をすることはできませんか。 これまでも願いをもち、願いに向かって取り組んできたよ。よい野菜をつくるためにもっと大切にしなければいけないことって何だろう。 <p><関わってくれた人たちに関わって></p> <ul style="list-style-type: none"> 食べられるところと、食べられないところを選んだ森田先生や調理員さんは大変だったと思う。 農家の方の話を聞いて育てたのに、何が悪かったのだろう。 <p>3 本当に大切にしたいことは何かについて出し合い、願いをつくり出す</p> <ul style="list-style-type: none"> これくらいいいと満足せずに、もっと自分のできることはないかと考えること。 もっとこまめに野菜を見て、変化があれば、すぐに行動すること。 森田先生や調理員さんの給食への思いと同じように、安全のことをもっと考えて取り組むこと。 全校の仲間だけでなく、森田先生や調理員さんたちも笑顔にすること。 <p>4 本時の学びを振り返り、もっと大切にしたい自分の願いを書き出す</p>	<p>○給食に提供することができた野菜の量、使えずに廃棄した野菜の量について栄養教諭から伝えてもらうことから、自分たちの認識(給食大作戦の満足感)と現実のずれに気づき、探究のあり方方を考えるきっかけが生まれるようにする。</p> <p>○事実を聞き、その場で感じたことを少しづつ言葉にする姿を認め、子供の思いの広がりや生まれるように受け止めながら対話を進めるようにする。</p> <p>○これまでの探究の歩みを肯定的に捉えられるように、これまでの自分たちの取り組みの姿や給食を食べて喜んでいる全校の仲間の様子を掲示に位置付け、「失敗をなんとかする」ではなく、「さらに自分たちにできること」と考えられるように方向付けする。</p> <p>○「何にチャレンジするか」「本当にできるのか」「大切にしたい願いは何か」という視点をもち、子供の発言に問い返していく。</p> <p>○これまで関わってきた人の思いや自分の願いを見える形で整理して掲示しておくことで、自分だけでなく多角的な視点をもちながら本当に大切にしたいことを考えられるようにする。</p> <p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>これまでの探究を振り返り、自分が感じたことを、給食に携わる人や全校の仲間の思いや、これまで探究してきたことをもとに考えている。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭の話を受けての対話での言葉やワークシートへの記述から見届ける。

2年2組 年間指導計画

「学びのカテゴリ」：野菜（全140時間）

<p>第2学年の目標</p>	<p>(1) 問題解決力に関わって 願いに合った野菜を栽培する活動を通して、見通しをもちながら試行錯誤を続けたり、実現可能かどうかを立ち止まって考えてたりし、やり切ることができるようにする。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって 願いに合った野菜を栽培する中で生まれたジレンマやエラーについて考える活動を通して、必要なことを伝え合い、よりよい考えを生み出し、活動できるようにする。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって 願いに合った野菜を栽培する活動を通して、育てる喜びや人を幸せにする良さに気付き、自他のために行動する態度を養う。</p>	<p>願いに合った野菜を栽培する活動を通して、見通しをもちながら試行錯誤を続けたり、実現可能かどうかを立ち止まって考えてたりし、やり切ることができるようにする。</p> <p>願いに合った野菜を栽培する中で生まれたジレンマやエラーについて考える活動を通して、必要なことを伝え合い、よりよい考えを生み出し、活動できるようにする。</p> <p>願いに合った野菜を栽培する活動を通して、育てる喜びや人を幸せにする良さに気付き、自他のために行動する態度を養う。</p>
<p>カテゴリ設定の理由</p>	<p>第1学年では、「遊び」を通して、自分が興味・関心をもった対象に楽しみながら関わり、自分の世界を広げてきた。第2学年では、「野菜」をカテゴリと設定した。「野菜」というコンテンツが、児童にとって身近であり、収穫や食べたときの喜びを味わえたり分かち合えたりできるよさがある。児童の発達段階に適していると考えたからである。一人一人が願いをもち、試行錯誤をしながら探究を進めた先に、「できた」「やってよかった」という達成感を味わうことで、探究することのよさを美観する子を生み出したい。</p>	<p>第1学年では、「遊び」をカテゴリと設定した。「野菜」というコンテンツが、児童にとって身近であり、収穫や食べたときの喜びを味わえたり分かち合えたりできるよさがある。児童の発達段階に適していると考えたからである。一人一人が願いをもち、試行錯誤をしながら探究を進めた先に、「できた」「やってよかった」という達成感を味わうことで、探究することのよさを美観する子を生み出したい。</p>
<p>学びの基盤となる道徳的諸価値</p>	<p>善悪の判断、自律、自由と責任・希望と勇氣、努力と強い意志・親切、思いやり・感謝・友情、信頼・相互理解、寛容・勤労、公共の精神・家族愛、家庭生活の充実・よりよい学校生活、集団生活の充実・自然愛護</p>	<p>善悪の判断、自律、自由と責任・希望と勇氣、努力と強い意志・親切、思いやり・感謝・友情、信頼・相互理解、寛容・勤労、公共の精神・家族愛、家庭生活の充実・よりよい学校生活、集団生活の充実・自然愛護</p>
<p>学びを構成する要素</p>	<p>人 自分 仲間 家族 地域の人 店の人 農家 給食に携わる人 学校 野菜 畑 土 水 太陽 気候 季節 虫 鳥 自然 育てる 働く 食べる 渡す</p>	<p>人 自分 仲間 家族 地域の人 店の人 農家 給食に携わる人 学校 野菜 畑 土 水 太陽 気候 季節 虫 鳥 自然 育てる 働く 食べる 渡す</p>
<p>単元名(時数)</p>	<p>4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月</p>	<p>やさいをそだてよう ～わたしがそだてたいやさいを！～</p> <p>やさいのできることをやってみよう ～より多くの人にやさいを！～</p>
<p>主な学習活動</p>	<p>○1年生までのころ生かすかでの喜びを振り返り、どう生かすかの字が目的を確かめ、自分の目標をもつ ○「どんな野菜を」「誰のために」育てたいのかを明確にする ○自分が育てる野菜を決めるために、調査を行い、理由を明確にした上で野菜を決める ○願いの実現に向けて、土づくり、野菜の世話を続ける ○話し「かんたん」な人になろう」での観察の視点をもとに、野菜の変化を伝える ○必要に応じて、情報収集や人に聞く活動を行い、問題の解決と行動を繰り返す ○問題解決の過程で生まれた、全体で考えるべき事例についてグループや全体で話し合い、判断する ○収穫や誰かに食べてもらえたこと、自分で食べられたことで願いが実現した喜びを共有する ○探究してきたこと(願い、問題解決方法、うれしかったこと、難しかったこと、どう乗り越えたか)を振り返る ○野菜の成長や収穫に向けて、夏休み前や夏休み期間中の世話について考え、行動する</p>	<p>○夏休み前や夏休み期間の野菜の収穫や育ててもらった、自分で食べた経験や喜びを振り返り、探究したことよさを確かめ、自分の目標をもつ ○1年生の頃の願いの思い出、今後の活動の願いを明確にする ○1年生の頃の願いの思い出、今後の活動の願いを明確にする ○1年生の頃の願いの思い出、今後の活動の願いを明確にする ○1年生の頃の願いの思い出、今後の活動の願いを明確にする ○1年生の頃の願いの思い出、今後の活動の願いを明確にする ○1年生の頃の願いの思い出、今後の活動の願いを明確にする ○1年生の頃の願いの思い出、今後の活動の願いを明確にする ○1年生の頃の願いの思い出、今後の活動の願いを明確にする ○1年生の頃の願いの思い出、今後の活動の願いを明確にする ○1年生の頃の願いの思い出、今後の活動の願いを明確にする</p>
<p>想定されるジレンマ ●エラー 【道徳的諸価値】</p>	<p>■育てるために、自分から働く必要があることわかっていながら、継続して世話をすることが難しい ■育てるために、自分から働く必要があることわかっていながら、継続して世話をすることが難しい ■育てるために、自分から働く必要があることわかっていながら、継続して世話をすることが難しい ■育てるために、自分から働く必要があることわかっていながら、継続して世話をすることが難しい ■育てるために、自分から働く必要があることわかっていながら、継続して世話をすることが難しい ■育てるために、自分から働く必要があることわかっていながら、継続して世話をすることが難しい ■育てるために、自分から働く必要があることわかっていながら、継続して世話をすることが難しい ■育てるために、自分から働く必要があることわかっていながら、継続して世話をすることが難しい ■育てるために、自分から働く必要があることわかっていながら、継続して世話をすることが難しい ■育てるために、自分から働く必要があることわかっていながら、継続して世話をすることが難しい</p>	<p>■買手が買いたくなるものまで考えていたけれど、実際に話を聞くと思っ ■買手が買いたくなるものまで考えていたけれど、実際に話を聞くと思っ ■買手が買いたくなるものまで考えていたけれど、実際に話を聞くと思っ ■買手が買いたくなるものまで考えていたけれど、実際に話を聞くと思っ ■買手が買いたくなるものまで考えていたけれど、実際に話を聞くと思っ ■買手が買いたくなるものまで考えていたけれど、実際に話を聞くと思っ ■買手が買いたくなるものまで考えていたけれど、実際に話を聞くと思っ ■買手が買いたくなるものまで考えていたけれど、実際に話を聞くと思っ ■買手が買いたくなるものまで考えていたけれど、実際に話を聞くと思っ ■買手が買いたくなるものまで考えていたけれど、実際に話を聞くと思っ</p>
<p>人材活用施設</p>	<p>・加納にある野菜の販売店 ・おしいさん、おはあさん ・野菜に詳しい先生 ・3年生や4年生</p>	<p>・加納にある野菜の販売店 ・おしいさん、おはあさん ・野菜に詳しい先生 ・3年生や4年生 ・給食に携わる人(栄養教諭、調理員、食品を運搬する人) ・附属小中学校の仲間や先生、農家</p>
<p>教科等との関連</p>	<p>・国語：図書かんたんげん かんたん3人になろう 春がいっぱい 夏がいっぱい ・算数：せいりりしたた 2けたのたし算 2けたのひき算 長さのたんい ・音楽：100より大きな数 かさのたんい 時-ことと時間 ・国工：たのしくうして ともだち見つけた</p>	<p>・国語：わたしはおねえさん、冬がいっぱい、春がいっぱい ・算数：100より大きな数、分數、分數、はのこ形 ・国工：たのしくうして、トキトキトキ</p>

本単元の目標			
2年2組 単元シート	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
単元名 やさいで人をえがおにしよう (57)	願いをもとに全校のために野菜を栽培する活動を通して、野菜と向き合い、試行錯誤しながら野菜作りや給食に携わる人と関わり続けたり、実現可能かどうかを立ち止まって考えたりし、やり切ることができるようにする。	給食に出せる野菜にするために必要だと思ふことを人に伝えたり、伝えられたことを受け入れたりして、その上で、これまでに調べたことや聞いたことをもとに、行動に移すことができるようになる。	自分の野菜が成長し、給食に提供できたことに、うれしさや楽しさ、喜びを感じたり、学びを振り返り人から認められたりすることで、願いを実現するために大切なことを踏まえ、自分の良さを生かして、願いを実現しようとする態度を養う。
活動の計画 ○夏野菜の経験を振り返り、探究したよさを確かめる。 ○次の野菜づくりに向けて、畑の準備を進める。 ○4月の児童の願いの中の言葉から「全校のために野菜を育てるプロジェクト」の実施することを方向付ける。 ○どんな野菜を育てたいか、願いを明確にする。(10)	○調理室の見学や栄養教諭や調理員さんとの対話を通して、食の安全を守る思いや働くとは何かを考える。 ○より安全で美味しい野菜づくりを目指すために、外部人材と出会い、新たな解決方法を知る。 ○自分や他者の考えをもとにして野菜づくりに取り組み、試行錯誤を続ける。(10)	○収穫された野菜が実際には虫に食べられていたため、全て使うことができず、給食で提供できる量が足りていないかどう乗る量を知り、その問題をどう乗り越えるかを考え、願いを再構築する。 ○自分たちの願いを給食に携わる人に伝え、再度プロジェクトに取り組む。(10)	○「全校」「給食に携わる人」の両方のためになる野菜づくりを目指し、試行錯誤しながら世話を続ける。 ○野菜を収穫し、栄養教諭や調理員さんに確かめてもらい、これまでの取組の達成感を味わう。(10)
加筆修正欄			
想定される姿 ・夏野菜を育ててきた自分の活動に満足感をもち、「全校の仲間のために」という願いをもつ。 ・育てた野菜をどのよう調理するとおいしく食べられるか考える。 ・給食に自分たちが育てた野菜が出ることを伝える方法を考える。 ・調べたことをもとに育てる。	・育てた野菜をどのよう調理するとおいしく食べられるか考える。 ・給食に自分たちが育てた野菜が出ることを伝える方法を考える。	・野菜の成長を観察することで、その変化に気付く。 ・大きくおいしく育てるための方法を知り、自分の野菜作りに必要なことを行う。	・自分たちの活動が、多くの人の笑顔と自分の喜びにつながったことに気付く。 ・自分の成長に気付く。
実際の姿 ●ジシシマ ■エラー	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■人のために、継続して世話を必要があるのに、継続して世話をすることが難しい</p> <p>■多くの人に食べてもらうためには、考えなければならぬことが多くあり、全てを解決することが難しい</p> <p>■学級や学年の仲間と協力する必要があるが、意見をまとめることや共に活動することが難しい</p> <p>■どれだけ丁寧に育てたとしても、廃棄される野菜が生まれてしまい、廃棄を無にするのが難しい</p> <p>●たくさんつくろうとすると、一つ一つの野菜の世話が疎かになってしまふ</p> <p>●一つ一つを大切にしようとするとかくさんの野菜をつくることは難しい</p> <p>●作った野菜を給食で食べてもらえたりしなかったが、実際には育てた野菜に問題があったことがわかった</p> <p>■本当にこれから大切にしなければならぬことは何だろう</p> </div>		

2年2組 本時案
(1) 目標

給食のために作った野菜が虫に食べられていたことで足りなかった事実を受けて、プロジェクトについて再度考えうる活動を通して、より切実性のある願いを見いだすことができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

探究の過程で生まれた問題や願い、自分たちの姿をもとにして、本当に大切な願いとは何かについて考える。(希望と勇氣、努力と強い意志)

本時 (31/57)

<p>活動内容 (○教師の発問 ・予想される児童生徒の発言)</p>	<p>○教師の手立てと見届け</p>
<p>これからのやさいづくりをどうする？</p> <p>1 栄養教諭から給食プロジェクトで使用した野菜の量について聞く</p> <p>2年生のみんなが一生懸命頑張って育てて、収穫してくれた野菜。実は給食に使えた量は、これだけなんです。野菜をよく見ると、虫によって食べられてしまっているもの、傷んでしまっているものがあるんです。だから、調理員さんと一緒に時間をかけて、使えるものを選んでのがこれです。どうしても全校のみんなに食べてほしいと思っただけで、足りないものについては、業者さんに届けてもらって、なんとか給食に出すことができました。一生懸命やってきました。みんなだからこそ、このことをしっかりと伝えておかないといけないと思います。</p> <p>2 栄養教諭の話から自分が感じたことについて話す</p> <p>○森田先生の話聞いて、あなたはどどう感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校に食べてもらって喜んでもらえなかったかと思っていたのに、実際は足りていないことを知って、悲しい。 ・調理員さんや森田先生にも、自分たちの野菜のために迷惑をかけてしまった。 ・食べてもらえたとし、喜んでもらえなかったけれど、全部自分たちの野菜で給食に出したかったから、願いとは違っている。 <p>○本日はもつとどうなりたかったのか。何が問題なのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全て自分たちの野菜になるように、給食に出せる野菜がたくさん量になるとよかったです。 ・自分たちの願いは、自分たちの野菜で食べる人、調理員さんや森田先生に喜んでもらうことだから。 ・でも、そのためには虫が問題。野菜を食べられなければならないようにしなければならぬ。 <p>3 これから何にチャレンジするかを考える</p> <p>○たとえ大変であっても、もう一度プロジェクトにチャレンジしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変であってもこれまでよりもよく活動して、本当に全校や調理員さんたちに喜んでもらえるように活動したい。 ・大変なことだからこそ、チャレンジすると、自分たちが成長することにもきつとつながる。 ・虫対策をどれだけしても、虫を全て無くすることは難しい。給食に出せると考えると無理なのかもしれない。 <p>4 本当に大切にしたいことは何かについて出し合い、願いをつくり出す</p> <p>○大変なこともありながらも、たくさん人の笑顔を生み出すために、自分たちが本当に大切にしたい願いは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べるみんなのことを考えて、大変なことでも自分でやりきれようようにすること。 ・大変なことだからこそ、とことん調べて人と出会う、問題を明らかにできるよようにすること。 <p>5 本時の学びの振り返り、自分の大切にしたい願いを自分の言葉で書き出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの野菜でみんなに喜んでほしい。だから、大変であってもそこに向かっていけるよようにしたい。 	<p>○給食に提供することができた野菜の量について栄養教諭から伝えることから、自分たちの認識と現実の違いに気づき、探究のあり方を考えるきっかけが生まれるようにする。</p> <p>○事実を聞き、その場で感じたことを少しずつ言葉にする姿を認め、子ども思いの広がりが生まれるよように受け止めながら対話を進めるようにする。</p> <p>○事実を失敗と捉える児童に対し、「本当にこれまでの取り組みは失敗だったのか」を問いかけることで、「よりよい活動にするために」考える場であることを確かめる。</p> <p>○「何にチャレンジするのか」「実現できるかどうか」「問題や難しさは何か」「これまでの願いと今の違いは何か」といった問いかけから、探究を多面的に振り返ることができるようになる。</p> <p>○伝えられた事実を乗り越えることは簡単ではないことに気付いた上で、大変なことに立ち向かうことができるかどうかを問うことで、それぞれの探究に対する考えが明確になるようにする。</p> <p>○「本当に大切にしたい願い」や「どのよように解決するのか」について、この時間だけで答えを出すことを急がない。</p>
<p>目標に迫った姿をどのよように見届けられるか</p> <p>探究を振り返り、理想と現実の違いに気づき、切実性のある願いを見出している。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話の言葉やワークシートの記述から見届けられる。 	

メモ

第3学年 学びのカテゴリー「花」



3年1組は、昨年度学んだ「感情（愛情）をもって育てることの大切さ」をもとに、「花でみんなを明るく元気になりたい」という願いをもち、花の栽培や花壇の整備、花を生かした活動を行ってきた。様々な問題を乗り越え、自分が仲間と共に咲かせた花を多くの仲間に見てもらい、喜んでもらうことができたと感じている。「もっと笑顔にしたい」と考え、そのための活動を計画したり、実際に準備を進めたりしている。

3
年
生

3年2組は、「フラワーシャイン」（花で輝く）を合言葉に、全校のみんなに花を好きになってもらい、笑顔になってほしいという願いをもって、花の栽培を行ってきた。花壇に繰り返し通う中で、花が成長するために必要な物や、仲間が見に来てくれるために何をすべきかを話し合い、夏の花壇づくりに取り組んだ。児童が花について調べたり観察したりしたことをもとに生まれた、「やってみたい」こと理由に目を向け、児童が主体的に花に関わり続けることを大切にしている。



岩田 尚之
下川 舞子
中村 幸智

3年1組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：花（全105時間）

	(1) 問題解決力に関わって	花の栽培を通して出会った問いをもとに、自分や仲間が幸せに生きられるために自分ができることを考え、やりきることができるようにする。										
	(2) 関係構築力に関わって	花の栽培を通して、仲間の考えを肯定的に聞いたり自分の考えを相手や目的を意識して伝えたりしながら、ジレンマやエラーに対する互いに納得できる考えを生み出し、活動することができるようにする。										
	(3) 貢献する人間性に関わって	花の栽培や様々な人との触れ合いを通して、自分の長所に気づき、自分や仲間を幸せにする方法を考え、仲間と共に行動しようとする。										
第3学年の目標	花の栽培を通して出会った問いをもとに、自分や仲間が幸せに生きられるために自分ができることを考え、やりきることができるようにする。											
第3学年の目標	花の栽培を通して、仲間の考えを肯定的に聞いたり自分の考えを相手や目的を意識して伝えたりしながら、ジレンマやエラーに対する互いに納得できる考えを生み出し、活動することができるようにする。											
第3学年の目標	花の栽培や様々な人との触れ合いを通して、自分の長所に気づき、自分や仲間を幸せにする方法を考え、仲間と共に行動しようとする。											
カテゴリー設定の理由	2年生では、野菜栽培でトライアル&エラーを繰り返し、願いをもちながら仲間と共に活動することのよさを味わってきた。3年生では、花の栽培を通して自分の願いだけでなく、他者の考えを受容しながら活動を進めることを大切に、人のためになる経験を通して、自分の仲間を幸せにする方法について探究していく。これまでの学びの過程とつながりをもちつつ、他者や自然についてより理解を深めることができ、児童の自己実現に向かうために必要となる資質・能力を効果的に育むことができると考え、カテゴリーを「花」と設定した。											
学びの基盤となる道徳的諸価値	個性の伸長・希望と勇氣、努力と強い意志・相互理解、寛容・勤労、公共の精神・よりよい学校生活、集団生活の充実・生命の尊厳・自然愛護											
学びを構成する要素	自然 植物 人 仲間 全校 命 命をつなぐ 願い 幸せ 喜び 貢献 働く											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元名(時数)	「どうする!? 学校の花壇」(48時間)											
主な学習活動	<p>○前年度の学びを振り返る。</p> <p>○今年度の願いを考え、交流する。</p> <p>○どんな花壇にしたいか考え、計画を立てる。</p> <p>○他学年の仲間や専門家と交流し、計画を見直す。</p> <p>○花壇に植える花を育てる。</p> <p>○昨年度の花をどうするかを考え、活動を進める。</p> <p>○育てた花を使って花壇を整備する。</p> <p>○花壇を全校に紹介する活動を計画し、実行する。</p> <p>○これまでの活動を振り返り、成果や課題を明らかにする。</p>											
想定されるジレンマ	<p>■計画したことをやろうと思っても、全員で取り組むことが難しい。</p> <p>■何度も話し合い、改善しようとしてもうまく進められない。</p> <p>■人のためと他者を感じて動いていたことが、人のためにならず、嫌な思いをさせてしまった。</p> <p>■やることに意味を感じることが、少しでも嫌な思いをする人がいるから今後の活動をどうしたらいいんだろう。</p> <p>【努力と強い意志・相互理解、寛容・勤労、公共の精神・よりよい学校生活、生命の尊厳など】</p>											
【道徳的諸価値】	<p>■自分かよほど思ってしまったことが、仲間が他学年の仲間にならな。</p> <p>●自分かやりたいと思ったことが、全校の仲間が思っていることに違いがあるな。</p> <p>●どうやって解決しようか。</p> <p>●どうして学校の仲間の声を計画に受け入れたらよいか。</p> <p>●【努力と強い意志・相互理解、寛容・勤労、公共の精神・よりよい学校生活、生命の尊厳など】</p>											
人材活用施設	<ul style="list-style-type: none"> ・1部の仲間 ・学校の先生 ・園芸店の人 ・岐阜市の役所の人 ・家族 											
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：もっと知りたい、友達のこと（話す・聞く） ・社会：学校のまわりの様子 ・算数：構グラフ 											
	<ul style="list-style-type: none"> ・1部・前開課程・環境部 ・学校の先生 ・岐阜農林高等学校の園芸科 ・花に関わる仕事をしている人 ・家族 											
	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：小山園で三日間過ごすならはじめて、観察をまとめよう（話す・聞く） ・社会：仕事の工夫見つけたよ ・算数：岐阜市の様子 ・算数：大きな数 ・円と球 											
	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生 ・卒業する9年生 ・新入生 ・家族 											
	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：伝わる言葉で表そう（書く） 											
	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの取組を振り返り、大切にしていきたいことを確かめる。 ○来年度の学びのために自分たちができることを考え、これまで取組の思いを形にしてもよい。 ○これまでの活動を振り返り、自分の強みや弱みや自分たちが見つけたいことを話し合う。 ○1年生、2年生、3年生の仲間や専門家と交流し、計画を見直す。 ○花壇に植える花を育てる。 ○昨年度の花をどうするかを考え、活動を進める。 ○育てた花を使って花壇を整備する。 ○花壇を全校に紹介する活動を計画し、実行する。 ○これまでの活動を振り返り、成果や課題を明らかにする。 											
	<ul style="list-style-type: none"> ■2年生が本当に知りたかったことは何だろう。 ■自分たちが4月に悩んだように、次の3年生も花壇の花をどうするかを考えると、次の方かよいだろうか。 ○【個性の伸長・希望と勇氣、相互理解、寛容・勤労、公共の精神・よりよい学校生活、生命の尊厳など】 											

3年1組 単元シート		本単元の目標		
単元名	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性	
みんなを笑顔にするために (40)	自分の願いを実現させる中で出合った問いについて探究したり、自分にできるところを実行したりして、納得がいくまでやりきることができるようにする。	自分の願いを実現するために、目的を意識して自分の考えを伝えたたり仲間や専門家の人の思いや考えを肯定的に聞いたりして、互いに納得できる考えや方法を見いだし活動できるようにする。	仲間や専門家、様々な立場や年齢の人との関わりを通して、相手の言葉や変化に喜びを感じたり、まわりの誰かを喜ばせようと行動したりする態度を養う。	
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏休み前や夏休み中の活動を振り返る。 ○ 花壇や花、学校生活に対する他学年の意識を調査する。 ○ 自分の願いを確かめ、今後の活動の見直しをもつ。(4) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 花で仲間を笑顔にする活動を計画し、実行する。 <ul style="list-style-type: none"> ● イベントチーム (仮) ● グッズチーム (仮) ● あいさつチーム (仮) ○ 活動後の他学年の意識を調査する。 ○ これまでの活動の成果と課題を振り返る(8) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの活動の成果と課題を考える。 ○ 「花が自分たちにとってどんなものか」について考え、これまでの自分の学びや変化、成長を見つめる。 ○ 花壇を整備する。(5) 	
加筆修正欄		<ul style="list-style-type: none"> ○ 4年生、環境部、外部の専門家(岐阜農林高校の学生、花に関わる仕事をしている人)と「花で人を笑顔にするってどういうこと？(仮)」について対話し、これからの活動を考える。 ○ 仲間を笑顔にするための活動を計画し、実行する。 ○ 活動後の他学年の意識を調査する。(23) 		
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ きれいに咲いている花たちを見てもらいたい。 ・ もっとみんなを笑顔にするためにはどんな活動をした方がいいのかな。 ・ 花でみんなを明るく元気にしてあげたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人を明るく元気にしたり喜ばせたりするには、どうしたらいいんだろう。 ・ 4年生や環境部、農林高校のお兄さんお姉さんはどういう思いや考えで活動しているのかな。 ・ もう一回活動を計画して、みんなを明るく元気にするための活動を計画しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの方が花壇や花を見てくれたし、これまでの活動を通して、縦割り集団の仲間だけじゃなく、その他の多くの人とも仲良くなることができたよ。 ・ 途中、うまくいかないこともあったけど、仲間と力を合わせて最後まで頑張ることができたよ。 	
実際の姿				
● ジレンマ ■ エラー	<ul style="list-style-type: none"> ● じっくり花を見てほしいけど、見てくれた人が朝の活動に遅れてしまうのはまずい！どうしたらいいのかな。 ● みんなと協力するのはいいけど、もともとやりたかったことは違うものになっただけやと思っている。 ■ 喜んでくれると思ってるやってみただけど、そんなに喜んでくれていないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 病気になるってしまっただけは切るべきなんだけど、どこから切っていいのかな。せつかく育てたのに、切ってしまうのはかわいそうだな。 ■ 多くの人が見てくれるけど、笑顔になっただけで元気がなかったりしてくれなかったかは、どうやって確かめるといいのかな。 		

3年1組 本時案
(1) 目標

これまでの対話（他学年や専門家）や活動を振り返る活動を通して、仲間の考えを肯定的に聞いたり自分の意見を話したりしながら相手を笑顔にするために大切なことを考え、今後の活動計画をしたり、その準備したりすることができる。（関係構築力）

(2) 道徳的価値判断に関わって

相手を喜ばせるために必要なことについて考え、自分本位の活動から相手意識を考えた活動の在り方について議論する。（集団生活の充実）

本時 (27/40)

活動内容（○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言）		○教師の手立てと見届け
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>これまでの対話を通してあなたが大切にしていきたいと思っことは何か？</p> </div>		
<p>1 本時の課題を確認し、グループごとの考えを発表する</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【自分の達成感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生の人は、花を咲かせたときの喜びについて教えてくれたよ。やっばりできてきた時の達成感を一緒に味わうことが大切なんじゃないかな。そのためにはどんな活動がいいのか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラワーコーディネーターの人が普段作られている花やその飾りがとてもきれいで、見た人が喜んでいたら私も嬉しくなるとみんなを驚かせるようなものやイベントをすることが大切なんじゃないかな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【活動の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境部の人は、一度の活動も大切だけど、その活動が続くことでさらに学校全体が明るくなっていくって話してくれたいから、続けることも大切だと思うよ。それと当たり前にしているか、どうしたらいいのか。 </div>	<p>○前時までにグループごとの対話を行い、本時の目標に迫るための時間を確保する。</p> <p>○これまでの活動や対話をもとに問いやジレンマを共有し、切実感をもって対話を行えるように展開に合せて問いかける。</p> <p>○発表では、仲間の考えを肯定的に聞くことを促し、気になったことを互いに質問し合うことで、「大切にしたいこと」の中にあるそれぞれの「価値観」を見だし、その後の対話や活動につなげる。</p> <p>○下記の発問を通して、「自分がしたいことをする」から「相手が求めていることをする」について考えを広げられるようにする。(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喜んでくれると思うとやってみただけ、アンケートの結果を見ると、効果が見られなかったのはどうしてだろう。 ○下記の発問を通して、自分の生活体験や経験を問うことで、抽象的な言葉や概念を理解できるようにする。 ・これまでの生活で自分がうれしかったことは、いつ、どんなことをしてもらった時でしたか。
<p>2 全体での対話をもとに、自分が大切にしたいことを考え、今後の活動を進める</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【自分の達成感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動や農林高校のお兄さんとの話から私がいかに楽しかったことをI部のみんなにも感じてもらうことがいいと思った。花の種を一緒にまいたり、花がさくのを毎日見守ったりしている時が一番ワクワクしていたからそれを活動に生かしてみようかな。 </div>	<p>○前時までにグループごとの対話を行い、本時の目標に迫るための時間を確保する。</p> <p>○これまでの活動や対話をもとに問いやジレンマを共有し、切実感をもって対話を行えるように展開に合せて問いかける。</p> <p>○発表では、仲間の考えを肯定的に聞くことを促し、気になったことを互いに質問し合うことで、「大切にしたいこと」の中にあるそれぞれの「価値観」を見だし、その後の対話や活動につなげる。</p> <p>○下記の発問を通して、「自分がしたいことをする」から「相手が求めていることをする」について考えを広げられるようにする。(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喜んでくれると思うとやってみただけ、アンケートの結果を見ると、効果が見られなかったのはどうしてだろう。 ○下記の発問を通して、自分の生活体験や経験を問うことで、抽象的な言葉や概念を理解できるようにする。 ・これまでの生活で自分がうれしかったことは、いつ、どんなことをしてもらった時でしたか。
<p>3 本時の学びを振り返り、今考えていることを書く</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【相手意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がしてあげたいことをするのは大切だけど、相手はどう思っているかについても考えたり調べたりすることでよりその人に喜んでもらえる活動にすることができると思う。だから、まず2年生にインタビューしてどんな要望があるのかを見付けるところから始めたいな。 </div>	<p>○前時までにグループごとの対話を行い、本時の目標に迫るための時間を確保する。</p> <p>○これまでの活動や対話をもとに問いやジレンマを共有し、切実感をもって対話を行えるように展開に合せて問いかける。</p> <p>○発表では、仲間の考えを肯定的に聞くことを促し、気になったことを互いに質問し合うことで、「大切にしたいこと」の中にあるそれぞれの「価値観」を見だし、その後の対話や活動につなげる。</p> <p>○下記の発問を通して、「自分がしたいことをする」から「相手が求めていることをする」について考えを広げられるようにする。(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喜んでくれると思うとやってみただけ、アンケートの結果を見ると、効果が見られなかったのはどうしてだろう。 ○下記の発問を通して、自分の生活体験や経験を問うことで、抽象的な言葉や概念を理解できるようにする。 ・これまでの生活で自分がうれしかったことは、いつ、どんなことをしてもらった時でしたか。

目標に迫った姿をどのように見届けるか

テーマについて対話したことをもとに、人を笑顔にするために必要なもの（こと）について自分の考えを発表したり、仲間の考えを肯定的に聞き、自分の考えに生かそうとしたりしている。

（関係構築力）

- ・対話（全体・小集団）での発言の様子やワークシートの記述から見届ける。

3年2組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：花（全105時間）

<p>第3学年の目標</p>	<p>(1) 問題解決力に関わって 花の栽培を通して出会った問いをもとに、自分が仲間が幸せに生きることができるように考える、やりきることができるようにする。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって 花の栽培を通して、仲間の考えを肯定的に聞いたり自分の考えを相手に目的を意識して伝えたりしながら、ジレンマやエラーに対する互いに納得できる考えを生み出し、活動することができるようにする。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって 花の栽培や様々な人との触れ合いを通して、自分の長所に気付き、自分や仲間を幸せにする方法を考え、仲間と共に行動しようとする。</p>												
<p>カテゴリー設定の理由</p>	<p>2年生では、野菜栽培でトライアル&エラーを繰り返して、願いをもちながら仲間と共に活動することのよさを味わってきた。3年生では、花の栽培を通して自分の願いだけでなく、他者の考えを容れながら活動を進めることを大切に、人のためになる経験を通じて、これまでの学びの過程とつながりをもちつつ、他者や自然についてより理解を深めることができ、児童の自己実現に向かうために必要となる資質・能力を効果的に育むことができることを考え、カテゴリーを「花」と設定した。</p>												
<p>学びの基盤となる道徳的諸価値</p>	<p>個性の伸長・希望と勇気、努力と強い意志・公共の精神・よりよい学校生活、集団生活の充実・生命の尊さ・自然愛護</p>												
<p>学びを構成する要素</p>	<p>自然 植物 人 仲間 全校 命 命をつなぐ 願い 幸せ 喜び 貢献 働く</p>												
<p>月</p>	<table border="1"> <tr> <td>4月</td> <td>5月</td> <td>6月</td> <td>7月</td> <td>8月</td> <td>9月</td> <td>10月</td> <td>11月</td> <td>12月</td> <td>1月</td> <td>2月</td> <td>3月</td> </tr> </table>	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
<p>単元名(時数)</p>	<p>フラワーシャイン ～花を大切に育てよう～(48時間)</p>												
<p>主な学習活動</p>	<p>○花圃にある去年の3年生の花をどう育てようかを考える。 ○花を大切に育てるための方法を考え、実行する。 ・iPadや図鑑を使って、夏に咲く花や、花の育て方などを調べる。 ・必要な道具を準備する。 ・ポットに種を蒔き、大切に育てる。 ○活動で生まれたジレンマやエラーと向き合い、学級の仲間と対話し、考える。 ○自分たちの花壇(夏)をつくるための計画を立て、実行する。 ○これまでの学びをもとに、自分たちの活動の願いを明確にする。</p>												
<p>想定されるジレンマ ●エラー 【道徳的諸価値】</p>	<p>■計画したこととやるつもりとで、全員で取り組むことが難しい。 ■授業中話し合い、改善しようとしてうまく進められなかった。 ●前週の花壇が白く、花壇に水をまいた。水が足りなかった。 ●水やりをしながら、花壇に水をまいた。水が足りなかった。 ●努力と強い意志・相互理解、寛容・勤労・公共の精神 ・よりよい学校生活、集団生活の充実・自然愛護など</p>												
<p>人材活用施設</p>	<p>・全校の仲間 ・学校の先生 ・園芸店の人 ・家族 ・朝日小学生新聞(あいみよん愛の花プロジェクト)</p>												
<p>教科等との関連</p>	<p>・国語：もっと知りたい、互連のこと(話す・聞く) ・社会：学校のまわりの様子 ・算数：まわりの長さ ・理科：たねをまこう、どれくらい育ったかな、花がさいたよ</p>												

本単元の目標			
3年2組 単元シート	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
単元名 花で人を笑顔にしよう (40)	花で人を笑顔にするために自分にできることを考え、最後までやりきることができるようにする。 ○ 学校の花壇を整備し、秋冬の花を育てる準備をする。 ○ 種をまき、毎日大切に世話をす。 ○ 岐阜農林高等学校を見学し、夏の花壇づくりから生まれたジレンマやエラーについて、アドバイスをもらう。(14)	花で人を笑顔にするために、仲間の考えを肯定的に聞いたり自分の考えを相手や目的を意識して伝えたりしながら、ジレンマやエラーに対する互いに納得できる考えを生み出し、活動することができるようになる。 ○ 秋冬の花壇づくりの計画が、「人を笑顔にする」ことにつながるのか話し合う。 ○ 願いの実現に向けて、秋冬の花壇づくりを実行する。 ○ i P a d や図鑑を使って、春に咲く花や育て方を調べる。(14)	花の栽培や様々な人との触れ合いを通して、自分の長所に気付き、人を笑顔にする花壇にする方法を考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。 ○ 秋冬の花壇をたくさんの人に見てもらうために、花壇を紹介する活動（フェスティバル）を考え、内容を構想する。 ○ 秋冬の花壇を紹介する活動（フェスティバル）の準備をする。(6)
活動の計画	○ 夏の花が咲いた学校の花壇を観察し、気付いたことを話し合う。 ○ 秋冬の花壇を、夏よりもきれいな花壇にするためには、どうすればよいか話し合う。 ○ i P a d や図鑑を使って、秋冬に咲く花や育て方を調べる。(6)	○ 花は少ないより多い方がきれい。同じ種類の花をかためて植え替えたい。 ○ 花を植えた水をやったりすることだが、毎日花の様子を見ることが大切だ。枯れた花を摘み取ったり、雑草を抜いたりして、元気な花をみんなに見てもらいたい。	○ 育てている花の紹介をして、花に興味をもってもらえば、花を見に来てくれそう。 ○ 花の育て方や、花の特徴をまとめた花ブックを作りたいたい。 ○ 押し花でしおりを作って、花を見に来てくれた人に配ったら、みんな喜んでくれそう。
加筆修正欄			
想定される姿	・ 想像していた花壇より、花が少なく寂しい。秋冬の花壇は、もっと花を増やしたい。 ・ 秋冬は気温が低くなるから、寒さに強い花を育てないといけない。 ・ まだ咲いている夏の花もある。枯れた夏の花の場所に、新しい秋冬の花を植えた方がいい。		
実際の姿			
● ジレンマ ■ エラー	■ 秋冬の花壇は、夏の花壇よりもいいものにしたけれど、どこをどう改善すればよいか分からない。 ■ 思っていたように花が育たず、花壇が寂しくなってしまう。	● 自分がやりたいと思っただけで、仲間が思っていることに違いがあって、どうすればよいのだろう。 ● もっとたくさんの人に花を見てもらいたい。自分のアイデアだけでなく、仲間の考えや思いも聞きたい。	

3年2組 本時案

(1) 目標

秋冬の花壇づくりの計画が、「人を笑顔にする」という願いにつながっているのか話し合う活動を通して、花をよく観察して花の状態に合った世話を続けることで、人を喜ばせることができる花壇になることに気づき、秋冬の花壇づくりを生かそうとすることができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

栽培している身近な花を大切に育てることに関わって、「人を笑顔にする」花壇とはどんな花壇なのか話し合い、自分たちにできることを考える。(自然愛護)

本時 (22/40)

<p>活動内容 (○教師の発問 ・予想される児童生徒の発言)</p>	<p>○教師の手立てと見届け</p>
<p>1 本時の課題を設定する</p> <p>○秋冬用にポットにまいた種が育ってきました。次に考えたいことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花を花壇に植え替えたい。 ・ポットだと花が窮屈そうだから、広い場所に移してあげたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>秋冬の花壇をどのようにするか、意見を出し合おう。</p> </div> <p>2 どんな秋冬の花壇にしたいか話し合う</p> <p>○秋冬の花壇を、どんな花壇にしたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の花壇よりもたくさんの方が見てくれる花壇にしたい。 ・夏の花壇は花の数が少なかったから、もつとたくさん花を花壇に植え替えたい。 ・岐阜農林高校の花壇は、同じ種類や同じ色の花が集められていて、きれいだっただよ。真似したいな。 ・夏の花壇のように、れんがで人が通れる道を作っておくと、みんなが花に近づいて見られるよ。 <p>3 どんな花壇だと「人を笑顔にする」ことができるのか話し合う</p> <p>○みんなの願いである「人を笑顔にする」花壇とは、どんな花壇ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花がきれいに咲いていると、見た人も笑顔になる。 ・雑草が生えていたり、花が枯れていたりすると、逆に悲しい気持ちになる。花の栄養がいきわたる花壇だと花も元気に育って、見た人も嬉しくなるよ。 ・岐阜農林高校の方が、植え替えた後も毎日花壇の様子を見ると言っていたよ。病気になるたり枯れたりしないように花の状態に合ったお世話をすれば、花もきれいに咲き続けることができるね。 <p>4 本時の学びを振り返る</p> <p>○「人を笑顔にする」花壇をつくるために、大切だと思ったことや、これから実行しようと思ったことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花壇や花をきれいな状態に保つために、毎日花を見に行きたい。 ・花が元氣じゃなかったら、見る人も笑顔になれないから、元氣に花が咲き続けられるように、しっかりとお世話をしたい。 ・夏の花壇のときも、毎朝○○さんは花の様子を見に行っていたから、私も見習いたい。 	<p>○現在育てている秋冬用の花のポットやプランターを提示し、成長に合わせた環境で育てた方がよいことを想起できるようにする。</p> <p>○児童の発言を、夏の花壇と比べて「継続していく視点」「改善していく視点」「新しく取り入れる視点」に分け、整理してまとめる。</p> <p>○夏の花壇や岐阜農林高校の花壇の写真を提示し、秋冬に計画したい花壇をイメージしたり、比べて考えたりすることができるようになる。</p> <p>○全体で「願い」を確認し、現在の計画が「人を笑顔にする」花壇につながっているのかに着目して話し合いができるようにする。</p> <p>○「どんな花壇だと自分は笑顔になるのか。」と問い返し、花がどんな状態だと見る人も嬉しい気持ちになるのか、自分ごとで考えることができるようになる。</p> <p>○元氣に咲いている花と、元氣がない花の写真を見比べて、花への関わり方で花の状態が変わってしまうことに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>これまでの歩みをもとに、「人を笑顔にする」花壇とはどんな花壇なのか考え、秋冬の花壇の花にどう関わり続けるのかを、自分なりに表現している。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言内容やワークシートの記事から見届ける。 </div>

メモ

第4学年 学びのカテゴリー「動物」



4年1組は、飼育活動を行う中で、「動物達の幸せを考えた飼育活動」を大切にしてきた。普段の飼育活動や岐阜農林高校の生徒との交流を通して、動物の習性を知ったり、触れ合い方を学んだりしてきた。その営みの中で、動物達の幸せのために「遊び場を作りたい」や「餌や水の量を変えたい」など自分達にできることはないか考えるようになってきた。動物達の幸せにつながるように適宜計画を見直し、プロジェクトを進めている。

4年3組では、積極的に飼育動物と関わることから活動を始めた。その中で、動物の立場に立って活動することの大切さや魅力に気付くことができ、動物に対する捉えや接し方に少しずつ変化が見られるようになった。動物と深く関わることで、動物の命について考えることも増えてきた。そこで、動物に携わる方との出会いを通して、いろいろな人の動物の命に対する価値観に触れることで、命に対する子ども達の捉えを広げていく。



三輪 佳祐
桐山 裕也
窪田 泰三

4年1組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：動物（全105時間）

<p>第4学年の目標</p>	<p>(1) 問題解決力に関わって 動物や人との関わりを通して出会った問いを自分で生かすために自分ができることを考え、やり切ることができるようにする。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって 動物との関わりや動物に携わる人との交流を通して、根拠を基に自分の考えを肯定的に聞いたりしながら、ジレンマやエラーに対して互いに納得できる考えや最善解を生み出し、活動することができるようにする。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって 自分と他者、自分と動物との関わりから、命の尊さやこれからの自分の生き方を見つめ直し、自分らしく行動しようとする態度を養う。</p>											
<p>カテゴリー設定の理由</p>	<p>第3学年では、花の生命の美しさや尊さを実感してきた。そんな児童だからこそ、飼育動物に対する生命の重みと育てることができると考え、第4学年では、飼育活動を通して、「自分の願い」から「自他の願い」というように視野を広げることで見えてきた問題の解決を目指して、今まで以上に飼育動物と関わり、動物のために自分ができるかを試行錯誤し、対話をすることで、動物の幸せを考え、自分はどうすべきかを探究していく。</p>											
<p>学びの基盤となる道徳的諸価値</p>	<p>個性の伸長・希望と勇気、努力と強い意志、親切、思いやり・相互理解、寛容・勤労、公共の精神・よりよい学校生活、集団生活の充実・生命の尊さ・自然愛護</p>											
<p>学びを構成する要素</p>	<p>飼育 生命 達成感 幸せ 笑顔 病気 死 誕生 個性 性格 体験 食物 体感 かわい い ペット ふれあ い 環境 関わり方 安全 仲間</p>											
<p>月</p>	<p>4月</p>	<p>5月</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>	<p>10月</p>	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>	<p>2月</p>	<p>3月</p>
<p>単元名(時数)</p>	<p>動物の幸せを考えたい飼育を目指して (35時間) ～動物について知る～</p>											
<p>主な学習活動</p>	<p>○昨年度の4年かから引きついた飼育を、自分たちだけで生かすようにするために、まずはやってみる。 ○動物たちの飼育を通して、3種類の動物たちと関わる。 ○飼育活動を体験して感じたことや、気になったことを、交流する。 ○自分たちの飼育について、5年生の人たちに見てもらい、アドバイスをもらう。 ○夏休みの飼育活動に向けて、大切にしたいことや方法など、学年で共通理解を図る。</p>											
<p>想定される ●ジレンマ ■エラー 【道徳的諸価値】</p>	<p>■丁寧にお世話をしようとするが、朝の飼育活動が時間までに終わらない。 ■調べた方法でやってみるが、飼育が上手くできていないのか分からない。 ■飼育活動後、鼻が乾いていたり、白衣を干せていないなどがある。 ■得意・苦手があるけれど、役割分担した方がいいのではない。 ■飼育小屋で生活すること、飼育活動をやりがいのではない。 ●飼育小屋で生活すること、飼育活動をやりがいのではない。 【生命の尊さ・自然愛護・希望と勇気、努力と強い意志・親切・思いやりなど】</p>											
<p>人材活用 施設</p>	<p>・獣医師 ・岐阜農林高等学校の生徒</p>											
<p>教科等との関連</p>	<p>・国語：メモ（話す・聞く） お礼の手紙（書くこと） ・社会：すみよい暮らしをつくる（水・ゴミ） ・算数：折れ線グラフと表 ・理科：生き物と気温（春・夏） ・特別活動（飼育活動）</p>											
<p>動物の幸せを考えたい飼育を目指して (40時間) ～動物に自分ができること～</p>	<p>○岐阜農林高校の飼育動物と暮らす飼育環境を改めて実感する。また、学校の飼育環境と農林高校の飼育環境を見比べて、自分達が学校の飼育動物にできることを考える。 ○動物と関わる人との交流を通して、プロジェクトを行う上で大切にしたいことを学ぶ。 ○よりよい飼育環境をつくるために、チームに分かれてプロジェクトを行う。</p>											
<p>動物の幸せを考えたい飼育を目指して (30時間) ～自分たちの成長に気付く～</p>	<p>○飼育の引継ぎ会の計画を立てる。 ○引継ぎ会の実施と見聞の振り返り活動を行う。 ○動物たちの別れに向けて、動物たちのためにあげたいことを考え、実行する。 ○今年度の学びを振り返り、キャリアパスポートに記入する。 ○自分ができようになつたことについて振り返る。 ○飼育を通してどんな自分になれたのかを振り返る。</p>											
<p>動物の幸せを考えたい飼育を目指して (40時間) ～動物に自分ができること～</p>	<p>■動物運の大切さと感謝しているが、動物に贈れるのが怖い。上手に関われない。 ■動物運のために遊び場を作ったが、動物が使っていない様子がないこと、自分達が動物の様子を見て愛護しようとしていることが、動物にとって幸せとは異なることに気づく。 ●どの動物も大切に、プロジェクトを進める上で、クラスごとに動物を絞ったほうがよいのか葛藤する。 【生命の尊さ・自然愛護・希望と勇気、努力と強い意志・相互理解、寛容など】</p>											
<p>動物の幸せを考えたい飼育を目指して (30時間) ～自分たちの成長に気付く～</p>	<p>■飼育する動物について、様々な価値観をもつ全校児童生徒に対して、自分たちの思いや考えを伝えることができず、つまづく。(全校養育プロジェクト) ●3年生に楽しく達成感のある活動をメインに伝えていくべきか、苦しいことや大変なことでも時間をかけて伝えていくべきか葛藤する。(引き継ぎプロジェクト) 【生命の尊さ・自然愛護・希望と勇気、努力と強い意志・よりよい学校生活、集団生活の充実・よりよく生きる喜びなど】</p>											
<p>動物の幸せを考えたい飼育を目指して (30時間) ～自分たちの成長に気付く～</p>	<p>・岐阜農林高等学校の生徒 ・動物園</p>											
<p>動物の幸せを考えたい飼育を目指して (30時間) ～自分たちの成長に気付く～</p>	<p>・国語：パンフレットを読む(読むこと) わかったことをまとめる(書くこと) ・算数：およその数を調べよう ・理科：生き物と気温(秋)(冬) 動物の体とつくり ・図工：ひまつのすみか(立体)</p>											
<p>動物の幸せを考えたい飼育を目指して (30時間) ～自分たちの成長に気付く～</p>	<p>・国語：新聞を書く(書くこと) ・理科：生き物の一年を振り返って ・図工：カードで伝える気持ち(工作) 忘れられない気持ち(絵画)</p>											

本単元の目標			
4年1組 単元シート 単元名	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
「動物たちの幸せを考えたい飼育を目指して」 ～動物達に自分ができること～ (40)	動物との関わりを通して、自分や仲間、動物たちが幸せに生きられるためのプロジェクトを計画し、自分にできることを考え、やり切るようにする。	飼育動物のために行うプロジェクトを通して、仲間の考えを肯定的に聞いたり、根拠をもとに自分の考えを伝えたりしながら、ジレンマやエラーに対してお互いに納得できる考えを生み出し、活動することができるようになる。	自分や仲間、動物たちを幸せにする方法を考え、自分の長所を生かし仲間と共に行動しようとする態度を養う。
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ○岐阜農林高校に行き、動物との触れ合い方を学んだり、動物たちの魅力について改めて実感したりする。また、活動後に動物のためにしたいことを改めて交流し、プロジェクトを立ち上げる。 ○動物と関わる仕事をしている方の講話を聞き、プロジェクトを行うときに大切にしたいことを学ぶ。(10) 	<ul style="list-style-type: none"> ○チームごとに、動物達によりよい環境をつくるための計画を考え、実行する。 ○他クラスのプロジェクトを受け、扱う動物を1種類に絞るべきかどうか考え、クラスで決めたことを他のクラスに提案する。 ○他のチームの人に、自分たちが行っているプロジェクトについて説明し、本当にその方法が動物達によりよい環境に繋がっていくのかわりかを話し合う。 ○繰り返し話し合った計画について、専門の方から意見をいただいたとき、プロジェクトを進める。(20) 	<ul style="list-style-type: none"> ○動物達のために進めてきたプロジェクトについて振り返り、成果と課題を明らかにする。 ○今回の学びを振り返る。(5)
加筆修正欄			
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み期間、自分達の方で動物達の命をつなぐことができなくてよかった。 ・動物との関わり方で分からないことがあったので、岐阜農林高校の人たちに聞きたい。 ・動物のためにしたいことがたくさん出てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物達のために考えたプロジェクトを最後までやりきれてよかった。 ・自分達が考えた飼育環境で生き生きと活動している動物達の姿を見て、自分達も嬉しくなった。 ・これからは動物達が幸せに暮らせるようになりたい。 	
実際の姿			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ■動物達のことを大切だと思っているが、動物に触れるのが怖いので、上手に関われない。 ■動物達のために遊び場を作ったが、動物達が使っている様子がなかった。 </div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●他のクラスも飼育環境についてのプロジェクトを進めている。環境の大きな変化が動物にとってはストレスになっているのではないか。どの動物も大切だが、クラスごとに動物を絞ったほうがよいのだろうか。 </div>			

4年1組 本時案

(1) 目標

動物達にとってよりよい環境をつくるために、クラスごとに動物を決めた方がよいのかを話し合う活動を通して、仲間に分身の考えを伝えたり、仲間に分身の考えを踏まえたりしながら、自分達のプロジェクトを見直すことができる。(関係構築力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

クラスごとに動物を決めた方がよいのかを考え、根拠をもとにして自分の考えを相手に伝えるときにも、自分と異なる意見も大切にしながら話し合いができる。(相互理解、寛容)

本時 (20/40)

<p style="text-align: center;">活動内容 (○教師の発問 ・予想される児童生徒の発言)</p>	<p style="text-align: center;">教師の手立てと見届け</p>
<p>1 前時にまとめたKPTシートをもとに、各チームのプロジェクトの問題点を共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・餌や水の量を考えるときも、他のクラスと揃える必要性を感じた。 ・自分達だけではなく、他のクラスでもプロジェクトを行っているので、環境が大きく変わり、動物のストレスになるかもしれない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">クラスごとに動物を決めたほうがよいのだろうか。</p> </div> <p>2 クラスごとに動物を決め方がよいのか話し合う</p> <p>【動物をクラスごとに決め方がよい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にプロジェクトをやってみて、動物達のことをもっと知る必要があると感じた。残り期間を考えても、動物を1種類に絞った方が充実したプロジェクトになると思う。 ・1番は動物が幸せであるかどうかだと思う。それぞれのクラスで考えたことを実践していったら環境が大きく変わらわと思う。環境の大きな変化は、動物のストレスになると農林高校の人が言っていたので、1種類に絞った方がよいと思う。 <p>【動物をクラスごとに決めない方がよい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1人に得意な動物がいたり、苦手な動物もいたりすると思う。苦手な動物に決まったときに、その子のよさが発揮されないと思う。 ・ワトリのために、遊び場を作ることはどうしてもやりたい。人によってやりたいことが違うので、クラスで決めようとしてそれができなくなる。 ・自分はこの動物も好きで幸せになっと思ってほしいと思ってるので、全ての動物でプロジェクトを行いたい。 <p>【どちらの立場にも共通していること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの動物達に幸せになっと思ってほしいという思いはみんな同じだと思う。 <p>3 自分達のクラスの願いに立ち返り、クラスごとに動物を決めた方がよいのか決める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達のクラスの願いは、「どの動物達も幸せな飼育環境をつくる」ことだから、動物の環境の変化によるストレスのことを考えたら、クラスごとに動物を決めた方がよいと思う。 ・「どの動物達も幸せな飼育環境をつくる」ためには、1種類の動物のプロジェクトだけをやってはいけいけいと思わないで、動物をクラスごとに決めない方がよいと思う。 <p>4 ワークシートに振り返りを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達のクラスの考えを他のクラスの子達にも納得してもらえようようにプレゼンを作りたい。 ・□□さんの意見を聞いていたら、動物の立場で考えることが大切なのだと思った。動物達がよりよい環境で生活できるようにこれから考えていきたい。 	<p>○前時にまとめたKPTシートを用いることで、プロジェクトの問題点を焦点化する。</p> <p>○お互いの意見に寄り添いながら話し合うために、本時のワークシートは、それぞれの立場のメリット、デメリットをまとめ、その上で自分の立場を明確にできるものを用いる。</p> <p>○根拠をもとにした話し合いをするために、どのような立場の意見であっても、実際のプロジェクトの様子や動物の様子に目を向けて考えることができるよう適宜問い返す。</p> <p>○話し合いを通して、相手の意見に共感した所や自分の考えが変化、強化した所があれば、適宜ワークシートに赤鉛筆や矢印で書き込むことができるように声をかける。</p> <p>○どちらの立場にも共通していることを全体で確認すること、どの立場の児童も動物の幸せについて考えていることを確認する。共通する思いや自分達のクラスの願いに立ち返りながら、もう一度自分の考えを見直すようにする。</p>
<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>仲間との話し合いの中で自分の考えを伝えたり、仲間の考えを踏まえたりしながら、自分達のプロジェクトを見直している。(関係構築力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間との話し合いでの発言の内容やワークシートの記述から見届ける。 	

4年3組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：動物（全105時間）

<p>第4学年の目標</p>	<p>(1) 問題解決力に関わって 動物や人との関わりを通して出会った問いをもちに、自分や仲間、動物達が幸せに生きることができるように考え、やり切ることができるようにする。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって 動物との関わりや動物に携わる人との交流を通して、根拠を基に自分の考えを伝えたり、仲間の考えを肯定的に聞いたりしながら、ジレンマやエラーに対して互いに納得できる考えや最善解を生み出し、活動することができるようにする。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって 自分と他者、自分と動物との関わりから、命の尊さやこれからの自分の生き方を見つめ直し、自分らしく行動しようとする態度を養う。</p>
<p>カテゴリー設定の理由</p>	<p>第3学年では、花の生命の美しさや尊さを実感してきた。そんな児童だからこそ、飼育動物に対する生命の重みと育てることへの責任を強く感じることができると考えられる。第4学年では、飼育活動を通して、「自分の願い」から「自他の願い」というように視野を広げることによって、今まで以上に飼育動物と関わり、動物のために自分は何ができるかを試行錯誤し、対話をする中で、動物の幸せを考え、自分はどうすべきかを探究していく。</p>
<p>学びの基盤となる道徳的諸価値</p>	<p>個性の伸長・希望と勇気、努力と強い意志・親切、思いやり・相互理解、寛容・勤労、公共の精神・よりよい学校生活、集団生活の充実・生命の尊さ・自然愛護</p>
<p>学びを構成する要素</p>	<p>飼育 生命 達成感 幸せ 笑顔 病気 死 誕生 性格 個性 食物 体験 かわいい ペット ふれあい 環境 関わり方 安全 仲間</p>
<p>月</p>	<p>4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月</p>
<p>単元名(時数)</p>	<p>動物の幸せを考えたい飼育を目指して(35時間) ～動物たちに自分ができること～</p>
<p>主な学習活動</p>	<p>○昨年度の4年生から引きつづいた飼育を自分たちだけでできるようにするために、仲間と関わり合いながら活動する。 ○飼育活動を通して、どの動物にも同じように関わることができるようになる。 ○飼育活動を通して感じたことや、気になったことを交流する。 ○書き対話を考える。 ○夏休みの飼育活動に向けて、各学級で大切にしていたことや方法など、学年で共通理解の思いを交流し合い、これから大切にしたいことや方法を話し、学年で共通理解を図る。</p> <p>■飼育活動を時間までに終わらせることができない。 ■調べた方法でやってみるが、うまく飼育できないのか分からない。 ■自分は何をやっているのか、うまく飼育できないことしかやらない。 ■動物によって得意、不得意、好き、嫌いかあるから、後割分担当の方がよいのではないかと。 ●苦手、嫌いはあるけれど、飼育活動をやりきらさないといけない。 ●飼育小屋で生活することが、動物運にとって本当に幸せなの？ ●自分達が動物の様子を見て実践しようとしていたことが、動物にとって本当に幸せなのか。 【生命の尊さ・自然愛護・希望と勇気、努力と強い意志・親切、思いやりなど】</p>
<p>想定されるジレンマ・エラー 【道徳的諸価値】</p>	<p>■いろいろな遊び道具の提案があっても、道具がもたらさない、自分の思いと仲間の思いの差を認めないことに執着する。 ●動物に携わる人達の考え方や関わり方はそれぞれなのに分かたけれど、命を奪うことは本当に命を大切にしていると言えるのか。 【生命の尊さ・自然愛護・希望と勇気、努力と強い意志・思いやりなど】</p>
<p>人材活用施設</p>	<p>・獣医師 ・岐阜農林高等学校 ・保健所の職員 ・自然保護官 ・動物園の飼育員 ・ペットショップの職員</p> <p>・ここまでに会った方々</p>
<p>教科等との関連</p>	<p>・国語：パンフレットを読む(読むこと) わかったことをまとめる(書くこと) ・算数：およその数を調べよう ・理科：生き物と気温(秋)(冬) 動物の体とつくり ・図工：ひまつのすみか(立体)</p>

本単元の目標			
4年3組 単元シート 単元名	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
動物達の幸せを考えたい 飼育を目指して ～動物と自分との関りから、 人と動物の共生を考えよう～ (40)	動物に携わる人達と出会う「命を大切にしよう」という考え方や動物との関わり方はそれぞれに自分のできることは何かを考え、最後までやり切ることができるようにする。 ○自然保護官、岐阜市保健所の職員など、動物に携わる人達と動物との関わりを知り、気付いたことをまとめる。 ○動物に携わる人の話を聞いて、自分と動物の関わりについて考える。 ○飼育活動を行う。	動物に携わる人達の考えや仲間の意見を聞く中で生まれたジレンマに対し、これまでの自分の考えを見つめ直し、仲間の意見を受け止めながら互いに納得のできる解を導き出し、活動に向かうことができるようにする。 ○動物に携わる人達の話を聞いて、飼育動物達の幸せのために自分には何ができるのかを考える。 ○動物に携わる人達の話を聞いて、命に対する考え方や自分の生き方について見つめ直す。 ○飼育活動を行う。	自分のよさを生かしながら、動物達のために、自分ができることは何かを見付けて、行動しようとする態度を養う。 ○動物達のためにできることを考え、実行するためのプロジェクトを立て、計画する。 ○今回の学びを振り返る。 ○飼育活動を行う。
活動の計画	○夏休みの飼育活動について振り返り、動物達の様子や仲間の頑張りを交流する。 ○夏休み前までの活動を想起するためにこれまで歩みを振り返る。 ○獣医師と動物との関わりを知り、気付いたことをまとめる。 ○獣医師の話を聞いて、飼育動物達の幸せのために自分は何ができるのかを考える。 ○飼育活動を行う。	(10)	(10)
加筆修正欄	(5)	(15)	
想定される姿	・夏休みの飼育で○○さんのこういうところがすごいと思います。だから、私にも取り入れてみたいです。 ・獣医師の話から、動物の命を繋いでいくために一生懸命動物と関わっていることがわかりました。	・動物に携わる人達の話を聞いて、何をすることが命を大切にすることに繋がるのかを考え、実行したいと思います。 ・飼育動物達の幸せを考えたいときに、自分達には何ができるかを考え、実行する。	・動物に携わる人達の話を聞く前と今では動物に対する考えが少し変わってきたように思います。 ・動物達の命に支えられている自分の命を大切にするために、これからは～を頑張りたい。
実際の姿			
<ul style="list-style-type: none"> ● シレンマ ■ エラール 	<ul style="list-style-type: none"> ● 動物に携わる人たちの考え方や関わり方は人それぞれなのは分かっていたけれど、命を奪うことは本当に命を大切にしていると言えるのか。 ● 自分の思いと仲間の思いの違いから、自分の思いを優先したいけれど、仲間の思いも受け入れなければならないことに葛藤する。 ■ いろいろな遊び道具の提案があっても、意見がまとまらない。 		

4年3組 本時案

(1) 目標

動物に携わる人達の考え方や関わり方について交流する活動を通して、動物に携わる人達の思いや自分達の探究の歩みを基に、自分達にできることを考え、行動しようとすることができる。(貢献する人間性)

(2) 道徳的価値判断に関わって

動物たちの命に支えられている自分の命の大切さについて考え、これからの自分の行動について議論する。(生命の尊さ)
本時 (28/40)

<p>活動内容 (○教師の発問 ・予想される児童生徒の発言)</p>	<p>○教師の手立てと見届け</p>
<p>1 これまでの歩みを確かめる ○動物と携わる人たちの話を聞いて、あなたは「命の大切さ」についてどう感じましたか。 ・命を大切にするという思いは同じだけれど、自然保護官の人の話を聞いて、命のことを考えているからこそ命を全っていた だくという考え方があって、捉え方はそれぞれであることがわかりました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>動物たちのために、自分ができることは何だろうか。</p> </div> <p>2 命についての捉えを確認する ○動物に関わるたくさんの人達の話を聞きましたが、みなさんが考える命はどんなものですか。 ・命は一つしかないから、大事にしていかなければいけないと思います。 ・保健所や猪鹿庁の人達も言っていたけれど、目の前の動物達と向き合うことが大切だと思えます。</p> <p>3 動物に関わる人達の話を聞いて、自分にできることを考え交流する ○動物に関わる人達の話を聞いて、自分達にはどんなことができますか。 ・猪鹿庁の人の話を聞いて、給食を残さず食べることが命を大事にすることだと思いました。 ・保健所の人から殺処分話を聞いて、目の前の動物達を大切にしようと思えました。また、ポスターを作って、地域の人達に見てもらいたいです。 ・獣医師の人が命の大切さについて私達に話をしてくれたように、私達もかぞくに命の大切さについて話をしていきたいです。</p> <p>4 本時、交流したことを基に、飼育動物達のためにできることを考える ○飼育動物達のために自分達は、何を考え、どんなことができますでしょうか。 ・目の前の動物達のために、決められた当番の時間だけではなく、時間を見つけて動物たちの様子を見に行きたいと思えます。また、今まで以上に動物たちの幸せを考えて世話をしていきたいです。 ・動物達をよく見て、動物達の健康状態を毎日確かめていきたい。 ・命の大切さについて、飼育動物を通してたくさんの人に伝えたい。</p>	<p>○これまでの活動や対話によって生まれたジェレンマを共有し、切実感をもって意見交換を行えるように展開に合わせて問いかける。</p> <p>○児童自身で活動を考えていけるように、それぞれの団体が持っている命を大切にするための活動について提示する。</p> <p>○命について考えたことを実生活と繋げて考えられるようにするために、実生活では動物の命とどんな関わり方があるのかを問う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>目標に迫った姿をどのように見届けるか 動物に携わる人たちの考え方や関わり方を基に、命に対する考えを自分なりに捉え、これからこうしていきたいという思いをもっている。(貢献する人間性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述や発言から見届ける。 </div>

メモ

第5学年 学びのカテゴリー 「暮らし」



5年1組は、自分や身近な人の「暮らし」をみつめていく中で、地域にいる高齢者の方の暮らしに興味・関心を抱いた。そして施設にいる高齢者の方と繰り返し関わることを通して、「〇〇さんの暮らしをよりよくするお手伝いがしたい」という願いが生まれ、プロジェクトが立ち上がった。しかし、そのプロジェクト活動で、思いもよらない事実が見えてきた。児童は、その事実から問題を見だし、解決に向けて、再び立ち上がる。

5年2組は、自分や身近な人の「暮らし」をみつめていく中で、障がい者の方の暮らしに興味・関心を抱いた。そして、実際に障がい者生活支援センターで働く身体障がい者の方と「幸せな暮らし」という視点を基に対話をした。対話を通して、その人にとっての幸せな暮らしがあることに気付いた。さらに、その人だけではなく、他の障がい者の暮らしに目を向け、学校の近くにある聾学校の児童の暮らしはどうか考え始めた。



5
年
生

干場 康平
佐藤 睦
伊藤 暢宏

5年1組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：暮らし (全105時間)

<p>第5学年の目標</p>	<p>(1) 問題解決力に関わって 暮らしを見つめ、よりよい暮らしを創造していく中で、自分で課題を立て、自分で課題を立て、自分にできることを何かを考え判断し、解決に向けて実行することができるようにする。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって 暮らしを見つめ、また、ある人の暮らしをよりよくするためのプロジェクト活動の目的に応じて、他者とつながり、自分の考えを発信したり、他者の考えに共感したりしながら、互いに納得できる考えを生み出し、活動につなげることができるようにする。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって 暮らしにおける問題を「自分ごと」のように思い、少しでもその暮らしをよりよくするお手伝いがしたいという態度を養う。</p>
<p>カテゴリー設定の理由</p>	<p>児童は第4学年の頃、学校にいる身近な飼育動物に関わり続け、生命の尊さを身をもって実感し、動物に心から寄り添う姿があった。そんな児童だからこそ、身近な動物から、身近な人へと対象が変わったとしても、生命の尊さをもつて、相手の生き方に寄り添うことができるであろうと考えた。そこで、第5学年では、学びのカテゴリーを「暮らし」とし、ある人の暮らしを見つめる中で見えてきた問題の解決を通して、幸せな暮らしとは何なのかを考え、自分はどうすべきかを探究していく過程を位置付けることにした。</p>
<p>学びの基盤となる道徳的諸価値</p>	<p>よりよく生きる喜び・集団生活の充実・克己と強い意志・友情、信頼・真理の探究・親切、思いやり・相互理解、寛容・自主、自律・家族愛、家庭生活の充実・郷土愛・社会参画</p>
<p>学びを構成する要素</p>	<p>生活 学校 家族 仲間 幸せ 愛 環境 自然 生き物 安全 健康 生命 歴史 人 ふれあい 喜び 笑顔 感謝 自分らしさ 個性 夢 決意 寄り添う</p>
<p>月</p>	<p>4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月</p>
<p>単元名(時数)</p>	<p>「暮らしを見つめる～ある人の暮らしについて考える～」(52時間)</p> <p>「暮らしをつくる～ある人の幸せな暮らしを創造する～」(53時間)</p>
<p>主な学習活動</p>	<p>・「暮らし」とは何かをイメージし、現設館での自分や家族にとつての幸せな暮らしとは何かを考える。(話し合い、授業参観で調べるために地域に出て、加納公民館「いきいきサロン」にて、高齢者の方と出会う交流する。(フィールドワーク)</p> <p>・「いきいきサロン」に通う元気な高齢者の方とは違う方の方の暮らしについて知るために、高齢者施設(あつとほ一むぎ屋)に繰り返し、高齢者の方と交流する。(フィールドワーク)</p> <p>・宿泊研修で高山に行き、高山市一宮地区の「暮らし」を体験し、そこに暮らし高齢者と語り合ふを通して幸せな暮らしとは何かを考える。(フィールドワーク)</p> <p>・認知症の方と出会う。認知症のことを知りたいたいと思い、入学さんから「認知症を学ぶ会」を開いてほしいと願い、学ぶ。(外部講師)</p> <p>・自分たちの力でロクさんの暮らしをよりよくするプロジェクトの活動を行うか話し合う。</p>
<p>想定されるシレンマ</p>	<p>■私生活の多くの方が認知症であり、反応したくてもできない方もいることか事実 ●認知症のロクさんにしてあげたいことがあるけれど、嬉しいことなのか嫌なことなのか見えてこない。本当にそれならロクさんにとつて嬉しいことなのかどうか悩める。 【よりよく生きる喜び、相互理解、寛容、親切、思いやりなど】</p>
<p>【道徳的諸価値】</p>	<p>■私生活の多くの方が認知症であり、反応したくてもできない方もいることか事実 ●認知症のロクさんにしてあげたいことがあるけれど、嬉しいことなのか嫌なことなのか見えてこない。本当にそれならロクさんにとつて嬉しいことなのかどうか悩める。 【よりよく生きる喜び、相互理解、寛容、親切、思いやりなど】</p>
<p>人材活用施設</p>	<p>・岐阜市社会福祉協議会 地域支援係 地域福祉コーディネーター 児玉 正貴子 杉山 弘 ・岐阜市地域包括ケア推進センター 地域支援係 主任介護支援専門員 入学 佳広 ・加納市地域包括ケア推進センター 地域支援係 主任介護支援専門員 入学 佳広 ・加納市地域包括ケア推進センター 地域支援係 主任介護支援専門員 入学 佳広 ・加納市地域包括ケア推進センター 地域支援係 主任介護支援専門員 入学 佳広 ・加納市地域包括ケア推進センター 地域支援係 主任介護支援専門員 入学 佳広 ・加納市地域包括ケア推進センター 地域支援係 主任介護支援専門員 入学 佳広</p>
<p>教科等との関連</p>	<p>・国語：提案しよう、言葉とわたしたち、事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案しよう - (話す・聞く) 統計資料の読み方 - グラフや表を用いて書こう - (書く)</p> <p>・社会：わたしたちの生活と環境</p> <p>・理科：魚のたんじょう</p> <p>・家庭科：私と家族の仕事</p>

5年1組 単元シート		本単元の目標		
単元名	「暮らしをつくる」	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
～あの人の幸せな暮らしを創造する～ (53)	高齢者の幸せな暮らしを創造しよう、自分で課題を立て、自分にできることは何かを考え判断し、解決に向けて実行することができるようになる。	○□□さんのニーズに合ったプロジェクト活動の準備を行う。 ○□□さんへのプロジェクト活動を実行する。 ○プロジェクト活動を振り返り、成果と課題をまとめ、次に何をすべきか、何をしたいかを考える。(15)	○もつと多くの人に、高齢者施設のおじいちゃんやおばあちゃん暮らしを知ってほしいと願い、「暮らし展」や、高齢者の方と楽しい時間を生み出す「交流会」を企画・準備を行う。 ○「暮らし展」や「交流会」を実行する。(16)	高齢者の暮らしを「自分ごと」のように思い、少しでもその暮らしをよりよくお手伝いしたいという態度を養う。
活動の計画	○□□さんの暮らしを幸せにするプロジェクトが、よりニーズに合うものにするためにと、何度も会って話をする。 ○いつも□□さんと関わっている高齢者施設の職員と協働して、プロジェクト活動を改善する。(8)	○□□さんのところへ行つて、プロジェクトに関わるやり取りをしたら、～のような反応だった。作戦を変更して準備に取り掛かろう。 ・プロジェクト活動を振り返ってみると、成果として、より□□さんのことを知ること、□□さんに合ったプロジェクト活動ができた。 ・課題は特定の人にしか幸せをつくることも何かできることをしたい。	○もつと多くの人に、自分たちと同じように高齢者の暮らしについて身近に感じてほしい。 ・学校で「暮らし展」を開き、今まで自分たちが学んできた高齢者の暮らしについて発信する機会をつくろう。 ・もし学校に来られる高齢者の方が見えたら、感染対策をして、楽しく遊ぶ「交流会」をすれば、きつと身近に感じてくれるはずだと思う。	○高齢者の暮らしをみつめ、行動してきただ中で学んできたことを伝えたいと願い、社会福祉協議会やNPO法人に発表の場を持ち掛ける。 ○高齢者の暮らしを探究してきた成果をまとめ、社会福祉協議会、NPO法人の方に向けて発表する。(14)
加筆修正欄				
想定される姿	・自分はまだまだ□□さんのこと知らないから、もつとたくさん話して知っていききたい。 ・自分たちのプロジェクトは、本当に□□さんに合ったものだろうか心配。 ・今日、□□さんと話してみてもつと…したいと思つた。これはきつと□□さんに合ったよりよいプロジェクトになるはず。	・□□さんのところへ行つて、プロジェクトに関わるやり取りをしたら、～のような反応だった。作戦を変更して準備に取り掛かろう。 ・プロジェクト活動を振り返ってみると、成果として、より□□さんのことを知ること、□□さんに合ったプロジェクト活動ができた。 ・課題は特定の人にしか幸せをつくることも何かできることをしたい。	・もつと多くの人に、自分たちと同じように高齢者の暮らしについて身近に感じてほしい。 ・学校で「暮らし展」を開き、今まで自分たちが学んできた高齢者の暮らしについて発信する機会をつくろう。 ・もし学校に来られる高齢者の方が見えたら、感染対策をして、楽しく遊ぶ「交流会」をすれば、きつと身近に感じてくれるはずだと思う。	・高齢者の暮らしをみつめ、自分たちに何かできないかと考え、実行してきた中で、暮らしに関わる人として大切な生き方をたくさん学ばせていただいた。この生き方を自分たちの言葉で広げていきたい。 ・社会福祉協議会の人や、他にも聞いてくれる人を見つけて発表したい。そうすれば、本当の意味で、広く高齢者の暮らしを幸せにするきっかけをつくることができるとも思えない。
実際の姿				
				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■私のしていることは、特定の高齢者の方にしか貢献できていないのかもしれない。 ●□□さんのことを幸せにしたいと願って考えた活動だと□□さんのニーズに合った幸せな時間をつくれるが、それは特定の相手の相手のみの幸せなため、さみしい気持ちでいる高齢者の方が出てくる。だから、一人もさみしい人を作らないよう高齢者全体を対象にした活動にしたいのだから、一人一人のニーズに合った活動とはいかないため、幸せな時間を生み出すのは難しい。どうしたらよいのだろうか葛藤する。</p> </div>

5年1組 本時案

(1) 目標

自分が関わってきた特定の相手以外の「私にはないの。」や「さみしい。」の言葉から、多くの高齢者の方々の暮らしをよりよくする活動内容について考え・議論することを通して、特定の高齢者への貢献にとどまらず多くの高齢者に向けて貢献するための最適なプロジェクトをつくることができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

プロジェクト活動で関わる特定の高齢者以外の方のさみしい思いに共感して、より多くの高齢者を幸せにするための最適なプロジェクトとは何かを考え・議論する。(社会参画、相互理解、思いやり)

本時 (23/54)

活動内容 (○教師の発問 ・予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け									
<p>1 本時の課題を設定する</p> <p>○「今日は、何をすべきですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、多くの高齢者の方にできることはないか話し合いたい。理由は、プロジェクト活動で□□さんに喜んでもらったことはよかつたけれど、隣の□□さんが「私にはないの。」と言われて申し訳なくなつたから。 ・プロジェクトの相手を多くの方にすればと思うけれど…。これまで、暮らし方が違つくと、幸せに感じるところも異なると学んできた。実際に□□さんに相手を決めて、たくさん関わること、□□さんが必要としていることを知ることができ、プロジェクトは成功した。多くの方に向けたプロジェクトだととても難しいと思う。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高齢者施設にいる多くの方の暮らしをよりよくしていくために、私たちができることは何かを考えよう。</p>	<p>○これまでのプロジェクトについて、道徳的諸価値や自分の経験を基に問題を見いだし、課題を設定することができよう以下のような表を板書に位置付ける。</p>									
<p>2 自分たちに何ができるかについて考えをもつ</p> <p>※課題設定後、児童は自分の机でワークシートに考えをまとめたり、文章にしたりして考えをつくるケースや、自席から離れ仲間とつながら、意見を交わし合うことで自分の考えをつくるケース、自席に人を集めて少数人数で自分たちの考えを議論することで考えをつくるケースなどが考えられる。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="603 674 639 757">活動の効果</th> <th data-bbox="603 450 639 674">特定の方</th> <th data-bbox="603 192 639 450">施設の方みなさん</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="639 674 676 757">○関わられる時間が多く、相手の暮らし方に合った楽しいプロジェクトを実行できる。</td> <td data-bbox="639 450 676 674">○関わられる時間が多く、全員の暮らし方に合ったプロジェクトになるのが難しい。</td> <td data-bbox="639 192 676 450">○特定の相手以外の方にさみしい思いをさせてしまう可能性がある。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="676 674 713 757">高齢者の反応</td> <td data-bbox="676 450 713 674">○特定の相手以外の方にさみしい思いをさせてしまう可能性がある。</td> <td data-bbox="676 192 713 450">○特定の相手以外の方にさみしい思いをさせてしまう可能性がある。</td> </tr> </tbody> </table>	活動の効果	特定の方	施設の方みなさん	○関わられる時間が多く、相手の暮らし方に合った楽しいプロジェクトを実行できる。	○関わられる時間が多く、全員の暮らし方に合ったプロジェクトになるのが難しい。	○特定の相手以外の方にさみしい思いをさせてしまう可能性がある。	高齢者の反応	○特定の相手以外の方にさみしい思いをさせてしまう可能性がある。	○特定の相手以外の方にさみしい思いをさせてしまう可能性がある。
活動の効果	特定の方	施設の方みなさん								
○関わられる時間が多く、相手の暮らし方に合った楽しいプロジェクトを実行できる。	○関わられる時間が多く、全員の暮らし方に合ったプロジェクトになるのが難しい。	○特定の相手以外の方にさみしい思いをさせてしまう可能性がある。								
高齢者の反応	○特定の相手以外の方にさみしい思いをさせてしまう可能性がある。	○特定の相手以外の方にさみしい思いをさせてしまう可能性がある。								
<p>3 今後の活動内容について考え・議論する</p> <p>○「それでは、どのようなプロジェクトが考えられますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私はこれまで、幸せ暮らしプロジェクトの活動で、□□さんが求めていることやすべきことは何かが分からなくつづまうときがあった。でも、施設職員のIさんに「じゃあ、直接聞いてみたらどうかかな。」とアドバイスをもらい、実際に聞いてみたことで、□□さんが求めていることが見えてきて、プロジェクト活動がよいものになった。そのことを生かして、今回はアンケートを取り、高齢者の方の声を集めて、そこで共通のグループをつくり、実行するのはどうだろう。 ・そのプロジェクトでいくなら、アンケートは、書けない方もみえるので、私たちが一人一人の顔を見て、お話をしながらメモを取っていくのがよいと思う。 ・前に職員の方のUさんから、おじいちゃんおばあちゃん「一緒に過ごすのが楽しい。」と言っているおじいちゃんおばあちゃん「一緒に過ごすことが何より楽しいと思う。そして、おじいちゃんおばあちゃん「暮らしを知ってもらえたら、僕たちのようにより身近に感じてもらえらるかも。」 ・私は、「暮らし展」も開催したい。「暮らし展」は、すぐにおじいちゃんおばあちゃんには楽しい時間をつくることのできなないかもしれないけれど、おじいちゃんおばあちゃんのことを地域の方や学校仲間知ってもらえることで、多くの高齢者の暮らしをよくしていくきっかけになるかもしれない。 	<p>○本質に迫つた活動内容を考えることができるように、個や集団に対して、以下の方法をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えた活動内容が実現可能かどうかや、実現するために何が必要なのか問うことで経験や体験を基にして考えるきっかけをつくる。 ・多くの高齢者を対象にしたその活動内容は、本場に一人一人に合ったものなのかを問うことで道徳的諸価値を基に考えるきっかけをつくる。 									
<p>4 本時の学びを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、これまでは□□さんのことだけを考えて活動していたけれど、さみしい思いをしている方がいることを知り、もっと多くのおじいちゃんおばあちゃん暮らしを支えるプロジェクトがよいと考えが変わりました。今日の話し合いで出たたくさんの方のプロジェクトをみんなで力を合わせて実行していきたいと思ひました。 	<p>目標に迫つた姿をどのように見届けられるか</p> <p>多くの高齢者に向けて貢献するためのよりよいプロジェクトを考えている。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議論中は発言内容やワークシートのメモの内容、議論後は振り返りの記述内容で見届ける。 									

5年2組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：暮らし（全105時間）

	暮らしを見つめ、よりよい暮らしを創造していく中で、自分で課題を立て、自分でできることを何かを考へ判断し、解決に向けて実行することができるようにする。
	暮らしを見つめ、よりよい暮らしを創造していく中で、自分で課題を立て、自分でできることを何かを考へ判断し、解決に向けて実行することができるようにする。
第5学年の目標	暮らしを見つめ、よりよい暮らしを創造していく中で、自分で課題を立て、自分でできることを何かを考へ判断し、解決に向けて実行することができるようにする。
カテゴリー設定の理由	暮らしを見つめ、よりよい暮らしを創造していく中で、自分で課題を立て、自分でできることを何かを考へ判断し、解決に向けて実行することができるようにする。
学びの基盤となる道徳的諸価値	よりよく生きる喜び・集団生活の充実・克己と強い意志・友情・信頼・真理の探究・親切・思いやり・相互理解・寛容・自主・自律・家族愛・家庭生活の充実・社会参画
学びを構成する要素	生活 学校 家族 仲間 幸せ 心 環境 自然 生き物 安全 健康 生命 人 ふれあい 喜び 笑顔 感謝 自分らしさ 個性 夢 決意
月	4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
単元名(時数)	「暮らしを見つめる～ある人の暮らしについて考える～」(52時間) 「暮らしをつくる～ある人の幸せな暮らしを創造する～」(53時間)
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> 「暮らし」とは何かをイメージし、現段階での自分や家族にとっての幸せな暮らしとは何かを考える。(話し合い) 「隣がいずれの暮らしは幸せではないか」を考へる。(話し合い) 「隣がいずれの暮らしを見つめるために隣がいずれの者の生活を支援している人と出会う。(フィールドワーク)」 「酒田地区で蔵山に行き、蔵山市一帯地域の「暮らし」を体験し、そこに暮らし方と語り合うことを通して「幸せな暮らし」とは何かを考へる。(フィールドワーク) 自分たちの力で「幸せプロジェクト」の活動計画を立てようとして取り組む。(話し合い)
想定されるシラーム	<ul style="list-style-type: none"> ●シラーム ●エッセイ
【道徳的諸価値】	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちは誰かがいがあることが不幸なことか不幸なことか悩んでいては、幸せかどうかはその人の生き方によることか分かった。 ●「隣がいずれの暮らしは幸せではないか」を考へたことか分かったけれど、中村さんに聞いたら、必要としてなかった。なぜだろうか考へる。 ●「よりよく生きる喜び、相互理解、寛容、親切、思いやりなど」
人材活用施設	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵山市民社会福祉協議会 地域支援係 地域福祉コーディネーター 原玉 正貴子 杉山 弘 ・蔵山市民社会福祉協議会 地域福祉センター 中村 菜穂子 ・蔵山市民社会福祉協議会 地域福祉センター 中村 菜穂子 ・蔵山市民社会福祉協議会 地域福祉センター 中村 菜穂子 ・蔵山市民社会福祉協議会 地域福祉センター 中村 菜穂子
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：書いて、書いて、書いてみてみよう - インタビューをするとき - (話す・聞く) ・社会：わたしたちの生活と食料生産 ・理科：算数と小数 ・算数：算数と小数 ・理科：算数と小数 ・家庭科：魚のたんじょう 花から実へ ・家庭科：私と家族の仕事

本単元の目標			
5年2組 単元シート 単元名 「暮らしをつくる」 ～あの人の暮らしを創造する～ (53)		問題解決力	関係構築力
		貢献する人間性	
活動の計画	<p>障がい者の暮らしを創造しようとして、自分で課題を立て、自分にできるところは何かを考え判断し、解決に向けて実行することができるようになる。</p> <p>○豊学校の児童とどのように関わっていくとよいか考える。</p> <p>○豊学校の児童と何ができるのか関わりの方について考えたプロジェクトを実行する。(8)</p>	<p>障がい者の幸せな暮らしを創造する中で、他者とながら、自分の考えを発信したり、他者の考えに共感したりしながら、次の活動へつなげることができるようにする。</p> <p>○プロジェクト活動を通して、「自分たちができることを豊学校の子たちに何かできるかではなく、もつと多くの人に障がい者の暮らしについて知ってもらいたい」という願いを基に、「暮らし展」を開く企画を考える。(16)</p>	<p>障がい者の暮らしを「自分ごと」のように思い、少しでもその暮らしをよりよくするお手伝いがしたいという態度を養う。</p> <p>○「暮らし展」を開く。 ○これまでの探究を振り返り、整理、まとめる。 ○「幸せな暮らしを共に創る」ことを通して学んだことを学年の仲間や障がい者支援センターの人、社会福祉協議会などに発表したいと願いをもつ。 ○これまでの学習について発表する。(14)</p>
加筆修正欄			
想定される姿	<p>・豊学校の子たちとの関わり方は、耳が聞こえにくいかいからどのような方がいいのかな。</p> <p>・豊学校の子たちに自分たちが考えたプロジェクトを楽しんでもらいたいかな。</p>	<p>・自分たちだけではなく、もつと多くの人に障がい者の暮らしについて知ってもらいたいかな。</p> <p>・「暮らし展」を学校で開いて、自分たちが学んできたことや感じたことを知ってもらえるようにポスターや動画を作ってみてもらおうのはどうかかな。</p>	<p>・ここまでの探究で、障がいがある人の暮らしを見つめる中で、一人一人の価値観は、その人の今の暮らし方やこれまでの暮らししてきた歴史がとも関係していることが分かり、相手の幸せを考えるときは、相手に寄り添うことの大切さを学んだ。</p> <p>・自分が学んできたことをもつとたくさんの人に知ってもらいたいかな。</p>
実際の姿			
●シリンマ ■エラー	<p>■自分のしていることが、相手の暮らしを支えることにどうしてつなげないのだろうか。 ●豊学校の児童を助けて考えたプロジェクトだけで、自分たちは楽しくできているのか分らない。 ■このままプロジェクトを進めていいのかな、辞めた方がいいのかな。 ●豊学校の児童にとつての暮らし方からすると、自分は何か助ける立場なのかと葛藤する。 ■もつと障がい者の方の暮らしを知ってもらいたうためには、何を実行することが必要なかが見えてこない。</p>		

5年2組 本時案

(1) 目標

「豊学校の子とお互いが楽しい活動を行うためにはどうしたらよいか」というテーマについて仲間と対話する活動を通して、初めの自分の思いが自分本位で考えてしまっていたことに気付き、中村さんのアドバイスや豊学校の児童の思いも受け入れたプロジェクトをつくることができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

自分の考えや意見を仲間に伝えるとともに、自分の意見と仲間の意見を比べながら共通点や相違点を考え、豊学校の児童との活動の仕方について考え・議論する。(相互理解)

本時 (22/53)

活動内容 (○教師の発問・予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け
<p>1 今までの活動の振り返りを共有する</p> <p>○今までプロジェクトを立て活動してきたけど、どう感じた？振り返りを教えてほしいな。 ・豊学校の子たちのために手話などを覚えて、それが豊学校の子に伝わって嬉しかった。 ・手話を覚えたけどもつと一緒活動をして仲良くなっていきたいな。 ・中村さんに「自分たち自線で考えるのではなく、豊学校の子の思いも聞くことが大切だよ。」と教えてもらったので、そのことも大切にできるプロジェクトを考えていきたいな。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自分たちと豊学校の子のお互いが楽しめるように活動を進めるためにはどうしたらよいらうか。</p> <p>2 自分の考えをもつ。ワークシートに課題設定後、自分の考えをワークシートにまとめる</p> <p>3 仲間との対話を通して、お互いが楽しいということについて考える</p> <p>○お互いが楽しいと思える活動にすぎないかな？ ・お互いのことをもつと知らないけど楽しいとか分らないと思う。もつとたくさん関わりたいな。 ・豊学校の子も楽しいと感じるためにまず豊学校の子にどんなことが好きなのか、どんな遊びが楽しいかなどインタビュしてみたいな。 ・自分たちがしてあげたいと考えるのではなく、同じ小学生として楽しいことを一緒に考えたいな。 ・手話やボードなどを使って会話しながら楽しんでることとお互いに分かることいいのかな。 ・してあげたいと思っていたけど、中村さんから教えてもらったように同じ小学生として考えたら自分たちが楽しいと思う遊びは同じように楽しいのではないかな。 ・豊学校の子と仲良くなるためにたくさん会話したい。そのためにも豊学校の子に手話を教えてもらいたいながら会話を楽しみたいな。</p> <p>4 本時の学びをワークシートで振り返る</p> <p>・今までは、自分たちが豊学校の子に何かしてあげられることはないかなと考えてきたけど、あげたいじやなく豊学校の子も自分もお互いが楽しめるような活動にするために一緒に遊べるように遊びを工夫していきたいと思った。中村さんからアドバイスをもつたように、助けを求めているわけではなく、自分たちと同じいう立場で考えることが大切だと改めて思った。</p>	<p>○振り返りを共有するために、ワークシートに今までの振り返りについてまとめ、自分の思いを書かせておく。</p> <p>○これまでの活動や対話によって自分が考えたことを再度確認することで、本時で自分たちが話し合うテーマを一人一人が見つけられるようにする。</p> <p>○自分の考えを書く時に、今までの活動はどのような気持ちで行なってきたのかを振り返りながら書くように促すことで、自分がしてあげたいという気持ちが強かったことに気付くことができるようになる。</p> <p>○中村さんのアドバイスや今までの活動の経験に立ち返りながら考えることができるようにポトリオリオや掲示(学びの足跡)の活用を促す。</p> <p>○対話をする際、児童が道徳的価値判断に迫ることができるよう、「自分の意見とどんなところが同じ？違う？で考えてみる」といよいよ」と道徳的価値の視点で問い返す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>テーマについて対話したことをもとに、豊学校の児童との活動の仕方を見直し、お互いが楽しいプロジェクトを考えている。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の様子やワークシートの記述から見届ける。 </div>

メモ

第6学年 学びの 카테고리 「まちづくり」



6年1組は、「魅力的なまちづくり」をテーマに掲げ、実際のまちを調査するために何度も柳ヶ瀬商店街を訪れた。商店街の見学や商店街で出会った人と関わることを通して、一人一人がまちのためにやりたいことを見つけた。さらに、自分たちにできることについて、仲間と対話する中で、プロジェクトを立ち上げることになった。まちの人のことを考えながら、よりよいプロジェクトの実行に向けて何度も話し合いを行ってきた。

6年3組は、「よりよい岐阜のまちづくり」をテーマに掲げ、岐阜駅へ行き、岐阜市に住んでいる人や岐阜市を訪れた人に対して「今の岐阜市に対してどのような魅力を感じているのか」という調査を行った。その結果から、自分たちできることは何かを考えてきた。

岐阜のまちのために働きかけている人に共感し、その人のためにも自分たちでもできる活動のプロジェクトを計画する。



6
年
生

鈴木 香子
牧村 拓
富倉 亮

6年1組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：まちづくり (全105時間)

<p>第6学年の目標</p>	<p>(1) 問題解決力に関わって (2) 関係構築力に関わって (3) 貢献する人間性に関わって</p>	<p>まちやそこに住む人との関わりを通して出会った問いをもとに、自分や仲間、そこで暮らす人が幸せに生きるために自分にできることを考え、やり切ることができるようになる。 自分や仲間、そこに住む人の幸せのために行う様々な活動を通して、自分の考えと仲間やまちの人の考えを受け入れ、様々な考えを踏まえただ上で、よりよい考えを生み出すことができるようにする。 社会の様々な事柄について課題意識をもち、解決しようとする活動を通して、自分が行動したこと相手がよりよい社会につながっていることを実感し、行動しようとする態度を養う。</p>
<p>カテゴリー設定の理由</p>	<p>第5学年では、学校生活の身近な暮らしにある「人・もの・こと」に繰り返し関わりながら、探究的活動に取り組んできた。第6学年ではカテゴリーを「まちづくり」とし、対象の範囲を地域に広げて探究的活動に取り組む。その過程において、子どもは、学校からさらに外にある地域に関わる人・自然・文化へと認識を広げ、地域の人々の幸せを考えたまちづくりに向けて、自分にできることは何かを考え、行動していく。</p>	<p>善悪の判断、自律、自由と責任・希望と勇氣、努力と強い意志・真理の探究・親切、思いやり・友情、信頼・相互理解、寛容・勤労、公共の精神・伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度・自然愛護</p>
<p>学びの基礎となる道徳的諸価値</p>	<p>まち 市民 政治 法 環境 自然 建物 歴史 文化 活気 魅力 生き方 成長 目標</p>	<p>まちは市民 政治 法 環境 自然 建物 歴史 文化 活気 魅力 生き方 成長 目標</p>
<p>学びを構成する要素</p>	<p>月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月</p>	<p>「自分や周りの人の幸せを考える」(25時間)</p>
<p>単元名(時数)</p>	<p>「岐阜のまちのためにできることってどんなこと?」(35時間)</p>	<p>「魅力的なまちづくりに向けたプロジェクトの計画・提案・実行」(45時間)</p>
<p>主な学習活動</p>	<p>○5年生のどう生きるかでのまちなかを振り返る。 ○「どんなまちに住みたいのか」「どんなまちは住みやすいまちなかか」(理想のまち)を考える。 ○「岐阜のまちに自分たちができること」を考える。 ○実際にまちが、自分たちが考えた「住みやすいまち」になっているのかを考える。 ○岐阜の「柳ヶ瀬商店街」の実態をまち探検を通して知る、柳ヶ瀬商店街をまちの人にとって「住みたいまち、訪れたいまち」にしていくために、どう行動すればいいのかを仲間と探検していく。 ○自分たちの住んでいるまち(岐阜)で感じたことを、奈良や京都のまちでも見てくる。 ○自分が知りたかったことを視点にして、もう一度柳ヶ瀬商店街に行き、実態を調査してくる。 ○プロジェクトの実験のための準備をする。</p>	<p>○プロジェクトを再計画し、提案する。 ○プロジェクトを実行する。 ○自分たちが行ったまちづくりの成果を発表する。 ○これまでのプロジェクトを振り返り、自分を見つめる。 ○これからの自分や周りの人の幸せについて考える。 ○今年度の学びを振り返り、キャリアパスポートに記入する。</p>
<p>想定される ●シレンマ ■エラー 【道徳的諸価値】</p>	<p>■自分たちの住みでいるまちを自分が考える「住みやすいまち」にするために、何をしたらいいのかから考えない。 ■自分の思いや願い、まちの人と出会った後の思いや願い、学校の仲間思いや願いの中から、岐阜のまちのために自分がやってみようとしたことが何が決められなかったか。 ●自分が「住みたいまち」と「住みやすいまち」は違う。 ●自分が考えていた思いと実際のまちに住む人の思いにずれがあった。 【善悪の判断、自律、自由と責任・相互理解、寛容など】</p>	<p>■計画したことがうまくいかない、どうすればよいのだろうか。 ●組織のなかまとも程度も協力をし一緒に活動してきただけ、これから自分の生活の中でほんのりなことができてくるのだろうか。 (希望と勇氣、努力と強い意志・親切、思いやり・友情、信頼・勤労、公共の精神など)</p>
<p>人材活用施設</p>	<p>・自分の親 商店街の人 ・柳ヶ瀬商店街の人 ・岐阜に住む人々 ・奈良や京都に住む人</p>	<p>・柳ヶ瀬商店街の人 ・岐阜に住む人々 ・奈良や京都に住む人 ・これまでお世話になった人</p>
<p>教科等との関連</p>	<p>・国語：聞いて、考えを深めよう。話の内容を捉えて、自分の考えをまとめる。 ・社会：日本国憲法、国の政治、願いを実現する政治。 ・算数：線グラフと折れ線グラフ、円グラフと棒グラフ、データの活用 ・理科：物の燃え方と空気の性質、生き物のくらしと環境、地球に生きる</p>	<p>・国語：メディア社会、社会とのつながりについて話し合う ・海の側、登場人物の関係をつらえ、人物の生き方について話し合う 動をスピーチにつなげる</p>

本単元の目標			
6年1組 単元シート 単元名 「魅力的なまちづくりに向けたプロジェクトの計画・提案・実行」 (45)	問題解決力 柳ヶ瀬のまちやそこを訪れる人との関わりを通して生まれた問いをもとに、自分や仲間、それぞれの「魅力的なまち」を考えた。実践を通して、試行錯誤を繰り返しながら、主体的に問題解決をすることができるようになる。	関係構築力 「魅力的なまち」に向けたプロジェクトを計画・提案・実行することを通して、自分の考えと仲間や柳ヶ瀬のまちの人の考えとを比較し、共感的に受け止め、願いの実現に向けて、よりよい考えを生み出すことができるようになる。	貢献する人間性 実社会に生きる人の生き方を自分なりに考えたり、願いの実現に向けて行動したりすることを通して、他者に貢献することのよさを実感したり、願いの実現に向けて行動したりしようとする態度を養う。
活動の計画 ○プロジェクトを計画・提案していく。 ○願いの実現に向けて、プロジェクトを実行する。 ○プロジェクトの振り返りを行う。(10)	○自分の活動が本場にまちの人のためになっているのかを考え、プロジェクトの計画・提案・実行・振り返りを行う。 ○柳ヶ瀬商店街を訪れる人にインタビューに行く。(12)	○「魅力的なまち」に向けたプロジェクトを計画・提案・実行することを通して、自分の考えと仲間や柳ヶ瀬のまちの人の考えとを比較し、共感的に受け止め、願いの実現に向けて、よりよい考えを生み出すことができるようになる。	○これまでの活動を振り返り、クラスとしての成果と課題を見いだすとともに、活動の中で感じた大切な生き方について確かめる。(2)
加筆修正欄		○実行したプロジェクトを振り返り、岐阜のまちをしていくために、自分が岐阜のまちづくりに参画できることを見いだし、仲間とプロジェクトを計画・提案・実行する。(10)	
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・落書き消しをしたい。今の8年生が去年やっていたから、どんなやり方をしたのか聞いてみよう。 ・柳ヶ瀬商店街に行ったとき、私たちの力だけでは消しきれないくらい落書きがあった。まちの人と一緒にできないかな。8年生にも声をかけてみようかな。 ・今の自分たちでできることはやっただけであまり落書きは減っていない気がする。まちの人がどう思っているのかを聞きに行きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでいろいろなプロジェクトをやってきた。小さな子どもや体に障害のある人の目線でまちを見ることも、他にも私たちにできることがあるかもかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなプロジェクトをやってみなければ、自分たちの思いをまとめるだけでも難しいし、まちの人も喜ぶことを実行することは本当に難しいことだと実感した。 ・一人一人感じることは違っていて当たり前だから、思いを伝え合って一緒に考えていくことが大切だと思う。
実際の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ拾いと落書き消しをしてみたいけれど、ごみのポイ捨てと落書きをさせない工夫が必要だと思う。自分たちでポスターを作って、商店街の中に貼ってもらおう。 ・奈良や京都では外国人観光客が多いから、いろいろな言語で書かれていた。柳ヶ瀬のまちに貼るポスターにはどんな工夫が必要かな。 ・まちの中にポスターを一枚貼るだけでも、書く内容や貼る場所など決めることがいろいろあった。 ・自分たちがつくったポスターは、柳ヶ瀬商店街を訪れた人の視界に入っているのかな。 		
●ジレンマ ■エラー	<ul style="list-style-type: none"> ■仲間とうまく活動することができない。 ■人のためになると思っていたことが、まちの人にとってはそうではなかった。 ■自分の考えがうまく伝わらず、たくさん質問を受けてしまった。 ■計画したことがうまくいかない、どうすればよいのだろうか。 ■プロジェクトの成果をどのように確かめればよいのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●プロジェクトは本場に人の幸せにつながっているのだろうか。 ●いろいろな考えが出る中で、少しでもよりよくしていくためにはどうしたらよいか。 	

6年1組 本時案

(1) 目標

「魅力的なまちづくり」に向けたプロジェクトを計画する活動を通して、自分の考えと仲間や柳ヶ瀬のまちな人の考えとを比較し、共感的に受け止め、願いの実現に向けて、よりよい考えを生み出すことができる。(関係構築力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

ポスターを作って呼びかけることについて考え、少しでもよりよくしていくために工夫していこうとする。(真理の探究)

本時 (23/45)

<p>活動内容 (○教師の発問・予想される児童生徒の発言)</p>	<p>○教師の手立てと見届け</p>
<p>1 本時の学習の見通しを確認し、課題を共有する</p> <p>○今日計画するプロジェクトのポスターチームの願いを確認しよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【ポスターチームの願い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ拾いと落書き消しを試してみたいけれど、ごみのポイ捨てと落書きをさせない工夫が必要だと感じました。そこで、自分たちでポスターを作って、商店街の中に貼ってもらいたいと考えました。 </div> <p>・新しいプロジェクト (ポスターチーム) の内容をみんなで作えよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ポスターにはどんな内容を書き、どこに貼ればよいらうか。</p> </div>	<p>○ポスターに書く内容や、ポスターを貼る場所などを整理しながら板書できるように、事前に児童と共に板書計画を立てておく。</p> <p>○これまでのごみ拾いや落書き消しの活動をもとに、切実感をもって意見交換を行うように「これまで自分たちで計画したプロジェクトをやってみて、まちな人たちはどんなことを感じていたのかな？」と展開に合わせて問いかける。</p>
<p>2 仲間との対話を通して考える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【表現方法に関して考えたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良や京都では外国人観光客が多いから、いろいろな言語で書かれていたよ。 ・奈良や京都にごみが少なかったのは、奈良や京都の伝統的な町並みを残したいと思う人が多いからではないかな。柳ヶ瀬商店街に残る、古くから大切にされてきたものを守りたいという思いを伝えるポスターを作ったら良いのでは？ ・短い言葉で伝えたいことが伝わるように工夫しよう。 ・柳ヶ瀬商店街の中の店の位置を知らせる看板に、ごみ箱マークを加えたい。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【柳ヶ瀬商店街の実態を踏まえて考えたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柳ヶ瀬に行ったときに外国人はあまりいなかったから、いろいろな言語で書く必要はなさそうだよ。 ・ごみ箱の場所が分かりづらいためからごみ箱にごみを捨てることができず、ポイ捨てしてしまうのかもしれない。ごみ箱の場所を知らせるポスターも必要かもしれない。 ・たばこのポイ捨てが多かった場所に、ポスターを貼ろう。 </div>	<p>○ポスターチームで司会を行い、対話を進めていく様子を見守りながら、展開に合わせて「どうしてそう思うの？」と問い返し、思いの奥にある願いを聞き出す。</p> <p>○教師は児童が発言しそうなことを事前に考え、聞き手の理解を手助けする反応をする。(例えば「柳ヶ瀬のまちを訪れる人に伝えたいことだね。」)</p> <p>○仲間の発言に質問して、自分の疑問を解決させようとしている姿を価値付けていく。</p> <p>○いろいろな考えが出る中で、願いの実現に向けて少しでもよりよくしていくために工夫しようとしている姿を価値付けていく。</p>
<p>3 本時生み出した考えに対する振り返りを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私はごみをごみ箱に捨ててもらえるように、ごみ箱の場所を分かりやすく伝えることができるといい。そのためにも、今商店街にある、店の場所を知らせる看板にごみ箱マークを加えたい。午前中や夕方に柳ヶ瀬商店街を訪れたときに落書きをしている人に出会ったことがないから、落書きをすることは夜だと分かる。夜でも明るい街灯の近くに落書き禁止を呼びかけるポスターを貼ったら落書きを防げるかもしれない。○○さんが言っていたように、短い言葉で伝えたいことだけを強調したデザインのパスターを作りたい。 	<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>ポスターに書く内容やポスターを貼る場所について他の立場をふまえる様々な工夫を考えて意見を述べたり、自分が考えていなかった意見を取り入れたりして、よりよい考えを生み出している。</p> <p>(関係構築力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の様子やノートの記事から見届ける。

第6学年の目標	<p>(1) 問題解決力に関わって まちやそこに住む人との関わりを通して出会った問いをもとに、自分や仲間、そこで暮らす人が幸せに生きるために自分にできることを考え、やり切ることができるようになる。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって 自分や仲間、そこで暮らす人の幸せのために行う様々な活動を通して、自分の考えと仲間やまちの人の考えを比較し、相違点を受け入れ、様々な考えを踏まえた上で、よりよい考えを生み出すことができるようになる。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって 社会の様々な事柄について課題意識をもち、解決しようとする活動を通して、自分が行動したことが相手の幸せやよりよい社会につながっていることを実感し、行動しようとする態度を養う。</p>											
カテゴリ設定の理由	第5学年では、学校生活の身近な暮らしに「人・もの・こと」に繰り返し関わりながら、探究的活動に取り組んできた。第6学年ではカテゴリを「まちづくり」とし、対象の範囲を地域に広げて探究的活動に取り組む。その過程において、子供は、学校からさらに外にある地域に関わる人・自然・文化へと認識を広げ、地域の人々の幸せを考え、自分にできることは何かを考え、行動していく。											
学びの基盤となる道徳的価値	善悪の判断、自律、自由と責任・希望と勇気、努力と強い意志・真理の探究・親切、思いやり・友情、信頼・相互理解、寛容・勤労、公共の精神・伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度・自然愛護											
学びを構成する要素	まち 市民 政治 法 環境 自然 交通 人口 建物 歴史 文化 活気 魅力 生き方 成長 目標											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元名(時数)	「岐阜のまちってどこなところ？」 「岐阜のまちの印象は？」 (35時間)											
主な学習活動	<p>主体的に情報を収集する。</p> <p>○昨年度の学習を振り返り、その強してきた事実から今年度のテーマは何にしようか考える。 ○「まちづくり」をすすめるにあたって自分の興味があることは何かを考える。 ○自分の対象をこのままに広げようか考える。 ○自分の興味があることを学級で共有し、共通している内容をチームで編成する。 ○チームで調べたことを共有し、他のチームから聞いた内容を聞き、今後の探究の方向を決める。 ○岐阜のまちについてどう思うか、「岐阜のまち」に訪れた人にインタビューをする。 ○奈良や京都で、「奈良のまち」「京都のまち」についてどう思うか、観光客・そこで働く人、そこに住んでいる人にインタビューする。 ○インタビューストリーシートをまとめる。「岐阜のまち」についての良さや課題を明らかにする。 ○夏休み以降の計画を立てる。</p> <p>■岐阜のまちに対する印象が、自分の考える岐阜のまちと違うところがある。 ■インタビューストリーシートを振り返ると、様々な方向からの内容でまとめることができず、自分や仲間に対して「まちづくり」をすすめるために、どんなことで貢献できるかわからない。自分や仲間がやりたいと思っていないか。 ●自分や仲間がやりたいと思っていないか。 ●自分や仲間がやりたいと思っていないか。 【親切、思いやり 善悪の判断、自律、自由と責任など】</p>											
想定されるジレンマ ●ジレンマ ■ジレンマ 【道徳的価値】	<p>■みんなまで考えているのに、全員が賛成が集まらないう。どうして考えを発言してくれないのか。 ■自分が必要だと思ったことについて、意見を聞き入れてもらえない。 ●自分(たち)が思っていることと、他の人との認識にずれがある。 ●プロジェクは本当に人の幸せにつながるのか。 【希望と勇気、努力と強い意志 真理の探究 相互理解、寛容 勤労、公共の精神など】</p>											
人材活用施設	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜駅に訪れる人 ・岐阜に仕事で来た人 ・岐阜に任られている人 ・金華山で働く人 ・宝山客 ・まちのために働く人 											
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：聞いて、考えを深めよう。話の内容を捉えて、自分の考えをまとめよう。 ・社会：日本憲法 国の政治 願いを実現する政治 データの活用 割合 ・算数：棒グラフと折れ線グラフ 円グラフと帯グラフ データの活用 割合 ・理科：物の燃えかたと空気 生き物のくらりと環境 地球に生きる 											
「自分の将来を見つめる」 (25時間)	<p>○冬休みの取組を交流する。 ○岐阜のまちの人や岐阜市の人が自分たちと同じようなプロジェクトをやっている人がいないから、自分もやらないのかを考え、もった、岐阜のまちや岐阜市で暮らしている人と触れ合い、一緒に活動できることを計画していく。 ○地域の方とコラボレーション活動を計画、実行する。 ○これまでのプロジェクトを振り返り、自分の将来を見つめる。 ○これからの自分の歩む道について、学年の仲間、II部の仲間に向けて発信する。 ○今年度の学びを振り返り、○○をキャリアパスポートに記入する。</p> <p>■自分たちと同じようなプロジェクトを考えている人がいないから、自分たちはどんな活動ができるのか、インタビューストリーシートをもう一度考え直さないといけない。 ■計画したことがうまくいかない、どうすればよいのだろうか。【友情、信頼 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 など】</p>											
国語：調べた情報の使い方 社会：わたしたちの生活と政治 算数：データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：調べた情報の使い方 ・社会：わたしたちの生活と政治 ・算数：データの活用 ・国語：メディア・社会 海の命 調べた情報の使い方 ・算数：データの活用 											

本単元の目標			
	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
6年3組 単元シート 単元名 金華山の自然を守る 「計画・実行・振り返り」(45)	金華山の自然を守り、登山客のことを考えた活動をしている人たちと対話することで、この自然が守れるために、訪れる人が幸せになれるために考えることができるようにする。	金華山で働く人や訪れる人の幸せを考え、その人たちの思いや仲間の考えを受け入れることで、よりよい活動計画をつくりだそうとすることができる。	金華山で取り組んだ活動の成果が継続でき、さらに行動しようとする態度、それが日常の自分たちの態度を振り返ろうとする態度を養う。
活動の計画	○自分たちの活動しようとしていることはよりよい岐阜のまちにするための活動なのかを再確認する。 ○調査した結果の悪いところではなくいいところに着眼して考え直してみる。 ○『岐阜の自然』に着目し、学級の探究テーマとの関連を再確認する。(8)	○その人たちのために自分たちもできる活動のプロジェクトを計画する。 ○以下のサイクルを5回程度繰り返す。 ・プロジェクトの「実行」 ・プロジェクトの「振り返り」 ・プロジェクトの「修正」 (20)	○プロジェクトの効果を評価する。 ○これまでの活動を自分たちの生活に置き換えながら振り返る。 ・冬季休業日にできそうなことを交流する。(5)
加筆修正欄			
想定される姿	・パンフレットやチラシの配布やポスター掲示以外の方法はないのかな。 ・岐阜のまちのいい所に着眼して活動すると、活動がボジティブになりそう。 ・岐阜の自然に着目して活動することは、まちづくりにつながるのかな。	・金華山でこの活動をしたら、登山客の迷惑にならないかな。 ・大変だけど、金華山の自然を守るためにがんばろう。	・本当にこれで岐阜のまちづくりに参加できたといっているのかな。 ・自分の日常を振り返ると、改めなければならぬことがあるな。
実際の姿			
<p>■みんなで考えているのに、全員の意見が集まらない。どうして考えを発言してくれないのか。</p> <p>■自分が必要だと思ったことについて、意見を聞き入れてもらえない。</p> <p>●自分(たち)が思っていることと、岐阜のまちに住む人・訪れる人との認識にずれがある。</p> <p>●プロジェクトは本当に人の幸せにつながっているのだろうか。 【希望と勇気、努力と強い意志 真理の探究 相互理解、寛容 勤労、公共の精神など】</p>			

6年3組 本時案
(1) 目標

金華山の自然を守り、登山客のためにできる活動を考えることを通して、自分がやりたいことだけでなく、金華山で働く人や訪れる人の幸せを考えなければならぬことに気付き、自分たちのチームの考えに仲間を考えを受け入れることで、よりよい活動計画をつくりだそうとしている。(関係構築力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

自由に自分たちがやりたいこと、金華山で働く人やそこに訪れている人の状況や気持ちも考慮して判断しなければならぬといった、多面的・多角的な理解をもとに、自律的で責任のある行動をしようとする。(善悪の判断、自律、自由と責任)

本時 (22/45)

活動内容 (○教師の発問 ・予想される児童生徒の発言)														
<p>1 本時の学習の見通しを確認し、課題を共有して設定する</p> <p>○今日、みんなで話し合うことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この前金華山に行ったとき、金華山の森林を守っている人がいたから、私たちも手伝いたい。 ・金華山で働く○○さんが「〜〜」って言っていたから、それを少しでも改善できるようにしたい。 <p style="text-align: center;">金華山の森林を守り、登山客のためにできることは何か。</p>														
<p>2 プロジェクトチームで集まってどんなことができそうなのかを対話して考え、全体で確認する</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">◇安全</td> <td style="width: 20%;">◇ゴミ削減</td> <td style="width: 20%;">◇環境</td> <td style="width: 20%;">◇歴史</td> <td style="width: 20%;">◇観光・魅力</td> </tr> <tr> <td>・足を滑らして転ばないよう階段のゴミを拾おう。</td> <td>・枯れ木や落ち葉以外のゴミがあったら拾おう。</td> <td>・他の山と比べて、金華山にしかないもの、逆に金華山にはないものを調べてみよう。</td> <td>・金華山のことが書かれている看板をきれいにしよう。 ・金華山に関連している歴史的なことって何かあるかな。</td> <td>・観光客の人たちに金華山に来た理由を聞いてみよう。 ・売店の人たちに協力できることはないかな。</td> </tr> </table> <p>・すべての活動は一度にできないから、まずは登山道のゴミ拾いからしたらどうか。</p> <p>・金華山には、10個の登山道があるから、登山道のゴミ拾いを10回やらなくちゃいけないね。</p> <p>・35人が一度に活動すると登山道をふさいじやうことになるかな。</p> <p>・みんなが広がって自分の活動場所を決めてやったらどうだろう。</p> <p>・活動の最中に、金華山に来た人に「なんで来たのか」「登山してどうだったのか」を聞きたいな。</p> <p>・歴史的なことを伝えている工夫やカラスが集まらない工夫とかがあったら、それも調べておきたいな。</p> <p>・山を登って降りてきた人は疲れているからインタビューをするのは迷惑じゃないかな。</p>					◇安全	◇ゴミ削減	◇環境	◇歴史	◇観光・魅力	・足を滑らして転ばないよう階段のゴミを拾おう。	・枯れ木や落ち葉以外のゴミがあったら拾おう。	・他の山と比べて、金華山にしかないもの、逆に金華山にはないものを調べてみよう。	・金華山のことが書かれている看板をきれいにしよう。 ・金華山に関連している歴史的なことって何かあるかな。	・観光客の人たちに金華山に来た理由を聞いてみよう。 ・売店の人たちに協力できることはないかな。
◇安全	◇ゴミ削減	◇環境	◇歴史	◇観光・魅力										
・足を滑らして転ばないよう階段のゴミを拾おう。	・枯れ木や落ち葉以外のゴミがあったら拾おう。	・他の山と比べて、金華山にしかないもの、逆に金華山にはないものを調べてみよう。	・金華山のことが書かれている看板をきれいにしよう。 ・金華山に関連している歴史的なことって何かあるかな。	・観光客の人たちに金華山に来た理由を聞いてみよう。 ・売店の人たちに協力できることはないかな。										
<p>3 本時の学びの振り返りを交流する</p> <p>・私は「安全チーム」です。今日は、岐阜の緑を守るために、まずは金華山の整備になるようなことを考えました。私はただゴミを拾えばいいと思っていただけ、○○さんの「みんなが一度に活動すると、道をふさいじやう。」の発言を聞いて、ハッとしました。これは、私たちが登下校するときも友達と話すことに夢中になって、通行する人の道をふさいでいることと同じだと思っただけです。自分が活動するときは、そこに来ている人のことも考えながらやらないと、逆に迷惑になるから気を付けたいと思います。</p>														
<p>○教師の手立てと見届け</p> <p>■エラー ●ジレンマ</p> <p>○これまでの話し合いを振り返り、今日明らかにならなければならないことを確認し、本時の学習する目的(学習課題)を確認する。</p> <p>■自分が必要だと思ったことについて、意見を聞き入れてもらえない。</p> <p>●金華山を訪れている人の思いやそこで働く人の思いから、自分が良かれと思っただけの活動が逆に迷惑になるかもしれない。</p> <p>○教師はエラーやジレンマを抱える子に寄り添い、どうすればよいか一緒に考えたり、仲間の思いを汲み取った発言を価値付けたりする。</p>														
<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>金華山で働く人や訪れる人の幸せを考えながら、自分たちのチームの考えに仲間の考えを受け入れようとしている。(関係構築力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話の様子や全体における発言の様子、本時を振り返る様子から見届ける。 														

メモ

第7学年 学びの 카테고리 「多様性」



7年生は、「多様性」をテーマに探究するために、これまで探究してきたことをもとに、岐阜市のペットの殺処分の問題やゴミの削減などの身近な問題の解決に向けて取り組んでいる方との対話を重ねてきた。その中で、ある問題一つを取り上げても、それを解決するためのアプローチの仕方や考え方は、人によって様々であることを知り、多様な価値観や考え方を受け入れることの大切さを学習してきた。

7年3組は、人と人との関わりの中でさらに多様性について考えていくために、岐阜県障害者スポーツ協会の方や岐阜市役所市民生活政策課の方から話を聞いた。そういった経験を経て、「誰にとっても住みやすい社会にするために大切なことは何か」という探究テーマを作り出した。これまでに会った講師の方の話や実際に体験した経験をもとに、誰もが快適にすごせる社会をつくるためのアイデアを考えることを通して、「相手の立場に立って行動すること」の大切さに気づき、多種多様な人たちと共にどう生きるかを探究していく。



土開 敏真
磯谷 直毅
岡田 春香
平尾 龍平
水谷 直美

7
年
生

第7学年3組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：多様性（全85時間）

<p>第7学年の目標</p>	<p>(1) 問題解決力に関わって 人々との関わりを通して生み出された問いをもとに、多様な人々と共によりよく生きるために自分にてきることかかてきるようにする。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって 様々な人の意見や仲間の考えを肯定的に聞いたり、自分の考えを筋道立てて伝えたりしながら、対立やシレンマに対して、互いに納得できる考えを創り出したり、双方の考えを取り入れたりしながら活動することができるようにする。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって 自分や身近な社会のよさに気付き、よりよい社会にするために努力する人々に敬意をもちながら、自分にできることを考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。</p>		
<p>学びの基礎となる 道徳的諸価値</p>	<p>第7学年では、これまでの「どう生きるか」の探究を行う中で知った諸問題について、解決方法を考え実践する活動を行う。問題の解決に向けて活動を行っている方々との対話を通して、多様な価値観に触れ、問題を多面的・多角的に考えていくことで、多様な人々と共によりよい社会にするための方法について探究していく。</p>		
<p>学びを構成する 要素</p>	<p>障がい 仲間 世代 福祉 幼児 国際理解 伝統文化 違い 偏見 ユニバーサルデザイン 食品ロス 動物愛護 よりよいまちづくり</p>		
<p>月</p>	<p>4月</p>	<p>5月</p>	<p>6月</p>
<p>単元名 (時数)</p>	<p>身近な問題とどう向き合うか (30時間)</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>
<p>想定される シレンマ</p>	<p>●探究テーマを設定する。 ○様々な方との対話を通して、多様な価値観に触れる。 ○多様な価値観に触れる中で生まれるシレンマについて対話する。 ○問題解決の方法について、多面的・多角的に考える。 ○今後の活動の計画を立てる。 ○夏休みの計画を立てる。</p>	<p>10月</p>	<p>11月</p>
<p>【道徳的諸価値】</p>	<p>●食文化によって、食べ物を残すことが悪いと思っていない人がいる。食べ物を残すことは本当に悪いことなのか。 ●洗濯機とオートの通いはどこにあるのか。自分たちが地下道や橋の下に絵を描くとしたら、どのようなことを考えるべきか。 ●バットの緑色分問題がある一方で、バットを売っている人はどのくらいの配慮をしているのだろうか。 【尊法精神、公德心・公正公平、社会正義、思いやり・勤労・自主、自由と責任など】</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>
<p>人材活用 施設</p>	<p>・岐阜市保健所 ・猫カフェ ・織匠の家 ・岐阜市役所</p>	<p>2月</p>	<p>3月</p>
<p>教科等との関連</p>	<p>言語：情報を的確に聞き取る。情報を整理して書く。聞き上手になる。 社会：世界の諸地域・中世の日本 美術：レタリング。暮らしにエコパップ 保健体育：スポーツの多様性 家庭科：私たちの衣生活 外国語：Friends in New Zealand</p>	<p>3月</p>	<p>4月</p>
<p>主な学習活動</p>	<p>●車椅子を後ろから押してあげること、かえって危険なんだ。 ●障がいのある人が近くにいたら、サポートして欲しい。でもどうサポートすればよいか分からない。 ●設備や設備を整えても、社会に生きる人たちの意識を変えていかないと障壁は無くなるから。 ●人によっては苦しいものがある。でも、苦しいものがあるからこそ、社会的障壁も人によって違う。そういう苦しいものを通して、お互いに支え合えることを目指そう。 【個性の尊重、相互理解、寛容、よりよく生きる喜びなど】</p>	<p>5月</p>	<p>6月</p>
<p>人材活用 施設</p>	<p>・岐阜県障害者スポーツ協会 ・岐阜市役所市民生活政策課 ・岐阜福祉事業団 ・行政書士大橋事務所</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>
<p>教科等との関連</p>	<p>言語：情報を的確に聞き取る。情報を整理して書く。聞き上手になる。 社会：世界の諸地域・中世の日本 美術：写真題材 保健体育：心身の発達と心の健康 家庭科：私たちの住生活 外国語：Foreign Artists in Japan Think Globally, Act Locally</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>
<p>想定される シレンマ</p>	<p>●探究テーマを設定する。 ○様々な方との対話を通して、多様な価値観に触れる。 ○多様な価値観に触れる中で生まれるシレンマについて対話する。 ○問題解決の方法について、多面的・多角的に考える。 ○今後の活動の計画を立てる。 ○夏休みの計画を立てる。</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>
<p>【道徳的諸価値】</p>	<p>●食文化によって、食べ物を残すことが悪いと思っていない人がいる。食べ物を残すことは本当に悪いことなのか。 ●洗濯機とオートの通いはどこにあるのか。自分たちが地下道や橋の下に絵を描くとしたら、どのようなことを考えるべきか。 ●バットの緑色分問題がある一方で、バットを売っている人はどのくらいの配慮をしているのだろうか。 【尊法精神、公德心・公正公平、社会正義、思いやり・勤労・自主、自由と責任など】</p>	<p>9月</p>	<p>10月</p>
<p>人材活用 施設</p>	<p>・岐阜市保健所 ・猫カフェ ・織匠の家 ・岐阜市役所</p>	<p>10月</p>	<p>11月</p>
<p>教科等との関連</p>	<p>言語：情報を的確に聞き取る。情報を整理して書く。聞き上手になる。 社会：世界の諸地域・中世の日本 美術：写真題材 保健体育：心身の発達と心の健康 家庭科：私たちの住生活 外国語：Foreign Artists in Japan Think Globally, Act Locally</p>	<p>11月</p>	<p>12月</p>
<p>想定される シレンマ</p>	<p>●探究テーマを設定する。 ○様々な方との対話を通して、多様な価値観に触れる。 ○多様な価値観に触れる中で生まれるシレンマについて対話する。 ○問題解決の方法について、多面的・多角的に考える。 ○今後の活動の計画を立てる。 ○夏休みの計画を立てる。</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>
<p>【道徳的諸価値】</p>	<p>●車椅子を後ろから押してあげること、かえって危険なんだ。 ●障がいのある人が近くにいたら、サポートして欲しい。でもどうサポートすればよいか分からない。 ●設備や設備を整えても、社会に生きる人たちの意識を変えていかないと障壁は無くなるから。 ●人によっては苦しいものがある。でも、苦しいものがあるからこそ、社会的障壁も人によって違う。そういう苦しいものを通して、お互いに支え合えることを目指そう。 【個性の尊重、相互理解、寛容、よりよく生きる喜びなど】</p>	<p>1月</p>	<p>2月</p>
<p>人材活用 施設</p>	<p>・岐阜県障害者スポーツ協会 ・岐阜市役所市民生活政策課 ・岐阜福祉事業団 ・行政書士大橋事務所</p>	<p>2月</p>	<p>3月</p>
<p>教科等との関連</p>	<p>言語：情報を的確に聞き取る。情報を整理して書く。聞き上手になる。 社会：世界の諸地域・近世の日本 保健体育：心身の発達と心の健康 家庭科：私たちの住生活 外国語：This year's Memories</p>	<p>3月</p>	<p>4月</p>

本単元の目標			
7年3組 単元シート	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
単元名 多種多様な人と共に生きる (40)	身近な問題を解決するために、自分たちになんかことができるか探究し、様々な人と出会い、意見を聞きながら、計画を立てて行動を起こすことができるようにする。	様々な人の意見を聞くなかで生まれたジェンマに対して、互いに納得できる考えを創り出し、双方の立場を考えながら活動することができるようにする。	よりよい社会にするために努力している方への敬意をもち、問題解決に向けて自分ができることを考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。
活動の計画 <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子に乗っている仲間のサポートのしかたについて考える。 ・実際に障がいのある人の話を聞いたり、体験したりすること、障がいのある方の方のことを考えていくこととする。 ・岐阜県障害者スポーツ協会の山内さんの協力をもち、シッティングバレーボールの体験をする。 ・「その人の性質だけでなく、社会と人との関わりから生まれる障がい（偏見・建物・社会制度など）もある」ことを知る。 ・4組のなかまとも合唱やII部祭の練習をし、活動を共に楽しむ。(4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な人とはどのような人がいるのかを考える。「障がいの有無」「外国籍」「LGBTQ」「高齢者」など、色々な人の立場にたって共生について考えるために、講話や体験活動を行う。「高齢者疑似体験」「行政書士大橋事務所の方の講話（LGBTQ）」「岐阜市役所人権啓発センター」 ・何に焦点を当てて誰が快適に過ごせる社会について考えていくかを決める（個人テーマの設定） ・多くの方が利用する岐阜駅や大学の施設などに行き、テーマに関わる問題を発見する。(10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関わる問題を解消するためのアイディアを考える。 ・岐阜市役所人権啓発センターの方にアイディアを聞いてもらい、アドバイスをもらう。 ・アイディアを修正し、プレゼンを作成する。(10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイディアを岐阜市役所に持ち込み、提案をする。 ・活動を通して学んだことを振り返り、社会の中で生きている人が障壁を感じることは多様であり、多種多様な人と共に生きていくためにはその人の個性をよく理解していくことが大切であることに気付く。(16)
加筆修正欄			
想定される姿 <ul style="list-style-type: none"> ・下半身が使えないとバレーボールがより難しく感じた。 ・障がいはその個人の問題ではなく、周りの環境そのものが障害になる場合があることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「障がいのある方」「外国籍の方」など、今まで自分たちが気付かなかった思いをもつて生活をしていることがわかった。 ・多種多様な人たちが共に生きているこの社会を誰もが快適に過ごせるものにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な方の話を聞き、色々な施設を見て自分なりに誰かが快適に過ごせるようにするためにアイディアを形にできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場になって行動することが、社会的障壁をなくしていく上で大切であることがわかった。社会的障壁は、大なり小なり誰もが感じている。だからこそ、同じクラスの仲間や違う学年の仲間との生活において、その考えを大切にしたい。
実際の姿 <ul style="list-style-type: none"> ●車椅子を後ろから押してあげること、障がいのある人が近くにいたら、サポートすればよいか分らない。 ●自分の何気ない行動が障害を作ってしまうかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●設備や制度を整えるだけでなく、社会に生きる人たちにはどうすればよいらう。 ●人によって得意なことや苦手なことが異なるように、社会的障壁も人によって違う。そういうものを無くしていくために大切にすることはなんだろう。 		

7年3組 本時案

(1) 目標

外部講師の方から聞いた話の内容や実際に岐阜駅、メディアアコスモスなどに行って様子を見てきた経験をもとに、誰もが快適に過ごせる社会をつくるためのアイデアを考え、多種多様な人々の立場にたたって計画を立てようとする。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

身近にいる人たちの個性や立場を尊重し、相手の立場に立って活動案を見直していく。(相互理解、寛容)

本時 (15/40)

	教師の手立てと見届け
<p>活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)</p> <p>1 前時の活動を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○誰もが快適に過ごせる社会をつくるために、これまでどのようなことを学んできましたか。 ・シッティングバレーを体験して、障がいの有無にかかわらずお互いの個性を認め合いながら共に何かに打ち込むことの楽しさを学んだ。 ・高齢者疑似体験を通して、高齢者の方の生活が想像以上に大変だということがわかった。 ・行政書士大橋事務所の方のお話を聞いて、LLBQTQの方の権利が徐々に認められていくことを知った。 ・岐阜駅やメディアアコスモスに行き、様々な人が快適に利用できるような工夫がなされていることを知った。 <p>○学んできたことを生かし、今日はどのようなことを考えますか。</p>	<p>○これまでに出会った講師の方との対話の様子をスライドで振り返り、学んできた内容を想起して課題化ができるようにする。</p> <p>○3人1グループで活動し、テーマ別に小集団に分かれてアイデアを考え、より個人の願いや思いが反映されたアイデアをまとめるようにする。</p> <p>○岐阜市役所人権啓発センターの方とつなぎ、生徒が相談したいことがあったときに、質問ができるような環境を設定する。また、アイデアがまとまったグループは、自分たちの考えた事を伝え、誰もが快適に過ごせる社会に近づいていくものになっているかどうか意見をもらい、計画を改善していきけるようにする。</p>
<p>誰もが快適に過ごせる社会をつくるためのアイデアを考えよう。</p> <p>2 テーマ別グループに分かれ、誰もが快適に過ごせる社会にするための方法を考える</p>	<p>○教師が抽出したグループがアイデアを発表する。そのグループが考えた内容の良いところを交流することで、「相手の立場にたたって考えること」の大切さを共有する。</p>
<p><外国籍の方と共に生きる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜市役所の人権啓発センターで見せていただいたアンケート結果から、岐阜市に住んでいる外国籍の方が一番望んでいることは、「日本語や日本の文化、社会について知りたい」ということだった。だから、外国籍の方に日本の文化について知ってもらえるようなワークショップを開きたい。でも、外国籍の方が知りたがっている日本の文化、社会とはどんなことなのかをもう少し詳しく聞いて計画を立てていきたい。 <p><障がいのある方と共に生きる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シッティングバレーボール選手の田中さんの話を聞いて、障がいの有無に関わらず一緒に楽しめるスポーツがたくさんあることを知った。体を動かすことが大変な高齢者の方も障がいのある方も小さな子でも誰もが一緒に楽しくできる会を計画して、年齢関係なくこの街に住む色々な人と楽しい時間を共有できる場を作りたい。 <p><LGBTQの方と共に生きる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政書士大橋事務所の方の話を聞いて、岐阜県でも9月1日から「パートナーシップ制度」が導入されたことを知った。その制度が導入された経緯や、LGBTQの方が望んでいる声を多くの人に知ってもらえれば、LGBTQの方への理解がさらに深まっていくと思う。そのためブレゼンを作って、メディアアコスモスなどの多くの人が集まる場所で調べたり実際に取材したことを伝えたい。 	<p>○教師が抽出したグループがアイデアを発表する。そのグループが考えた内容の良いところを交流することで、「相手の立場にたたって考えること」の大切さを共有する。</p>
<p>3 本時の学びの振り返りをワークシートに書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのグループも「相手の立場にたたって物事を考える」ということを大切にしながら方法を考えていた。このアイデアが採用されたらきっと、多くの人が快適に過ごせる社会になっていくと思う。しかし、このアイデアが実現できるかや本当に多くの人の幸せにつながるアイデアなのかは、実際に市政を行っている方の意見を聞く必要がある。このアイデアを提案して、採用してもらえらるよう自分たちの思いを上手く伝えられるような準備をしていきたい。 	<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>これまでに体験したことや聞いたことなどをもとに、相手の立場にたたって物事を考えながら、誰もが快適に過ごせる社会をつくるためのアイデアを考えている。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでの発言の様子や振り返りのワークシートの記述から見届け。

第8学年 学びのカテゴリー「社会に生きる」



8年3組は、「自分はどんな関わりの中で生きているか」の視点をもって大阪研修へ赴き、様々な体験活動を行う中で社会に生きる人々と出会い、「変化していく社会の中で自分はどう生きるか」という学級の探究テーマを設定した。テーマを設定する過程で「社会とは何か」を仲間と対話し、自分を取り巻く社会にアプローチできる多様な視点に気付くことができた。どのような視点からどんな問いをもち、どんな研修先を選択すれば、自分が生きていく社会を捉えることができるのかを協働的に考え、自分の生きる「社会」と、その社会でどう生きるかを見いだそうとしている。

8年1組は、「大阪には何があるか」という視点をもって、大阪研修に出かけ、町工場で働く人との出会いや様々な施設での体験活動から「誰もが幸せな社会とはどんな社会か」という探究テーマを作り出した。「幸せとは何か」を仲間と対話するなかで、本当の幸せとは何かを深く考えたり、社会にも目を向け、地域の特産品の開発に副業で取り組む人や長良川の自然環境の保護に取り組む人とも「幸せとは何か」を対話したりしてきた。もっと幸せについて様々な視点から考え、自分の生き方を考えることができるように、仲間と問いを創り出し、どう生きるかを探究している。



大塚 光朗
浅井 拓也
高橋 亮
大坪 雅詩

本単元の目標			
	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
8年1組 単元シート 単元名 「社会」を見つめ直す (58)	探究の問いを解決していくためには誰と出会い、何を体験し、何を学ぶべきかを計画し、行動に結び付けることができるようにする。	自分の思いを伝えたり仲間の考えを共感的に受け入れたりしながら、それぞれの願いや思いを踏まえて探究テーマに迫ることができる校外学習先を決定することができるようにする。	自分だけでなく仲間にとっても学びになることを考えて校外学習先を提案、決定しようとする態度や、校外学習先の方々の生き方に触れ、今の自分には何ができるか考えようとする態度を養う。
活動の計画	○「なぜその校外学習先に行きたいのか」を校外学習先の担当者にプレゼンする。 ○校外学習先の担当者の反応からプレゼンを修正する。 ○クラス内で各グループがプレゼン発表し、クラスで1つ(2つ)を決定する。 ○クラスで決めた1つ(2つ)に赴き、問いに対しての知見を深める。 ○体験して得た情報を整理し、それをもとに次の問いを作る。(10)	○探究テーマに迫ることのできる校外学習先と問いを各グループでつくる。 ○問いをクラスで対話し、考えを深める。 ○ここまでの活動を振り返って1組の探究テーマに対しての自分の考えをまとめたり、次の活動の計画を立てたりする。 ○一人一人の興味や関心、問いをもとにグループピニングし、その中で次の校外学習先を考える。(20)	○1回目の校外学習での考えをもとに2回目の校外学習先を決める方法などを決める。 ○1回目とは別のグループを形成し、2回目の体験先を決めプレゼンを作成する。 ○相手先に体験させてもらいたい理由をプレゼンし、その後修正強化する。 ○クラス内で各小グループがプレゼン発表し、クラスで2つ校外学習先を決定する。 ○名大附属中と交流し、自分の考えの変容や成長をまとめる。(18)
加筆修正欄			
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> みんなにとって学びになる企業は何かと考え、提案する。 複数の提案の中で自分の気持ちに折り合いをつけて1社に決定、判断する。 どうすれば自分たちの提案が選ばれるかを考えてプレゼン内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1回目のプレゼンの経験から2回目のプレゼン内容を工夫して作成したり、校外学習先への伝え方を改善したりする。 複数の提案の中で自分の思いや願いに折り合いをつけて選択、判断する。 どうすれば自分たちの提案が選ばれるかを考えてプレゼン内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1回目と2回目の体験での自分の考えがどのように変容したか、どのように強化されたかを振り返る。 一人一人の興味や関心をもとに編成されたグループで集まったときに、それぞれの学級での学びを交流し、良きや課題を踏まえた上で次の校外学習先を考える。
実際の姿			
<ul style="list-style-type: none"> ● ジレンマ ■ エラー 			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 探究テーマに迫るにはどんな校外学習先がよいか分からない。 ■ 私たちのグループが提案した校外学習先は選ばれなかった。 ■ 1回目の校外学習で作った問いはどのような問いに探究テーマとつながるか。 			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 校外学習先に行く目的をうまく伝えることができな ■ 私の幸せかみんなの幸せのどちらを優先すべきだろう。 ● テクノロジーが発展し、私たちは幸せになるが、それは自然環境のためにはならない。どうしたらいいだろう。 			

8年1組 本時案

(1) 目標

各グループの問いと校外学習計画には、どんな価値があるか話し合うことを通して、学級の探究テーマ「私たちは幸せになれるのか」との関連をもとに、どの価値から探究テーマに迫るとよいか考えることが出来る。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

各グループの問いと校外学習計画にある価値についての理解を深めた上で、どの問いと校外学習計画が、学級や自らの探究における新たな見方や考え方の発見、創造につながり、自分の生き方を豊かにするものかについて考え、議論する。(真理の探究、創造)

本時 (27/58)

活動内容 (○教師の発問 ・予想される児童生徒の発言)		○教師の手立てと見届け								
<p>1 前時のプレゼン発表を振り返り、本時の見直しをもつ</p> <p>○プレゼン発表をして各グループの意見を聞いたけど、今日は何をしたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのグループの問いも校外学習先もいいと思うから、どうやって決めればいいのか分からない。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">各グループの問いと校外学習計画には、どんな価値があるか。</p>										
<p>2 全体で各グループへ質問する</p> <p>○各グループの問いと校外学習計画について質問や意見はありませんか。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">グループA 郷土の伝統・文化 「昔ながらとこれからをどう両立するか」</th> <th style="width: 25%;">グループB 節度・節制 「便利であることは本当に幸せなのか」</th> <th style="width: 25%;">グループC 社会参画・公共の精神 「どうしてボランティアをするのか」</th> <th style="width: 25%;">グループD 勤労 「幸せを生み出すのは効率化か手作業か」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>今までの身近な社会への貢献を通して、みんなの幸せを生み出している人に出会った。昔からあるものを大切にしていく人もいれば、新しいものを生み出した人だとも思ったから、考えたい。</td> <td>これからも技術が発達し、私たちの生活は豊かになる一方で、失われていくものもたくさんある。だからテクノロジーとの関わりを考えたいことが幸せを考えることにつながると思う。</td> <td>私たちの手でよりよい社会を作っていくには、人任せにしているといけないけれど、とても難しいことだと思う。だから、私たちがどう社会に関わるかを考えることは、幸せにつながると思う。</td> <td>働くことは大切だと思う。将来の私たちに必要だと思う。効率化と手作業、どちらの良さも分かるけれど、それぞれの立場で働く人と出会い、幸せについて考えていきたい。</td> </tr> </tbody> </table>			グループA 郷土の伝統・文化 「昔ながらとこれからをどう両立するか」	グループB 節度・節制 「便利であることは本当に幸せなのか」	グループC 社会参画・公共の精神 「どうしてボランティアをするのか」	グループD 勤労 「幸せを生み出すのは効率化か手作業か」	今までの身近な社会への貢献を通して、みんなの幸せを生み出している人に出会った。昔からあるものを大切にしていく人もいれば、新しいものを生み出した人だとも思ったから、考えたい。	これからも技術が発達し、私たちの生活は豊かになる一方で、失われていくものもたくさんある。だからテクノロジーとの関わりを考えたいことが幸せを考えることにつながると思う。	私たちの手でよりよい社会を作っていくには、人任せにしているといけないけれど、とても難しいことだと思う。だから、私たちがどう社会に関わるかを考えることは、幸せにつながると思う。	働くことは大切だと思う。将来の私たちに必要だと思う。効率化と手作業、どちらの良さも分かるけれど、それぞれの立場で働く人と出会い、幸せについて考えていきたい。
グループA 郷土の伝統・文化 「昔ながらとこれからをどう両立するか」	グループB 節度・節制 「便利であることは本当に幸せなのか」	グループC 社会参画・公共の精神 「どうしてボランティアをするのか」	グループD 勤労 「幸せを生み出すのは効率化か手作業か」							
今までの身近な社会への貢献を通して、みんなの幸せを生み出している人に出会った。昔からあるものを大切にしていく人もいれば、新しいものを生み出した人だとも思ったから、考えたい。	これからも技術が発達し、私たちの生活は豊かになる一方で、失われていくものもたくさんある。だからテクノロジーとの関わりを考えたいことが幸せを考えることにつながると思う。	私たちの手でよりよい社会を作っていくには、人任せにしているといけないけれど、とても難しいことだと思う。だから、私たちがどう社会に関わるかを考えることは、幸せにつながると思う。	働くことは大切だと思う。将来の私たちに必要だと思う。効率化と手作業、どちらの良さも分かるけれど、それぞれの立場で働く人と出会い、幸せについて考えていきたい。							
<p>3 問いと価値の組み合わせについて話し合う</p> <p>○どんな組み合わせが考えられますか。</p> <p>私たちの幸せについて考えていくなら、日々進化していくテクノロジーについて考えた方がいいと思う。でも、これには問題点もあると思うから、Dの視点も入れていきたい。</p>										
<p>4 振り返りを記入する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの問いはBの校外学習先へ行くことで、さらに考えることができる。だからDの校外学習先にも行って私たちの問いについて聞いてみたいし、話してみたい。 ・私もCとDの問いは似ていると思う。だけどボランティアと働くことは違うと思うから、どちらの人にも話を聞くことで、比較して学級の探究テーマに迫っていききたい。 										
		<p>○各グループのプレゼンと問いを振り返りながら、生徒の思いを聞き、本時の見直しもできるようにする。</p> <p>○それぞれの問いや校外学習計画について整理し、共通理解ができるようにするために、生徒の考えたことや質問が書かれたワークシートをもとに話す準備をする場を位置付ける。</p> <p>○各グループの問いと価値の組み合わせについて対話できるように、子供の発言を丁寧に聞き取り、板書に位置付ける。</p> <p>○次の時間の決定に向けて、対話によって生み出された組み合わせを整理し、次時につなげる。</p>								
		<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>各グループの問いや校外学習計画にある価値と、学級の探究テーマとの関連をもとに、どの価値から学級の探究テーマに迫るとよいか考えている。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話での発言の様子や振り返りシートの記述から見届ける。 								

8年3組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：社会に生きる (全105時間)

第8学年の目標	(1) 問題解決力に関わって 実社会や実生活の中にある問題に対する問いを生み出し、その問いを解決するために何ができ、様々な視点や立場から考え行動することができるようにする。	仲間や実社会に生きる人の考えを共感的に受け入れ、それぞれの願いや考えを踏まえた上で、他者と協働しながら納得解や最適解を導こうとすることができるようにする。	仲間や実社会に生きる人の考えを共感的に受け入れ、それぞれの願いや考えを踏まえた上で、他者と共に行動しようとする態度を養う。	自分や社会に関わって 自分や社会に関わって	7年生まで、様々な問題と出会い、解決していく過程で、自分を取り巻く社会で生きている人々は、いろいろな見方や考え方をもち生きていることを理解しながら学んできた。自分の得意なことや苦手なことが認識できるようになり、自分の将来のことも考えられる時期である。これまで学んできたことを生かし、多様な価値観をもつ人が生きている社会で「自分はこれからどう生きていきたいのか?」を考え、自身の将来を見据える。その将来を考える中で、自分に必要なものや置くべきことを模索し、判断し、それらを確立させるため行動する姿を真似させたい。	向上心、個性の伸長・希望と勇氣、克己と強い意志・真理の探究・創造・思いやり、感謝・礼儀・相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・勤労・勤労・よりよい学校生活、集団生活の充実・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度・国際理解、国際貢献・自然愛護・よりよく生きる喜び		
学びの基盤となる道徳的価値	社会 社会問題 国際問題 日本と諸外国の違い 自然環境 科学技術 SDGs 勤労 多様性 伝統文化 食文化 福祉 人間関係 地域社会 政治 働き方 テクノロジー							
学びを構成する要素								
単元名(時数)	I 「社会」を見つめる (27時間)	8月	II 「社会」を見つめ直す (58時間)	9月	III 「社会」を考える (20時間)	1月	2月	3月
想定される 【道徳的価値】	<ul style="list-style-type: none"> ● 前年度の「多様性」の学びを振り返り、自分の生きている身の回りにもあるものを捉える。 ● 大阪研修で研修したこと、見てみたいものを問きたいことをもとに校外学習先を決める。 ● 身近な地域の問題について考える人や地域の魅力を発信するために活動している人に出会う。 ● 大阪研修で体験活動や調査活動を行う。 ● 大阪研修でつづり研修し、仮設企業研修 ● 大阪研修での学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏休み実施した個人探究をもとに、校外学習の計画を立てる。 ● 小グループごとにアポイントを取り、校外学習の計画案を企業にプレゼンする。 ● 学級の探究テーマをもとに話し合い、校外学習の校外学習先を決定する。 ● 校外学習の準備をし、校外学習を実施する。 ● 校外学習での学びを交流し、まとめる。 ● 新たな視点をもとに、小グループでの校外学習の計画を立てる。 ● 小グループごとにアポイントを取り、校外学習の計画案を企業にプレゼンする。 ● 学級の探究テーマをもとに話し合い、校外学習の校外学習先を決定する。 ● 校外学習の準備をし、校外学習を実施する。 ● 校外学習での学びを交流し、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏休み実施した個人探究をもとに、校外学習の計画を立てる。 ● 小グループごとにアポイントを取り、校外学習の計画案を企業にプレゼンする。 ● 学級の探究テーマをもとに話し合い、校外学習の校外学習先を決定する。 ● 校外学習の準備をし、校外学習を実施する。 ● 校外学習での学びを交流し、まとめる。 ● 新たな視点をもとに、小グループでの校外学習の計画を立てる。 ● 小グループごとにアポイントを取り、校外学習の計画案を企業にプレゼンする。 ● 学級の探究テーマをもとに話し合い、校外学習の校外学習先を決定する。 ● 校外学習の準備をし、校外学習を実施する。 ● 校外学習での学びを交流し、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏休み実施した個人探究をもとに、校外学習の計画を立てる。 ● 小グループごとにアポイントを取り、校外学習の計画案を企業にプレゼンする。 ● 学級の探究テーマをもとに話し合い、校外学習の校外学習先を決定する。 ● 校外学習の準備をし、校外学習を実施する。 ● 校外学習での学びを交流し、まとめる。 ● 新たな視点をもとに、小グループでの校外学習の計画を立てる。 ● 小グループごとにアポイントを取り、校外学習の計画案を企業にプレゼンする。 ● 学級の探究テーマをもとに話し合い、校外学習の校外学習先を決定する。 ● 校外学習の準備をし、校外学習を実施する。 ● 校外学習での学びを交流し、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏休み実施した個人探究をもとに、校外学習の計画を立てる。 ● 小グループごとにアポイントを取り、校外学習の計画案を企業にプレゼンする。 ● 学級の探究テーマをもとに話し合い、校外学習の校外学習先を決定する。 ● 校外学習の準備をし、校外学習を実施する。 ● 校外学習での学びを交流し、まとめる。 ● 新たな視点をもとに、小グループでの校外学習の計画を立てる。 ● 小グループごとにアポイントを取り、校外学習の計画案を企業にプレゼンする。 ● 学級の探究テーマをもとに話し合い、校外学習の校外学習先を決定する。 ● 校外学習の準備をし、校外学習を実施する。 ● 校外学習での学びを交流し、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏休み実施した個人探究をもとに、校外学習の計画を立てる。 ● 小グループごとにアポイントを取り、校外学習の計画案を企業にプレゼンする。 ● 学級の探究テーマをもとに話し合い、校外学習の校外学習先を決定する。 ● 校外学習の準備をし、校外学習を実施する。 ● 校外学習での学びを交流し、まとめる。 ● 新たな視点をもとに、小グループでの校外学習の計画を立てる。 ● 小グループごとにアポイントを取り、校外学習の計画案を企業にプレゼンする。 ● 学級の探究テーマをもとに話し合い、校外学習の校外学習先を決定する。 ● 校外学習の準備をし、校外学習を実施する。 ● 校外学習での学びを交流し、まとめる。 		
人材活用施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪研修でつづり研修し、仮設企業研修 ● 大阪研修での学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪研修でつづり研修し、仮設企業研修 ● 大阪研修での学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪研修でつづり研修し、仮設企業研修 ● 大阪研修での学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪研修でつづり研修し、仮設企業研修 ● 大阪研修での学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪研修でつづり研修し、仮設企業研修 ● 大阪研修での学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪研修でつづり研修し、仮設企業研修 ● 大阪研修での学びを振り返る。 		
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪研修でつづり研修し、仮設企業研修 ● 大阪研修での学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪研修でつづり研修し、仮設企業研修 ● 大阪研修での学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪研修でつづり研修し、仮設企業研修 ● 大阪研修での学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪研修でつづり研修し、仮設企業研修 ● 大阪研修での学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪研修でつづり研修し、仮設企業研修 ● 大阪研修での学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪研修でつづり研修し、仮設企業研修 ● 大阪研修での学びを振り返る。 		

8年3組 単元シート			
本単元の目標			
単元名 「社会」を見つめ直す (58)	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに調べてきたことを交流する。 探究テーマをもとに問いをつくり、その解決に向けて、この校外学習先に行つてこんな体験をしたい」を決め出し、プレゼンを作成する。 	<p>探究テーマをもとに問いをつくり、そのためには誰と出会い、何を体験し、何を学ぶべきかを計画し、行動に結び付けることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「なぜその校外学習先に行きたいのか」を相手にプレゼンする。 相手の反応からプレゼンを修正強化する。 クラス内で各グループがプレゼン発表し、クラスで1つ(2つ)体験先を決定する。 クラスで決めた1つ(2つ)に赴き、問いに対しての知見を深める。 体験して得た情報を整理する。 整理した情報をもとに、次の問いをつくる。 	<p>自分の思いを伝えたり仲間や仲間を共感的に受け入れたりしながら、問いとそれぞれの願いや思いを踏まえて探究テーマに迫ることのできる校外学習先を決定することができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究テーマに迫れるであろう校外学習先と問いを各グループでつくる。 問いについてクラスで対話し、考えを深める。 ここまでの活動を振り返って3組の探究テーマに対しての自分の考えをまとめたり、次の活動の計画を立てたりする。 一人一人の興味や関心、問いをもとにグループピングし、その中で次の体験先を考える。 	<p>自分だけでなく仲間にとっても学びになることを考えて校外学習先を提案、決定しようとする態度や、校外学習先の方々の生き方に触れ、今の自分には何ができているか考えようとする態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回目の体験での考えをもとに、2回目の体験先を決める方法や条件を決める。 1回目とは別のグループを形成し、2回目の体験先を決めプレゼンを作成する。 相手先に体験させてもらいたい理由をプレゼンし、その後修正強化する。 クラス内で各グループがプレゼン発表し、クラスで2つ校外学習先を決定する。
<p>加筆修正欄</p>	(10)	(25)	
<p>想定される姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> クラスに提案しようとする校外学習先の方にプレゼン発表し、そこで何を何のためにどう学びたいかを語る。 プレゼンを見せた相手の反応を受け、プレゼン内容を改善する。 各グループの発表を聞き、その校外学習先に赴くことの良さに気付いたり、自分たちが提案する校外学習先の良さを語ったりする。 自分の提案した校外学習先に行けなかったけれど、実際に体験に行つてみて学びがあったことを認識したり考えが変容したりした自分を振り返る。 体験で得た様々な情報から新たな問いを見いだす。 	<ul style="list-style-type: none"> 1回目のプレゼンの経験から2回目のプレゼン内容を工夫して作成したり、校外学習先の方への伝え方を改善したりする。 複数の提案の中で自分の思いや願いに折り合いをつけて選択・判断する。 どうすれば自分たちの提案が選ばれるかを考えてプレゼン内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1回目と2回目の体験での自分の考えがどのように変容したか、どのように強化されたかを振り返る。 一人一人の興味や関心、問いをもとに編成されたグループで集まったときに、それぞれの学級での学びを交流し、良さや課題を踏まえ上で次の校外学習先を考える。
<p>実際の姿</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ●シレンマ ■エラー1 	<p>■探究テーマに迫れるような校外学習先がどこか分からない。</p> <p>●1回目のテクノロジーの観点を2回目は体験したいけど…みんなと違うな。</p>	<p>●私一人は校外学習先Aを推すが、他のメンバーはみんな校外学習先Bを推している。でも校外学習先Bの良さも確かに分かる。グループとしてどちらを推すべきか。</p> <p>■私たちのグループが提案した校外学習先は選ばれなかった。</p> <p>■1回目の校外学習先は問いにどのようにつながるのであるだろうか？</p> <p>●社会のために何かしたいけど、できることは？</p>	<p>●テクノロジーはこれから当然進歩していくのだから進歩していいのだから、それに伴って自然環境は破壊されるかもしれない。どうしたらいいのだろうか？</p>

8年3組 本時案

(1) 目標

学級の探究テーマ「変化していく社会の中で自分はどう生きるか？」に迫るための校外学習先を2つ選定することを通して、その校外学習先に行くまでの時間や距離など現実的な条件を考慮した上で、最も学級の探究テーマに迫ることのできる問いと活動を見いだし、みんなが納得できる校外学習先を選定することができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

各グループの問いと校外学習計画にある価値を踏まえた上で、どの問いと校外学習計画が、学級や自らの探究における新たな見方や考え方の発見、創造につながり、自分の生き方を豊かにするものか考えて議論し、選択・判断する。(真理の探究、創造)

本時 (27/58)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)		○教師の手立てと見届け							
<p>1 前時の活動を振り返る</p> <p>○ブレゼン発表後の対話を終えて、みんなまで考えたことは何だったかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回は、3組の問いを自然環境から捉えるか、それともテクノロジーから文化が世界かで意見が対立した。 それぞれに良さがあり、どこに行っても問いに迫ることはできるはず。でも現実、行けるのは2つ、時間や移動手段なども考えていく必要があるな。 <p>探究テーマ「変化していく社会の中で自分はどう生きるか？」に迫るには、どの問いをもつて、どこへ校外学習に行き、何を見て考えてくるとよいか？</p>	<p>○提案された各校外学習先と、どのような問いで探究テーマに迫ることができるか再度確認した上で「今回の校外学習先を選ぶ際の条件は何だったか」と問い、複数の提案から校外学習先を絞っていく視点を思い出し、切実感をもって本時に臨めるようにする。</p> <p>○D (どう生きるか) リーダーが会を進行できるように、流れを事前に確認しておく。</p> <p>○学級の中で今どこまで校外学習先を絞れているのか、今どんなことで困ったり悩んだりしているのかを問う。</p> <p>○学級全体の思考の流れが掴めるよう、構造的な板書でそれぞれの考えや意見を位置づける。また、道徳的諸価値を表出した言葉があれば板書に位置付ける。</p>	<p>○提案された各校外学習先と、どのような問いで探究テーマに迫ることができるか再度確認した上で「今回の校外学習先を選ぶ際の条件は何だったか」と問い、複数の提案から校外学習先を絞っていく視点を思い出し、切実感をもって本時に臨めるようにする。</p> <p>○D (どう生きるか) リーダーが会を進行できるように、流れを事前に確認しておく。</p> <p>○学級の中で今どこまで校外学習先を絞れているのか、今どんなことで困ったり悩んだりしているのかを問う。</p> <p>○学級全体の思考の流れが掴めるよう、構造的な板書でそれぞれの考えや意見を位置づける。また、道徳的諸価値を表出した言葉があれば板書に位置付ける。</p>							
<p>2 課題について学級全体で対話する</p> <table border="1"> <tr> <td>校外学習先A 自然環境の視点から社会を捉えることができる。川を守ってきたけれど、これからはどうやって生きていくか。</td> <td>校外学習先B 岐阜の伝統文化である乗草をいこうとすると社会を捉えることができる。</td> <td>校外学習先C 時代の流行を捉えて社会を運営していくことができ、化していく社会の中で生きていく準備を学ぶことができる。</td> <td>校外学習先D 岐阜市民のことや未来を考えた近未来の社会を前に進んでいくことができる。</td> <td>校外学習先E 今の食料自給率を見ると日本にない社会が生まれている。世界との差を学ぶことができる。</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 前回の校外学習ではテクノロジーに関する問いについて考えることができた。その対にある自然環境の観点からじっくり考えたい。 校外学習Dで話を聞くのは身近な社会のことについて考えることが目的だけれど、去年に柳ヶ瀬で探究活動をしてきたから、それよりも校外学習Eで活動してグローバルな視点を取り入れる方が、問いに迫るための視野が広がります。 さくろーラの人への思いも前直接聞かせてもらったので、今回の校外学習では今まではと違う視点が入るといいな。 校外学習Aに行くなら、実際の川も直接見てみたいよね。帰りに川の様子を見に行かないかな？ ○本日にそれは、その校外学習先でないと学べないことなのか。 ○どのような組み合わせが選択肢としてあるか。 <table border="1"> <tr> <td>校外学習先A+α 体験を通して環境保護の視点を得られる。 ●体動に実際に川を見たい。 ●移動に時間がかかりそう。</td> <td>校外学習先C ●実際に「変化していく社会」の中を生き抜いてきた会社だからその考え方が得られる。 ▲前回の校外学習先と内容が少し異なる。</td> <td>校外学習先E ●他の校外学習先には無い、グローバルな視点を得られる。 ●外国の方から見た社会を聞いてみたい。</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 校外学習先Cからはテクノロジーの面で、校外学習先Eからは柳ヶ瀬という面で、それぞれ「変化していく社会」を捉えて生きていく企業だよな。 校外学習先A+αも、この問いがあれば新たな視点を得られる校外学習先Eの方が僕らの視野が広がるよ。 校外学習先A+α身近にあるけれど関心なかった自然環境の視点を得て、前回は学んだテクノロジーの視点と関連付けて考えられるようにしよう。 	校外学習先A 自然環境の視点から社会を捉えることができる。川を守ってきたけれど、これからはどうやって生きていくか。	校外学習先B 岐阜の伝統文化である乗草をいこうとすると社会を捉えることができる。	校外学習先C 時代の流行を捉えて社会を運営していくことができ、化していく社会の中で生きていく準備を学ぶことができる。	校外学習先D 岐阜市民のことや未来を考えた近未来の社会を前に進んでいくことができる。	校外学習先E 今の食料自給率を見ると日本にない社会が生まれている。世界との差を学ぶことができる。	校外学習先A+α 体験を通して環境保護の視点を得られる。 ●体動に実際に川を見たい。 ●移動に時間がかかりそう。	校外学習先C ●実際に「変化していく社会」の中を生き抜いてきた会社だからその考え方が得られる。 ▲前回の校外学習先と内容が少し異なる。	校外学習先E ●他の校外学習先には無い、グローバルな視点を得られる。 ●外国の方から見た社会を聞いてみたい。	<p>○目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>限られた条件の中で、どの問いで探究テーマに迫ることが学級として有益かを考え、みんなが納得するよう校外学習先を選定している。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ内での発言の様子やワークシートの記述から見届ける。
校外学習先A 自然環境の視点から社会を捉えることができる。川を守ってきたけれど、これからはどうやって生きていくか。	校外学習先B 岐阜の伝統文化である乗草をいこうとすると社会を捉えることができる。	校外学習先C 時代の流行を捉えて社会を運営していくことができ、化していく社会の中で生きていく準備を学ぶことができる。	校外学習先D 岐阜市民のことや未来を考えた近未来の社会を前に進んでいくことができる。	校外学習先E 今の食料自給率を見ると日本にない社会が生まれている。世界との差を学ぶことができる。					
校外学習先A+α 体験を通して環境保護の視点を得られる。 ●体動に実際に川を見たい。 ●移動に時間がかかりそう。	校外学習先C ●実際に「変化していく社会」の中を生き抜いてきた会社だからその考え方が得られる。 ▲前回の校外学習先と内容が少し異なる。	校外学習先E ●他の校外学習先には無い、グローバルな視点を得られる。 ●外国の方から見た社会を聞いてみたい。							
<p>3 3組が行く校外学習先を話し合いで決定し、全員で確認する</p> <p>○校外学習先は () と () に行くことに決定よいですか。</p> <p>4 校外学習先の決定までの流れを振り返る</p> <p>○校外学習先を決めるまでを振り返ってみようか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回の校外学習先を決める時と比べて、「2つ選ぼう」というのは幅が広がったように見えたけれど、午後の校外学習先AとEでは「変化していく社会」を問近で見て体感してきている方々も出てきた。 会話をしながら○○について質問してみた。 対話している時には発表できなかつたけれど、校外学習先Aに行くためにやばい結構な時間がかかるし、大分急いで動かないと午後の校外学習先Eには間に合わない。でもやはり、そこまでして行く理由が校外学習先Aにはあると思う。自分の身近にあった自然環境なのに全然気が付かずこれまで生活してきたけれど、実際は色んな人の関わりあっていくかを考えると、だから校外学習先Aはいいなと思った。自分の社会が広がるし、その社会の中でどう自分自身は自然環境と関わっていかないと、すべてがうまくいくわけじゃないこと、自分で道を切り開いていくことの必要を感じたからまたやりた。 前回も今回も自分が提案した校外学習先は選ばれなかつたけれど、自分で道を開いていくことの必要を感じたからまたやりた。 	<p>○目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>限られた条件の中で、どの問いで探究テーマに迫ることが学級として有益かを考え、みんなが納得するよう校外学習先を選定している。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ内での発言の様子やワークシートの記述から見届ける。 	<p>○目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>限られた条件の中で、どの問いで探究テーマに迫ることが学級として有益かを考え、みんなが納得するよう校外学習先を選定している。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ内での発言の様子やワークシートの記述から見届ける。 							

メモ

第9学年 学びの 카테고리 「社会に生きる」



9年生は、「社会に生きる」をテーマに探究するために、8年生の2月から、自分たちがどんな未来にしたいのか、どんな未来を生きていきたいのか、どんな未来なら生きやすいのかを考えてきた。その過程で、自分たちのめざすよりよい未来を実現するためには、今の社会が抱える問題や課題を解決していく必要があると考えた。

東京研修では、自分の学びたいテーマについて話を聞いたり体験したりした後ワークショップを行い仲間と考えを交えて、この社会問題をどうすれば解決することができるのかを考えた。

学校に戻ってからは、自分の理想の未来を実現するために解決したい社会問題について調べ、調べた内容や、自分とその社会問題の関わり、今自分たちにできることを学級の仲間に発表した。

夏休みが明けてからは、同じ社会問題を探求する仲間たちとともに、その解決に向けて探究している。社会問題の解決に向けて活動している人や企業に話を聞いたり、実際に解決に向けた活動を行ったりしていく中で、自分たちの解決策を考えまとめていく。



岩崎 英之
岡本 恭子
丹下 侑輝
渡辺 雅己
今西賀寿真

<p>第9学年の目標</p>	<p>(1) 問題解決力に関わって 自分への考えについて、多面的多角的に吟味していくなかで、自己の生き方を見つめ、よりよい生き方について探求しようとする。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって 仲間や実社会に生きる人の考えを共感的に受け入れ、それぞれの願いや考えを踏まえた上で、相手を協働して納得解や最適解を導こうとすることができるようになる。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって 社会の様々な事柄や他者の生き方について関心をもち、生き方に触れる過程で、よりよい自己の生き方を見つめようとする態度を養う。</p>									
<p>カテゴリー設定の理由</p>	<p>これまでの学びの中で、徐々に考える場を広げてきた。6年「まちづくり」7年「文化」8年「働く」と自己の生き方に向かっている中で、自分はどう「生きる」かということに深く考えられるようになってきた。そこで、未来の自分を考える中で、現在や今後の世界が直面している問題について探究し、自分の生き方を見つめ直していきたいと考え、このカテゴリーを設定した。</p>									
<p>学びの基礎となる道徳的諸価値</p>	<p>社会参画、公共の精神・自主、自立・自由と責任・向上心・個性の伸長・真理の探究・思いやり、感謝・相互理解、寛容・公徳心・社会正義・勤労・国際理解・自然愛護・よりよく生きる喜び</p>									
<p>学びを構成する要素</p>	<p>社会問題 多様性 環境 人権 教育 科学技術 国際 貧困 子ども 女性 家族 勤労</p>									
<p>単元名(時数)</p>	<p>8月 主体的に情報を収集し、実行する</p>	<p>II 「未来をどう生きる」 (50時間)</p> <p>○興味・関心に基づいた個人探究の結果を学域内で交流する。 ○これまで個人探究してきたテーマごとにグループで話し合う。 ○ユニセフやガストティチャーターや子どもの出会いを通して、世界の経済格差による課題について学んだり、支援の在り方について知り、自分自身も、様々な支援活動の中から、自分たちの願いを基盤として、自分たちの考えに基づいて、様々な支援活動を選択し、実施する。<経済格差> ○麻布女子センターの方に出会い、男女の抱える格差について詳しく知り、問題の解決方法について考える。そして、家事分担の格差に着目し、食器洗いや掃除を自分たちで、レシポや時間を短く早くする方法について考察し実行する。男女の格差にある意識の問題を解決するために、男女の格差をなくして、レシポを考へて実践することの自己認識力や意欲を、男女の格差なくして、地球温暖化に対する様々な視点からの取組について学び、地球温暖化に対処するための様々な取組について学び、実行する。環境問題の解決策を考える。<共生> ○青年海外協力隊を活動させている方や麻布市障害者支援センターの方に出会い、20年後の未来に誰かが主役で活躍しているために、今自分たちにできることを考え活動する。<共生></p>	<p>III 「自分の未来をどう生きる」 (28時間)</p> <p>○グループ別で探究してきたことや、自分たちの社会問題に対する解決策を考えまとめる。 ○グループごとにまとめたことを大学の講堂で、外部の人たちにプレゼンテーションする。 ○探究を通して学んだことを振り返り、「自分の生き方」について自分の考えをもつ。 ○「自分の生き方」をまとめ、後輩に決意を語る。</p>	<p>9月 主体的に情報を収集し、実行する</p>	<p>10月 主体的に情報を収集し、実行する</p>	<p>11月 主体的に情報を収集し、実行する</p>	<p>12月 主体的に情報を収集し、実行する</p>	<p>1月 主体的に情報を収集し、実行する</p>	<p>2月 主体的に情報を収集し、実行する</p>	<p>3月 主体的に情報を収集し、実行する</p>
<p>想定されるシレンマ エラー 【道徳的諸価値】</p>	<p>●「相互理解、寛容 公共の精神 自然愛護 よりよく生きるなど」</p>	<p>●「相互理解、寛容 公共の精神 自然愛護 よりよく生きるなど」</p>	<p>●「相互理解、寛容 公共の精神 自然愛護 よりよく生きるなど」</p>	<p>●「相互理解、寛容 公共の精神 自然愛護 よりよく生きるなど」</p>	<p>●「相互理解、寛容 公共の精神 自然愛護 よりよく生きるなど」</p>	<p>●「相互理解、寛容 公共の精神 自然愛護 よりよく生きるなど」</p>	<p>●「相互理解、寛容 公共の精神 自然愛護 よりよく生きるなど」</p>	<p>●「相互理解、寛容 公共の精神 自然愛護 よりよく生きるなど」</p>	<p>●「相互理解、寛容 公共の精神 自然愛護 よりよく生きるなど」</p>	<p>●「相互理解、寛容 公共の精神 自然愛護 よりよく生きるなど」</p>
<p>人材活用施設</p>	<p>(東京研修所) ・Ridi lower (ゴミ問題 フェアトレード 介助犬 異文化交流 育児とキャリア 障害者雇用) ・清水耕三さん ・野田岳二先生 (法政大学教授) ・一般財団法人 メタバース推進協議会</p>	<p>(東京研修所) ・Ridi lower (ゴミ問題 フェアトレード 介助犬 異文化交流 育児とキャリア 障害者雇用) ・清水耕三さん ・野田岳二先生 (法政大学教授) ・一般財団法人 メタバース推進協議会</p>	<p>(東京研修所) ・Ridi lower (ゴミ問題 フェアトレード 介助犬 異文化交流 育児とキャリア 障害者雇用) ・清水耕三さん ・野田岳二先生 (法政大学教授) ・一般財団法人 メタバース推進協議会</p>	<p>(東京研修所) ・Ridi lower (ゴミ問題 フェアトレード 介助犬 異文化交流 育児とキャリア 障害者雇用) ・清水耕三さん ・野田岳二先生 (法政大学教授) ・一般財団法人 メタバース推進協議会</p>	<p>(東京研修所) ・Ridi lower (ゴミ問題 フェアトレード 介助犬 異文化交流 育児とキャリア 障害者雇用) ・清水耕三さん ・野田岳二先生 (法政大学教授) ・一般財団法人 メタバース推進協議会</p>	<p>(東京研修所) ・Ridi lower (ゴミ問題 フェアトレード 介助犬 異文化交流 育児とキャリア 障害者雇用) ・清水耕三さん ・野田岳二先生 (法政大学教授) ・一般財団法人 メタバース推進協議会</p>	<p>(東京研修所) ・Ridi lower (ゴミ問題 フェアトレード 介助犬 異文化交流 育児とキャリア 障害者雇用) ・清水耕三さん ・野田岳二先生 (法政大学教授) ・一般財団法人 メタバース推進協議会</p>	<p>(東京研修所) ・Ridi lower (ゴミ問題 フェアトレード 介助犬 異文化交流 育児とキャリア 障害者雇用) ・清水耕三さん ・野田岳二先生 (法政大学教授) ・一般財団法人 メタバース推進協議会</p>	<p>(東京研修所) ・Ridi lower (ゴミ問題 フェアトレード 介助犬 異文化交流 育児とキャリア 障害者雇用) ・清水耕三さん ・野田岳二先生 (法政大学教授) ・一般財団法人 メタバース推進協議会</p>	<p>(東京研修所) ・Ridi lower (ゴミ問題 フェアトレード 介助犬 異文化交流 育児とキャリア 障害者雇用) ・清水耕三さん ・野田岳二先生 (法政大学教授) ・一般財団法人 メタバース推進協議会</p>
<p>教科等との関連</p>	<p>国語：聞き書きを通して、個人やグループで話し合う。討論で多角的に検討する。 社会：日本の地理的特徴と地域区分(人口、産業、環境) 数学：データの分析 データの比較と積む計画 確率 標本調査</p>	<p>国語：聞き書きを通して、個人やグループで話し合う。討論で多角的に検討する。 社会：日本の地理的特徴と地域区分(人口、産業、環境) 数学：データの分析 データの比較と積む計画 確率 標本調査</p>	<p>国語：聞き書きを通して、個人やグループで話し合う。討論で多角的に検討する。 社会：日本の地理的特徴と地域区分(人口、産業、環境) 数学：データの分析 データの比較と積む計画 確率 標本調査</p>	<p>国語：聞き書きを通して、個人やグループで話し合う。討論で多角的に検討する。 社会：日本の地理的特徴と地域区分(人口、産業、環境) 数学：データの分析 データの比較と積む計画 確率 標本調査</p>	<p>国語：聞き書きを通して、個人やグループで話し合う。討論で多角的に検討する。 社会：日本の地理的特徴と地域区分(人口、産業、環境) 数学：データの分析 データの比較と積む計画 確率 標本調査</p>	<p>国語：聞き書きを通して、個人やグループで話し合う。討論で多角的に検討する。 社会：日本の地理的特徴と地域区分(人口、産業、環境) 数学：データの分析 データの比較と積む計画 確率 標本調査</p>	<p>国語：聞き書きを通して、個人やグループで話し合う。討論で多角的に検討する。 社会：日本の地理的特徴と地域区分(人口、産業、環境) 数学：データの分析 データの比較と積む計画 確率 標本調査</p>	<p>国語：聞き書きを通して、個人やグループで話し合う。討論で多角的に検討する。 社会：日本の地理的特徴と地域区分(人口、産業、環境) 数学：データの分析 データの比較と積む計画 確率 標本調査</p>	<p>国語：聞き書きを通して、個人やグループで話し合う。討論で多角的に検討する。 社会：日本の地理的特徴と地域区分(人口、産業、環境) 数学：データの分析 データの比較と積む計画 確率 標本調査</p>	<p>国語：聞き書きを通して、個人やグループで話し合う。討論で多角的に検討する。 社会：日本の地理的特徴と地域区分(人口、産業、環境) 数学：データの分析 データの比較と積む計画 確率 標本調査</p>

9年生 単元シート (9年1組教室)		本単元の目標		
単元名 未来をどう生きる ～経済格差による苦しみのない未来を願って～ (50)	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性	
<p>問題が多面的多角的な見方で調べたり考えたりしていき中で、問題の本質を理解した上で、新たな課題を設定し追究したり、自分自身にできることを考え行動したりすることができるようになる。</p> <p>○テーマごとに活動を行う。 ○ユニセフの方との出会いから、世界の経済格差による諸問題について学んだり、支援の在り方について知ったりする。 ○様々な支援活動の中から、自分たちの願いを実現できそうな募金活動や物資の支援活動を選択し、実施する。 ○子ども食堂を運営している方との出会いから、日本の現状について学ぶ。 ○子ども食堂の運営ボランティアに参加する。(10)</p>	<p>異なる立場、異なる考え方をもち他者のことを認め理解することができるようになる。</p> <p>○経済格差による諸問題の現状について、多くの人に発信していくことが問題解決に向けて自分たちでできることであるという目的を明確にし、プレゼンテーションを作る。 ○より緊迫感を生み、見ている相手の心に響くプレゼンテーションになるよう、映画「存在のいない子供たち」からセリフを抜粋するなど試行錯誤してプレゼンテーションを作り上げる。 ○実際に経済格差の諸問題解決に向けて学び、行動している先輩方との出会いを通して、問題を自分ごととして捉えられる。(25)</p>	<p>多様な問題も決して対岸の火事ではなく、私たちの国や身近に起こり得る。だからこそ善悪から様々な問題を自分ごととして捉え、自分のできることをしようとして歩み出し行動していくことが、幸せな未来を築いていくことに繋がっていくのではないだろうか。</p>		
<p>○これまでの学びで、自分なりの解決策を考えてきた。さらにテーマを掘り下げて考えていくことができてほしい。</p> <p>・自分なりの学びで、自分なりの解決策を考えてきた。さらにテーマを掘り下げて考えていくことができてほしい。</p>	<p>○日本の経済格差にまで目が向かない。 ○世界の現状に関わる知識を得ることで、この現状をより多くの人に広めていく活動の必要性を感じ、実行していくこととしたい。</p>	<p>・根本的な解決に向けてできることは何か、今はできないかもしれないけれど、将来的にできることを考え、プレゼンテーションを通して訴えかけていってはどうだろうか。 ・私たちが一人一人の力は小さくても無力かもしれない。でも、何もできないより何か自分のできることをしようとして一歩踏み出すことで未来はきっと変わる。だから、行動することが大切なんだ。</p>		
<p>加筆修正欄</p>	<p>○ユニセフの活動について学び、直に活動に参加したい。 ○経済格差による貧困が生じるメカニズムについて学ぶ。 ○経済格差によって生じる不平等や苦しみは多種多様であることを知り、支援の在り方も変わってくることを知る。</p>	<p>・自分たちのテーマにおいてできる活動にどんどん挑戦していきたい。 ・貧困によって様々な問題に苦しみ人々に対して「なんとかしたい」という思いが強くなった。この現状を多くの人に発信していきたい。</p> <p>・今まで自分自身も世界がこんな状況にあることを知らなかった。私たちにできることなどないのではだろうか。 ・かわいそうと思うのは失礼ではないか。</p>		
<p>想定される姿</p>	<p>・自分たちのテーマにおいてできる活動にどんどん挑戦していきたい。 ・貧困によって様々な問題に苦しみ人々に対して「なんとかしたい」という思いが強くなった。この現状を多くの人に発信していきたい。</p>			
<p>実際の姿</p>	<p>・自分たちのテーマにおいてできる活動にどんどん挑戦していきたい。 ・貧困によって様々な問題に苦しみ人々に対して「なんとかしたい」という思いが強くなった。この現状を多くの人に発信していきたい。</p>			
<p>● シレンマ ■ エラー</p> <p>■ ユニセフの活動を詳しく知ることができ、募金活動の意味や意義について知ることができた。実際に協力することは嬉しいけれど、現地に自分が行った訳でもないのに、正直あまり実感がわかない。 ■ 私たちの中に根本的に貧困地域への「かわいそうだから」とか「してあげたい」という自分たちを優位に捉えた考えがあるように感じてもどうかした。私たちがしていることは、支援ではなく援助なのかもしれない。</p>				

9年生 本時案 (9年1組教室)

(1) 目標

経済格差による諸問題について、他者と協力して調べたり考えを発信したりすることを通して、実際に社会の一員として行動を起こした先輩方の話をもとに、自分を客観的に見つめ、社会問題に対する解決策や支援策について主体的に考え、実行しようとする。 (貢献する人間性)

(2) 道徳的価値判断に関わって

社会問題を自分ごととしてとらえ、自分が生きている身の回りを含めた社会に関わることの意義を理解し、主体的に社会に参画していこうとする意識や具体的な目標を考える。(社会参画)

本時 (25/50)

活動内容 (○教師の発問・予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け
<p>1 これまでの活動を通して完成させた経済格差に関するプレゼンテーションを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の貧困の実態について調べ、実際に自分たちが行った募金活動や子ども食堂での経験をもとにまとめたプレゼンテーションを通して、より多くの人に経済格差の諸問題について知ってもらい、考えてもらおう機会にしたい。 自分たちのプレゼンテーションを、経済格差の諸問題解決に向けて学び、行動している人たちに見ていただき、アドバイスをいただきたい。 	<p>○経済格差による諸問題の現状について、多くの人に発信していくことが問題解決に向けて自分たちにはできていることであるという目的からプレゼンテーションを作成する。より緊迫感を生み、見ている相手の心に響くプレゼンテーションになるよう、映画「存在のない子供たち」から抜粋したセリフを扱うなど、内容や伝え方を試行錯誤して作り上げる。プレゼンテーションは、街頭募金の活動時に岐阜駅前公开发表している。</p>
<p>2 社会の一員として経済格差の諸問題解決に向けて取り組んでいる人々との対話を通して考える</p> <p>○経済格差のない誰も平等に幸せに生きられる未来を築いていきたいというみんなの強い思いから始まった活動だったけれど、これまでの活動を通してその思いに変化はありませんか。</p> <p>○ユニセフの活動を詳しく知ること、募金活動の意味や意義について知ることができたし、実際に協力することもできたことは嬉しいけれど、現地に自分が行った訳でもないで、正直あまり実感がわかない。</p> <p>○私たちの中に根本的に貧困地域への「かわいそうだから」とか「してあげたい」という自分たちを優位に据えた考えがあるように感じてもどかしかった。私たちがしていることに意味はあるのだろうか。</p>	<p>○「経済格差による苦しみのない未来を築くために、自分ができることは何か考え行動しよう。」を単元を通じた課題として設定し、毎時活動終了時に、その課題に立ち返って自分たちの活動を振り返りワークシートに記入できるようにする。その内容から生徒の心境的細かい変化を捉え、客観的に自分を見つめたことで生まれたエラーを素出させるようにする。</p> <p>○世界の経済格差による不平等解決に向けて行動する人々との出合いの場を設け、生徒たちの中に生まれたエラーに寄り添った内容を対話していくことで、社会問題を自分ごととして捉え、新たな視点や気づきを引き出すことができるとする。また、社会問題を自分ごととしてとらえ、行動することの価値に気づくことで、今後の自分自身の生き方について見つめられるようにする。</p>
<p>3 今後の自分たちに必要な考え方やプレゼンテーションに追加したい視点について議論する</p> <p>・私たち一人一人の力は小さくても無力かもしれない。でも、何もしないよりも何か自分ができることをしようとして一歩踏み出すことで未来はきつと変わる。だから、行動することが大切なんだ。</p> <p>・自分ができることは何か、今はできないかもしれないけれど、将来的にできることを考え、プレゼンテーションを通して訴えかけていくだろうか。</p> <p>4 本時の学びの振り返りをワークシートに書く</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済格差による諸問題は決して対岸の火事ではなく、私たちの国においても起こりかねない。また、貧困ではなく災害など多くの問題に直面することももあるだろう。そんな情事の時こそ、国と国、人と人とお互いに支えあっていくことが重要になってくる。だからこそ普段から様々な問題を自分ごととして捉え、自分のできることをしようと思える人になっていくことが、私たちの願う未来を築いていくことに繋がっていくのではないだろうか。 	<p>○「経済格差による苦しみのない未来を築くために、自分ができることは何か考え行動しよう。」を単元を通じた課題として設定し、毎時活動終了時に、その課題に立ち返って自分たちの活動を振り返りワークシートに記入できるようにする。その内容から生徒の心境的細かい変化を捉え、客観的に自分を見つめたことで生まれたエラーを素出させるようにする。</p> <p>○世界の経済格差による不平等解決に向けて行動する人々との出合いの場を設け、生徒たちの中に生まれたエラーに寄り添った内容を対話していくことで、社会問題を自分ごととして捉え、新たな視点や気づきを引き出すことができるとする。また、社会問題を自分ごととしてとらえ、行動することの価値に気づくことで、今後の自分自身の生き方について見つめられるようにする。</p>
<p>【京都大学生 Tさん】世界の食糧問題と環境問題について学習中 先進国の大量消費社会を誇うために、輸出用の作物を生産し自身が食糧難に陥っている農民の実態について研究中 【東京大学出身 Aさん】日本国内の経済格差による教育格差について研究し、サポーター組織の立ち上げを目指す社会人 【東京大学院生 Rさん】日本で生まれ育ったがスリランカの国籍をもち、実際に現地に足を運びながら経済格差の問題を研究中</p>	<p>目標に迫った姿をどのように見届けられるか 先輩方と対話したことをもとに、自分を客観的に見つめ、社会問題に対する解決策や支援策について主体的に考え、自分の意見を主張したり、新たな視点で発信することができるようプレゼンテーションを考えたりしている。(貢献する人間性) ・先輩方との対話や仲間との議論における発言の様子やワークシートの記述から見届けられる。</p>

本単元の目標			
9年生 単元シート (9年3組教室)	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
<p>単元名 未来をどう生きる (50)</p>	<p>問題を多面的多角的な見方で調べたり考えたりしていく中で、問題の本質を理解した上で、新たな課題を設定し追究したり、自分自身にできることを考え行動したりすることができるようになる。</p>	<p>異なる立場、異なる考え方をもち他者のことを認め理解することができるようになる。</p>	<p>社会問題の解決に向けて、他者と協力し調べたり考えたりしていく中で、自分が周りの人の努力や工夫を支えられていることに気付くことができる。その上で、社会の一員として社会問題に対する解決策について考え実行しようとする態度を養う。</p>
<p>活動の計画 (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テーマ別に分かれ、今後の活動の見直しをもつ。 ・男女(雇用と家庭生活)のチームでは、どのような問題に向き合っていくか考える。 ・男女の間にある差別、格差 → 男女の間にある不当な格差をどうするべきか考えていく。 	<p>○テーマごとに活動を行う。(10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女の間にある不当な格差として、家事分担の差をうめる方法を実行する。家事において負担が大きいのは、食事関係であることに気づき、どのようにすれば負担が軽減し、両性共に平等に分担することができるか考え、各家庭で考えたいことを実行する。 	<p>○テーマを題材としたシナリオを作り、社会問題について考える。(25)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シナリオは1シーンを描く。 ・ストーリーを生徒と共に作り上げる。 ・考えの中で、どのような問題があるのか深く実感していく。 ・表現する中で、セリフや立ち回りを考え、さらに実感を伴うようになる。 ・シナリオを発表することを通して、別のチームと共に社会問題を考える。 	<p>○考えたことをまとめ、発表会を行う。(10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜大学の講堂で行う。 ・岐阜大学の教授や学生を招待し、自分たちの感じた社会問題の構造や問題点、考えを発表する。 ・意見や感想をいただき、自分たちの発表を振り返る。
<p>加筆修正欄</p>			
<p>想定される姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を深く理解するために自分たちのでできる解決策を考え実行した。まだまだ考えたいかかないといけないことが増えた。どうすればいいか考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シナリオを書くには、実際の問題を深く理解していないと、表現することができない。直接問題に関わっている人に話を聞いてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えてきたことを発表することで、自分の考えをまとめることができた。感想や意見をもらったことによって、新しい視点が増えた。これからの生き方を考えていきたい。
<p>実際の姿</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ● シンマ ■ エラ 	<ul style="list-style-type: none"> ● フルタイムで全員が働こうとすると、家庭生活の維持が困難になる。しかし、フルタイムで働かなければ、生活の維持が難しい。 ● 生活の維持が難しいと、一方が家事負担の割合が増える。その増えた負担を担う役割を女性が負担する現状がある。 ■ 問題を考える中で、実感することが難しい。どのように実感していくのか分からない。 		

9年生 本時案 (9年3組教室)
(1) 目標

- 発言の根底にある考え方を理解する活動を通して、これまでの活動や経験で得た考えを基に、多面的多角的に考えることができる。(問題解決力)
- (2) 道徳的価値判断に関わって
男女それぞれの価値観の根底にある考え方について理解し、異性へのお互いの見方考え方を議論する。(友情、信頼)

本時 (25/50)

<p>活動内容 (○教師の発問 ・予想される児童生徒の発言)</p>	<p>○教師の手立てと見届け</p>
<p>1 これまでの活動を振り返り、本時の授業の目標を共有する ○「私は私の生きたいように生きる」という花子さんのセリフの背景にある考え方と、それを言われた太郎くんの戸惑いの背景にある考え方を理解し、シナリオを真に迫ったものにしてよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>セリフの背景にある登場人物の考えを理解しよう。</p> </div> <p>2 地の文を考える ・「私の生きたいように生きる」ことが難しいと考える世の中にある考え方や慣習などを踏まえる。 ・当たり前ではあるけれど、それができないのはなぜか考える。 ・言われた側の太郎くんの戸惑いにある考えについて自分の考えをもつ。 ・この後、どのような困難が花子さんに起こりえるか考える。</p> <p>3 発言を捉え、その背景にある差別意識の根源を考える ・男の立場から考えようと、生きたいように生きることができるとは当たり前だと考えていたけれど、現状難しさがあると考えた。 ・女の立場から考えようと、生きたいように生きることが当たり前だけれど、慣習や慣例によって、ゆるやかな強制を求められることがある。そうしたことから生き方が縛られ、生きたいように生きることが難しい現実がある。そうした考え方が自由になるにはどうすればいいか、</p> <p>4 ゲストテイチャーの意見を聞く ・強い意志で、自分の考えを貫き通すことには難しさがある。現実との折り合いをどのようにつけていくかが重要である。周りの理解を得るためにはどうすればいいか考えてほしい。</p> <p>5 仲間と交流し、自分の考えを深める ・起こりうることとして、どのようなことがあるか考えよう。自分以外の考え方を知ることができた。周りの意見で自分も考えを変えることがある。自分の生き方を強くもち、それを周りの人と理解調整しながら進んでいくことが重要だと考えた。</p> <p>6 本時の学びの振り返りをワークシートに書く ・シナリオの地の文を考える中で、発言の裏にある考え方の根底を理解することができた。自分たちにも通じる考え方があり、それが他者にどういった影響を与えるのかを考えることができた。自分の生き方を貫いていくうえで、周りからの理解を得ることが大切なので、自分の生きたい生き方をしっかりと考えることが必要だと。</p>	<p>○これまでの学びを蓄積できるシートを用意する。</p> <p>○今日考えたいセリフについて話し合っておき、意識しながら読むことを指示する。</p> <p>○シナリオの進行上、基本的にはセリフのやり取りになるようにする。</p> <p>○自分たちの学びの中で感じたことや、経験談、自分の中にある考え方と比較するよう声をかける。</p> <p>○実際に起こりうる問題について気付くような声をかけよう。</p> <p>○仲間の考え方を聞き、自分の考え方と共通する部分と相違する部分を整理しながら話し合うよう指示する。特に、相違する部分から、新しい考え方が生まれるよう声を掛ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>目標に迫った姿をどのように見届けるか 男女それぞれの考え方からものの見方を考えようとしていたり、自分の経験やこれまでの活動の中からものの見方を考えようとしていたりしている。 (問題解決力) ・仲間との交流での発言の様子やワークシートの記事から見届ける。</p> </div>

特別支援学級（I部）

学びの 카테고리 「遊び・生活づくり」



1・2年4組は、身近な新聞紙、紙コップ、洗濯ばさみなどを使って遊ぶことを通して、身近な仲間や教師と遊ぶことの楽しさを気付くようになった。遊ぶ中で、仲間と一緒に遊びたいときに、どのような声をかけるとよいのかが分かり、少しずつ仲間と関わりながら遊ぶことができるようになってきた。また、「服に付けてみたら楽しそう。」と遊び方を考える姿も見られ、遊びの楽しさに浸ることができるようになってきた。

3・4年4組は、野菜の世話に関することを先生や先輩に聞いたり、一緒に活動したりすることを通して、協力することの大切さに気付くようになった。クラスで考えても、分からないことを野菜作りの得意な先生や8・9年4組に話を聞きに行った。また、8・9年4組と一緒に畑の雑草を取る活動を行った。この活動から、自分で分からない・できないときには、周りにいる人と協力することがよいのだと気づき、「一緒にやろう」や「こうするといいよ」などの声かけが増えてきている。



豊吉 章孝
土生 雄一

1・2年4組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：遊び・生活づくり（全140時間）

<p>特別支援学級 第1・2学年の目標</p>	<p>(1) 問題解決力に関わって 自分の願いをもって、遊び方や遊ぶものを考え、思う存分遊びに取り組み、楽しむことができるようにする。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって 仲間や教師と一緒に遊び、仲間と関わることのよさを感じたり、仲間や教師と親しみ、関わりを深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって 交流学級や特別支援学級の仲間を遊びに招待し、遊びを進めながら一緒に楽しもうとする態度を養う。</p>											
<p>カテゴリー設定の理由</p>	<p>自分一人で願いをもって遊ぶところから、学級、学年へと、遊ぶ仲間が広がることで、一緒に取り組むよさを感じる。遊ぶ過程において、仲間と仲良く遊ぶためにどうするとよいか、よい姿をまねして、願いを実現していく。</p>											
<p>学びの基礎となる道徳的諸価値</p>	<p>善悪の判断、自律、自由と責任・節度、節制・親切、思いやり・感謝・友情、信頼・規則の尊重・勤労、公共の精神・よりよい学校生活、集団生活の充実</p>											
<p>学びを構成する要素</p>	<p>人（自分、仲間、先生）もの きまり 楽しさ できた喜び 達成感 心地よさ 仲間の広がり 仲間にも喜んでもらえた喜び 自分の成長</p>											
<p>月</p>	<p>4月</p>	<p>5月</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>	<p>10月</p>	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>	<p>2月</p>	<p>3月</p>
<p>単元名 (時数)</p>	<p>「身近な仲間や先生と遊ぶ」(48時間)</p>	<p>「仲間と一緒に遊ぶ」(60時間)</p>										
<p>主な学習活動</p>	<p>「新聞紙で遊ぶ」 「紙コップで遊ぶ」 「洗濯ばさみで遊ぶ」 「遊戯室で遊ぶ①」 「遊戯室で遊ぶ②」 「誘って遊ぶ」 ○遊ぶことに没頭し、精一杯遊ぶ。 ○身近な仲間や先生と遊ぶことの楽しさに気付く。</p>	<p>「シャボン玉で遊ぶ」 「ブロックで遊ぶ」 「当てる遊ぶ」 「遊戯室で遊ぶ②」 「誘って遊ぶ」 ○どんな遊びをしたいか願いをもち、 ○遊びに必要なものを自分たちで作る。 ○願いに沿って、思う存分遊びに取り組み、 ○仲間を誘って一緒に遊ぶ。 ■手くできない。 ●～したいけど、どうしたらよいか分からない。 ●仲間と一緒に遊びたいけど、どうやって誘えばよいか分からない。 ●遊びを作ったけど楽しくなかった、もっと楽しい遊び場を作りたい。 【善悪の判断、自律、自由と責任・節度、節制・友情、信頼・規則の尊重・勤労、公共の精神・よりよい学校生活、集団生活の充実】</p>										
<p>相定される ●ジレンマ ■エラー 【道徳的諸価値】</p>	<p>■手くできない ●もっと遊びたいけれど、終わりの時間だけと止めたくない。 ●仲間と一緒に遊びたいけど、どうやって声をかけたらよいか分からない。 ●仲間と使いたい道具が重なってしまう。こういうときは、どうしたらよいか悩む。 【善悪の判断、自律、自由と責任・節度、節制・規則の尊重・よりよい学校生活、集団生活の充実】</p>	<p>●みんなが決められた遊ぶ計画と自分のやりたい遊びと違う。 ●楽しく遊びたいけれど、自分のしたいことと仲間のしたいことが違う。 ■招待した仲間と遊びたいけれど、どうやって聞かれればよいか分からない。 【節度、節制、親切、思いやり・感謝・友情、信頼・よりよい学校生活、集団生活の充実】</p>										
<p>人材活用 施設</p>	<p>・先生 ・学級の仲間 ・上級生の仲間 ・身近な場所（教室、遊戯室、畑など）</p>	<p>・先生 ・学級の仲間 ・4組の仲間 ・同学年の仲間 ・家族 ・身近な場所（教室、遊戯室、運動場、畑など）</p>										
<p>教科等との関連</p>	<p>・図画工作：紙コップとなかよし クレヨンとなかよし</p>	<p>・算数：教えるよ、いろいろな形 ・図画工作：しんぶんしとなかよし ダンボールで作ろう・遊ぶ ・国語：てがみでしらせよう ともたちのことをしらせよう</p>										

1・2年4組 単元シート		本単元の目標				
単元名	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性			
仲間と一緒に遊ぶ (60)	自分の願いをもって思う存分遊びに取り組み中で、遊び方を工夫して楽しむことができるようにする。	遊ぶ中で、仲間を誘ったり仲間の誘いに応じたりしながら、一緒に活動ができるようにする。	自分たちの遊びに、4組の仲間や学年の仲間の仲間を招待し、仲間とともに楽しもうとする態度を養う。			
活動の計画	<p>「シャボン玉で遊ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> シャボン玉の作り方を知り、シャボン玉を作って遊ぶ。 たくさんのシャボン玉、大きいシャボン玉などを見て、そのための道具作りをする。 色々なシャボン玉を作って遊ぶながら、仲間の遊んでいる様子を見る。 元通りに片付ける。 活動を振り返り、次の見通しをもつ。(10) 	<p>「ブロックで遊ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ブロックを重ねたり、積んだりする。 ブロックを少しずつずらしながら高く積む。 ブロックを色や形で分けて置く。 ブロックの上を歩き、並べ直す。 元通りに片付ける。 活動を振り返り、次の見通しをもつ。(10) 	<p>「当てるで遊ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ボールを転がして的に当てる。 滑り台などを用いて、ボールを高いところから転がして的に当てる。 的を自分たちで作る。 作った的を見合い、並べて当てて遊ぶ。 元通りに片付ける。 活動を振り返り、次の見通しをもつ。(10) 	<p>「遊戯室で遊ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 願いをもち、どのような遊びコーナーを作るか相談して決める。 遊び場を作りながら、遊ぶ。 遊びながら、他のものに見立てて遊ぶ。 遊びの様子を振り返り、次への願いをもつ。 元通りに片付ける。 活動を振り返り、次の見通しをもつ。(15) 	<p>「誘って遊ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 誘いたい仲間を決めて、招待状を作る。 仲間を誘って、一緒に遊ぶ。 自分たちの遊び場で、どう遊ぶかを仲間に見せたり、一緒に遊んだりする。 誘って一緒に遊んだ経験をもとに他の仲間を誘って遊びたいと願いをもつ。 活動を振り返る。(15) 	
加筆修正欄						
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> 遊ぶことに没頭する。 教師や仲間「一緒にやろう。」と誘う。 仲間の誘いに応じて遊ぶ。 道具を取り合う。 もつと遊びたいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊ぶことに没頭する。 教師や仲間「一緒にやろう。」と誘う。 仲間の誘いに応じて遊ぶ。 もつと遊びたいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊ぶことに没頭する。 教師や仲間「一緒にやろう。」と誘う。 仲間の誘いに応じて遊ぶ。 もつと遊びたいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊ぶことに没頭する。 教師や仲間「一緒にやろう。」と誘う。 仲間の誘いに応じて遊ぶ。 遊びに満足し、この思いを他の仲間と共有したいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが楽しんできた遊び方を、やってみせる。 仲間が遊んで、楽しんでいる様子を見てうれし気持ちになる。 もつと仲間を誘いたいと思う。 	
実際の姿	<ul style="list-style-type: none"> シャボン玉が上手くできない。 もつと大きいシャボン玉を作りたいけど、どうしたらいいのかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> もつとたくさんブロックが欲しいけど、仲間も使っているから、どうしたらよいか悩む。 仲間と一緒に遊びたいが、どうやって誘えばよいか悩む。 	<ul style="list-style-type: none"> ～なコースにしたいけど、上手くできない。 	<ul style="list-style-type: none"> もつと工夫したいけど、どうすればいいのかわからない。 遊び場を作って遊んでみたいけど、もつと楽しい遊び場にしたいと感じる。 		
●ジレンマ ■エラー						

1・2年4組 本時案

(1) 目標

遊戯室で仲間と遊ぶことを通して、これまで遊んできた経験を基に、さらなる願いをもつて遊び場を工夫して作り、楽しむことができるようにする。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

これまでの遊んできた経験を基にして、さらに「～したい。」「～に変えたら楽しく遊べそう。」という願いをもつて、遊び場を工夫して作る。(よりよい学校生活、集団生活の充実)

本時 (38/60)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)		○教師の手立てと見届け	
		1年A児・1年B児・1年C児	2年D児・2年E児 2年F
<p>1 前時の学習を振り返り、本時の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前の時間、どんなことをして遊んだのかな。 ・プロップを使って、迷路を作って遊んだよ。 ・～さんと一緒に、ボールあてコースを作って遊んだら、楽しかったよ。 ・木の家に入ると、隠れられて楽しいよ。 ・みんなで入れるともっと楽しそうだね。 ・大きな木の家を作って、みんなと遊びたいな。 <p>もつと おおきな きの いえを つくって あそぼう。</p>	<p>○本時の活動の願いを確認するために、前時の終末で確認したことを想起する場面を位置付け、本時の活動が分かるようにする。</p> <p>○前の時間に取り組んだことを想起できるように、写真などを提示する。</p> <p>○本時の活動内容が具体的に分かるような課題を示し、活動の内容を短い言葉とイラスト等で示し、活動の見通しをもてるようにする。</p> <p>○仲間と協力して取り組む必然を生み出すために、大きなダンボールと扱い、木の家を作る活動を位置付ける。</p> <p>○児童の「～したい。」という願いを仲間と共有して、どうしたらよいかを相談するように促す。</p> <p>○仲間の願いを「□□さんは、～したいって言ってるよ。」と言葉がけをし、一緒に取り組めるように促す。</p> <p>○工夫して遊ぶことの上を美感できるように、できた木の家を遊戯室内に設置し、遊ぶ時間を十分設ける。</p>	<p>○本人の得意なことを生かした活動になるように、活動内容を予め提案したり、確認したりする。</p> <p>○仲間とともに活動ができるように、教師が寄り添う。</p> <p>○活動に自分から取り組めるように、本人が得意な活動に取り組む姿を価値付ける。</p> <p>○本人の今日の活動を仲間に伝えるように、木の家作りで自分が取り組んだ場所を指差し、紹介するように促す。</p>	<p>○本人の今日の活動を仲間に伝えるように、作ったり遊んだりしている場面の写真を示し、楽しかったことを確認する。</p>
<p>2 遊戯室へ移動し、仲間や教師と一緒に作って遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○みんなで木の家を作ろう。 ・木に絵を描きたいな。 ・窓を付けたら楽しそう。 ・高いところにも窓を付けたらいいけど、どうしたらいいのかな。 <p>○木の家ができたから、みんなで作ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが木の家に入ると楽しいよ。 ・高いところから外をみると、おもしろい。 ・他の場所から木の家を見たら、ステキだね。 ・遊んでみたけれど、もっと楽しくなるようにしたいな。どうしたらいいのだろう。 	<p>○工夫して遊ぶことの上を美感できるように、できた木の家を遊戯室内に設置し、遊ぶ時間を十分設ける。</p>	<p>○本人の今日の活動を仲間に伝えるように、作ったり遊んだりしている場面の写真を示し、楽しかったことを確認する。</p>	<p>○本人の今日の活動を仲間に伝えるように、木の家作りで自分が取り組んだ場所を指差し、紹介するように促す。</p>
<p>3 本時の学習を振り返り、次の時間の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今日の楽しかったことは何かな。 ・みんなが入れる木の家を作ったよ。みんなが入れると楽しいよ。 ・木の家に家を描いて、飾りつけをしたよ。 ・次は、もっと木の家に飾りつけをしたらたまたまおもしろくなると思うな。 <p>○次の時間は、もっと飾りつけをして、みんなの家になよう。</p>	<p>○工夫して遊ぶことの上を美感できるように、できた木の家を遊戯室内に設置し、遊ぶ時間を十分設ける。</p>	<p>○本人の今日の活動を仲間に伝えるように、木の家作りで自分が取り組んだ場所を指差し、紹介するように促す。</p>	<p>○本人の今日の活動を仲間に伝えるように、木の家作りで自分が取り組んだ場所を指差し、紹介するように促す。</p>

3・4年4組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：遊び・生活づくり（全105時間）

<p>特別支援学級 第3・4学年の目標</p>	<p>(1) 問題解決力に関わって 自分の願いをもって、遊びを決めて実行したり、収穫した野菜をどうしたいかを考えることができるようにする。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって 仲間や先生と相談し、役割分担をするなどして協力しながら活動に取り組むことができるようにする。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって 交流学級の仲間や特別支援学級の仲間へ自らはたらきかけ、ともに楽しもうとする態度を養う。</p>	<p>自分の願いをもっと、遊びを決めて実行したり、収穫した野菜をどうしたいかを考えることができるようにする。</p>	<p>仲間や先生と相談し、役割分担をするなどして協力しながら活動に取り組むことができるようにする。</p>	<p>交流学級の仲間や特別支援学級の仲間へ自らはたらきかけ、ともに楽しもうとする態度を養う。</p>	<p>自分が育てたい作物を作り、収穫したものを通して、自分の活動は自分だけでなく、周りの仲間も喜ぶことができることを経験をする。その経験をもとに、仲間とよりよい関係をつくるために自分ができることはないかを自分なりに考え、その願いを実現していく。</p>	<p>善悪の判断、自律、自由と責任・個性の伸長・希望と勇気、努力と強い意志・親切、思いやり・感謝・友情・信頼・相互理解、寛容・規則の尊重・勤労、公共の精神・家族愛、家庭生活の充実・よりよい学校生活、集団生活の充実・自然愛護</p>	<p>学びを構成する要素</p>	<p>人（自分、仲間、先生） 畑 達成感 心地よさ 仲間と力を合わせて 収穫への期待 貢献 仲間にも喜んでもらえた喜び 自分の成長</p>
<p>カテゴリ設定の理由</p>	<p>特別支援学級 第3・4学年の目標</p>	<p>自分が育てたい作物を作り、収穫したものを通して、自分の活動は自分だけでなく、周りの仲間も喜ぶことができることを経験をする。その経験をもとに、仲間とよりよい関係をつくるために自分ができることはないかを自分なりに考え、その願いを実現していく。</p>	<p>善悪の判断、自律、自由と責任・個性の伸長・希望と勇気、努力と強い意志・親切、思いやり・感謝・友情・信頼・相互理解、寛容・規則の尊重・勤労、公共の精神・家族愛、家庭生活の充実・よりよい学校生活、集団生活の充実・自然愛護</p>	<p>学びを構成する要素</p>	<p>人（自分、仲間、先生） 畑 達成感 心地よさ 仲間と力を合わせて 収穫への期待 貢献 仲間にも喜んでもらえた喜び 自分の成長</p>	<p>特別支援学級 第3・4学年の目標</p>	<p>学びを構成する要素</p>	<p>人（自分、仲間、先生） 畑 達成感 心地よさ 仲間と力を合わせて 収穫への期待 貢献 仲間にも喜んでもらえた喜び 自分の成長</p>
<p>単元名 (時数)</p>	<p>「育てたい夏野菜を決めよう (畑の手入れ)」(25時間)</p>	<p>「夏野菜を収穫しよう、収穫した夏野菜で楽しもう」(8時間)</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう (畑の手入れ)」(13時間)</p>	<p>「全員で遊ぼう② かくれがをつくろう」(25時間)</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう (畑の手入れ)」(13時間)</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう (畑の手入れ)」(13時間)</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう (畑の手入れ)」(13時間)</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう (畑の手入れ)」(13時間)</p>
<p>主な学習活動</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「野菜の育て方を知ろう」 ○去年の畑での活動を振り返る。 ○自分で育てたい野菜を決める。 ○収穫した野菜を向をすめるのか、アイデアを出し合う。 ○虫補え、水やり・草取りといった手入れの流れをつかむ。</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>
<p>想定される ●シレンマ ●エラー 【道徳的諸価値】</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>
<p>人材活用 施設</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>
<p>教材等との関連</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>	<p>「育てたい秋野菜を決めよう」 「育てたい野菜を決めよう」 「収穫した野菜を向をすめるのか決めよう」 ○育てた野菜を収穫しよう ○収穫した野菜を向をすめるのか決めよう</p>

3・4年4組 単元シート		本単元の目標	
単元名	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
「全員で遊ぼう② かくれがをつくらう」 (25)	どのような場やきまりがよいか考えることを通して、自分たちが楽しいと思える遊びを作りあげることができるようになる。	誰もが楽しいと感じるきまりや遊びの場を作る活動を行い、それを基に遊ぶことを通して、全員と協力して活動する楽しさや喜びを感じることができるようになる。	周りの仲間の意見を大切にし、全員と協力して活動することを通して、全員と仲良くし、助け合うことができるようになる態度を養う。
活動の計画	<p>「どんな遊びをしたいか考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスで遊ぶときに、全員が楽しいと思える遊びは何かを考える。 ・自分の遊びたいことと仲間の遊びたいことが違うときに相談して決める。(4) 	<p>「みんなで遊んでみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが前回行った遊びよりも楽しいと思えるような遊びの内容やルール、きまり、場の設定を考えて実行してみる。 ・全員の思いや願いを尊重しながら、仲良く遊ぶ。 ・遊びを行ったあとに振り返り、もっと楽しくなるためには、どうすればよいか考える。(13) 	<p>「多くの仲間を遊びに招待しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2年4組が楽しいと思える遊びは何かよいかルールはどうしたらよいかを考える。 ・遊びに誘い、一緒に遊ぶ。 ・これまでの学習を振り返り、自分たちの生活に何が生かせそうか考える。(8)
加筆修正欄			
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がどんな遊びをしたいか考える。 ・仲間がやりたい遊びが分かる。 ・全員で楽しめる遊びは、何かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で協力しながら、かくれがを作る。 ・全員で楽しめるように、仲間の思いや考えを意識しながら楽しく遊ぶ。 ・全員と一緒に活動することで心地よさを感じる。 ・これからもいろいろいる仲間と協力して物を作ったり、一緒に遊んだりしたいと願う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年4組も楽しめるように、相手の思いや考えを意識しながら楽しく遊ぶ。 ・4組の仲間と一緒に遊ぶことの心地よさや楽しさを感じる。 ・自分たちの考えたことが相手の喜びにつながったことに自信をもつ。
実際の姿			
● ジレンマ ■ エラー	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分と仲間の思いや考えが違い、遊び・きまり・場の意見が対立し、決めるときに葛藤する。 ■ 自分の気持ちを伝えられない。 ■ 自分のやりたい遊びがあるのにそれがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊んでいるときに、自分の表現や感情を優先し、仲間と対立して仲良く遊べずに葛藤する。 ■ かくれがで作りたいたい形があるのにうまく作れない。 ■ 隠れる場所を決めるときに意見が合わずに仲良く遊べない。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1・2年生が遊ぶ遊びが分からない。 ● 他学年と遊ぶ時に自分の思いを優先して、仲良く遊べず葛藤する。

3・4年4組 本時案

(1) 目標

かくれがを仲間と協力して作って遊ぶ活動を通して、自分や仲間の願いを大切にしながら仲間の思いに寄り添うことができる。(関係構築力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

これまで仲間と関わってきた経験に基づいて、自分とは違う仲間の願いも大切にしながら、かくれがを協力して作り、一緒に仲良く楽しく遊ぶ活動をする。(友情、信頼)
本時 (14/25)

教師の手立てと見届け		
3年A児	3年B児・4年C児	3年D児・4年E児
<p>活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)</p> <p>1 前時の様子を振り返り、本時の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前回のみんなが作ったかくれがやよかった姿を紹介しますね。 ・ 入口が2つあるとどちからでも逃げられるよね。 ・ 段ボールを運ぶの手伝ってくれて、嬉しかったな。 ・ 一緒に隠れようと言われたのが嬉しかったな。 ・ 意見がまとまらないときは、みんなの意見を合体させたね。 <p style="border: 2px solid black; padding: 5px;">みんなと一緒に隠れられる大きなかくれがを作って遊ぼう。</p> <p>2 かくれがをみんなで作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○みんなでかくれがを作ろう。 ・ ぼくはこんななかくれがを作りたいな。 ・ みんなの作りたいかくれがは、分かったけど、自分の作りたいかくれががほしいな。 ・ じゃあ、AさんとBさんの意見を合わせたかくれがを作ろう。 ・ ここにもっと段ボールがいるから一緒に持って行こう。 <p>3 教室で仲間や教師と一緒に遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○みんなであつたかくれがをつかって遊ぼう。 ・ ぼくはこっこのかくれがに隠りたいな。 ・ ぼくはここがいいけど、みんなで隠れるために、場所を変えよう。 ・ A君ここが空いているから、おいでよ。 ・ 鬼がもう来るから静かにしてね。 <p>4 本時の様子を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今日の様子を振り返りましょう。 ・ この時にAさんが手伝うよと言っていて優しいね。 ・ 一人で組み立てるより、みんなで組み立てたほうが、早くできるね。 ・ ぼくはこんな形をつかったけど、Bさんのつくったかくれがはすごいな。 ・ 次はこんな形のかくれがも作ってみたいな。 	<p>○本時の遊びのルールを確認する。</p> <p>○本時、仲間とどのように関わればよいか見通しがもてるように、前時までの姿で、仲間と協力しようとした声掛けや行動を写真や言葉で紹介する。</p> <p>○かくれがのイメージを全員で共有できるように、どんなにかくれががよいか遊びを始める前に問いかける。</p> <p>○思いを相手に伝えることができようように、仲間の気持ちを大切にできるように、仲間に活動することができるように、仲間に誘ったり、手伝ったりする声掛けができるように教師が声を掛けるなどして促す。</p> <p>○仲間と協力することのよさを実感するために、仲間の願いを大切にしてくれがを作ったり遊んだりする姿、仲間にもやりたいことを提案したり、仲間の声掛けに応じたりする姿を価値付ける。</p>	<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>自分や仲間の願いを大切に、寄り添いながら協力して仲良く遊ぶことのよさを感じる。(関係構築力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協力してかくれがを作ったり、仲間の声掛けに応じながら遊んだりする姿を見届ける。 <p>○思いを相手に伝えることができようように、仲間の声掛けに、応えることができた姿を画像で示し、どんな気持ちかを聞く、必要に応じて教師と一緒に伝える。</p> <p>○仲間の気持ちを大切にすることを振り返ることができるよう、それができた場面を画像で示し、そのときの気持ちを話すように促す。</p> <p>○仲間のことを誘った姿を振り返ることができるよう、「今日は、どの場面で仲間と一緒に活動できた。」と問いかける。うまく話せない場合は、できていた場面を画像などで示す。</p>

メモ

特別支援学級（Ⅱ部）

学びのカテゴリー「地域・情報」



5・6年4組は、自分たちの身近な地域である学校を探検してきた。自分が興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、の2つの視点をもとに校内を回り、興味・関心をもったことは仲間と共有し、疑問に思ったことは仲間や教師に質問をした。これまでの活動を通して、自分の好きなこと・知りたいことを明確にしたり、仲間と折り合いをつけながら物事を決定したり、多くの人と関わろうとしたりすることができるようになってきた。

Ⅱ 特別
支援
部援

第5学年、第6学年では学校と学校周辺の地域を、第7学年では対象を岐阜市へと広げ、3カ年にわたり地域を探究している。7年4組では「岐阜市の良い所を発見しよう」を合言葉に、自分たちで行きたい所を決め、計画を実行することを大切にしてきた。実際に現地へ足を運び、自分の目で見て、触れて、感じることを通して、地域を知ることの楽しさや地域の良さに気づき、岐阜市をさらに深掘りしようと、チャレンジを続けている。



小寺 真実子
河合 真理

5・6年4組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：地域・情報（全105時間）

特別支援学級 第5・6学年の目標	(1) 問題解決力に関わって	学校や学校の周りの地域を探検する中で、関心をもったり、疑問に思ったことを解決しようとしたりすることができるようにする。										
	(2) 関係構築力に関わって	自分の好きなことや仲間の好きなことを知り、お互いが楽しむことができる活動を考えてことができるようにする。										
	(3) 貢献する人間性に関わって	地域を探検する中で、関わった人々のよさに気付き、自分たちの生活と関連付けて考えようとする態度を養う。										
カテゴリー設定の理由	1～4年生で、自分たちの願いに基づいて身近な仲間や教師と関わることの楽しさを少しずつ感じ始めてきた。地域の公共施設・商店や地域の人の関わりをもつことで、興味関心を広げたり、地域に愛着をもつことができるかと考えた。そして、自分の興味関心を広げること、地域への愛着をもつことが、8・9年生での「進路・休暇」の学習に繋がっていく。											
学びの基礎となる道徳的諸価値	善悪の判断・節度節制・個性の伸長・礼儀・相互理解・規則の尊重・公共の精神・よりよい学校生活、集団生活の充実											
学びを構成する要素	学級の仲間 学校の仲間 教師 生物 地域の公共施設・商店 地域の人の仲間											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元名(時数)	学校や学校の周りを探検しよう(40時間)											
主な学習活動	<p>【学校探検しよう①】 【学校探検しよう②】 【学校探検しよう③】</p> <p>○興味・関心があるもの、疑問に思うことを見つける。 ○探検して、関心をもったことや疑問に思ったことを整理する。 ○疑問に思ったことを、先生や関係する児童・生徒に聞いたり、調べたりする。 ○分かったことを振り返り、探検した場所の良さをまとめて、学校や周りの人と関わる良さを感ずる。</p>											
	<p>【学校探検しよう④】 【学校探検しよう⑤】</p> <p>○興味関心をもつて地域のの人に聞いてみたいことを考える。 ○インタビューすることを通して地域の人と関わる。</p>											
想定されるジレンマ ■エラー 【道徳的諸価値】	<p>■何を見つけるとよいか分からない ●自分とは、興味のあることや好きなものが見つかる ■質問の仕方が分からない 【個性の伸長・礼儀・規則の尊重・よりよい学校生活、集団生活の充実】</p>											
	<p>■どんな所があるのか分からない ●他の子が行きたい所が自分とは違う ■地域の人に聞いてみたいけれど、聞き方が分からない 【善悪の判断・個性の伸長・礼儀・相互理解・規則の尊重・公共の精神・よりよい学校生活、集団生活の充実】</p>											
人材活用施設	<p>・学級の仲間 ・学校の仲間 ・教師 ・地域の施設(加納城址公園・気象台・学校周辺の商店など)</p>											
	<p>・学級の仲間 ・学校の仲間 ・教師 ・学校 ・岐阜市内の公共施設・商店、人</p>											
教科等との関連	<p>国語「さいてみよう」 社会「地図にかこう」 図工「切って、はって」</p>											
	<p>国語「新しいことを覚える」 【調べたこと(タプルメント)】 算数「お金の計算」 【めくくつと時間】 生単「お出かけのマネー」 【じこく集の那方】 【乗り物に乗るときのマナー】</p>											
教科等との関連	<p>国語「インタビューをしよう」 「質問を考えよう」</p>											

本単元の目標			
5・6年4組 単元シート		問題解決力	関係構築力
貢献する人間性		貢献する人間性	
単元名 まち探検をしよう (54)	まち探検を通して、仲間や他者の立場に立つてものごとを考えることができるようにする。	まち探検について、折り合いを付けながら話し合うことができるようにする。	探検の中で見つけた町の人の行動のよさを感じ、仲間に伝えたり、自分の生活に取り入れたいりしようにする態度を養う。
活動の計画 「まち探検をしよう①」 ○今までの活動を振り返る。 ○まち探検の計画を立てる。 ○まち探検を行う。 ○振り返りを行う。 (18)	「まち探検をしよう②」 ○今までの活動を振り返る。 ○まち探検の計画を立てる。 ○まち探検を行う。 ○振り返りを行う。 (18)	「まち探検をしよう③」 ○今までの活動を振り返る。 ○まち探検の計画を立てる。 ○まち探検を行う。 ○振り返りを行う。 (18)	「まち探検をしよう④」 ○今までの活動を振り返る。 ○まち探検の計画を立てる。 ○まち探検を行う。 ○振り返りを行う。 (18)
加筆修正欄			
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで一緒に遊びたい。 ・仲間とお店で買い物したい。 ・生き物に触ったりお世話したりしたい。 ・今回は○○さんの意見にしよう。 ・たくさん「！（興味・関心）」「？（疑問）」を見つけたよ。 ・まちの人が丁寧に接客してくれたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・○○ができる場所はここにあるね。 ・私は○○がしたいな。 ・みんなのやりたいことが1つはできるよようにしよう。 ・学校を○時に出たら、△時に着くね。 ・質問をしたら丁寧に答えてくれたよ。 ・まちの人が笑顔で挨拶してくれたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなは○○するのが好きというところが分かったから、みんなの好きなことができるよところを探そう。 ・好きなことができる場所をみつけたよ。 ・みんな楽しく過ごせたね。 ・まちのよさをたくさん見つけたよ。 ・まちの人に挨拶したら返事を返してくれたよ。 ・まちのために働いている人がいたよ。
実際の姿			
●ジレンマ ■エラー	■ 学校の周りの地域で、何がしたいのか・何ができるのか分からない。	■ 計画したけど、みんな楽しんでるか心配だ。	■ まちの人に伝わるように話せるか心配だな。

5・6年4組 本時案

(1) 目標

まち探検の振り返り活動を通して感じて感じたまちの人の挨拶のよさをもとに、自分たちのまち探検をよりよいものにしようと考えたり、行動しようとしたりする態度を養う。(貢献する人間性)

(2) 道徳的価値判断に関わって

まちの中で活動したときのまちの人の行動の価値に関わってよい挨拶とは何かを理解し、自分たちのまち探検に活かそうとする。(礼儀) 本時 (17/18)

○教師の手立てと見届け			
6年C・6年E	5年A・5年B	6年F	6年D
<p>活動内容 (○教師の発問 ・予想される児童生徒の発言)</p> <p>1 前時までの学習から、地域の人の行動のよさについて振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まち探検をしてきて、地域の人たちの素敵なところはどこでしたか。 ・お店の人が優しくかったです。 ・笑顔で話してくれました。 ・道ですれ違ったときに挨拶をしてくれて嬉しかったです。 <p>○次のまち探検をもっとよくするため、自分たちも真似したいと思うところはありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの人みたいに、「こんにちは。」と元気な声であいさつしたいです。 ・笑顔で話しかけてくれたのが嬉しかったので、私も笑顔でまちの人とお話したいです。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>うれしい気持ちになるあいさつをしよう。</p> </div> <p>2 よい挨拶について考え、意見交流をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○嬉しい気持ちになる挨拶はどんな挨拶ですか。 ・笑顔で挨拶してくれると嬉しいですね。 ・大きな声で挨拶すると思います。 ・相手の顔を見て挨拶するとよいと思います。 <p>3 挨拶を実践する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○みんなで作った嬉しい気持ちになる挨拶をやってみよう。 他の人の挨拶を見て、よいところを見つけてみよう。 ・声が大きくてよかった。 ・笑顔で挨拶できていた。 ・挨拶してもらっていい気持ちになったよ。 <p>4 振り返りを発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分ががんばったことを話しましょう。 ・地域の人みたいに、笑顔で挨拶できました。 ・相手の顔を見ながら挨拶ができました。 ・次のまち探検では挨拶も頑張りたいです。 			
<ul style="list-style-type: none"> ○前時に児童たちの意見から出た地域の人のよさを写真と地図で振り返る。 ○地域の人の挨拶のよさを板書で児童と共有する。 ○挨拶の意義を板書する。 ○写真や、自分たちの日常生活から、地域の人のよさについて想起できるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○よい挨拶について考える視点を与えて、問いかける。 ○よくない挨拶を教 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師と一問一答を行い、挨拶についての考えを引き出したり代弁したりする。 ○よい挨拶の例とよくない挨拶の例を教師が示し、どちらがよいか選ぶ。 ○よい挨拶をするために気をつけることを個人で決める。 ○仲間の頑張りやよさを交流する。 ○教師が地域の人の役となって、一人一人実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○仲間の意見を聞くことができるように声を掛ける。 ○よい挨拶の例とよくない挨拶の例を教師が示し、どちらがよいか選ぶ。 ○目標に沿って挨拶ができているところを価値付ける。 ○教師と一緒に挨拶の練習をする。
<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>挨拶の意義や大切さに気付き、相手が嬉しくなる挨拶を意識して取り組もうとする。(貢献する人間性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする上での目標をもったり、目標に沿って実践したりしようとしている姿を見届ける。 			
<ul style="list-style-type: none"> ○自分の頑張り話を話そう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標に対してできたかを問いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が問いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が代弁する。

7年4組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：地域・情報(全85時間)

<p>特別支援学級 第7学年の目標</p>	<p>(1) 問題解決力に関わって ・地域の人や場所について興味・関心をもち、願いの実現に向けて取り組むことができるようにする。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって ・願いの実現に向けて、仲間や教師と一緒に活動に取り組むことができるようにする。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって ・地域の人や地域の良さに気付き、地域への愛着、感謝する心情や態度を養う。</p>
<p>学びの基礎となる 道徳的諸価値</p>	<p>カテゴリー設定の理由 第5学年、第6学年では、主に学校と学校周辺の地域について探究してきた。第7学年では、地域の範囲をさらに広げ、岐阜市を探検する活動を通して、地域の良さに気付き、地域への愛着を感じられるようにする。</p>
<p>学びを構成する 要素</p>	<p>節度、節制・思いやり、感謝・礼儀・遵法精神、公德心・社会参画、公共の精神・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度</p>
<p>単元名 (時数)</p>	<p>学校・学校周辺の良さって何？ (8時間)</p>
<p>主な学習活動</p>	<p>○岐阜市の良さを発見しよう。 ・昨年までに岐阜市で見学した場所を振り返る。 ・附属小中学校を案内する。 ・旅入生の仲間、学校のお気に入りの場所を紹介する。 ○加納地区を探索しよう。 ・加納地区で発見した場所を交流する。 ・昨年までに見学した場所を挙げる。 ・みんなが通じて分かったことを写真や文章で記録し、地図にまとめる。 ○自分たちで行き方、質問したいことを考えるなど、見学の計画を立てる。 ・加納地区の見学を通して分かったことを文章に記録する。(加納城跡、和楽、中山道など)</p>
<p>想定される ●ジレンマ ●エラー 【道徳的諸価値】</p>	<p>■学校のことが、旅入生の仲間にちゃんと伝わっただろうか。 【・礼儀・社会参画、公共の精神】 ●自分と仲間の意見が違ふとき、うまく折り合いが付けられない。 【・節度、節制・礼儀・遵法精神、公德心・社会参画、公共の精神】</p>
<p>人材活用 施設</p>	<p>○岐阜市の良さを発見しよう。 ・他者(学校の先生や町の人)にインタビューする活動を通して、自分たちでは気づかない町の良さを知り、岐阜市についてさらに掘り下げる。 ・誰に何をインタビューするか計画を立てる。 ・学校の先生、メモをとる練習をする。 ・町の人にインタビューする計画を立てる。 ・自分でインタビューする練習をする。 ・話を聞いてメモをとる練習をさせる。 ・インタビュー結果をまとめる。 ・見学し、分かったことを写真と文章で地図に記録する。</p>
<p>教材等との関連</p>	<p>○岐阜市の良さを発見しよう。 ・他者(学校の先生や町の人)にインタビューする活動を通して、自分たちでは気づかない町の良さを知り、岐阜市についてさらに掘り下げる。 ・誰に何をインタビューするか計画を立てる。 ・学校の先生、メモをとる練習をする。 ・町の人にインタビューする計画を立てる。 ・自分でインタビューする練習をする。 ・話を聞いてメモをとる練習をさせる。 ・インタビュー結果をまとめる。 ・見学し、分かったことを写真と文章で地図に記録する。</p>
<p>単元名 (時数)</p>	<p>岐阜市の良さって何？ (Part I 岐阜市の良い所を見つけてよう) (30時間)</p>
<p>1月</p>	<p>○これまでの学習で出会った地域の人、見学等でお世話になった人のために、自分が住んでいる地域の行事に参加する。 ・岐阜市周辺の花を植えたり、ゴミ拾いをしたりする。 ・学校の良い所をまとめたパンフレットを作成し、掲示したり、配布したりする。 ・「ふそくマーケット」に招待する。 ・お店のお手伝いをさせる。 ○1年間の自分たちの活動を振り返る。 ・下級生に、自分たちの学んできたことを伝え、学校の周りや岐阜市の良さを共有する。</p>
<p>2月</p>	<p>○岐阜市の良さを発見しよう。 ・他者(学校の先生や町の人)にインタビューする活動を通して、自分たちでは気づかない町の良さを知り、岐阜市についてさらに掘り下げる。 ・誰に何をインタビューするか計画を立てる。 ・学校の先生、メモをとる練習をする。 ・町の人にインタビューする計画を立てる。 ・自分でインタビューする練習をする。 ・話を聞いてメモをとる練習をさせる。 ・インタビュー結果をまとめる。 ・見学し、分かったことを写真と文章で地図に記録する。</p>
<p>3月</p>	<p>○岐阜市の良さを発見しよう。 ・他者(学校の先生や町の人)にインタビューする活動を通して、自分たちでは気づかない町の良さを知り、岐阜市についてさらに掘り下げる。 ・誰に何をインタビューするか計画を立てる。 ・学校の先生、メモをとる練習をする。 ・町の人にインタビューする計画を立てる。 ・自分でインタビューする練習をする。 ・話を聞いてメモをとる練習をさせる。 ・インタビュー結果をまとめる。 ・見学し、分かったことを写真と文章で地図に記録する。</p>

本単元の目標			
7年4組 単元シート 単元名 岐阜市の良さって何？ 【Part II 身近な人や町の人に、岐阜市の良い所を教えてください】(22)	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
<p>○これまでの活動について振り返る。</p> <p>○岐阜市のことをさらに知るために、仲間とこれからどんな活動をしたいか話し合う。</p> <p>○誰に、どんなことを聞きたいかまとめる。(1)</p>	<p>願いを実現するために、様々な人と出会い、意見を聞きながら、計画を立て、行動に移すことができるようにする。</p> <p>○附属小中学校の先生方に、岐阜市の良い所についてインタビューをする計画を立てる。</p> <p>○誰に質問するか、質問する内容を確認する。</p> <p>○先生にインタビューをする。</p> <p>○インタビューした結果をまとめる。(5)</p>	<p>願いの実現に向けて、仲間や教師と共に考え、よりよい活動を創り出すことができるようにする。</p> <p>○岐阜市をさらに深堀するため、街の人に岐阜市の良い所を聞く。</p> <p>○町の人に、岐阜市の良い所についてインタビューする計画を立てる。</p> <p>○インタビューの練習をする。</p> <p>○岐阜駅でインタビューを行う。</p> <p>(例 岐阜駅観光案内所の人、通行人)</p> <p>○インタビューした結果をまとめる。(5)</p>	<p>他者との関わりを通して、地域の人や地域の良さに気付き、地域への愛着、感謝する心情や態度を養う。</p> <p>○インタビュー結果を基に、行きたい場所を決め、見学計画を立てる。</p> <p>○行き方を調べたり、質問したいことを整理したりする。</p> <p>○見学に行き、振り返りをする。</p> <p>○学校の先生や街の人へのインタビューを通して気付いたことや分かったこととまとめる。(11)</p>
活動の計画			
加筆修正欄			
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分が知らない岐阜市の良さを聞くことができた。 先生方に教えてもらった所がどんなところか、実際に行ってみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 知らない人にインタビューがうまくできるか不安だ。 岐阜市には、さまざまな良い所がある。実際に行って見たい。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな人の意見を聞くことで、岐阜市の良さについて、たくさん知ることができた。 岐阜市って、いいところだな。
実際の姿			
<ul style="list-style-type: none"> ● ジレンマ ■ エラー 	<p>■ 初対面の人と話す時に、どんな言葉遣いで話すと良いか分からない。</p> <p>■ 街の人にインタビューしたいけれど、うまくできるか心配で声がかげづらい。</p> <p>● 自分と仲間の行きたい場所がちがいがい、折り合いがつけられない。</p>		

7年4組 本時案

(1) 目標

これまでのインタビュアーの活動を通して得た成果を基に、街頭インタビュアーに向けて進んで練習することができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

インタビュアーの活動を通して、時と場に応じた適切な言動がとれるような態度を養う。(礼儀)

本時 (10/22)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け																
<p>1 街頭インタビュアーを行う目的を確認し、共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どうして、街の人にインタビュアーしようと思ったのですか。 ・ いろいろの人に岐阜市の良い所を聞きたいと思ったから。 ・ 自分が知らない岐阜市の良い所を知ることができると思うから。 <p>2 岐阜駅の映像を見て、街頭インタビュアーのイメージをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分から声がかげられるか心配だな。 <p style="text-align: center;">街頭インタビュアーのリハーサルをしよう。</p>	<p>○前回の先生方へのインタビュアー活動の成果を確認し、今回の街頭インタビュアーへの意欲につなげる。</p> <p>○岐阜駅の映像を提示し、活動場所、インタビュアーする人、岐阜駅の状況を確認することで、街頭インタビュアーのイメージをもたせる。</p> <p>○前回の先生方へのインタビュアーで使った原稿を提示し、それをもとに街頭インタビュアーの原稿を考えるように促す。</p>																
<p>3 インタビュアーの原稿を確認する</p> <p>○前回、先生方へ行ったインタビュアーの原稿でよいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 附属小中学校を入れるといいかな。 ・ 街の人に、どう生きるかという言葉は伝わらないと思う。 <p>4 インタビュアーの練習をする</p> <p>教師の示範を見て、インタビュアーのイメージとポイントをつかむ。</p> <p>ペアを組み、ポイントを意識してインタビュアーの練習を行う。</p> <p>ペアの実態に応じて相互評価を行う。</p> <p>全体の前で一人一人が、教師を相手に仕上げの練習を行う。</p> <p>7年4組の授業を参観している方にインタビュアーを行う。</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">インタビュアーの練習時</th> </tr> <tr> <th>A (男)</th> <th>B (男)</th> <th>C (男)</th> <th>D (男)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緊張して固まってしまう場合は、教師と共にできるところまで取り組む。</td> <td>集中して取り組めるように、活動の約束を教師と確認する。</td> <td>進んで取り組めるように、指示が理解できたら確認する。</td> <td>緊張して固まってしまう場合は、教師と一緒に原稿を読み上げる。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">個々の良さを名人ポイントに沿って評価付ける。</td> </tr> </tbody> </table>	インタビュアーの練習時				A (男)	B (男)	C (男)	D (男)	緊張して固まってしまう場合は、教師と共にできるところまで取り組む。	集中して取り組めるように、活動の約束を教師と確認する。	進んで取り組めるように、指示が理解できたら確認する。	緊張して固まってしまう場合は、教師と一緒に原稿を読み上げる。	個々の良さを名人ポイントに沿って評価付ける。			
インタビュアーの練習時																	
A (男)	B (男)	C (男)	D (男)														
緊張して固まってしまう場合は、教師と共にできるところまで取り組む。	集中して取り組めるように、活動の約束を教師と確認する。	進んで取り組めるように、指示が理解できたら確認する。	緊張して固まってしまう場合は、教師と一緒に原稿を読み上げる。														
個々の良さを名人ポイントに沿って評価付ける。																	
<p>【街頭インタビュアーの原稿】</p> <p>おはようございます。今お時間よろしいですか。僕たちは、岐阜大学教育学部附属小中学校の中学1年生です。学校の授業で、岐阜市の良さについて調べたいと思います。町の人にも岐阜市の良さについて聞きたいと思い、インタビュアーをしています。質問に答えてもらえますか。</p> <p>①岐阜市の良い所はどこですか。②理由を教えてください。お願いします。</p>	<p>【インタビュアーの名人ポイント】</p> <p>①視線・・・相手の目を見て話す</p> <p>②反応・・・うなずき 相手の答えに応じた返し</p> <p>③声・・・相手に聞こえる声の大きさはつきりと話す</p>																
<p>5 本時の振り返りを行い、次時への見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 練習を頑張ることができました。本番のインタビュアーを頑張りたいです。 ・ 名人ポイントに丸が付いて良かったです。 	<p>C (男) 伝えたいことが仲間にはわかるように、教師が意図を汲み取り、補足する。</p>																

メモ

特別支援学級（Ⅲ部）

学びのカテゴリー「進路・余暇」



8年4組は、中学卒業後の生涯の生き方について見通しをもち、進学先（高等特別支援学校、特別支援学校高等部）や就労支援事業所（A型・B型）を調べる活動を通して、自分の進路を具体的にイメージすることができた。宿泊研修では、特例子会社で働く人の様子を見たり、キッザニア甲子園で働く体験をしたりすることで、やりがいをもって働いていることや働いてお金を得ること、そのお金で好きなことができることを学んだ。

Ⅲ 特別
支援
部

9年4組では、一人一人が休みの日に行っている自分の好きなことを交流した。自分の好きなことを仲間に聞いてもらえてうれしそうであった。また、仲間の好きなことをみんなで体験した。「音楽を聴くこと」が多かったので、好きなアーティストや曲を紹介し合って聴いた。動画をみながら「体操・ストレッチ」をしたり、「競馬」が好きな仲間に教えてもらいながら、レースの予想をしたりした。初めての体験を楽しむ様子も見られた。



新居 豊子
平野 和俊

8年4組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：進路・余暇（全105時間）

	<p>(1) 問題解決力に関わって 自分の願いをもち、願いの実現に向けて、自分で考えて行動することができるようにする。</p>	<p>自分の願いをもち、願いの実現に向けて、自分で考えて行動することができるようにする。</p>								
<p>特別支援学級 第8学年の目標</p>	<p>(2) 関係構築力に関わって 願いの実現に向けて仲間と一緒に活動に取り組むことができようにする。</p>	<p>願いの実現に向けて仲間と一緒に活動に取り組むことができようにする。</p>								
<p>学びの基礎となる 道徳的諸価値</p>	<p>(3) 貢献する人間性に関わって 自分と社会とのつながりを実感し、生活に生かそうとする態度を養う。 職業生活に必要な自己理解（得手不得手や特性など）を深めたり、自分の適性に気付いたりすることを通して、仲間と一緒に活動することを通して、興味を膨らませたり、自己選択や自己決定をすることができるようにする。</p>	<p>自分と社会とのつながりを実感し、生活に生かそうとする態度を養う。 職業生活に必要な自己理解（得手不得手や特性など）を深めたり、自分の適性に気付いたりすることを通して、仲間と一緒に活動することを通して、興味を膨らませたり、自己選択や自己決定をすることができるようにする。</p>								
<p>学びの基礎となる 道徳的諸価値</p>	<p>自主、自律、自由と責任・節度、節制・向上心、個性の伸長・希望と勇氣、克己と強い意志・思いやり、感謝・礼儀・友情、信頼・相互理解、寛容・遵法精神、公德心・勤労・よりよく生きる喜び</p>	<p>自主、自律、自由と責任・節度、節制・向上心、個性の伸長・希望と勇氣、克己と強い意志・思いやり、感謝・礼儀・友情、信頼・相互理解、寛容・遵法精神、公德心・勤労・よりよく生きる喜び</p>								
<p>学びを構成する 要素</p>	<p>人（自分、仲間、先輩・後輩、先生、住んでいる地域の人々、事業所の方々） 長所 短所 休日の過ごし方 夢 進路 特別支援学校 施設利用 社会人 貢献 マナー お金 やりがいい 喜び</p>	<p>人（自分、仲間、先輩・後輩、先生、住んでいる地域の人々、事業所の方々） 長所 短所 休日の過ごし方 夢 進路 特別支援学校 施設利用 社会人 貢献 マナー お金 やりがいい 喜び</p>								
<p>単元名 (時数)</p>	<p>「働く」とは？ 「進路」とは？ 好きなものを買おう、行きたいところは？ (25) (10)</p>	<p>「働く」とは？ 「進路」とは？ 好きなものを買おう、行きたいところは？ (25) (10)</p>	<p>特別支援学校・就労事業所に行こう 職業体験をしよう (40) (10)</p>	<p>特別支援学校・就労事業所に行こう 職業体験をしよう (40) (10)</p>	<p>特別支援学校・就労事業所に行こう 職業体験をしよう (40) (10)</p>	<p>特別支援学校・就労事業所に行こう 職業体験をしよう (40) (10)</p>	<p>特別支援学校・就労事業所に行こう 職業体験をしよう (40) (10)</p>	<p>特別支援学校・就労事業所に行こう 職業体験をしよう (40) (10)</p>	<p>特別支援学校・就労事業所に行こう 職業体験をしよう (40) (10)</p>	<p>特別支援学校・就労事業所に行こう 職業体験をしよう (40) (10)</p>
<p>主な学習活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近な職業や仕事内容を調べる。 職場見学する会社や体験したい職業等について調べる。 職場見学をし、働く人の様子を見たり、質問をしたりする。 いろいろな職業を体験する。 見学のまとめをする。 大阪(土産、観光地)を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校卒業後の進路を知る。 特別支援学校 就労 高等特別支援学校や特別支援学校高 等制について知りたいことを整理する。 それぞれの学校を調べる。 就労(種類、雇用など)について知る。 就労事業所を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べた特別支援学校や事業所の行き方を調べる。 特別支援学校や事業所の見学をしたり体験をしたりする。 ごらんに体験したい事業所を見学へ、見学をする。 どんな活動をしていきたいのかが願いをもち、職業の体験を繰り返して行い、よりよい方法を考え取り組む。 自分の好きなことや得意なことを考える。 友だちから見た自分のよいところを知る。(他者評価) 	<ul style="list-style-type: none"> 調べた特別支援学校や事業所の行き方を調べる。 特別支援学校や事業所の見学をしたり体験をしたりする。 ごらんに体験したい事業所を見学へ、見学をする。 どんな活動をしていきたいのかが願いをもち、職業の体験を繰り返して行い、よりよい方法を考え取り組む。 自分の好きなことや得意なことを考える。 友だちから見た自分のよいところを知る。(他者評価) 	<ul style="list-style-type: none"> 調べた特別支援学校や事業所の行き方を調べる。 特別支援学校や事業所の見学をしたり体験をしたりする。 ごらんに体験したい事業所を見学へ、見学をする。 どんな活動をしていきたいのかが願いをもち、職業の体験を繰り返して行い、よりよい方法を考え取り組む。 自分の好きなことや得意なことを考える。 友だちから見た自分のよいところを知る。(他者評価) 	<ul style="list-style-type: none"> 調べた特別支援学校や事業所の行き方を調べる。 特別支援学校や事業所の見学をしたり体験をしたりする。 ごらんに体験したい事業所を見学へ、見学をする。 どんな活動をしていきたいのかが願いをもち、職業の体験を繰り返して行い、よりよい方法を考え取り組む。 自分の好きなことや得意なことを考える。 友だちから見た自分のよいところを知る。(他者評価) 	<ul style="list-style-type: none"> 調べた特別支援学校や事業所の行き方を調べる。 特別支援学校や事業所の見学をしたり体験をしたりする。 ごらんに体験したい事業所を見学へ、見学をする。 どんな活動をしていきたいのかが願いをもち、職業の体験を繰り返して行い、よりよい方法を考え取り組む。 自分の好きなことや得意なことを考える。 友だちから見た自分のよいところを知る。(他者評価) 	<ul style="list-style-type: none"> 調べた特別支援学校や事業所の行き方を調べる。 特別支援学校や事業所の見学をしたり体験をしたりする。 ごらんに体験したい事業所を見学へ、見学をする。 どんな活動をしていきたいのかが願いをもち、職業の体験を繰り返して行い、よりよい方法を考え取り組む。 自分の好きなことや得意なことを考える。 友だちから見た自分のよいところを知る。(他者評価) 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、まとめをする。 自分の得手不得手や特性、今までの学習から、進路を考える。 9年生で学びたいことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、まとめをする。 自分の得手不得手や特性、今までの学習から、進路を考える。 9年生で学びたいことを考える。
<p>想定される ●エレンマ ●エラー 【道徳的諸価値】</p>	<p>なぜ働くのかな。 働くってどういうこと？ どんな仕事があるの？ 将来の夢がない。</p> <p>【節度、節制・思いやり、感謝・勤労】</p>	<p>中学校卒業後の自分は？ 自分で自分の進を決めるんだ。 それだけの特別支援学校に特級があるな。 就労型とB型では、働き方に大きな違いがあるな。 ●自分の進を決めることができるかな。不安だな。</p> <p>【自主、自律・向上心、個性の伸長】</p>	<p>やってみたいことが見つかりそうだな。この活動(仕事)は苦手かもしれないな。 他の事業所の活動を知りたいな。 働く上で何を大切にしていけばいいのだろう。 今、自分にできることは何だろう。働くために今自分にとって必要なことは何だろう。 人に喜んでもらえるためにどうすればいいのだろうか。 自分の好きなことや得意なことを伸ばしたり強したりするには、どうしたらいいんだろう。 ●おんなじように働くことができないかな。 ●働くときに大事にしていることが、今の自分ではできていないな。 ●自分の思った仕事内容とちよつと違う。 ●失敗した。どうしよう。同じようにやっているのに、上手くないかな。 ●みんなは○○の方がいいと思うんだけどな。</p> <p>【自由と責任・向上心、個性の伸長・礼儀・相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・勤労】</p>	<p>やってみたいことが見つかりそうだな。この活動(仕事)は苦手かもしれないな。 他の事業所の活動を知りたいな。 働く上で何を大切にしていけばいいのだろう。 今、自分にできることは何だろう。働くために今自分にとって必要なことは何だろう。 人に喜んでもらえるためにどうすればいいのだろうか。 自分の好きなことや得意なことを伸ばしたり強したりするには、どうしたらいいんだろう。 ●おんなじように働くことができないかな。 ●働くときに大事にしていることが、今の自分ではできていないな。 ●自分の思った仕事内容とちよつと違う。 ●失敗した。どうしよう。同じようにやっているのに、上手くないかな。 ●みんなは○○の方がいいと思うんだけどな。</p> <p>【自由と責任・向上心、個性の伸長・礼儀・相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・勤労】</p>	<p>やってみたいことが見つかりそうだな。この活動(仕事)は苦手かもしれないな。 他の事業所の活動を知りたいな。 働く上で何を大切にしていけばいいのだろう。 今、自分にできることは何だろう。働くために今自分にとって必要なことは何だろう。 人に喜んでもらえるためにどうすればいいのだろうか。 自分の好きなことや得意なことを伸ばしたり強したりするには、どうしたらいいんだろう。 ●おんなじように働くことができないかな。 ●働くときに大事にしていることが、今の自分ではできていないな。 ●自分の思った仕事内容とちよつと違う。 ●失敗した。どうしよう。同じようにやっているのに、上手くないかな。 ●みんなは○○の方がいいと思うんだけどな。</p> <p>【自由と責任・向上心、個性の伸長・礼儀・相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・勤労】</p>	<p>やってみたいことが見つかりそうだな。この活動(仕事)は苦手かもしれないな。 他の事業所の活動を知りたいな。 働く上で何を大切にしていけばいいのだろう。 今、自分にできることは何だろう。働くために今自分にとって必要なことは何だろう。 人に喜んでもらえるためにどうすればいいのだろうか。 自分の好きなことや得意なことを伸ばしたり強したりするには、どうしたらいいんだろう。 ●おんなじように働くことができないかな。 ●働くときに大事にしていることが、今の自分ではできていないな。 ●自分の思った仕事内容とちよつと違う。 ●失敗した。どうしよう。同じようにやっているのに、上手くないかな。 ●みんなは○○の方がいいと思うんだけどな。</p> <p>【自由と責任・向上心、個性の伸長・礼儀・相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・勤労】</p>	<p>やってみたいことが見つかりそうだな。この活動(仕事)は苦手かもしれないな。 他の事業所の活動を知りたいな。 働く上で何を大切にしていけばいいのだろう。 今、自分にできることは何だろう。働くために今自分にとって必要なことは何だろう。 人に喜んでもらえるためにどうすればいいのだろうか。 自分の好きなことや得意なことを伸ばしたり強したりするには、どうしたらいいんだろう。 ●おんなじように働くことができないかな。 ●働くときに大事にしていることが、今の自分ではできていないな。 ●自分の思った仕事内容とちよつと違う。 ●失敗した。どうしよう。同じようにやっているのに、上手くないかな。 ●みんなは○○の方がいいと思うんだけどな。</p> <p>【自由と責任・向上心、個性の伸長・礼儀・相互理解、寛容・社会参画、公共の精神・勤労】</p>	<p>4月の自分と比べると、考え方が変わったな。成長したな。 9年生になったら○○学校に見学に行きたい。 将来○○の仕事をしたい。○事業所で働きたい。 9年生になったら、さらにこんなことをしたいな。</p> <p>【希望と勇氣、克己と強い意志・友情、信頼・遵法精神、公德心・社会参画、公共の精神・よりよく生きる喜び】</p>	<p>4月の自分と比べると、考え方が変わったな。成長したな。 9年生になったら○○学校に見学に行きたい。 将来○○の仕事をしたい。○事業所で働きたい。 9年生になったら、さらにこんなことをしたいな。</p> <p>【希望と勇氣、克己と強い意志・友情、信頼・遵法精神、公德心・社会参画、公共の精神・よりよく生きる喜び】</p>	<p>4月の自分と比べると、考え方が変わったな。成長したな。 9年生になったら○○学校に見学に行きたい。 将来○○の仕事をしたい。○事業所で働きたい。 9年生になったら、さらにこんなことをしたいな。</p> <p>【希望と勇氣、克己と強い意志・友情、信頼・遵法精神、公德心・社会参画、公共の精神・よりよく生きる喜び】</p>
<p>人材活用 施設</p>	<p>家族、地域の店 学校職員 研修先の会社</p>	<p>学級の仲間、上級生の仲間 卒業生 家族</p>	<p>特別支援学校生徒、事業所、公共交通機関 学級の仲間、学校の仲間、学校職員 家族、地域の店</p>	<p>特別支援学校生徒、事業所、公共交通機関 学級の仲間、学校の仲間、学校職員 家族、地域の店</p>	<p>特別支援学校生徒、事業所、公共交通機関 学級の仲間、学校の仲間、学校職員 家族、地域の店</p>	<p>特別支援学校生徒、事業所、公共交通機関 学級の仲間、学校の仲間、学校職員 家族、地域の店</p>	<p>特別支援学校生徒、事業所、公共交通機関 学級の仲間、学校の仲間、学校職員 家族、地域の店</p>	<p>特別支援学校生徒、事業所、公共交通機関 学級の仲間、学校の仲間、学校職員 家族、地域の店</p>	<p>特別支援学校生徒、事業所、公共交通機関 学級の仲間、学校の仲間、学校職員 家族、地域の店</p>	<p>特別支援学校生徒、事業所、公共交通機関 学級の仲間、学校の仲間、学校職員 家族、地域の店</p>
<p>教科等との関連</p>	<p>国語：敬語 インターネットをしよう 新聞の書き方 数学：お金を使おう 家庭科：買い物</p>	<p>国語：手紙の書き方 生活単元：情報の扱い方</p>	<p>国語：ていねいな言葉 数学：お金のかさ 美術：環境づくりをしよう(看板・チラシ・メニュー表など) 家庭科：買い物 生活単元：公共交通機関を使おう</p>	<p>国語：ていねいな言葉 数学：お金のかさ 美術：環境づくりをしよう(看板・チラシ・メニュー表など) 家庭科：買い物 生活単元：公共交通機関を使おう</p>	<p>国語：ていねいな言葉 数学：お金のかさ 美術：環境づくりをしよう(看板・チラシ・メニュー表など) 家庭科：買い物 生活単元：公共交通機関を使おう</p>	<p>国語：ていねいな言葉 数学：お金のかさ 美術：環境づくりをしよう(看板・チラシ・メニュー表など) 家庭科：買い物 生活単元：公共交通機関を使おう</p>	<p>国語：ていねいな言葉 数学：お金のかさ 美術：環境づくりをしよう(看板・チラシ・メニュー表など) 家庭科：買い物 生活単元：公共交通機関を使おう</p>	<p>国語：ていねいな言葉 数学：お金のかさ 美術：環境づくりをしよう(看板・チラシ・メニュー表など) 家庭科：買い物 生活単元：公共交通機関を使おう</p>	<p>国語：話し方、聞き方 伝え方の工夫 生単：発表の仕方を考えよう(プレゼン)</p>	<p>国語：話し方、聞き方 伝え方の工夫 生単：発表の仕方を考えよう(プレゼン)</p>

本単元の目標			
8年4組 単元シート	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
単元名 特別支援学校・就労支援事業所に行こう 職業体験（喫茶・清掃・ものづくり等）を しよう (40)	就労支援事業所の見学をもとに、校内で 働く体験をする中で、自分の課題と向き 合ったり、よりよい活動の仕方を考えた りしながら、活動に取り組むことができ るようにする。	特別支援学校や就労支援事業所の活動をもち に、仲間と一緒に活動をしたり、詳しい人に 質問したり、よりよい方法を話し合ったりし ながら、相手のことを考えて活動することが できるようにする。	就労支援事業所の見学や働く体験をもと に、どのような仕事にもやりがいや達成感 があることに気付き、自分の得意を生かし て働くよさを実感し、働き続ける人になる 態度を養う。
活動の計画 ○調べた就労支援事業所（A型・B型）について、 交流する。 ○見学する就労支援事業所を話し合って決める。 ○見学する就労支援事業所や特別支援学校の行き 方を調べたり、電話でアポイントを取ったりす る。 (3)	○見学する就労支援事業所や特別支援学校につい て、知りたことや質問したいことを考える。 ○就労支援事業所や特別支援学校の見学や体験を する。 ○見学や体験をしたことをまとめ、交流をする。 ○さらに見学したい就労支援事業所を決める。 (15)	○見学した就労支援事業所や特別支援学校の活動の中 から、体験したい活動を話し合う。 ○活動の基本的な手順や方法を調べ、活動の願 いをもつ。 ○活動（仕事）を繰り返す。 ○気付いたことや感じたことを交流し、よりよ い方法を話し合い、実践する。 (22)	
加筆修正欄			
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・作ることが好きだから作る事業所を見学したい。 ・接客のときに大切なことを知りたいな。 ・教室掃除で褒められたことがあるから、掃除のこ とを勉強したい。 ・行きたい人が多いところから、見学に行こう。 ・A型もB型も、どちらも見学に行きたい。 ・電話で話すときに気を付けることは何だろう。練 習してから、電話をかけよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに仕事する様子が載っていたから、実際 にどんな風にやっているのかを知りたいな。 ・仕事をするとときに大切なことを質問しよう。 ・学校の作業で気を付けていることが、働くときの力に なるんだ。 ・どこの事業所でも挨拶と返事が大事だと言っていた。 今から挨拶や返事をやっつけていこうと思う。 ・次は、違う職種の事業所に行きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で、どんな活動（喫茶・清掃・袋詰め等）ができ るろう。やってみたいこと、得意なこと、好きなこと で、活動を決めていいのかな？ ・自分が決めた目標（挨拶、返事、集中、最後まで、粘り強 く、協力等）に向かって、活動しよう。 ・事業所見学で学んだことをやってみよう。うまくい かないときは、みんなと相談してよい方法を見つ けたい。 ・働くって大変。でも、やりがいがある。
実際の姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●ジレンマ ■エラー 	<ul style="list-style-type: none"> ■あんなふうに働くことができるかな。 ■働くときに大事にしていることが、今の自分では できていないな。 ●自分の思っていた仕事内容とちょっと違おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ■失敗した。どうしよう。 ■同じようにやっているのに、上手くいかない。 ●みんなは〇〇の方がいいって言うけど、△△の方が いいと思うんだけどな。 	

8年4組 本時案

(1) 目標

窓拭きの活動を振り返り、よりきれいにできるポイントを考えて話し合い活動を通して、就労支援事業所の見学や活動経験者のアドバイスを基に、窓拭きの活動の自分や仲間
のよい点や改善点に気付いたり、よりきれいにできるポイントを考えたりすることができる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

自分の体験活動の姿から、得意や苦手を知り、ありのままの自分を受け止め、理解する。(個性の伸長)
働くことや学校のために奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、よりよい方法を考える。(社会参画、勤労)

本時 (23/40)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)		○教師の手立てと見届け	
		A (女)・B (男)・C (男)	D (男)・E (男)
<p>1 前時までの窓拭きの活動を振り返り、本時の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○窓拭きをやってみて、感じたことや思ったことは何ですか。 ・窓がきれいになって、嬉しかった。違う場所の窓もきれいにしたい。 ・窓拭きのやり方が分かって、手際よくできるようになってきた。 ・スクイジーを使うのが難しかった。高いところや最後の円を描くのがうまくできなかった。 ・○○さんがやった窓がとってもきれいだった。どうやったら、あんなにきれいにできるのか教えてほしい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">よりきれいにできる窓拭きのポイントを見つけよう。</div> <p>2 窓拭きを行い、よい点や改善点などを見つけ合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○順番に窓拭きを行い、よい点や改善点を見つけ、伝え合おう。 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【態度面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端までを意識していた。 ・最後まで集中していた。 ・道具を大切に扱っていた。 ・報告するとき、もっと大きな声で言った方がいい。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【活動面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクイジーを真っ直ぐ動かしていた。 ・円を描くときに、角を動かさない方がいいと思う。 ・水を切る際、流れる水がスクイジーの両側の人と片方だけの人がいた。どうしてかな。 </div> </div>	<p>○各自が立てた「働く人になるための目標」を掲示する。</p> <p>○窓拭きの様子が想起できるように、写真や動画を提示する。</p> <p>○頑張りや困難さを自分の言葉で伝えられるように、資料の指差しや発問をする。</p> <p>○一緒に活動した仲間の頑張りが伝えられるように、発問をする。</p> <p>○頑張りや困難さを自分の言葉で伝えられるように、資料の指差しや発問をする。</p> <p>○仲間からの言葉を聞いて感想を伝える場を設定する。</p> <p>○見る視点を明確にするために、振り返りから要点を押さえたり、特別支援学校の見学時のまとめを提示したりする。</p> <p>○よい点だけでなく改善点を見つけたことの大切さを伝え、改善点を伝える姿を価値付ける。</p> <p>○態度面と活動面が分かるように、板書をする。</p> <p>○就労支援事業所や特別支援学校の見学で学んだこととつなげて発言をしたり、新しい視点から仲間のよい点や改善点を伝えたりする姿を褒め、価値付ける。</p> <p>○就労支援事業所見学の様子の写真や経験者のアドバイスの動画を提示する。</p> <p>○経験者の窓拭きとの違いが分かるように、スクイジーの使い方に注目するよう伝えたり、実際に動かしたりする場を設定する。</p> <p>○よりきれいにできる窓拭きのポイントが分かり、次時に実践できるように、板書をする。</p>		
<p>3 就労支援事業所の見学や経験者のアドバイスを、よりきれいにできる窓拭きのポイントを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見学時の様子や、仲間や経験者のアドバイスを、よりきれいにできる窓拭きのポイントについて考えよう。 ・スクイジーの使い方(持ち方、斜めにする、円の描き方)に気を付ける。 ・力の入れ方を考える。雑巾で窓枠の水気をしっかり取る。 <p>4 本時の活動を振り返り、次時の活動への見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分ではできてると思ってたけど、もっときれいにできるポイントが分かった。 ・事業所の見学や今日の友だちからのアドバイスで、自分のよい所と改善点が分かった。次の活動の時に、やってみよう。 	<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>窓拭き活動を振り返り、話し合ったことをもとに、自分や仲間の窓拭きのよい点や改善点に気付いたり、よりきれいにできるポイントを考えたりしようとしている。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言内容や本時の窓拭き活動の様子、話し合い活動の様子から見届ける。 		

9年4組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：進路・余暇（全105時間）

<p>特別支援学級 第9学年の目標</p>	<p>(1) 問題解決力に関わって 自分の目指す姿を決め、願いをもって活動に取り組むことができるようにする。 願いの実現に向けて試行錯誤し、よりよい自分になるために自己選択をして、行動することができるようにする。</p> <p>(2) 関係構築力に関わって 願いの実現に向けて仲間と一緒に活動に取り組む意識を感じながら、相手や場面に相応しい言動をするようにする。</p> <p>(3) 貢献する人間性に関わって 体験的な学習を通して、自分と社会とのつながりを実感し、自分の生活に生かそうとする態度を養う。 お客さんや社会で生活する人々の役に立つために、意欲的に活動に取り組もうとする態度を養う。</p>
<p>カテゴリー設定の理由</p>	<p>卒業後の進路先について調べたり、職業について調べたりすることで、自分の進路について見通しをもつ。その中で興味をもった職業について体験することで、働くことの意義や、やりがいを学んでいく。また、仲間と一緒に様々な余暇活動を行うことを通して、自分の好きな時間有意義に過ごす楽しさも味わっていく。ときには身近な人と相談しながら、自己選択、自己決定することを通して、自分の将来の生き方を考えていく。</p>
<p>学びの基礎となる道徳的諸価値</p>	<p>自主、自律、自由と責任・向上心、個性の伸長・希望と勇氣、克己と強い意志・思いやり、感謝・友情、信頼・節度、節約・遵法精神、公德心・社会参画、公共の精神・勤労・よりよく生きる喜び</p>
<p>学びを構成する要素</p>	<p>人（自分、仲間、先生、高等部の先生、卒業した先輩、事業所の方） 夢 進路 休日の過ごし方 附属小中学校 進路先の学校 貢献 やりがい 長所 短所 喜び 困難 社会人として マナー お金 施設利用</p>
<p>月</p>	<p>4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月</p>
<p>単元名(時数)</p>	<p>今後の進路を考えよう (20) 何して過ごす？ (25) 働くって、どういうこと？ (40) これまでの自分 これからの自分 (20)</p>
<p>主な学習活動</p>	<p>○進路先について、パンフレットやインターネットを使って調べる。 ○自分の体みやGWにどんなことをおこなったか进行交流する。 ○学校で学んだことを通して進路先について自分の目で見る。自分の目で聞く。 ○高等特別支援学校、高等部の生活に見通しをもつ。 ○学校生活や学習内容で附属小中学校と同じことや異なることを見付ける。 ○本人や保護者と相談しながら、進路先の学校を決めていく。 ○障がい者雇用に関する情報を調べ、卒業後の働く様子について学ぶ。 ○これまでの進路先になる学校は、どんな学校なのか分からない。 ○結果の仕事は先のことよりよく分からない。 ○進路先について進路先について聞くから分からない。 ○この学校が自分に合うのだろうか。 【・自主、自律、自由と責任・節度、節約・個性の伸長・希望と勇氣、克己と強い意志・思いやり、感謝など】</p>
<p>想定される ●ジレンマ ■エラー 【道徳的諸価値】</p>	<p>■自分の進路先をみんなにどう伝えるか分からない。 ●みんなに選んでもらいたけれど、ルールを知らない仲間がいる。 【・節度、節約・思いやり、感謝など】</p>
<p>人材活用 施設</p>	<p>・高等部のことを知っている勇近お先生 ・附属小中学校の先生 ・進路先の先生 ・障がい者雇用を推進している企業の方 ・学級や4組の仲間 ・先生 ・図書館 ・向業施設 ・言語：その日の出来事を書き返そう 分りやすい説明しよう ・数学：数と数量 ・体育：ゲーム運動 ・国語：話し方、聞き方、メモの取り方 見てきたことを話す ・まとめる方（レポートに）</p>
<p>教科等との関連</p>	<p>・学級や4組の仲間 ・先生 ・附属小中学校 ・図書館 ・向業施設 ・言語：話し方、聞き方、聞き方 手紙の書き方 ・数学：お金の計算 ・国語：話し方、聞き方、聞き方、聞き方 ・手紙の書き方（お札） ・数学：数を数える 計量の仕方 ・家庭科：正しい服の着方 衛生（水の入れ方、箱のふき方）の仕方 ・国語：相手に応じた話し方、聞き方 体験したことまとめよう ・数学：数を数える 計量の仕方 ・家庭科：正しい服の着方 衛生（水の入れ方、箱のふき方）の仕方</p>

本単元の目標			
	問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
9年4組 単元シート	自分が楽しんだり、仲間と一緒に楽しんだりするとういう願いの実現に向けて、進んで行動したり、意思決定したりできるようにする。(25)	仲間の趣味に耳を傾け、共に体験し、仲間の好きな過ごし方を認めることができるようにする。また、仲間と一緒に楽しむためにはどうすればよいか考え、実行できるようにする。	自分の好きな過ごし方を再認識したり、新たな過ごし方のよさに気が付いて取り入れたりする態度を養う。
単元名 何して過ごさず？	<p>○自分が休みの日や放課後、長期休業中などに行っていることを振り返る。</p> <p>○「趣味トーク」をして、仲間に関心のある自分の好きなことを紹介する。(2)</p>	<p>○調べた内容について、体験してみたい内容を順番に体験する。</p> <p>○仲間と一緒に楽しめる活動を相談し、計画を立てる。</p> <p>○計画した内容に沿って活動を体験する。(12)</p>	<p>○体験した活動について写真などを見て振り返り、自分の余暇の過ごし方について改めて考えたりまとめたりする。(3)</p>
活動の計画	<p>○紹介された過ごし方を順番に全員で体験する。</p> <p>○クラス以外の身近な人（家族や先生、他の学級の生徒など）は、どのように過ごしているのか、どんなことが好きなのか調べる。(8)</p> <p>(でてきそうなお内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電車・カードゲーム・ブロッック・調理 ・登山・キャンプ・ゴルフ・サッカーなど 		
加筆修正欄	<p>※挙げられた趣味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽鑑賞・アニメ・ゲーム ・Youtube・競馬・折り紙 ・サッカークイズ・観戦・ストレンジャー ・スライディング・ランニング ・工作・絵を描く・SNS ・家族とドライブ、買い物 等 <p>・僕はこんなことをして過ごしているよ。こんなことが好きだよ。</p> <p>・○○さんの好きなことっておもしろそうだな。</p>		
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてやってみただけおもしろいな。 ・僕の好きなこともみんなに体験してみたいな。 ・他にどんな過ごし方があるのか知りたいな。 ・○○さんの好きなことをやってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分一人で楽しむ活動もいいけど、みんなと楽しむ活動もしてみたいな。 ・みんなと出かけて楽しみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・○○さんがよくやっている活動を最近僕もやってみよう。 ・今度、友達を誘って○○をしてみたいな。
実際の姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●シレンマ ■エラーム 	<ul style="list-style-type: none"> ■他の仲間や先生たちはどんなふうに関心しているのか知らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなと遊びたいけれど、ルールを知らない仲間がいる。 ■活動場所までどうやって行けばいいのかわからない。 	

9年4組 本時案

(1) 目標

「おもしろたこ焼き作り」で、たこ焼きを自分で作ったり、仲間と一緒に食べたり、仲間と一緒にご飯を食べて、感じたことを伝え合いながら、あらためて自分を知ることができるようになる。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

自分の好きなことに気が付いたり、好きなことの幅を広げようとしたりする心情を育む。(個性の伸長)
仲間と協力して作ったり、仲間と一緒に食べたりするよさを感じる。(友情)

本時 (18/25)

○教師の手立てと見届け			
B (男)、E (男)、F (男)	A (男)	C (女)、D (女)	
<p>活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)</p> <p>1 前時に計画したことを振り返り、本時の活動を確認する ○前回、実際にたこ焼きを作ってみました。今日はお楽しみの具材を入れて食べてみるよ。 ・前回作ったたこ焼き、おいしかったな。今回も楽しみな。 おもしろたこ焼き作りを体験してみよう。</p> <p>2 ペアで一緒にたこ焼きを作る (※A・Eのペア、B・Cのペア、D・Fのペア) ○この前作ったたこ焼きの作り方を確認しながら、2人で協力して作ろう。 ・僕は生地を混ぜるから、○○さんはホットプレートに入れてね。 ・具材は2人に入れて、2人でひっくり返すこともやろう。</p> <p>3 作ったたこ焼きを食べ、ペアで具材を当て合おう ○それぞれのチームのたこ焼きを食べてみましょう。～チームのたこ焼きには何が入っていましたか。 ・何が入っているのかな。ドキドキするな。 ・これは梅干しだな。すっぱいな。 ・これは何の味だろう。よく分からないな。</p> <p>4 片付けをする</p> <p>5 体験してみte感じたことを交流する ○おもしろたこ焼き作りを体験して、どんなことを思いましたか。 ・今度は友だちを誘って家でやってみたいです。 ・仲間と一緒に作って、ドキドキしながら食べて楽しかったです。 ・ホットプレートで違うものも作ってみたいですね。 ・前回の普通のたこ焼き作りと違って、何が入っているのか当てるのが楽しかったです。 ・何が入っているのが分からないのは少し心配でした。</p>			
<p>○前時のたこ焼きづくりの様子を写真で振り返り、「おいしかった」「楽しかった」という気持ちを思い起こさせる。 ○前時計画を立てた具材のリストを示し、そのうち3種類を今回使うことを伝える。 ○前時に使用した調理手順を示した掲示を示し、作り方を簡単に確認する。 ○仲間と協力してたこ焼きづくりができるように、2人一組のペアでひとつのたこ焼き器を使い、具材が見えないよう分かれて作る。</p>	<p>○進んで割り振りをしたり、ペアの子にやり方を教えたり、手伝ったりする姿を価値付ける。</p>	<p>○安全に気を付けて調理ができるよう見届ける。必要に応じて教師が一緒に取り組む。</p>	<p>○「楽しかったです。」とだけ答えるときには、「どんなことが？」と切り返して質問する。 ○「仲間と一緒に体験して」という視点でも振り返るよう促す。</p>
<p>○やってみてうまくいかなかったことや心配だったこと、あまり楽しめなかったことなどもあれば聞き出す。</p>	<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか 自分で作ったり、仲間と食べたり、当て合ったりすることを楽しんでいる。また、体験してみte思ったことを伝えていく。(問題解決力) ・体験時の様子や振り返りの言葉で見届ける。</p>		

メモ

各教科等

メモ

【公開 I】2年3組 国語科学習指導案

2年3組教室 青木 笙悟

- 1 単元名 みんなでかんがえ つたえあおう 楽しいあそび
教材名 おにごっこ

2 指導の立場

(1) 教材について

教材文である「おにごっこ」では、おにごっこの遊び方について「①逃げてはいけないところを決める遊び方」「②逃げる人だけが入れるところを作ったり、つかまらないうちを決めたりする遊び方」「③おにが交代せずに、つかまった人がみんなおにになっておいかけるという遊び方」の3つが紹介されている。そして、それぞれのまとまりで、おにや逃げる人の立場から、その遊び方にどんな面白さがあるのかが述べられている。

(2) 児童生徒について

児童はこれまでの説明的な文章の学習において、「たんぼぼのちえ」と「どろづつ園のじゅうい」で順序を表す言葉を表す言葉に着目して読むことを、「馬のおもちゃの作り方」で説明の仕方の工夫を考えながら読むことを学習している。そのため、時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができるようになってきている。

しかし、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、それを共有することには弱さが見られる。それは、読み取りの目的意識や相手意識が低かったことが要因として挙げられる。

そこで単元を通して、授業のめあてに加えて、個人の学習のめあてを立てて学習記録表に記録していくことで、児童にとって課題が自分事になり、

主体的に学習に臨めるようにする。また、並行読書で様々な遊びに関する本を読み、単元の出口で学級の仲間に提案するという言語活動を設定することで、児童の目的意識を明確にする。

(3) 指導について

単元の導入では、これまでの生活で体験してきたおにごっこを想起しつつ、みんなでも楽しいおにごっこをすることを目的として設定する。教材文で紹介された3つの遊び方を読み、実際に行っていくことで、読み取った情報を確かめていく。さらに、他にはどんな遊び方があるのか、またおにごっこ以外の遊びではどうかを考え、「学級遊び提案会」を単元の出口に位置付ける。「学級遊び提案会」では、様々な遊びの本を読み、教材文「おにごっこ」を通して育んだ読みを生かして、大事な言葉である遊び方と面白さに着目して重要な語句を選び出し、学級の仲間に知らせる。

本時は教材文に書かれたおにごっこの内、3つ目の遊び方について読み取る場面である。児童はこれまでに紹介された2つのおにごっこの遊び方と面白さに着目して読んでいく。

本時では、キーワードや接続語を手がかりとして、重要だと考えられる語や文を、文章の中からの確に捉えられるようにする。また並行読書として、様々な遊びについて教材文と似たような形式で書かれている本を用意しておくことで、児童が他の文章についても同じ視点で読み、重要な語や文を的確に捉える力を反復・螺旋的に育めるようにする。

3 単元指導計画

学年	第2学年	単元名	みんなでかんがえ つたえあおう 楽しいあそび (全8時間)
単元で育む資質・能力			
	<p>・ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。〔知識及び技能〕(3) エ</p> <p>・ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1) カ</p> <p>・ 文章の中の重要な語や文を考えて選り出すことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1) ウ</p> <p>・ 学級の仲間と一緒に鬼ごっこを楽しんだり、学級の仲間に楽しい遊びを紹介したりするのために、課題意識をもって読書し、自分の考えを伝えようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>		
時	主な学習活動とねらい	評価規準	
	<p><u>学しゅうの計画を立てよう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「おにごっこ」を読み、どんな遊び方があるかを確認、学習の見通しをもつ。 ・ 「本でのしらべ方」を読み、分かったことをメモすることを確かめる。 ・ 様々な遊びについて、遊び方や面白さを見つけ、言語活動として「学級遊び提案会」を位置付ける。 ● 本単元の言語活動を確認し、学習目標を設定して学習の見通しをもつことができる。 	<p>遊び方を工夫したおにごっこの面白さを確かめるために、教材文を積極的に読み、これからの学習に見通しをもとうとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕</p>	
①			
②	<p><u>おにごっこのあそび方とおもしろさを分かりやすくまとめよう。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文で紹介されているおにごっこの遊び方と面白さを読み取る。 ・ 並行読書で他の遊びについて調べ、遊び方や面白さをメモする。 ● おにごっこの遊び方や面白さを相手に伝わりやすいようにまとめることを通して、重要な語や文を選り出すためには本文中に何度も出てくる言葉や接続語の後ろにある文に着目すればよいことに気づき、自分の考えを短い言葉で表現することができる。 	<p>「読むこと」において、重要な語や文を選り出すためには本文中に何度も出てくる言葉や接続語の後ろにある文に着目すればよいことに気づいて、自分の考えを簡潔に表現している。〔思考・判断・表現C(1) ウ〕</p>	
③			
④			
本時			

⑤ ⑥	<p>自分がしようかいしたいあそびについてしらべよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を生かして、自分が紹介したい遊びについて書かれた本を選び、遊び方や工夫、面白さをメモする。 ●遊びについて書かれた本を読んで調べ、友達に分かりやすく説明するため、遊び方の工夫や面白さをメモすることができる。 	<p>読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。[知識・技能(3)エ] 「読むこと」において、いろいろな遊びについて書かれた本から、自分の紹介したい遊びを探し、その遊び方や工夫をメモし、面白さを考えている。[思考・判断・表現C(1)ウ]</p>
⑦	<p>グループでいてあそびをきめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで交流し、感じたことを伝え合って、提案する遊びを一つに絞る。 ●異なる遊びを選んだ仲間と交流することを通して、遊び方や工夫に関する叙述に着目して、その面白さを共有することができる。 	<p>「読むこと」において、自分が紹介したい遊びについての遊び方を確認し、その面白さを仲間と共有している。[思考・判断・表現C(1)カ]</p>
⑧	<p>「学きゅうあそびていあん会」をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時にまとめた遊びについて、グループごとに提案する。 ●「学級遊び提案会」を行い、前時にグループで決めた遊びを提案すること、遊び方や工夫、面白さを、学級の仲間に分かりやすく伝えることができる。 	<p>「読むこと」において、自分が紹介したい遊びについての遊び方や工夫、面白さを仲間と共有している。[思考・判断・表現C(1)カ]</p>
単元で自己実現に向かうための資質・能力を發揮している姿		
問題解決力	おにごっここの遊び方や工夫、面白さを読み取ったり、自分の紹介したい遊びを分かりやすく伝えたりするために考え続ける姿。	
関係構築力	相手の考えをよく理解するために聞こうとしたり、自分の考えを分かりやすく伝えるために説明の仕方を考えたりする姿。	
貢献する人間性	自分の紹介したい遊びについて、遊び方の工夫から面白さを考え、学級の仲間に発信し、活動しようとしている姿。	
自己実現に向かうための資質・能力を發揮している姿の見届けの視点と手立て		
問題解決力	単元や単位時間、次時への見通しをもった上で自分の学習目標を設定し、単位時間ごとに課題意識をもちながら取り組んでいるか、学習記録表や児童のノート、発言から見届ける。	
関係構築力	仲間と対話する中で、自分の紹介したい遊びについて仲間に分かりやすく伝えたり、仲間の紹介したい遊びの面白さを考えたりしているかを交流の様子から見届ける。	
貢献する人間性	仲間に自分の紹介したい遊びを伝えようとメモをとったり、仲間の説明と自分の考えを比べて感じてたことを仲間に伝えようしたりしているか、「学級遊び提案会」の準備や本番の様子から見届ける。	

4 教科にかかわる本時のねらい

おにごっここの遊び方や面白さを相手に伝わりやすいようにまとめ、本文中に何度も出てくる言葉や接続語の後ろにある文に着目すればよいことが分かり、重要な語や文を選び出すことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ

5 本時の展開(4/8)

児童生徒の学習活動	教師の手立てと見届け				
<p>1 本時のめあてを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おにごっこはおにになった人も、逃げる人も、みんなが楽しめるように、工夫されてきた。 ・おにごっこには、逃げてはいけないところを決めるものがある。 ・おにごっこには、逃げる人だけが入れるところを作ったり、つかまらないうちを決めたりする遊び方もある。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">三つ目のあそび方とおもしろさを分かりやすくまとめよう。</p> <p>2 教材文に書かれている三つ目の遊び方とその面白さを読み取る</p> <p>○これまで学んできた読み方</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;">キーワード</td> <td style="padding: 5px;">本文中に何度も出てくる「遊び方」と「面白さ」を表す言葉に着目して読む。</td> </tr> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;">つなぎ言葉</td> <td style="padding: 5px;">文の初めにあり、まとまりの内容を捉えるための手がかりとなる。</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・「おにが交代せずに、つかまったり人が、みんなおにになっておいかける。」という遊び方もある。 ・「おにになった人は、みんな手をつないでおいかける。」と決める。 ・「あそび方」「おもしろさ」というキーワードがあるから、この文は大切だと思うよ。 ・「ほかに」という言葉があるから、今までは違う遊び方を紹介しているね。 ・「おに」と「にげる人」も大事な言葉だね。 ・「おに」と「にげる人」には、それぞれどんな面白さがあるかな。 ・「ところが」の後ろにある文の大切だと思うよ。 ・「おにごっこがすぐにおわってしまいます」のところ？ ・だから「おにになった人は、みんな手をつないでおいかける」と決めるんだね。 ・そうすると、おにには力を合わせておいかけるという楽しさが加わるね。 ・逃げる人はおにが増えるにつれて、つかまりにくくなると書いてあるよ。 <p>3 全体で確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おにが交代せずに、つかまったり人がみんなおにになって追いかける。 →おにには、つかまえやすくなり、逃げる人はどきどきすることも増える。 ・おにになった人は、みんな手をつないでおいかける。 →おにには、力を合わせて追いかける楽しさがかわる、逃げる人はつかまりにくくなる。 <p>4 本時の学びを生かして、並行読書で他の遊びについて調べ、カードにまとめる</p>	キーワード	本文中に何度も出てくる「遊び方」と「面白さ」を表す言葉に着目して読む。	つなぎ言葉	文の初めにあり、まとまりの内容を捉えるための手がかりとなる。	<p style="text-align: center;">教師の手立てと見届け</p> <p>(●)教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力</p> <p>○●児童が学習への見通しや意欲がもてるよう、学習記録表を用いて、前時までの学習や本時の目標を確かめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>研究にかかわって</p> <p>【見届けの視点】</p> <p>単元や単位時間の見通しをもった上で自分の学習のめあてを確かめ、遊び方や面白さを読み取っているか、学習記録表や児童のノート、発言から見届けらる。(問題解決力)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ●読み取りの際には、遊び方とおもしろさという視点に絞って読み取るように助言する。また、おにごっこには、おにになった人と逃げる人、それぞれの面白さがあることを確かめる。 ●様々な遊びについて紹介されている本を用意し、「遊び方」と「面白さ」に着目して重要な語や文をメモしているか確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価規準】</p> <p>「読むこと」において、本文中に何度も出てくる言葉や接続語の後ろにある文に着目して、重要な語や文を選び出している。〔思考・判断・表現C(1)ウ〕</p> </div>
キーワード	本文中に何度も出てくる「遊び方」と「面白さ」を表す言葉に着目して読む。				
つなぎ言葉	文の初めにあり、まとまりの内容を捉えるための手がかりとなる。				

【公開Ⅱ】6年2組 国語科学習指導案

6年2組教室 牧村 拓

1 単元名 私はこう読む！「鳥獣戯画絵巻物」

教材名 「鳥獣戯画」を読む

2 指導の立場

(1) 教材について

教材文『「鳥獣戯画」を読む』は、アニメーション映画の監督高畑勲が、「鳥獣戯画」の素晴らしさについて書きまとめた説明的な文章である。特に、鳥獣戯画の優れた描写をより適切に伝えようと、「事実と感想、意見などの関係」や「文章全体の構成」などを基に、目的に応じて論を進めているという特徴がある。

(2) 児童生徒について

説明的な文章の教材に関わって、第5学年「言葉の意味が分かること」において、児童は文章全体の構成を捉えて要旨を把握した。また、「固有種が教えてくれること」において、資料と文章を結びつけて読むことで正確に理解していく経験をしてきた。

このようにこれまでの学びを見てきたとき、児童は、論の進め方について考えることに関わっては、筆者側に立って表現の意図について考える経験は少なかつたことがいえる。それは、単元に位置付けた言語活動において、児童にとつて考える必要性がなかつたことが理由としてある。

(3) 指導について

本教材文の特徴でもある「論の進め方」について、児童が主体的に考えるには目的が必要不可欠である。そこで、児童が目的をもって論の進め方について考えるために、「筆者の論の進め方を生かして、鳥獣戯画の魅力を書きまとめる」言語活動を設定した。

「鳥獣戯画絵巻物」甲巻の別の場面の中から自分の好きな場面を選び、筆者の説明の工夫を生かしながら、その魅力を表現する文章をつくることを目指す。書きまとめた文章の読み手は、鳥獣戯画が所蔵されている榎尾山高山寺のご住職と、その鳥獣戯画を広めたいと願う担当の深津さんである。お二人の「みなさんの素直な見方で鳥獣戯画の魅力を教えてほしい」という願いを受けたことで、児童は使命感をもって鳥獣戯画を鑑賞し、その魅力を表現することに主体的となり、言葉の意味や使い方にこだわりをもつことができると考える。だからこそ、『「鳥獣戯画」を読む』の高畑勲の論の進め方を生かしたいと思ひ必要感をもって考えていくのである。

ここまでは全体を通してみたときの児童への手立てである。加えて、さらに児童一人一人の実態に応じた読み方を学びに位置付けることができれば、より効果的に資質・能力を育成できると考えた。そこで、言葉による見方・考え方を働かせて自分の目的や実態に合った国語の学習をするために、学習記録表を用いることにした。学習記録表とは、単元を通して位置付ける言語活動と、教材文の特徴を理解した上で、自己課題を設定し、その課題に対しての振り返りを記録したものである。自己課題と振り返りの間には、自分が考えたい問いや、発見したことなどの学びもメモすることができるとなっている。この学習記録表を通して、今の自分の実態を俯瞰し、より自分に合った読み方が実現できることを目指す。

3 単元指導計画

学年	第6学年	単元名	私はこう読む！「鳥獣戯画絵巻物」（全6時間）
単元で育む資質・能力			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。〔知識及び技能〕(1)ク ・ 目的に応じて、文章と絵などを結び付けるなどして必要な情報を見つげたり、論の進め方について考えたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ ・ 自分が選んだ「鳥獣戯画」の魅力を読み手に分かりやすく表現するために、課題意識をもって筆者の表現の工夫を見つけたり、論の進め方について考えたりしようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕 		
時	主な学習活動とねらい	評価規準	
①	<p>学習の計画を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「鳥獣戯画絵巻物」を知る。 ・ 『鳥獣戯画』を読む。 ・ 相手を位置付ける（高山寺ご住職、担当の深津さん）と出会い、願いを受ける。 ● 本単元の言語活動を確認し、学習目標を設定して学習の見通しをもつことができる。 	<p>「鳥獣戯画」について関心をもち、学習の見通しをもってご住職や深津さんに魅力を発信したいという願いをもち学習に取り組もうとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕</p>	
②	<p>絵と文章を照らし合わせながら、筆者のものの見方をとらえよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。 ● 筆者が絵のどの部分に着目し、どう評価しているのかを叙述をもとに見つけることができる。 	<p>「鳥獣戯画」にある比喩や倒置法などの修辭法に関する表現の技法について気付いている。〔知識・技能〕(1)ク</p> <p>自分の表現に生かすために、文章と絵を結び付けて必要な情報を見つけている。〔思考・判断・表現〕C(1)ウ</p>	
③	<p>鳥獣戯画の魅力伝えるための筆者の論の進め方について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高畑さんの用いた表現や構成の工夫について考える。 ● 目的に応じて考えを効果的に伝えるための表現や構成の工夫を捉えることができる。 	<p>自分の表現に生かすために、書き手は自分の考えをより適切に伝えるために、どのように論を進めているのかを考えたりしている。〔思考・判断・表現〕C(1)ウ</p>	
④ 本時	<p>筆者の論の進め方を生かして紹介文を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が選んだおすすめの「鳥獣戯画」を紹介する文章を書く。 ● 筆者の論の進め方を生かして、自分が選んだ「鳥獣戯画」の魅力が伝わる紹介文を書くことができる。 	<p>筆者が自分の考えをより適切に伝えるために、どのように論を進めているのかについて考えている。〔思考・判断・表現〕C(1)ウ</p>	
⑤			

⑥	<p>紹介文を確認して、ポストに投函しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出来上がった紹介文を交流する。 ・ 高山寺に送るための準備をする。 ●他のグループに紹介文を確認してもらい、互いによい点を伝え合い、単元全体を振り返って学びを確かめることができる。 	<p>鳥獣戯画の魅力表現するための紹介文から、課題意識をもって論の進め方の工夫を見出し、読み取ったことを生かして自分の考えを伝えようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]</p>
単元で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿		
問題解決力	<p>『鳥獣戯画』を読むから、本文の叙述や絵の示し方などに着目して筆者の説明の工夫を見つげたり、それを自分の文章の中に生かしたりしようとして粘り強く取り組む姿。</p>	
関係構築力	<p>全体交流や小グループ交流において、自分の考えを分かりやすく伝えたり、相手の意見を認めたり共感したりする姿。</p>	
貢献する人間性	<p>身に付けた表現の工夫を自分の文章の中に生かしてよりよい文章にしようとしたり、仲間の文章をよりよくするために意見を述べたりアドバイスをしたりしている姿。</p>	
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て		
問題解決力	<p>単元の学習内容を見通して、単位時間ごとに学習活動や自分の実態に応じた自己課題を設定し、振り返りながら取り組んでいるか、学習記録表から見届ける。</p>	
関係構築力	<p>共同的な学びや小グループでの活動における仲間との関わりを通して、自分の考えや文章を見直したり、必要に応じて加筆修正したりしているか、ノートや作文から見届ける。</p>	
貢献する人間性	<p>筆者の論の進め方の工夫を生かした紹介文になっているか、ワークシートから見届ける。</p>	

4 教科にかかわる本時のねらい

『鳥獣戯画』を読む」における筆者の論の進め方を、自分が選んだ「鳥獣戯画」の魅力を発信する紹介文をよみ、筆者が自分の考えをより適切に伝えるために、どのように論を進めているのかについて考えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ

5 本時の展開(4/6)

児童生徒の学習活動	教師の手立てと見届け				
<p>1 本時の活動を確認し、本時の課題(自己課題)を設定する</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">筆者の論の進め方を生かして紹介文を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は、□□の描写のところを紹介文に書く担当なので、この部分で使える高畑さんの論の進め方を見つけたいです。 僕は、●●の描写のところ、魅力を分かりやすく伝えたいんだけど、どこを生かしたらいいかわからないから、初めからグループの仲間に聞きに行こう。 <p>※児童は上記のように事故を省察して自己課題を設定する。</p> <p>2 筆者の工夫を取り入れながら、自分の選んだおすすめの場面を紹介する文章を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> 個や協働で自分が選んだ「鳥獣戯画」の場面の魅力を紹介する文章をまとめる。 <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個別</div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">協働</div> </div> <p>取り入れたい表現方法(論の展開の工夫・表現の工夫)を付箋に書き出していく。</p> <p>付箋に書いた工夫を生かして、紹介する文章を書いていく。</p> <p>【論の展開の工夫】身近なものに例える、細部→全体、事実→自分の考え</p> <p>【表現の工夫】書き出しの工夫、体言止め、短文の繰り返し、語り掛けるような書き方</p> <p>【絵の示し方の工夫】二つに分けて示す→全体を示す</p> <p>※個で進めたり、協働で知恵を出し合ったりすることで、紹介文づくりを進める。</p>	<p>(●)教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力</p> <p>○●学習記録表を用いて、前時までの学習内容を振り返ったり、単元の学習に見通しをもって臨めるようにしたりする。</p> <p>●論の進め方に沿って考えることができるように、グループで考えるときは高畑さんの説明の仕方を根拠にするように条件設定する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>研究にかかわって</p> <p>【見届けの視点】</p> <p>グループ交流で、自他の考えを比較・検討し、より魅力が伝わる文章にするために話し合ったり、自分の文章を直したりしようとする姿。(関係構築力)</p> </div> <p>●ホワイトボードに、自分たちが選んだ「鳥獣戯画」の拡大写真を貼り、その周りに自分の取り入れたい表現や論の進め方の工夫を付箋で張りながら、検討していく。</p> <p>○グループでの検討がより目的となるために、ときには教師がグループの中に入り、仲間の紹介文が筆者の論の進め方のどこを生かしているのか確認したり、説明の仕方を生かすことで分かりやすくなった文章を広げたりする。</p>				
<p>3 グループで集まり、紹介文について検討する</p> <p style="text-align: center;">A児の例文</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">参考にした箇所</th> <th style="width: 50%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">蛙の絵には、投げ飛ばしたとたんの激しい気合がこもっていることがわかるね。～中略～</td> <td style="padding: 5px;">投げられたのに、目も口も笑っている。ほんのちよつとした筆さばきだけで、見事にそれを表現している。</td> </tr> </tbody> </table> <p>※このような内容を伝え合って紹介文について検討する。</p>	参考にした箇所		蛙の絵には、投げ飛ばしたとたんの激しい気合がこもっていることがわかるね。～中略～	投げられたのに、目も口も笑っている。ほんのちよつとした筆さばきだけで、見事にそれを表現している。	<p>【評価規準】</p> <p>筆者が自分の考えをより適切に伝えるために、どのように論を進めているのかについて考えている。</p> <p style="text-align: right;">〔思考・判断・表現C(1)ウ〕</p>
参考にした箇所					
蛙の絵には、投げ飛ばしたとたんの激しい気合がこもっていることがわかるね。～中略～	投げられたのに、目も口も笑っている。ほんのちよつとした筆さばきだけで、見事にそれを表現している。				
<p>4 本時のまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の作品を抽出し、論の進め方に着目して工夫されている部分を全体で確認する。 今日はどんなことができたのかを振り返り、本時の個人課題に対する振り返りを記入する。 <p>私は高畑さんと同じように、まず絵が表している様子を説明した上で、それに対する自分の考えを述べるという構成で書くことを心掛けて書いた。これで読者は、絵のどの部分のことを述べているか分かりやすくなり、自分の考えがより伝わると思う。</p>					

【公開Ⅱ】9年1組 国語科学習指導案

9年1組教室 野々村 琢磨

況を意識しすぎるあまり、自らの考えを提示できないという弱さもみられる。そこで、本単元では、グループ会議を設定することで、一人一人の話す場が位置付けられ、自分の考えを変えたり、納得できる結論に向けて歩み寄りたりする場を設定する。そうすることが、合意形成に向かうために必要な資質能力を育むことにつながると考えた。

1 単元名 合意形成に向けて話し合おう

2 指導の立場

(1) 教材について

本単元は、中学校第3学年の内容「情報(2)ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる」および「A話す・聞く(1)オ 進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる」にもとづく単元である。この単元では言語活動として会議の場を位置付ける。社会にある課題や身の回りにある問題点について、一人一人が解決方法を持ち寄り、グループで一つにまとめる会議を行うこととした。生徒が自分の考えを主張しながらも、他者の考えを尊重し、よりよい提案をつくっていくことを目指したい。

(2) 児童生徒について

本校の生徒は以前より、学級活動や生徒会活動等での話し合いの際には、自分の考えをもち、それを積極的に他者に伝えることができている。自分の考えを裏付ける根拠を明確に示しながら話すこともできている。その一方で、思いが強くと、他者の考えを柔軟に受け入れることができないう弱さが見られる。また、自分の考えをもっているが、全体の場などでは周囲の目や状

(3) 指導について

実社会においても、ありとあらゆる場面で合意形成が必要になる。家庭内で、職場で、時と場に応じて様々な立場の人と課題や問題の解決のために話し合うことがある。立場の違う人との間で合意形成を図るには、「心理的な納得」と「論理的な納得」が必要であり、どちらか一方のみではその後の解決に向けての行動に支障をきたしてしまう。

今回は、「東京の大学に進学したい子」と「地元の大学に進学してほしい親」との間でどのように合意形成を図るかを課題として設定した。このテーマを設定した理由は、先にも述べた「心理的な納得」と「論理的な納得」の2つの納得を満たすことができるように話し合いをさせたいと考えたからである。実生活の中でも起こりうる議論であり、子は子の、親は親のさまざまな考えや思いを抱いてこの問題に向き合おうだろう。生徒たち自身でテーマを設定し、合意形成に向けて話し合いを進めていくという方法もあるが、合意形成を図るためには「論理的な納得」だけではなく「心理的な納得」も必要になるということを実感させるため、このようにテーマを設定することとした。

また、自分の意見や考えを押し通すのではなく、お互いの意見や考えの共通点を見出しながら納得できる結論を求めて歩み寄る建設的な話し合いができるよう、話型等を示しながら授業を展開していく。

3 単元指導計画

学年	第9学年	単元名	合意形成に向けて話し合おう（全7時間）
単元で育む資質・能力			
			<ul style="list-style-type: none"> ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。〔知識及び技能〕（2）ア ・進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりし合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。 〔思考力、判断力、表現力等〕 A（1）オ ・合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、納得できる結論を導き出すために話し合おうとしている。 〔学びに向かう力、人間性等〕
時	主な学習活動とねらい		評価規準
	<p>単元の学習計画を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 提示された課題を確認し、今後の活動の見通しをもつことができる。 ・ 単元全体の見通しをもつ。 ・ テーマを確認する。 ・ 合意形成を図る会議の仕方を知る。 <p>課題解決に向け、情報を集めよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 課題解決に向けて、それぞれの立場で考えをまとめることができる。 ・ 相手を説得させられるような根拠となる情報を集める。 ・ 集めた情報が信頼性のあるものか確かめる。 		<p>自分たちの解決すべき課題を知り、単元の見通しをもっている。〔主体的に学習に取り組む態度〕</p> <p>解決すべき課題を理解し、解決策を考え、そのために必要な情報を集めている。〔知識・技能（2）ア〕</p>
①			
②			
③			
	<p>グループ会議を開き、提案をまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 立場や考えの違う者同士での会議を通して、誰もが納得できる結論を導くためには「論理的な納得」と「心理的な納得」の両者が必要であることに気づき、よりよい結論を導き出すために考えを広げたり深めたりしている。 ・ グループの仲間に向け、自分の考えを提案する。 ・ 納得できる結論を求めて、会議を行う。 		<p>仲間の発言の共通点や相違点を見つけ出し、自分の考えを変えたり、互いが納得できる結論を求めたりしながら話し合っている。〔思考・判断・表現 A（1）オ〕</p>
④			
本時			

⑤	<p>単元を振り返ろう。</p> <p>●合意形成を図るためには、仲間の意見に合わせて自分の考えを調整しながら、互いが納得できるような結論を求めて話し合いを進めることが必要だと理解することができる。</p> <p>・単元の振り返りを行う。</p>	<p>自分の考えを押し通すのではなく、仲間の意見に合わせて調整したり、互いに納得できる結論を求めたりしながら合意形成を図ることの必要性を感じている。[主体的に学習に取り組む態度]</p>
単元で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿		
問題解決力	合意形成に向けて、根拠を明確にしながら自分の考えをまとめ、仲間と積極的に意見を出し合いながらよりよい答えを求め続ける姿。	
関係構築力	自分の意見と仲間の意見を比較しながら聞き、合意形成に向けて意見を変えたり納得できる結論を見出したりしながら会議に臨む姿。	
貢献する人間性	共通点や相違点を整理し、課題解決に向けて互いの意見や考えを生かそうとする姿。	
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て		
問題解決力	単元や単位時間、次時への見通しをもった上で自分の学習目標を設定し、単位時間ごとに課題意識をもちながら取り組んでいるか、学習記録表から見届ける。	
関係構築力	グループ会議の中で、課題解決に向けての自分の考えを提案したり、仲間の意見を聞き、自分の意見を修正したり納得できる結論を見出したりしているかを見届ける。	
貢献する人間性	自分の意見を仲間の意見と比較して聞いたり、仲間の意見を生かそうとして聞いたりしているか、グループ会議の様子から見届ける。	

4 教科にかかわる本時のねらい

立場や考えの違う者同士での会議を通して、誰もが納得できる結論を導くためには「論理的な納得」と「心理的な納得」の両者が必要であることに気づき、よりよい結論を導き出すために考えを広げたり深めたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)オ

5 本時の展開(4/5)

児童生徒の学習活動		教師の手立てと見届け							
<p>1 本時の課題、活動の流れを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日は、各自の立場に合わせて提案をし、議論を進めていく。 グループ会議を開き、提案をまとめよう。 <p>2 グループ会議に向けての準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを実現するために、論の展開や効果的な情報の提示方法について再確認をする。 事前に必要な資料を、タブレット端末等にまとめておく。 <p>3 グループ会議を開く</p> <table border="1"> <tr> <td>東京の大学に進学したい子</td> <td>地元の大学に進学してほしい親</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 最先端の設備が整っている大学である 目指している大学の進学実績、合格率は申し分ない </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 地元の大学の設備は整っている 進学実績、合格率も十分である 一人暮らしをするためには、かなり費用が掛かる </td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 勉強と部活動を行わせ バイトもしながら、仕送りだけに頼らない生活をする </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 家事をこなしながら、勉強できるのか 東京での生活が心配である </td> </tr> </table> <p>相手が何を求めているのか、何を解決すれば自分の考えに納得してもらえるのかを探り、これまでの経験を語り、や手持ちの資料を提示したりする</p> <p>根拠となる資料を提示しながら話をする</p> <p>具体的な数値やグラフを示しながら説明することが難しい</p>				東京の大学に進学したい子	地元の大学に進学してほしい親	<ul style="list-style-type: none"> 最先端の設備が整っている大学である 目指している大学の進学実績、合格率は申し分ない 	<ul style="list-style-type: none"> 地元の大学の設備は整っている 進学実績、合格率も十分である 一人暮らしをするためには、かなり費用が掛かる 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強と部活動を行わせ バイトもしながら、仕送りだけに頼らない生活をする 	<ul style="list-style-type: none"> 家事をこなしながら、勉強できるのか 東京での生活が心配である
東京の大学に進学したい子	地元の大学に進学してほしい親								
<ul style="list-style-type: none"> 最先端の設備が整っている大学である 目指している大学の進学実績、合格率は申し分ない 	<ul style="list-style-type: none"> 地元の大学の設備は整っている 進学実績、合格率も十分である 一人暮らしをするためには、かなり費用が掛かる 								
<ul style="list-style-type: none"> 勉強と部活動を行わせ バイトもしながら、仕送りだけに頼らない生活をする 	<ul style="list-style-type: none"> 家事をこなしながら、勉強できるのか 東京での生活が心配である 								
<p>4 本時のまとめ、次時の活動内容を確認する</p> <p>今日は、グループ会議を行った。実際に話をしてみると、なかなか思ったように結論をまとめることができなかった。例えば、大学の設備は必要な費用、その後の実績等、データとして明確に出ているものを見せられれば、その提案について頭の中では納得することができる。しかし、頭ではわかかっていても、自分の気持ちやそちらに向かない場合、どんなに根拠の強い情報を示されたとしても、すんなりと納得することはできない。「論理的な納得」については合意できたとしても、「心理的な納得」についてはなかなか合意に導くことができなかった。ここで、お互いができるように歩み寄って合意を図っていくか、今後考えていきたい。</p>									

(●教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力)
 ○●単元全体の流れや、本時の会議の目的が明確になるような掲示を用意し、黒板に示す。

研究にかかわって

【見届けの視点】
 課題解決に向け、根拠を明確にしながら提案することとができているか、会議の様子やタブレット端末の録音機能を活用して見届ける。(問題解決力)
 相手の意見や考えを尊重し、共通点や相違点を見出しながら会議が進行できているか、会議記録やプリントへの記述から見届ける。(関係構築力)

- 会議の進行方法については予め説明をし、随時確認ができるようにタブレット端末に資料を用意しておく。
- 話し合いが停滞しているグループについては、現在の状況を整理し、以下のどのような動きが必要であるかを考えさせる。
 - ・ 発言を促す。
 - ・ 新たな情報(根拠)を提示する。
 - ・ 論点を整理する。
 - ・ 互いの意見を整理する。
 - ・ 納得できる結論を見つける。

【評価規準】

グループ会議の中で共通点や相違点を見つけ、自分の考えを変え、誰もが納得できる、話し合いをしている。〔思考・判断・表現 A(1)オ〕

【公開 I】6年1組 社会科指導案

北舎3階多目的ホール 高木 俊裕

1 単元名 「歴史との対話」

2 指導の立場

(1) 題材について

本校では、義務教育学校という特性を生かし、6年生での歴史学習、後期課程での歴史的分野の学習内容を精査し、カリキュラムを編成している。

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説の歴史的分野の「内容A（1）（2）及び小学校の内容（2）アイ（ア）」にもとづく単元である。具体的には、身近な地域の歴史学習や年表の読み取りなどの活動を通して、時期や年代の推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、歴史上の人物や文化財、出来事などを理解したり、時代区分との関わりなどについて考察したりする。また、自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化に興味や関心を持ち、児童が歴史と自分たちとの関係をより具体的に考えることができるようにしたい。そのために、関ヶ原古戦場記念館を活用し、歴史的な背景や地域的な環境、私たちとの関係などに着目して、歴史を追究する方法を学ぶ機会にするとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現することができるようにしたい。

(2) 児童生徒について

児童は社会科におけるこれまでの学習において、単元の最初に教科書などを基に自分たちの知的好奇心、興味・関心、疑問などから『問い』を立て、それを解決することで学びを進めてきた。政治の学習では『内閣総理大臣がどのように選ばれているのか』という『問い』を解決していく中で、「どうして内閣総理大臣は国民が決められないのか。」という新たな疑問を

生みだし、現代の政治の仕組をより深く考ええてきた。

児童に「歴史ってどんな学習をするの？」と尋ねたところ、「昔のことを知る学習」や「歴史上の人物が何をしたのかを覚える学習」などと発言した。児童にとって、歴史とは、昔の出来事を「知る」、「覚える」といった意識がある。このような実態にある児童であるからこそ、「歴史を学ぶ」だけではなく「歴史で学ぶ」意味を一緒に考えたい。

(3) 指導について

本時は、「歴史を学ぶ意味は何か。」を考える実践である。そのために、関ヶ原古戦場記念館の見学を通して見ていただいた『問い』を解決していく中で、戦いに関係した人物の人間関係や戦いの様子、原因、作戦の意図などを知るだけに留まらず、自分自身の社会的事象の捉え方を見直すきっかけを提供する。

具体的には、関ヶ原の戦いを「争い」という視点で捉えたときに、関ヶ原の戦いと現代社会で起きている「争い」では、「争い」によって同じように命が失われているという点では同じであるにも関わらず、過去と現代という時代が変わることによって、抱く認識が異なることに着目する。そうした、認識の違いが生まれる要因がどこにあるのかを考えることを通して、社会的事象の捉え方を見直すことができるようにする。

見直した後に、「今日の学習は最後に何について考えたのか」を問うことで、「歴史を学ぶ」で始まった本時の学びが「歴史で争いを学ぶ」学習になっていくことに気付けるようにする。そして、過去と現代の事象であっても関連付けながら、思考できる「応用可能な思考力」を育むことが歴史学習の目的であることを共有したい。

学びの振り返りでは「歴史を学ぶ意味は何か。」を考え、表現することで、これからの歴史学習を「歴史で学ぶ」ことを通して、過去と現在のつながりを考え続けたり、歴史と自分のつながりを考えたりするきっかけとした

3 単元指導計画

学年	第6学年	単元名	歴史との対話 (全8時間)
単元で育む資質・能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な歴史や歴史上の人物、出来事を年表や各種資料などから読み取る活動を通して、年代の表し方や時代区分についての基本的な知識や大まかな歴史を理解することができる。〔知識及び技能〕 ・歴史上の人物や出来事、文化遺産について、知ったりまとめたりする活動を通して、歴史の大きな流れや時代の特色を考察し、その課程や結果を適切に表現することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 ・歴史的分野の学習を始めるにあたって、歴史を学習する意味について考え、これからの社会に生かそうとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕 			
時	主な学習活動とねらい		
①	<p>第1時：年表と岐阜県の歴史</p> <p>年表からあなたが気になることは何か。</p> <p>○年表や様々な資料を読み取る活動を通して、年代の表し方や時代区分などの基本的な知識や大まかな歴史をつかむことができる。</p>	<p>年表と関連する資料から興味・関心、疑問をもつことを通して、年代の表し方や時代区分についての基本的な知識や大まかな歴史をつかんでいく。〔知識・技能〕</p>	評価規準
②	<p>第2時：関ヶ原の戦い</p> <p>関ヶ原の戦いはどんな戦いなのか。</p> <p>○年表に記載されている、岐阜県内で起きた関ヶ原の戦いについて、各種資料から読み取る活動を通して、戦いに関係した人物やその背景などを理解することができる。</p>	<p>各種資料から関ヶ原の戦いの様子を調べる活動を通して、関係する人物やその背景について理解している。〔知識・技能〕</p>	
③	<p>第3・4・5時：関ヶ原古戦場記念館見学</p> <p>関ヶ原の戦いはどんな戦いなのか。</p>	<p>古戦場記念館の方から話を聞いたり、展示資料から戦いの様子などを読み取ったりする活動を通して、関ヶ原の戦いに関係した人物の人間関係や戦いの様子、原因を理解している。〔知識・技能〕</p>	
④	○映像や展示資料、学芸員の方の話から関ヶ原の戦いを考える活動を通して、戦いに関係した人物の人間関係や戦いの様子、原因を理解することができる。		
⑤			
⑥	<p>第6時：みんなと考えたい『問い』</p> <p>見学からみんなと考えたい『問い』は何か。</p> <p>○事前学習や見学から、関ヶ原の戦いへの知的好奇心、興味・関心、疑問をもとに『問い』を立てる活動を通して、主体的に学習に取り組もうとする態度を養うことができる。</p>	<p>古戦場記念館の方のお話や展示物から、関ヶ原の戦いに知的好奇心、興味・関心、疑問をもち、仲間と考えたい『問い』を生み出している。〔主体的に学習に取り組む態度〕</p>	
⑦	<p>第7時：歴史との対話①</p> <p>どうして、小早川秀秋は西軍をうらぎったのか。</p> <p>○仲間と立てた関ヶ原の戦いに関する『問い』を解決する活動を通して、社会的事象を多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p>	<p>仲間と立てた関ヶ原の戦いに関する『問い』を解決する活動を通して、収集した情報をもとに社会的事象を多面的・多角的に考察し、表現している。〔思考・判断・表現〕</p>	

⑧ 本 時	<p>第8時：歴史との対話②</p> <p>どうして、小早川秀秋は西軍をうらぎったのか。</p> <p>○関ヶ原の戦いに関する『問い』を対話する活動を通して、「争い」に対する自分の認識の違いに気付き、歴史を学ぶ意味を考え、表現することができる。</p>	<p>関ヶ原の戦いに関わる『問い』について対話することで、「争い」に対する自分の認識の違いに気付き、歴史を学ぶ意味を考え、表現している。 [思考・判断・表現]</p>
<p>単元で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿</p>		
問 題 解 決 力	<p>社会的事象に関する知的好奇心、興味・関心や疑問、課題を明らかにするための見通しをもち、探究的・対話的な学びを通して、<u>論理的・批判的に解決を図る姿。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他と設定した『問い』や課題を解決する見通しをもち、探究的な学びを通して、歴史上の人物や出来事、文化遺産について、知り、歴史の大きな流れや時代の特色を考察し、表現する姿。 	
関 係 構 築 力	<p>よりよい方策・社会の在り方を創造するために、<u>社会的事象に関する自身の考えを伝え、他者の考えを聴き、互いに認め合っている姿。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他と設定した『問い』や課題の対話を通して、争いに関わる他者の価値観を共感的に聴く姿。 	
貢 献 す る 人 間 性	<p>既存の社会の在り方等を見直すことも含め、<u>社会的事象に関する自他との対話を通して、多様な価値観に触れることで、ともに生きる社会を創造しようとする姿。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他と設定した『問い』の対話を通して、自他の多様な価値観に触れ、歴史を学習する意味について考えることで、ともに生きる社会を創造する姿。 	
<p>自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て</p>		
問 題 解 決 力	<p>児童自身で立てた『問い』を解決するために、地域の施設を活用したり、様々な資料を粘り強く読み取ったりする場の設定における、<u>多面的・多角的に自分の考えを広げたりしている姿を単位時間内の机間指導やワークシートの記述から見届ける。</u></p>	
関 係 構 築 力	<p>仲間と対話する中で、『問い』に関わる自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたたりする場の設定における、<u>自己の主張を再構築したり、疑問に感じたことを尋ねたりしているのかを対話の様子やワークシートへの記述から見届ける。</u></p>	
貢 献 す る 人 間 性	<p>「身近な歴史に関わる『問い』を仲間と対話する場の設定における、<u>自他の多様な価値観に触れ、自分と歴史との関係について考えることができているのかを、対話の様子やワークシートへの記述から見届ける。</u></p>	

4 教科にかかわる本時のねらい

関ヶ原の戦いに関する『問い』を対話する活動を通して、「争い」に対する自分の認識の違いに気付き、歴史を学ぶ意味を考え、表現することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕

5 本時の展開 (8/8)

児童の学習活動		教師の手立てと見届け
1	これまでの学習を振り返り、『問い』を確認する。	<p>(●)教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力</p> <p>○考えが異なる児童で意図的にグループを編成し、自分の考えを前時までに交流しておく。</p> <p>●前時までの学習を踏まえて、自分たちで立てた『問い』の意味について確認し、共有することで、そこに「みんなと話し合っ解決したい」という話し合いの必然性をもたせる。</p> <p>研究にかかわって</p> <p>【見届けの視点】</p> <p>『問い』を仲間と対話する場の設定における、自他の多様な価値観に触れ、歴史を学ぶ意味について考えることができているのかを、対話の様子やワークシートへの記述から見届ける。(貢献する人間性)</p> <p>○全体共有の場では、児童の発言内容をもとに問いかけを行い、言葉の意味を明確にしたり、今の生活と関わらせて考えたりすることができようにする。</p> <p>○全体共有の場では、「争い」を軸に、「裏切り」、「国」、「幸せ」、「平和」、「命」、「国際社会」などの多様な視点で、対話を進めていけるようアシリテートを行う。視点をともに、昔と今を往還しながら、学習の最後に「歴史を学ぶ意味」を考えようとする。</p> <p>○適宜、全体共有の場で、グループで対話する時間を確保することで、仲間との学びがより深められるようにする。対話の際には、内容を伝え合うだけでなく、なぜそう思ったのか尋ね合うよう声をかける。</p> <p>○授業の終盤に「最後は何について考えたのか」を問うことで、授業最初は『問い』で歴史を知ろうとしていた自分が、仲間と対話することを通して、歴史で「争い」を学んでいたことを実感できるようにする。</p> <p>【評価規準】</p> <p>関ヶ原の戦いに関わる『問い』について対話することで、「争い」に対する自分の認識の違いに気付き、歴史を学ぶ意味を考え、対話やワークシートで表現している。【思考・判断・表現】</p>
2	各グループで交流したことを発表し、全体で共有をする。	
<p>【Aグループ】(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小早川は、これまで豊臣秀吉に土地を奪われて、西軍側にうらみがあつたのではないのかな。 <p>【Bグループ】(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の命を守るためには、石田三成の西軍ではなく、戦いを優位に進めていた東軍についた方がよい。 <p>【Cグループ】(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 東軍の徳川家康に土地をもらったり、家族を助けてもらったりして恩があったから。 		
<p>【教師のファシリテート(例)】(○：教師の発言・：児童の発言)</p> <p>(グループごとの発表で)</p> <p>○小早川秀秋の裏切りは許されることなのか。</p> <p>○自分の命を守っていくためには、優位な方につくのがこの時代の生き方だと思うので、仕方がない。</p> <p>○自分が優位になるため、生きていくためには人を裏切れるのか。</p> <p>○自分なら裏切れない。人を裏切ることには相手を守ってしまうことであり、なかなかできないことではない。でも、自分が生きていくことを考えれば、裏切る、裏切らないの判断は難しい。</p> <p>(「争い」の視点で)</p> <p>○戦いの單元で、戦争や紛争は「人を傷つけてしまういけないもの」とあなたたちは話したが、関ヶ原の前について「おもしろそう」と答えて、「いけないもの」と捉える人がいなかった。それはなぜか。</p> <p>○今の世の中にも戦争、紛争で多くの人が悲しい思いをしているのに、その「争い」と関ヶ原の戦いの「争い」は何が違うのか。人を傷つける、命を奪うという点では同じではないのか。なのに、歴史上の「争い」と現代社会の「争い」を同じように考えられないのはどうしてか。</p> <p>○実際に目の前で起きていることではないので、リアリティがない。確かに関ヶ原の戦いも命がけの争いではあるが、現代と同じように考えられない自分もいた。でも、結局今も昔も人を傷つけあう争いがあることは変わらないと思っただろうか。</p> <p>○人はどうして命をかけて「争い」をするのか。「争い」で人は何を求めるのか。</p> <p>○自分が幸せになるために争いをしていると思う。自分たちの国が幸せになるため争いをしている。では、あなたも戦争、紛争で多くの人が悲しい思いをしているのに、その「争い」と関ヶ原の戦いの「争い」は何が違うのか。人を傷つける、命を奪うという点では同じではないのか。なのに、歴史上の「争い」と現代社会の「争い」を同じように考えられないのはどうしてか。</p> <p>○先ほどは、幸せな国を作るために「争い」をしようとしていたけれど、今は幸せな国にするために、「争い」は必要ないと考えた。これって、考え方として矛盾していると思うのだが、結局のところ、幸せな国を作るために「争い」は必要なの？</p> <p>○その国も幸せな国になることは無理なのか。「争い」をしなければ幸せになれないと考えるのは嫌。でも、争いから幸せな国、命、平和などについて考えた。</p> <p>3 全体で共有したこと振り返り、歴史を学ぶ意味を考える。</p> <p>○今日は小早川秀秋の『問い』で学習してきたけれど、最後は何について考えたのか？</p> <p>○最後は、争いから幸せな国、命、平和などについて考えた。</p> <p>○歴史で「争い」、「平和」…について考えた今日の授業を通して、あなたは「歴史を学ぶ意味」は何だと思っただろうか。</p> <p>4 学びの振り返りを行う。</p> <p>私は、歴史を学ぶとは人々が経験してきたことを覚えることだと思っていました。でも、そこから今の日本の政治、世界で起きている争いを考えていくことも歴史を学ぶことだと思いました。これからの歴史学習で勉強したことが自分の生活とどうつながっていくのかを考えていきたいです。</p>		

【公開Ⅱ】8年2組 社会科学学習指導案

南舎2階多目的ホール

大坪 雅詩

1 単元名 日本の諸地域 中国・四国、関東地方

～交通網と人々の暮らし～

2 指導の立場

(1) 題材について

本単元は、地理的分野の内容(3)アとイにもとづく単元である。具体的に、交通や通信を中核とした考察の仕方について、地域の道路や鉄道、航空路や航空路、通信網などの交通・通信に関する特色ある事象を中核として、それをそこの産業や人口や都市・村落などに関する事象と関連付け、交通・通信が地域の産業や都市への人口の集中と村落などの過疎化と深い関係をもっていることや、地域間の結び付きの整備が地域の課題となることなどについて考察する学習である。

本校では、日本の諸地域を指導要領解説に示されている5つ考察の仕方をもとにカリキュラムを編成している。それを踏まえ本単元では、交通や通信を中核とした考察の仕方に関東地方と中国・四国地方を捉え、カリキュラムマネジメントを行い、学習することとしている。日本を交通・通信の面から見ると、関東地方は日本の首都である東京都があることから、日本の中枢機能が集中し、交通・通信網が東京都を中心として発達している。また、世界の国々と結びついた世界的な都市であり、国内外との結び付きがあり、人口が集中する地域である。一方で、中国・四国地方は、瀬戸内海にある島々や四国と本州を結ぶ、本州四国連絡橋の整備された地域である。不便な暮らしをよくするために、整備されたものであったが、地方都市の人口や産業が大都市に吸い寄せられるやストロー現象が起こり、人口の減少や少子高齢化を招き、過疎化が深刻な問題となっている。また、利用者の少ない鉄道やバスの路線が廃止されるなど、地域間を結ぶ交通網の整備が課題となっている。通信網の整備が進み、テレワークを活用して、遠い所で働くことができる現代であっても都市への人口の集中は避けられないのが現状である。

このようなそれぞれの地域にある特色とそこから生じる課題を産業の課題や人口の問題と関連付けて考察することができるようにする。

(2) 児童生徒について

本校の生徒の多くは、電車やバスなどの公共交通機関を使って登下校している。また、スマートフォンなどで通信網を使って家族や友人とコミュニケーションを取ることも日常である。更に、自動車を所有している家庭も多く、外出する際はほとんどは自家用車を使って移動をしている。これは生徒が生活をしている岐阜という地域が、日本の三大都市圏の1つにあり、ベッドタウンとなっているからである。また、高速交通網を利用する機会は、長期休暇の旅行や帰省などの長距離移動がほとんどである。

このような生徒が、高速交通網の整備によって地域で生活する人々の暮らしが変容してきたことや、地域に影響を与えていることを理解できるようにする。次に、交通・通信網の発展が人口の過密や過疎の問題と密接に関わることや、地域間の結び付きが生み出す課題について、多面的・多角的に考察する。そして、交通・通信網の在り方を捉え直し、地域的特色や地域の課題を自分の生活と関連付けながら考える生徒を育成する。

(3) 指導について

本単元の終末には、パフォーマンス課題を設定し、リニア中央新幹線は何にどんな影響をもたらしと言えるのかを考え、表現する活動を位置付ける。その活動を通して、リニア中央新幹線がつくり出す新たな人の結び付きや地域の結び付きが、産業を発展させ、人々の暮らしの利便性の向上や、都市への人口の集中や村落の過疎化にも影響を及ぼすことを理解し、交通網の整備がもたらし様々な影響を考察して表現する姿を目指す。そのため、これまで過疎・過密の問題について考える際には地域の生活文化や産業と深い関係があることを扱い、産業を中心とした考察の仕方では産業の振興と環境保全との両立など持続可能な社会づくりが地域の課題になっていることを、多面的・多角的に考察することができるようカリキュラムを編成し、指導してきた。そして本時は、これまでの学習内容を踏まえ、交通網の発展による人や地域の結び付きの変化を多面的・多角的に考察する中で見られる個々の価値観を対話する活動を位置付ける。そして、その活動を通して、交通・通信網の発展に内在する多様な価値観に気づき、人々の暮らしを交通や通信から見直そうとすることができるよう指導する。

3 単元指導計画

学年	第8学年	単元名	日本の諸地域 中国・四国、関東地方 ～交通網と人々の暮らし～（全12時間）
単元で育む資質・能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・関東地方、中国・四国地方についての地域的特色や交通・通信に関わる社会的現象、それに関連する地域の課題を理解することができる。〔知識及び技能〕 ・交通・通信の成立条件を地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して考え、他の現象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察、表現することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 ・交通・通信に関わる社会的現象から、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究することができる。〔学びに向かう力、人間性等〕 			
時	主な学習活動とねらい		評価規準
①	第1時：『問い』の設定 <u>みんな</u> で考えたい『問い』は何か。 ・関東地方、中国・四国地方の特色を踏まえて、興味・関心、疑問を基に、探究テーマを踏まえた『問い』をつくり出すことができる。		関東地方、中国・四国地方の特色を踏まえて、興味・関心、疑問をもとに、探究テーマを踏まえた「問い」をつくり出している。〔主体的に学習に取り組む態度〕
② ③	第2・3時：関東地方の白地図づくり <u>関東地方</u> には、どのような特色があるか。 ・関東地方について、人口分布図や統計グラフなどの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。		山地に囲まれた広大な平野と特色ある気候、日本最大の人口密集地域、日本の交通と通信の中心地などの特色を理解し、その知識を身に付けている。〔知識・技能〕
④ ⑤	第4・5時：中国・四国地方の白地図づくり <u>中国・四国地方</u> にはどのような特色があるか。 ・中国・四国地方について、人口分布図や統計グラフなどの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。		自然環境の異なる三つの地域、盛んな農業、人々の生活や産業を変えた交通・通信網の整備、瀬戸内に集中する人口などの特色を理解し、その知識を身に付けている。〔知識・技能〕
⑥	第6時：世界と結びつく首都東京と交通 <u>日本の首都東京</u> にはどのような特色があるか。 ・東京に中枢機能が集中し、日本や世界各地との結び付きが強いことに気付き、首都と世界の国々との結び付きを表現することができる。		関東地方と世界との結び付きについて、在留外国人数、大使館の分布などの資料を基に、多面的・多角的に考察し、表現している。〔思考・判断・表現〕
⑦	第7時：東京大都市圏の暮らしと交通 <u>東京大都市圏</u> の暮らしにはどのような結び付きがあるか。 ・東京大都市圏における都心部と郊外の人口動態に着目し、その結び付きと課題について理解することができる。		東京の都心部と郊外の関係について、通勤・通学や都市機能の分散、交通網の特色を理解し、その知識を身に付けている。〔知識・技能〕

⑧ ⑨	第8・9時：本州四国連絡橋の整備と人々の暮らし 本州四国連絡橋によって中国・四国地方にはどのような変化があったか。 ・中国・四国地方の交通網の整備について、地図、写真、統計などの具体的な資料を通して、利点と課題の両面から考察することができる。	高速道路や橋などの交通網の整備を、移動時間の短縮やストロークー現象などと関連付けて利点と課題を考察し、表現している。 [思考・判断・表現]
⑩ ⑪ ⑫ 本時	第10・11・12時：リニア中央新幹線の整備と人々の暮らし 【P課題】リニア中央新幹線は何にどんな影響をもたらすと言えるのか。 ・リニア中央新幹線は、日本に何をもち来たらすと言えるのかを追究する活動を通して、高速交通網の整備によって人の行き来が盛んになり、地域や日本全体の産業が発展する一方で、村落における過疎化が深刻になることなどに関連付け、交通網の整備がもたらす様々な影響を考察し、表現することができる。 ・リニア中央新幹線は、日本に何をもち来たらすと言えるのかを追究し、交通網の整備がもたらす様々な影響を考察し、表現することとする活動を通して、交通網の整備に内在する多様な価値観に気づき、人々の暮らしを交通や通信から見直すことができる。	交通網の整備によって人の行き来が盛んになることに着目し、交通網がもたらす様々な影響を考察し、表現している。[思考・判断・表現] 交通・通信網の発展に内在する多様な価値観に気づき、人々の暮らしを交通や通信から見直そうとしている。[主体的に学習に取り組む態度]
単元で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿		
問題解決力	社会的事象に関する知的好奇心、興味・関心や疑問、課題を明らかにするための見直しをもち、探究的・対話的な学びを通して、論理的・批判的に解決を図る姿。 ・『問い』や課題を解決する見直しをもち、探究的な学びを通して、獲得した情報を効果的に使用して、交通網の発展がもたらす様々な影響を考察し、表現する姿。	
関係構築力	よりよい方策・社会の在り方を創造するために、社会的事象に関する自身の考えを伝え、他者の考えを聴き、互いに認め合っていく姿。 ・『問い』の対話を通して、交通・通信に関わる他者の価値観やそれに関わる経験を共感的に聴く姿。	
貢献する人間性	既存の社会の在り方等を見直すことも含め、社会的事象に関する自他との対話を通して、多様な価値観に触れることで、ともに生きる社会を創造しようとする姿。 ・交通・通信に関わる社会的事象に関する自他との対話を通して、他者の多様な価値観に触れ、よりよい社会の実現を視野に交通・通信の視点から地域に見られる課題等を見つめ、主体的に追究しようとする姿。	
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て		
問題解決力	・社会科における見方・考え方、既習学習を用いて『問い』や課題、実社会の問題等の解決に取り組み場における、学んだことを生かしたり、自分のアプローチを柔軟に変えたりして、多面的・多角的に考察するワークシートへの記述や交流時の言動。	
関係構築力	・他者の主張（価値観）を共感的に聴き、受け入れ、自己の主張を再構築する場における、対話の中で他者の考えを分かち合ったり、折り合いをつけたりしたことを記述したワークシートの内容や交流時の言動。	
貢献する人間性	・自身の成長、新たな知的的好奇心、興味・関心、疑問等に気づくために単元終末で振り返りの場における、社会へ敬意を抱いたり、交通・通信に対する考えが変容している自分を認めたりししことを記述したワークシートの内容や交流時の言動。	

4 教科にかかわる本時のねらい

リニア中央新幹線は、何にどんな影響をもたらすと言えるのかを追究し、交通網の整備がもたらす様々な影響を考察し、表現する活動を通して、交通・通信網の発展に内在する多様な価値観に気づき、人々の暮らしを交通や通信から見直そうとすることができる。〔学びに向かう力、人間性等〕

5 本時の展開 (12/12)

児童生徒の学習活動		教師の手立てと見届け
1 P課題、各グループの主張と各主張に対する意見を確認する	<p>【P課題】リニア中央新幹線は、何にどんな影響をもたらすと言えるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京と大阪を今ままでよりも短時間で結ぶことができ、暮らしが便利になるだけでなく、産業が発展し都市も発展する。 ・さらに三大都市圏に人口が集中することで、都市問題と、地方の過疎化が今よりも課題となる。 	<p>(●)教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力)</p> <p>○自分のグループの考えについての理由付けや根拠を丁寧に問い返すことで、思考の過程を表現できるように援助する。</p> <p>研究にかかわって</p> <p>【見届けの視点】</p> <p>学習課題を産業の発展や人口の問題、地域間の格差と関連付けながら考え、表現する姿を記述や発言から見届ける。(問題解決力)</p> <p>○生徒が学びと単元導入時の「問い」との関連を見出す場を位置付けることで、単元の学びを振り返るとともに、自分の生活経験と結び付けて対話ができるようにする。</p> <p>○対話によって学びがより深められるよう、交流の際には、教師が意図的にファシリテートを行い、内容を伝え合うだけでなく、質問や意見交換を積極的に伝えるように声をかけ、対話する姿を価値付ける。</p> <p>○自分の考えの変容を振り返ることができようように記述や板書から振り返ることを促す。</p> <p>【評価規準】</p> <p>交通・通信網の発展に内在する多様な価値観に気づき、人々の暮らしを交通や通信から見直そうとしている。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p>
2 論点を整理し、対話を焦点化する	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性の向上や産業の発展の裏で、過密や過疎の問題がある。でもどうして人々は利便性を追求するのか。また、どうして人々は都市に魅力を感じるのか。 	
3 単元導入時に設定した「問い」との関連を見いだし、対話する	<ul style="list-style-type: none"> ・移動時間のことだけ考えれば、リニア中央新幹線がもたらすよい影響はたくさんある。けれど、環境問題や人口の問題だけでなく、地域の生活や文化などのことも考えることが大事だから、駅のあるなしに関わらず、岐阜にも駅ができるということは岐阜県内でも不利益を受ける人がある可能性があることを考えていきたい。 ・日本全体で考えると高速交通網の整備によってますます産業が発展し、暮らしが便利で豊かになっていくことが考えられるが、沿線地域の環境問題や都市問題、沿線にない地方の過疎化に、どのように向き合っていくべきなのか。画一的な社会になっていくことで地域の特色が見えにくくなったり、失われたりする可能性がある。 	
4 振り返りを行う	<p>リニア中央新幹線を通して、交通網から地域の産業や人口などを改めて考えて考えることができ、最初は、交通網が整備されることは便利で豊かになることだと考えていたけれど、交通網は地域を大きく変える可能性のあるものだと改めて感じた。自分の住む地域の交通網が地域の暮らしに、どのような影響を与えているか、これから考えてみたい。</p>	

【公開 I】9年3組 社会科学学習指導案

南舎2階多目的ホール 岸 周吾

このように、本単元は前期課程・後期課程の学習内容を踏まえた、中長期的な視野に立ったカリキュラム・マネジメントが求められる単元であり、系統的かつ発展的に学びを進める機会が存在する魅力的な題材である。

(2) 児童生徒について

生徒は社会科におけるこれまでの学びにおいて、社会的事象に関する、自らの知的好奇心、興味・関心、疑問等を基にして『問い』を立て、『問い』の解決や対話を経てきた。そして、『問い』に対する納得解や最適解を導く経験だけでなく、『問い』の連続性に触れ、「さらに、『問い』が生まれて、わかなくなってきた…」という複雑な感情を抱く経験も重ねている。また、『問い』だけでなく、生徒の文脈をいかしたパフオーマンス課題を通して、必要な情報を取捨選択し整理してまとめたり、それらの情報から根拠を基に自身の主張を構成したりする経験もしている。社会的事象を多面的・多角的、批判的に思考し、対話してきた第9学年の生徒である。だからこそ、本単元を通して「民主主義とは何か？」を如何にして創りあげるか、「…から私は、民主主義とは…」という根拠に導かれた社会認識の基、さらにもう一步、学びを深め、広げようとする生徒の意識、姿を期待したい。そのような姿は、主体的に学習に取り組む態度を体現した生徒の姿であり、ともに生きる社会を創造するために必要な人間性を兼ね備えた生徒の姿である。

(3) 指導について

本時は、本校社会科部研究主題にもある「ともに生きる社会を創造する生徒」の育成につながる、考え続ける「きっかけ」を提供する。そのためにも、生徒が自ら『問い』を立て、探究し、根拠を明確にして主張し、多様な価値観をもつ他者との対話の経験を意図的に構成する。本時は、岐阜市にある旧南庁舎跡地の活用方法を考えることを通じて、「民主主義とは何か？」に迫る授業として本実践を設定する。ガート・ビースタ (Biesta, G.) は、「民主主義は実際に危機にある」と指摘する一方で、意見の一致だけでなく、不一致 (ディセンサス) を踏まえた、学校教育における「民主主義の経験」をいかにして提供できるかが、私たち教師に求められていることと述べている。私たちの社会において民主主義は、意見の一致だけでなく、不一致にこそ存在し、成立する。だからこそ、自他との対話を通して、様々な価値観に触れ、自身の内面を広げていく「きっかけ」を得る学びを、実社会から見いだし、教材化して指導・援助することについて検証していきたい。

1 単元名 私たちと政治 ～民主政治と政治参加～

2 指導の立場

(1) 題材について

本単元は、「2内容 C 私たちと政治」(2) ア (ア) (イ)、イ (ア) に基づく単元である。具体的には、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解したり、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解したりする。「C 私たちと政治」の学習において最も大切にすべきことは、生徒に「地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自覚意識の基礎を育成すること」である。そのため、民主政治の推進と公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察し、構想し、表現する。

また、本単元は第6学年の「2内容」(1) ア (ア) とイ (ア) とも関係している。生徒は、国会が国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関として法律の制定や予算の議決、条約の承認などを行っていること、内閣が国の行政権をもち、法律や予算にもとづいて実際の政治を行っていること、裁判所が司法権をもち、法律にもとづいて裁判を行っていることを取り上げ、三権がそれぞれ大切な役割を果たしていることや、三権が相互に関連し合っていることを第6学年で学習している。また、選挙は国民の代表者を選出する大切な仕組みであること、国民の代表者として選出された国会議員は国民生活の安定と向上に努めなければならないこと、国民は代表者を選出するため、選挙権を行使する必要があることを多面的・多角的に考察し、構想し、表現する経験を得ている。

さらには、「2内容 C 私たちの政治」(1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則ア (ア) ～(エ)、イ (ア) にも関係する。なぜなら、本単元で取り扱う現代の民主政治や社会は、基本的人権の理念によって支えられ成立しているからである。

3 単元指導計画

学年	第9学年	単元名	私たちと政治 ～民主政治と政治参加～ (全16時間)
単元で育む資質・能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや、政党の役割を理解することができる。[知識及び技能] C (2) ア (ア) (イ) (イ) ・民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察し、構想し、表現することができる。[思考力、判断力、表現力等] C (2) イ (ア) [思考力、判断力、表現力等] ・民主政治に関する『問い』への多様な価値観を踏まえ、内省することで、考え続けるきっかけを得ることができる。[学びに向かう力、人間性等] 			
時	主な学習活動とねらい		
①	<p>第1時：『問い』の設定 <u>探究テーマ「民主主義と私」を踏まえ、みんなと考えたい「問い」は何か。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の民主政治の特徴を、資料を参考に大観することを通して、社会的事象に対する自身の知的好奇心、興味・関心、疑問に気づき、探究テーマを踏まえた「問い」を立てることができる。 	<p>探究テーマを踏まえ、社会的事象に関する自身の知的好奇心、興味・関心、疑問を基に「問い」を立てている。[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>各々の主張を伝え合うことを通して、自身の主張を内省することで、優先している価値観を自覚している。[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>政治とは、より良い社会を創りあげするための一つの方法であることを、具体的な政治、主義の事例の考察を通して理解している。 [知識・技能]</p>	
②	<p>第2時：誰を市長に選ぶ？ <u>S市の市長には、誰を選ぶべきか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工場移転に伴う跡地の活用方法を多面的・多角的に考えることを通して、土地活用の主張に内在する自他の価値観に気づき、自身の主張を支える価値観を自覚することができる。 		
③	<p>第3時：政治と民主主義 <u>政治とは何か？</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 政治に関わる様々な主義や具体的な事例を分析することを通して、政治の特徴や民主政治の特徴に気づき、人々がよりよい社会を創造する為に大切にすべきことを理解することができる。 		
④	<p>第4時：選挙の意義と仕組み <u>現代において、選挙とはどのような仕組みで行われるのか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の選挙制度の特徴を、資料を参考に多面的・多角的に考えることを通して、効率・公正の視点に基づく基本原則や選挙制度の仕組みに気づき、多種多様な人間が織りなす社会を創造するための制度であることを理解することができる。 	<p>現代の選挙制度は、多種多様な人間が主張する多様な意見をできるだけ多く反映させ、ともに生きた社会を創造するための制度であることとを理解している。[知識・技能]</p>	
⑤	<p>第5時：政党の役割 <u>現代において、どのような役割が政党にはあるのか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の政党の役割を、諸資料を参考に考えることを通して、効率・公正の視点に基づいて政党という制度が存在することが大切であることに気づき、国民と政治家の双方のつながりを作るという重要な役割を担うことを理解することができる。 	<p>現代の政党が、国民と政治家の双方のつながりを作るという重要な役割を担うことを理解している。[知識・技能]</p>	
⑥	<p>第6時：マスメディアと世論 <u>現代において、どのような役割がマスメディアにはあるのか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代のマスメディアの役割を、諸資料を参考に考えることを通して、マスメディアは世論の形成に大きな影響をもっていることに気づき、様々な立場の人々が効率・公正の視点から主体的に情報を吟味して政治と関わることができている。 	<p>情報化の進んだ現代社会において、マスメディアの役割を踏まえ、自身の政治との関わり方を多面的・多角的に考え、表現している。 [思考・判断・表現]</p>	
⑦	<p>第7時：選挙の課題と私たちの政治参加 <u>現代の選挙には、どのような課題があるのか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の選挙に関する課題を、諸資料を参考に考えることを通して、効率的で公正な現代の選挙の歪や、棄権の現状に気づき、それらの課題の解決策を構想することができる。 	<p>現代の選挙に関する課題を捉え、その課題に対する解決策を選択・判断し、表現している。 [思考・判断・表現]</p>	
⑧	<p>第8時：岐阜市旧南庁舎跡地をどう活用する？ <u>【パフォーマンス課題】を、どのように捉えるか。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自の学びの経験に基づいてパフォーマンス課題を吟味することを通して、自分たちで課題に迫るための探究の視点を設定する大切さに向けて様々な探究方法を構想することができる。 	<p>パフォーマンス課題を捉え、探究の視点を設定し、探究方法を選択・判断し、表現している。 [思考・判断・表現]</p>	

⑨ ⑩	<p>第9・10時：フィールドワーク 近隣住民や該当で出会った人々は、旧南庁舎の活用をどのように考えているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 岐阜市民、周辺住人の思いを聞いたたり、現地の雰囲気を感じたりすることを通して、体験や収集した一次資料の大切さに気付き、パフォーマンス課題を自分事とすることができる。 	<p>自身で設定した探究方法の実施によって多面的・多角的な一次資料を収集することで、主張構成への見直しをもっている。 [主体的に学習に取り組む態度]</p>
⑪ ⑫	<p>第11・12時：一次資料等の整理・パフォーマンス課題に対する主張の構築 手に入れた一次資料等を、どのように活用するか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現地でのフィールドワークで手に入れた一次資料の内容を整理することを通して、自身の主張を構成するために必要な情報を取捨選択することで、パフォーマンス課題に対する主張の根拠を明確にすることができる。 	<p>様々な資料から適切な資料を選択し、多面的・多角的に思考し、パフォーマンス課題に対する主張を表現している。 [知識・技能]</p>
⑬ ⑭	<p>第13・14時：小グループによる主張の交流、主張の再構築 仲間の主張と自身の主張を踏まえると、何が見えてくるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題に対する各自の主張を交流することを通して、各候補者の公約には、効率や公正の視点から多種多様な立場の人々により良い暮らしを創造するための願いが込められていることに気付き、仲間と導き出した「納得解」や「最適解」に内在する価値観を表現することができる。 	<p>自他の主張を踏まえ、集団としての主張を構想することで、仲間と共に「最適解」または「納得解」を導き出し、表現している。 [思考・判断・表現]</p>
⑮	<p>【本時】 第15時：主張の全体交流 ～主張の交流から「問い」の対話～</p>	<p>【本時参照】 [主体的に学習に取り組む態度]</p>
⑯	<p>第16時：単元のまとめ ～3節「地方自治と私たち」の学びへの接続～ 1節の学びを踏まえた、探究テーマ「民主主義と私」とは、</p> <ul style="list-style-type: none"> 本単元の学びを振り返ることを通して、現代の民主政治に必要なことに気付き、探究テーマ「民主主義と私」に関する自身の意見を構想することができる。 	<p>自身の学びを振り返り、自身の変容を自覚し、探究テーマ「民主主義と私」に対する考えを、表現している。 [思考・判断・表現]</p>
<p>単元で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿</p>		
問題解決力	<p>社会的事象に関する知的好奇心、興味・関心や疑問、課題を明らかにするための見直しをもち、探究的・対話的な学びを通して、論理的・批判的に解決を図る姿。</p> <ul style="list-style-type: none"> 民主政治に関わって、自他と設定した『問い』から派生した課題を解決するために、探究方法の吟味、フィールドワークによる一次資料の収集、入手した情報整理等を通して、学び方を検討し、情報を効果的に使用して、連続的に学ぶ姿。 	
関係構築力	<p>よりよい方策・社会の在り方方を創造するために、社会的事象に関する自身の考えを伝え、他者の考えを聞き、互いに認め合っていく姿。</p> <ul style="list-style-type: none"> 民主政治に関わって、自他と設定した『問い』の対話を通して、他者の価値観やそれらに関わる個人的経験を共感的に聴く姿。 	
貢献する人間性	<p>既存の社会の在り方等を見直すことも含め、社会的事象に関する自他との対話を通して、多様な価値観に触れることで、ともに生きる社会を創造しようとする姿。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者を自分とは異なる存在だと認め、それを踏まえて内省したり自分自身にできることを調整したりする姿。 	
<p>自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿を生み出すための手立てと見届けの視点</p>		
問題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 社会科における見方・考え方、既習学習を用いて、『問い』や課題、実社会の問題等の解決に取り組む場の設定における、学んだことをいかしたり、願いをもったり、自分のアプローチを柔軟に変えていったりする交流時の言動やワークシートへの記述。 	
関係構築力	<ul style="list-style-type: none"> 様々な立場の人へ思いを馳せ、想像したり、他者の主張（価値観）を共感的に聴いたりすることで、受け入れ、自己の主張を再構築する場の設定における、折り合いをつけたり、寄り添ったり、分かち合ったりする交流時の言動やワークシートへの記述。 	
貢献する人間性	<ul style="list-style-type: none"> 自身の成長、新たな知的的好奇心、興味・関心、疑問等に気付くための対話、単元終了での探究テーマに対する振り返りの場の設定における、自他を認めたり、相手や社会への敬意を抱いたり、創造性を発揮したりする交流時の言動やワークシートへの記述。 	

4 教科にかかわる本時のねらい

岐阜市の旧南庁舎跡地の活用方法を多面的・多角的に探究することで構成した主張を交流することを通して、跡地活用の社会問題に内在する多様な価値に気づき、自分とは根本的に異なる他者の価値観を尊重しながら、ともに生きようとする態度を養うことができる。〔学びに向かう力、人間性等〕

5 本時の展開 (15/16)

	児童生徒の学習活動	教師の手立てと見届け
1	<p>【P課題】岐阜市では来月、市長選挙が行われます。候補者はAさん、Bさん、Cさん…。</p> <p>P課題を確認し、各グループの主張を発表し、その発表に対して質問をする</p>	<p>(●)教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力</p> <p>○本単元を通して、生徒が自ら設定した「問い」を連続的に学んできたことを踏まえ、生徒の知的好奇心、興味・関心・疑問を活用してさらに学びを深めるために、「P課題」から『問い』へと、生徒の学びを接続させる対話を構成する。</p> <p>○主張の交流では、共感的に聴くことを促し、生徒間の評価ではなく質問をすることで、教室内にリレーションを生み出す。また、同時に教師も介入し、発言に内在していた「価値観」を浮き彫りにすること、その後対話における『問い』に接続させる。</p> <p>○対話においては、生徒の個人的経験を語れるよう、フィードバックでのメモ等を活用させる。</p>
2	<p>【1G】A候補 都市型公園建設</p> <ul style="list-style-type: none"> この案には、最も多数の最大幸福が実現できると可能性があると考えています。なぜなら、公園という施設…。 <p>【2G】B候補 リサイクルセンター建設</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、多くの場所ですDGsが求められています。今の世代の幸福と将来の世代の幸福の両方を実現できて…。 <p>【3G】C候補 体験型テーマパーク建設</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年は不況が続いているので、岐阜市という都市の機能、…雇用を生み出すことや、人の流れを活性化させ…。 <p>【4G】D候補 総合福祉センター建設</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの方が、自分らしく生きることが大切であると…互いの人権を尊重できる都市であることが…。 	<p>【手立てと見届けの視点】</p> <p>①自分たちで設定した『問い』に関して、これまでの文脈を踏まえた上で、個人的経験を語ったり、他者の価値観を踏まえて対話する場の設定。(対話での言動・ワークシートへの記述)</p> <p>②学びの自己評価として、これまでの学びを自己評価し、自身の変容・考えの広がり・きっかけを得るための場の設定。(ワークシートへの記述・発表での発言内容)</p> <p>(貢献する人間性)</p> <p>○意見の一致(コンセンサス)と意見の不一致(ディセンサス)に言及している生徒の自己評価を発表させることで、「民主主義とは何か?」を授業後も考えるきっかけを提供する。</p>
3	<p>生徒が設定した「問い」を対話する</p> <p>○「民主主義」とはどのようなものですか?それを、あなたの経験から導き出せますか?</p>	<p>【評価規準】 美社会の問題に内在する自他の多様な価値観に触れることで、自分とは異なる他者とともに生きるきっかけを得ようとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕</p>
4	<p>学びの自己評価を行う</p> <p>・当初、私は…だと考えていました。…私たちが実際に現地で出会った人々と話をする中で、…。私は(私の個人的経験から)、民主主義とは意見の相違があつてこそ成り立つ主義なのだと思えます。でも、私たちは意見が異なることを本能的に嫌がります…。</p>	
5	<p>発表と質問で導き出された「価値観」について、対話を焦点化する</p> <p>○皆の意見…跡地活用の選択の裏側には、…という価値観と…という価値観が…存在していると思う。…皆が立てた『問い』の「…」につながっているのではないかな?</p>	
	<p>5Gの近隣住民の人権を大切にするという考え方に私は賛成です。でも、全ての人…</p>	

1 単元名 平均

2 指導の立場

(1) 題材について

第5学年の内容Dデータの活用D(2)測定値の平均にもとづく単元である。本単元の主たるねらいは、「測定した結果について、平均を用いて、それを妥当な数値として示すことができるようにすること」である。このねらいを達成するために、次のことを大切に指指導する。

- ① 平均の意味
幾つかの数量があったとき、それらを同じ大きさの数量にならした値
- ② 平均の考え方
幾つかの数量を等しくならすことにより見ていだされる値であること

これらのことを大切に指指導していくことで、平均の求め方を図や式を用いて考え、説明する数学的活動を通して、主張に対する正誤の判断を図や既習内容を根拠にして筋道を立てて考える態度を育むことをねらっている。

この単元では、平均を形式的に計算できるようにするだけでなく、平均の意味を理解することが必要である。また、測定値として与えられたデータには誤差が伴うことを認識し、その平均を求めるときで真の値に近づくことを学ぶ。その際、飛び離れた値や予想外の値があった場合に、その理由を調べて明らかにすることで、場合によってはそれらを除いて平均を求めるときを考えられるようにする。テストの点数や試合の得点、歩幅を用いた距離の測定など、平均が活用できる場面を見だし、実際に平均を求めるときの数学的活動を通して、学習を生活に生かす力も育成していきたい。

(2) 児童生徒について

本学年における「目指す論証する児童生徒の姿」は「既に認められた事柄や定義を根拠として、数学的表現を用いて主張に対する正誤のを判断したり、正しさを説明したりすること」である。論証に重点を置いたカリキュラム編成について、本単元における数学的な資質・能力(2)を発揮した児童生徒の姿は以下である。

平均の意味に着目し、平均の求め方を考え説明すること。また、日常の事象に対して平均を活用し考察することができること。

本時まで、児童は正しく測定されたデータ全体をならして等しくしたときの大きさが平均であるという平均の意味を理解するとともに、計算による平均の求め方を習得している。本時は、仮の平均を用いることによる工夫した平均の求め方を学ぶ。平均の数値の大きなデータの平均を求めたいときには、全体をならさなくとも、ある基準を適当に定め、その差分である残りの数量をならすことでも平均を求めることができ根拠を明らかにする授業である。また、別の場面でも自分で適当な基準を決めて、同様の計算で平均を求めることができるようになる。

本時の学習における「論証」とは、児童が次のような考えをもって論を進めていくことである。

全体をならして等しくしたときの大きさが平均であることから、どのデータにも仮の平均の量は存在するため、その分はならす必要がなく、仮の平均との差分をならして仮の平均を加えることで、全体をならすことができる。また、この仮の平均はどのように定めてもよい。

(3) 指導について

児童は、新しい平均を求める方法として「 $80 + (5 + 14 + 8 + 9 + 16 + 2) \div 6$ 」で、平均を求めることができるのはなぜか。」という課題意識をもって追究する。しかし、上述した児童の論の進め方は児童にとって容易ではない。数学的表現を用いて正しさを説明するために、以下のような手立てを講じる。

- ① 数学的活動を考えた問題設定や明確な判断ができる課題の設定
本時の学習は、前時学習している平均の求め方以外の方法で平均を求めることができるかを考える学習である。平均を求めるときには、全体を個数で割ればよいことを確認したうえで課題化に向かう。また、結論を課題化の前示しておくことで、本時の学習の終着点を意識しながら学習を進めることができることを考える。

- ② 考えを修正、強化するための工夫

結論に向かつて筋道を立てて論を組み立てるために、何を根拠に平均を求めることができているといえるのかを机指指導で問い続ける。授業の終末では、「基準は80でなければならぬのか」と問うことで、仮平均の考え方を発展的に考察させる。

- ③ 内省する場の設定

本時、どの児童にもねらいが達成できたことに実感を与えるために、本時の問題の数を変えた問題に取り組み場面を設定する。また、本時の自分の学習を仲間と振り返る場を設定する。

3 単元指導計画

学年	第5学年	単元名	平均 (全6時間)
単元で育む資質・能力			
<ul style="list-style-type: none"> 平均の意味と求め方について理解し、計算することができる。〔知識及び技能〕 平均の意味に着目し、平均の求め方を考え説明することができる。また、日常の事象に対して平均を活用し考察することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 平均の計算の仕方を、既習の学習を生かして考えようとする。また、日常生活や他教科の学習にも平均を使っていくようにする。〔学びに向かう力、人間性等〕 			
時	ねらいと課題		
①	いくつかの数や量をならして等しくした値を求める活動を通して、平均の意味とその求め方を理解し、実際に平均を求めることができる。 ・ならした量を求める方法を考えよう。	平均の意味と求め方を理解し、実際に平均を求めること 平均を求めている。〔知識・技能〕	
②	0や外れ値を含む資料の平均の求め方について考える活動を通して、目的に応じて0を含めて計算したり、外れ値を考えずに計算したりする理由を考察することができる。 ・この資料の平均は、どのように求めればよいか。	目的に応じて0を含めて計算したり、外れ値を考えずに計算したりする理由を考察している。〔思考・判断・表現〕	
③ 本時	$80 + (5 + 14 + 8 + 9 + 16 + 2) \div 6$ で平均を求めることができる理由を考察する活動を通して、図や平均の意味を根拠に、平均は仮の平均を定めてその差分の平均を仮の平均に加えることで求めることができよう。 ・ $80 + (5 + 14 + 8 + 9 + 16 + 2) \div 6$ で平均を求めることができるのはなぜか。	仮の平均を定めてその差分の平均を仮の平均に加えることで平均を求めてよいと考えている。〔思考・判断・表現〕	
④	平均を使って元の資料の大きさを求めたり全体の量を推定したりする活動を通して、平均が分かっているならば全体の量が求められることに気付く、平均を活用して問題解決する方法を考察することができる。 ・平均を使っていろいろな量を求めよう。	平均を活用して問題解決する方法を考えている。〔思考・判断・表現〕	
⑤	自分の歩幅が分かれば計器がなくてもおよその長さを測定することができるようにしよう。 ・自分の歩幅を使って、学校の中のおよその長さを求めよう。	平均を使って歩幅を求め、教室の縦と横や廊下の長さを概測する。〔思考・判断・表現〕	
⑥	これまでの学習を振り返り、新たに理解した知識、問題を解決するときの大切な考え方を明らかにしながら単元をまとめ、正しく計算することができる。 ・たしかめ問題に取り組みよう。	平均の計算の仕方を理解し、計算している。〔知識・技能〕	
単元で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿			
問題解決力	平均の考え方を使って、主張に対する正誤の判断をしたり、問題を解決したりする姿。		
関係構築力	主張に対する正誤の判断をしたり、問題を解決したりする中で、考えの飛躍や曖昧さを指摘し合ったり、受け入れたりする姿。		
貢献する人間性	自分や仲間の考えを修正強化できた学習の過程を振り返り、今後の自分の学び方を考える姿。		
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て			
問題解決力	何を根拠に判断したのか、どのように考えて問題を解決したのかを、ノートの記述から見届けよう。		
関係構築力	どのような立場で、どのようなことを話しているのか、仲間と対話する様子から見届けよう。		
貢献する人間性	どのようにして自分や仲間の考えを修正強化できたのか、その過程をノートの記述や仲間との振り返りの対話から見届けよう。		

4 教科にかかわる本時のねらい

$80 + (5 + 14 + 8 + 9 + 16 + 2) \div 6$ で平均を求めることができ理由を考える活動を通して、図や平均の意味を根拠に、平均は仮の平均を定めてその差分の平均を仮の平均に加えることと求めていると考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

5 本時の展開 (3/6)

児童生徒の学習活動

1 本時の学習の見通しを確認し、課題を設定する

○今日はこの表からそれぞれの学年の子どもの人数の平均を求めます。

○どのように求めることができますか。

・ $(85 + 94 + 88 + 89 + 96 + 82) \div 6$ で求めることができますよ。

○太郎さんは、次のように言っています。

・ 80って何なのかな。この求め方知っているよ。

○実際に計算してみると次のようになります。

・ この式でも平均を求めることができているんだ。

・ 本場に平均を求めることができているのかな。

学年 (年)	1	2	3	4	5	6
人数 (人)	85	94	88	89	96	82

$80 + (5 + 14 + 8 + 9 + 16 + 2) \div 6$ でも平均を求めることができる。

$(85 + 94 + 88 + 89 + 96 + 82) \div 6 = 89$
 $80 + (5 + 14 + 8 + 9 + 16 + 2) \div 6 = 80 + 9 = 89$

85	94	88	89	96	82
----	----	----	----	----	----

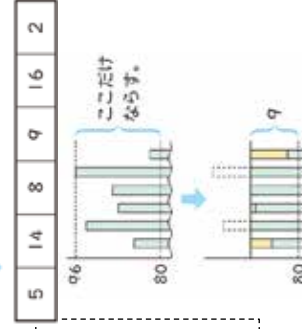
$80 + (5 + 14 + 8 + 9 + 16 + 2) \div 6$ で平均を求めることができるのはなぜか。

2 個人や仲間と共に追究して自分なりの結論を出し、全体で確かめる

・ 表による説明
 $(5+14+8+9+16+2) \div 6$ の式で、人数から 80 を引いた 5, 14, 8, 9, 16, 2 の平均を求めたい。その数を 80 に加えることで、全体をならすことと同じことができる。だから、平均を求めると言える。

・ 両方の共通点、接続部
 80 以上の部分の平均を 80 に加えることと、全体をならすことと同じことができる。だから、平均を求めると言える。

・ 図による説明
 80 に線を引くと、80 までではならさず、80 より上のパラパラ部分だけを加えなければいけない。だから、平均を求めると言える。



○式の最初の数を 80 以外の数に変えても求められますか。

・ どんな数でもその数より多い部分だけを平均してその数を加えれば求められると思う。

・ 82 以下の数でなければいけないと思う。 ・ きれいな数だと計算がしやすいのかもしれない。

○この問題の 80 以上に、ここまですなしたと考える値を「仮の平均」といいます。

3 本時の学習をまとめる

仮の平均より多い部分の平均を仮の平均に加えることは、全体をならすことと同じことだから、この方法で平均を求めることができる。

4 評価問題を行う

5 仲間と学習を振り返る

・ 初めは、この式で平均が求められる理由が分からなかったけれど、○○さんが、グラフに線を書いて「ここより下はどの学年も人数がいるから、この上の部分だけをならせばいいんじゃない。」と言っていたのを聞いて 80 の意味が分かったし、80 より多い部分の平均を求めて 80 に足しても、全体をならしていることと同じということが分かった。

次の表から、各学年の子どもの数の平均を自分で仮の平均を決めて求めましょう。

学年 (年)	7	8	9
人数 (人)	114	121	101

教師の手立てと見届け

(●教科の資質・能力○自己実現に向かう資質・能力)

○●架空人物の考えに対して、この方法でも求めることができるのはなぜかという思考のもと、疑問を全体で確認し、課題化する。①

研究にかかわって【見届けの視点】
 図や表を根拠にして考えを明確にしていることをノートの記述、仲間と追究する姿や対話から見届けする。(問題解決力)

●「平均とは全体をならして等しくしたときの大きさのことであるから・・・」と定義をもとにした考えを価値付け広める。②

●式の最初の数を 80 以外の数に変えても求めることができるか問うことで、80 までではすなわしていることを確認し、80 以外でもこの考え方を適用することができるようになる。③

●評価問題を行い、自分の学習を振り返りながら仮の平均を使って計算することができるようになる。③

【評価規準】

仮の平均を定めてその差分の平均を仮の平均に加えることで平均を求めよと考えている。
 [思考・判断・表現]

【公開 I】6年2組 算数科学習指導案

6年2組教室 富倉 亮

1 単元名 分数のわり算 ～真分数÷真分数(約分なし)～

2 指導の立場

(1) 題材について

本単元は、第6学年の内容A数と計算A(1)分数の乗法、除法にもとづく単元であり、主たるねらいは「分数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができるようになることや数の意味と表現、計算に関する成り立ち性質に着目し、多面的に捉え、計算の仕方を考える態度や能力を高めること」とである。

このねらいを達成するために、次のことを大切にしてい指導する。

- ・ 除数が分数でも除法が適用できること
 - ・ 除数が分数である場合の計算の仕方を、分数に整数をかける乗法及び分数を整数で割る除法の考え方を基にして考えること
- 本単元に至るまで、分数×整数、分数÷整数、分数×分数について、場面を数直線に表し、その数直線を用いて立式したり、その計算の仕方を既習内容に帰して明らかになりしてきた。本単元はこれらと同じように立式し、計算の仕方を明らかにしたりする。特に本単元では、わる数の逆数をかければよいという形式的な処理ができることだけでなく、既習の内容を基にしながらかその計算の仕方を明らかにしていく数学的活動に重点を置き、筋道を立てて考えることができるようにする。さらに、これまで学習してきた整数、小数、分数の乗除はすべて分数の乗法にまとめることができることを理解できるようにする。

(2) 児童生徒について

本学年における「目指す論証する児童生徒の姿」は「既に認められた事柄や定義を根拠として、数学的表現を用いて主張に対する正誤の判断をしたり、正しさを説明したりすること」である。論証に重点を置いたカリキュラム編成について、本単元における数学的な資質・能力(2)を発揮した児童生徒の姿は以下である。

分数の意味と表現、除法について成り立ち性質に着目し、計算の仕方を考え、説明すること。また、整数、小数、分数の乗法、除法について見直し、分数の乗法として統合的に捉えることができること。

本時に至るまで、児童は具体的な問題場面から1あたりの量を求めることから除数が分数でも除法が適用できることを明らかにしている。本時は、前時明らかにした除法が分数である式と、分数と整数の乗除で表された式が等しい関係であることから学習を始める。そこで、本時の学習における論証と児童が次のような考えをもって論を進めていくことである。

分数÷分数は除数を逆数にしてかければよいという形式化することを見直し、分数÷分数の式を分数と整数の乗法と除法の式に帰着して、形式化した形で導くこと

(3) 指導について

児童は、「分数の除法は除数の逆数をかけて計算してもよいのか。」という課題意識をもって追究する。本時は論証に特化した単位時間として位置付けているため、以下のような手立てを講じる。

① 数学的活動を考えたと問題設定や明確な判断ができる課題の設定

本時は分数の乗法と同様な展開であるため、課題化に至るまでの過程は児童にとって難しさはそれほどないと考え、根拠が明確でない中で分数の除法は被除数の逆数をかければよいのではないかと考えることは難しい。そこで、架空人物の考えを提示し、なぜそのように計算してもよいのかといった課題を設定する。このように結論を課題化の前に示しておくことで、本時の学習の終着点を意識しながら学習を進めていけるようにする。

② 考えを修正、強化するための工夫

児童が分数の除法は除数の逆数をかければよいと結論を導いた授業の終末に「除数である分子の3と形式化した後の乗数である分母の3は同じか」と問う。このことで自身の考えの過程を振り返り、考えの飛躍や曖昧さがないか見直しながら考えの修正、強化ができるようにしていく。

③ 内省する場の設定

論証している自分の学び方を振り返る。その際には、自分の考えに対して影響を与えた仲間の考えや決め手になった考え方を振り返ること、今後の自分の学び方の視点が明確にできるようにする。

3 単元指導計画

学年	第6学年	単元名	単元で育む資質・能力	単元のわり算 (全14時間)
			<ul style="list-style-type: none"> ・分数の除法の意味や計算の仕方を理解し、計算することができる。また、被除数と商の大小関係や、分数倍と基準量、比較量の関係を理解する。[知識及び技能] ・分数の意味と表現、除法について成り立つ性質に着目し、計算の仕方を考え、説明することができる。また、整数、小数、分数の乗法、除法について見直し、分数の乗法として統合的に捉えることができる。[思考力、判断力、表現力等] ・除数が分数の除法について、計算の意味や計算の仕方を、既習の学習を生かして考えようとする。[学びに向かう力、人間性等] 	
			ねらいと課題	評価規準
時				
①		分数で表された量について、1あたりの量を求める式を考える活動を通して、除数が分数である式や分数×整数と分数÷整数の式があることに気付き、同じ問題場面を表した式であることから、除数が分数の場合でも除法の式に表すよいかを理解できる。		分数でわることの意味を、図を用いて考え、理解している。[知識・技能]
②	本時	分数の除法の計算の仕方を考える活動を通して、図や式を用いて分数の除法は分数と整数の乗法や除法として計算でき、分数の除法は除数の逆数をかけて計算すればよいと考えることができる。 ・ $2/5 \div 3/4$ を $2/5 \times 4/3$ と計算してもよいのはなぜか。		$2/5 \div 3/4$ は、図や計算のきまわりを根拠に $2/5 \div 3/4$ は $2/5 \div 3 \times 4$ や $2/5 \times 4 \div 3$ として計算でき、 $2/5 \div 3/4 = 2/5 \times 4/3$ と計算できると考えている。[思考・判断・表現]
③		$2/5 \div 3/4$ 以外の真分数÷真分数の計算の仕方を考える活動を通して、それらも $2/5 \div 3/4$ の計算の仕方と同様に説明できることに気付き、 $b/a \div d/c = b/a \times c/d$ と一般化し、計算することができる。 ・ $2/5 \div 3/4$ 以外の分数÷分数の計算の仕方も同じような説明でよいか。		真分数÷真分数の計算の仕方を理解し、除数を逆数にして計算している。[知識・技能]
④		商が約分できる分数÷分数や分数の乗除が混じった計算をする活動において、分数の除法は分数の乗法に帰着できることから、分数の乗法のときと同じように途中で約分して、計算することができる。 ・ 途中で約分して商を求めよう。		途中で約分できる場合の除法や乗法と除法の混じった計算の仕方を理解し、計算している。[知識・技能]
⑤		整数÷分数や帯分数の除法を計算する活動において、整数は分数で表すことができること、帯分数は仮分数に表すことができること、帯分数÷分数や帯分数÷帯分数を分数÷分数に帰着して考えることができる。 ・ $4\frac{1}{2} \div 2\frac{2}{3}$ を整数部分、分数部分で計算してもよいか。		整数÷分数や帯分数÷帯分数を分数÷分数に帰着して考えている。[思考・判断・表現]
⑥		求答事項に応じた演算決定をする活動において、場面を数直線に整理して演算決定すればよいことに気付き、求めたい1当たりの量の方が被除数になると見いだすことができる。 ・ 同じ式にならないのはなぜか。		数直線を用いて演算決定して、求答事項に応じた式を考え、説明している。[思考・判断・表現]
⑦		学習内容を振り返り、除数が分数の計算の仕方や解決するときの大切な考え方を想起して練習問題に取り組み、正しく計算ができる。		分数の除法の計算ができ、それを用いて問題を解決している。[知識・技能]

⑧	分数でわる除法で、除数と1の大小関係から商と被除数の大小関係を通して、数直線上の除数の大きさを見れば、その大小関係がわかることに気付き、計算をしなくても、除数の大きさから被除数と商の大小関係を判断することができる。 ・計算しなくても被除数と商の大小関係をはつきりさせることはできるか。	数直線上の除数の大きさに着目し、商と被除数との大小関係を見いだしている。[思考・判断・表現]
⑨	小数、分数の混じった計算の仕方を考える活動を通して、小数はそれに対応する分数が存在することとに気付き、分数の計算に帰着させて計算をすることができる。	小数、分数の混じった乗法、除法の計算を分数の乗法に帰着して計算している。[知識・技能]
⑩	整数や小数の乗法や除法の混じった計算をする活動を通して、整数や小数はそれに対応する分数が存在することに気付き、これまでの乗法や除法はすべて分数の乗法で計算できると考えることができる。 ・どんなかけ算、わり算でも分数のかけ算でできることは本当か。	既習の整数や小数の乗法、除法は分数の乗法に統合できているを見いだしている。[思考・判断・表現]
⑪	ある量を分数倍した大きさを求める活動を通して、その求める式が分数の乗法であることを比の第2用法や数直線から考え、小数の場合と同じように何倍かを表す数が分数で表されていても、その分数倍した大きさを求めるために乗法を適用してよいことを理解できる。 ・分数倍になっても同じように求めることができるか。	比較量を求めるときに、分数の乗法が適用されることを、数直線をもとに見いだしている。[思考・判断・表現]
⑫	1とみる大きさが分数で表されているとき、その何倍かを求める活動を通して、その求める式が分数の除法であることを比の第1用法や数直線から考え、小数の場合と同じように1とみる大きさが分数で表されているとき、何倍かを求めるには、分数の除法を適用してよいことを理解できる。	割合を求めるときに分数の除法が適用されることを、数直線をもとに見いだしている。[思考・判断・表現]
⑬	割合が分数で表されているとき、1とみる大きさを求める活動を通して、その求める式が分数の除法であることを比の第3用法や数直線から考え、小数の場合と同じように1とみる大きさを求めるために除法を適用してよいことを理解できる。	基準量を求めるときに、分数の除法が適用されることを、数直線をもとに見いだしている。[思考・判断・表現]
⑭	これまでの学習を振り返り、新たに理解した知識、問題を解決するときの大切な考え方を明らかにしながら、単元をまとめ、正しく計算をすることができる。	分数の除法の計算の仕方を理解し、計算している。[知識・技能]
単元で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿		
問題解決力	分数の乗法の学習と同じように考えることができると振り返りながら学びを進める姿。	
関係構築力	分数の乗法の学習を想起しながら、考えの飛躍や曖昧さを指摘し合ったり、受け入れたりする姿。	
貢献する人間性	自分や仲間の考えを修正、強化できた学習の過程を振り返り、今後の自分の学習に向かう態度や方法を考える姿。	
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て		
問題解決力	考えの決め手になった根拠を、ノートの記事や学習の振り返り文から見届ける。	
関係構築力	課題に対する判断や考えを、仲間と対話する様子の言葉や指し示すノートの記述から見届ける。	
貢献する人間性	自分の考えを修正、強化できたその過程を、振り返り文から見届ける。	

4 教科にかかわる本時のねらい

分数の除法の計算の仕方を考える活動を通して、図や式を用いて分数の除法は分数と整数の乗法や除法として計算でき、分数の除法は分数の逆数をかけて計算すればよいと考えることができる。[思考力、判断力、表現力等]

5 本時の展開 (2/14)

児童生徒の学習活動

1 本時の学習の見通しを確認し、課題を設定する

○ 前回の学習で $\frac{2}{5} \div \frac{3}{4}$ という式をつくりました。この計算の仕方ついて、太郎さんは

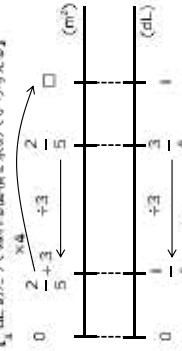
次のように言っています。

・なんでこんなふうに式を変えていいのだろう。・そうやってやるって知っているよ。

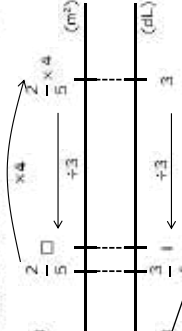
$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4}$ を $\frac{2}{5} \times \frac{4}{3}$ と計算してもよいのはなぜか。

2 個人や仲間と共に追究して自分なりの結論を出し、全体で確かめる

【1dL あたりでぬれる面積を求めてから考える】



【3dL あたりでぬれる面積を求めてから考える】



わり算のきまりから、わられる数とわる数に同じ数をかけても商は変わらないから、わられる数を1にするために...

$$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} = \left(\frac{2}{5} \times \frac{4}{3} \right) \div \left(\frac{3}{4} \times \frac{4}{3} \right) = \frac{2 \times 4}{5 \times 3} \div 1 = \frac{2 \times 4}{5 \times 3}$$

だから

$$\frac{2}{5} \times \frac{4}{3} = \frac{2 \times 4}{5 \times 3}$$

○ $\frac{2}{5} \div \frac{3}{4}$ の3と $\frac{2}{5} \times \frac{4}{3}$ の3は同じ「3」ですか。

・今日の学習を振り返ってみると、 $\frac{3}{4}$ の3はもとの式の3だけだけど、 $\frac{4}{3}$ の3は $\frac{3}{4}$ を $\frac{1}{4}$ にするために自分でわった3だから、数字としては同じだけれど、意味は違うと思う。

・でも、計算して答えを求めるときだけを考えると、同じ3として計算すればいいのだな。

3 本時の学習をまとめる

$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4}$ は、 $\frac{1}{4}$ dL あたりや3dL あたりを求めるときを考えれば、それぞれ $\frac{2}{5} \times 4 \div 3$ や $\frac{2}{5} \times 4 \div 3$ で計算できるから、 $\frac{2}{5} \times \frac{4}{3}$ として計算してよい。

4 学習の振り返り文を書く

・私は分数のわり算はわる数の逆数をかければよいということを知っていたけれど、何でそのようにして計算してよいかという理由は知らなかった。○さんが「分数のかけ算と同じように考えたらできたよ。」と言っていたので、その時のノートを見直して、～あたりを求めてから考えれば、これまでの計算で求められることが分かり、それがもとになっつてわる数の逆数をかければよいことが分かった。

教師の手立てと見届け

(●教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力)

○ 架空人物の考えに対して、納得していなくても、なぜ太郎さんはこのように考えたのかという課題意識のもと、課題化する。①

● 分数のかけ算のときと同じように論証できるように「分数のかけ算と同じように考えれば…」という考えを教師が価値付け、広める。②

研究にかかわって【見届ける視点】

式変形の根拠を明確にして結論まで導く様相をノートの記述や仲間と追究する姿や対話から見届ける。(問題解決力)

● 「除数である分子の3と形式化した後の乗数である分母の3は同じか」と問うことで、論証した過程を振り返ることができるようになる。②

● 自分の考えに対して影響を与えた仲間の考えや決め手になった考え方を記述している振り返りを価値付け、振り返る視点を全員が共有できるようにする。③

【評価規準】

$$\frac{2}{5} \div \frac{3}{4} \text{は、図や計算のきまりを根拠に} \frac{2}{5} \div \frac{3}{4} \text{は} \frac{2}{5} \times \frac{4}{3}$$

$$3 \times 4 \text{や} \frac{2}{5} \times 4 \div 3 \text{として計算でき、} \frac{2}{5} \times \frac{4}{3} = \frac{2 \times 4}{5 \times 3}$$

$\frac{4}{3}$ と計算できると考えている。

[思考・判断・表現]

【公開 I】9年2組 数学科学習指導案

第1多目的室 岩崎 英之

1 単元名 相似と比 ～中点連結定理～

2 指導の立場

(1) 題材について

本単元は、第3学年の内容B図形B(1)図形の相似にもとづく単元である。主たるねらいは、「図形の相似の概念を明らかにするとともに、図形の性質を三角形の相似条件などを基にして確かめ、図形の性質を用いて論理的に考察し表現する力を養う」と、
「図形の性質を用いて図形の計量ができる」ことである。

- これらのねらいを達成するために、次のことを大切にして指導する。
- 帰納的に見いだした図形の性質や関係について、条件を整理して命題化すること
- 順思考と逆思考を組み合わせながら解決の見通しをもつこと
- 命題が成り立つことを、相似な図形の性質や既習の図形の性質を根拠にして演繹的に表現すること
- 証明した図形の性質を用いて、辺や線分の長さや角の大きさなどを計量する場を設定すること

これらの指導を大切に、三角形の相似条件などを用いて図形の性質を論理的に確かめていく中で、数学的な推論の必要性や意味及び方法の理解を深めたり、様々な図形の性質を理解したりしていくことになる。また、証明により明らかにした図形の性質を、新たな図形の性質の考察や図形の計量に用いる力を養うとともに、図形について見通しをもって論理的に考察し表現する力を養っていく。

(2) 児童生徒について

本学年における「目指す論証する児童生徒の姿」は「既に認められた事柄や定義を根拠として、命題が真であることを演繹的推論によって示すこと」である。論証に重点を置いたカリキュラム編成について、本単元における数学的な資質・能力(2)を発揮した児童生徒の姿は以下である。

三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質について論理的に確かめることができる。また、平行線と線分の比についての性質を見いだし、それらを確かめることができる。

生徒は、本時に至るまでに三角形と比、平行線と線分の比についての定理を見いだし、相似な図形の性質を用いて論証するとともに、それらを使って図形の性質を考察したり、辺や線分の長さや角の大きさなどを計量したりしている。前時には、三角形と比の定理を特殊化することにより中点連結定理を見いだして論証し、中点連結定理を平行線と比の定理の特例な場合として統合的に捉え直している。また、帰納的に、四角形 ABCD の各辺の中点を結んでできる四角形 PQRS はどんな四角形になるかを調べ、次の命題を見

いだしている。

- ①四角形 ABCD の各辺の中点を結んでできる四角形 PQRS は平行四辺形になる。
- ②長方形 ABCD の各辺の中点を結んでできる四角形 PQRS はひし形になる。
- ③ひし形 ABCD の各辺の中点を結んでできる四角形 PQRS は長方形になる。
- ④正方形 ABCD の各辺の中点を結んでできる四角形 PQRS は正方形になる。

この中で、①の命題については前時で証明している。

本時は②～④の中で②の命題を取り扱う。中点連結定理と既習の図形の性質を用いて証明することにより、図形の性質を用いて論理的に考察し表現する。また、この命題の仮定を発展させ、証明の過程を振り返ることで、中点連結定理と対角線の関連に気付く、四角形の各辺の中点を結んでできる四角形がどんな四角形になるかを決定づける条件について考察していく。

(3) 指導について

生徒は、授業前半に前時見いだした命題を証明していく。そして、もとの命題の仮定でなくとも、四角形 PQRS がひし形になることを決定づけている条件を考察する。これにより、中点連結定理を新たな図形の性質の考察や図形の計量に用いる力を養うとともに、図形について見通しをもって論理的に考察し表現する力を養っていきたいと考えた。また、生徒が発展的に捉え、証明の過程を振り返りながら、さらに考察していく中で、中点連結定理の有用性を感じることができるようになり、以下のような手立てを講じる。

① 数学的活動を考えた問題設定や明確な判断ができる課題設定

本時は、前時に見いだした命題について論証する。前時に生徒自身が帰納的に見いだした命題だからこそ、本時その命題が正しいことを証明する必然性をもたせながら、学びに連続性をもたせることができることを考え、また、前時の学びであり、本時のよりどころとなる中点連結定理の証明や、自分たちで見いだした命題を確認することで、課題意識と見通しをもてるようにする。

② 考えを修正、強化するための工夫

上述の②の命題を証明した後、「四角形 PQRS がひし形になる長方形ではない四角形 ABCD」を提示する。これにより、もとの命題の仮定である長方形ではなくても四角形 PQRS がひし形になることに、生徒が気付くことができるようにする。さらに考察する内容を「四角形 PQRS がひし形になることを決定づけている条件は何か。」と明確にする。これにより、生徒が終着点を意識しながら考察できるようにする。この考察を行っていくことで、②の命題を中点連結定理を使わずに証明した生徒も、中点連結定理の有用性を感じることができると考え、また、中点連結定理を利用して証明したり、その過程を振り返ったりすることで、四角形 PQRS がひし形になることを決定づけている条件が対角線の長さであることに気付く、命題の仮定をより一般的なものにできたときにも、中点連結定理の有用性を感じることができると考える。

③ 内省する場の設定

本時を通して、分かったことややでできるようになったことを文章によって振り返る。また、自分の解決までの過程を省察し、仲間との交流を通して考えが修正、強化されたことなどの、自分の学び方についても振り返りまとめようとする。

3 単元の指導計画

学年	第9学年	単元名	単元で育む資質・能力	相対と比 (全18時間)
			単元で育む資質・能力	
			<ul style="list-style-type: none"> 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件、基本的な立体の相似の相似比と面積比や体積比との関係などについて理解することができる。また、相似な図形や平行線と線分の比などの性質を使って、線分の長さや角の大きさを求めることができる。〔知識及び技能〕 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質について論理的に確かめることができる。また、平行線と線分の比についての性質を見いだし、それらを確かめることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 相似な図形による美観を敏感に感じ、考え、図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、相似な図形を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりする。〔学びに向かう力、人間性等〕 	
時	ねらいと課題			評価規準
①	1点Oを定めて、四角形ABCDを2倍にした図形A'B'C'D'をかき、この二つの図形の間にある性質を対応する辺や角に着目して調べる活動を通して、図形を拡大・縮小することの意味やこのような操作でかかれた図形の性質を理解することができる。また、相似の定義について理解することができる。			図形を拡大・縮小することの意味やこのような操作でかかれた図形の性質を理解している。また、相似の定義について理解している。〔知識・技能〕
②	1点Oを定めて四角形ABCDを2倍にした図形A'B'C'D'をかき、二つの図形の間にある性質を調べよう。 相似な図形の対応する角の大きさや辺の長さを調べる活動を通して、相似な図形の定義を根拠にしながら相似な図形の性質を見いだすことができる。また、相似比の意味を理解し、相似比や相似な図形の性質を利用して、相似な図形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。			相似な図形の定義を根拠にしながら相似な図形の性質を見いだしている。また、相似比の意味を理解し、相似比や相似な図形の性質を利用して、相似な図形の辺の長さや角の大きさを求めている。〔知識・技能〕
③	定点Oをいろいろな位置にとり、二つの相似な図形をかく活動を通して、そのかき方と対応する辺の位置関係について考察し、相似の位置と相似の中心の定義について理解することができる。			定点Oをいろいろな位置にとり、二つの相似な図形をかくかき方と対応する辺の位置関係について考察し、相似の位置と相似の中心の定義について理解している。〔知識・技能〕
④	相似な図形をかくこと、二つの相似な図形をかく活動を通して、相似の定義を根拠に証明し、三角形の相似条件をまとめることができる。			相似な図形をかくこと、二つの相似な図形をかく活動を通して、相似の定義を根拠に証明し、三角形の相似条件をまとめている。〔思考・判断・表現〕
⑤	二つの三角形が相似かどうかを判断するために何に着目すればよいかを考える活動を通して、相似条件をもとに図形の構成要素に着目すればよいかを判断し、三角形の相似条件をまとめることができる。			相似条件をもとに図形の構成要素に着目すればよいかを判断し、三角形の相似条件をまとめている。〔思考・判断・表現〕
⑥	二つの三角形が相似であることを証明し、二つの三角形の相似条件を利用して、二つの三角形が相似であると判断することができる。			相似条件をもとに図形の構成要素に着目すればよいかを判断し、三角形の相似条件を利用して、二つの三角形が相似であると判断している。〔思考・判断・表現〕
⑦	二つの三角形が相似であることを証明し、二つの三角形の相似条件を利用して、二つの三角形が相似であると判断することができる。			相似条件をもとに図形の構成要素に着目すればよいかを判断し、三角形の相似条件を利用して、二つの三角形が相似であると判断している。〔思考・判断・表現〕

⑧	<p>三角形と比の定理の逆を証明を通して、仮定と結論を明らかにし、結論から逆思考で考え、既習の図形の性質を利用しながら証明することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形と比の定理の逆が成り立つことを証明しよう。 	<p>仮定と結論を明らかにし、結論から逆思考で考え、既習の図形の性質を利用しながら証明しよう。</p> <p>補助線を引き、三角形と比の定理を利用して証明できることに気付いたり、平行線と比の定理を証明したり、平行線と比の定理を拡張したものと捉えたりしている。</p> <p>[思考・判断・表現]</p>
⑨	<p>平行線と線分の比の定理の証明を通して、補助線を引いたり、平行線と比の定理を拡張したものと捉えたりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平行線と比の定理が成り立つことを証明しよう。 	<p>補助線を引いたり、平行線と比の定理を利用して証明できることに気付いたり、平行線と比の定理を拡張したものと捉えたりしている。</p> <p>[思考・判断・表現]</p>
⑩	<p>中点連結定理の証明を通して、中点連結定理は三角形と比の定理の特別な場合であり、中点連結定理を証明したり、中点連結定理を利用して図形の性質を見いだしたりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中点連結定理が成り立つことを証明しよう。 	<p>中点連結定理は三角形と比の定理の特別な場合であり、中点連結定理を証明したり、中点連結定理を利用して図形の性質を見いだしたり、新たな図形の性質を見いだしたりしている。</p> <p>[思考・判断・表現]</p>
⑪ 本時	<p>長方形の各辺の中点を結んでできる四角形がひし形になることを証明する活動を通して、中点連結定理を用いて命題が正しいことを証明し、その過程を振り返ることでもとの四角形の対角線の中点を結んでできる四角形がどんな四角形になるかを決定づけることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長方形 ABCD の各辺の中点を結んでできる四角形 PQRS はひし形になることを証明しよう。 	<p>中点連結定理を用いて、長方形の各辺の中点を結んでできる四角形がひし形になることを証明し、その過程を振り返ることでもとの四角形の対角線の中点を結んでできる四角形がどんな四角形になるかを決定づける条件に気づいたり、新たな図形の性質を見いだしたりしている。</p> <p>[思考・判断・表現]</p>
⑫	<p>三角形の角の二等分線と比の定理の証明を考える活動を通して、補助線の引き方によって違う証明の仕方があ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形の角の二等分線と比の定理が成り立つことを証明しよう。 	<p>三角形の角の二等分線と比の定理の証明について、補助線の引き方によって違う証明の仕方があ</p> <p>[思考・判断・表現]</p>
⑬	<p>三角形の面積比を求める活動を通して、高さが等しい二つの三角形の面積比は、底辺の比に等しいことが</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平行線と線分の比に着目して、三角形の面積について調べよう。 	<p>高さが等しい二つの三角形の面積比は、底辺の比に等しいことに気付いたり、平行線と線分の比の定理を利用して証明しよう。</p> <p>[知識・技能]</p>
⑭	<p>相似な図形の相似比と面積の比との関係を探る活動を通して、面積の比は相似比の 2 乗になることが</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相似比が 1 : k である二つの三角形の面積比が 1 : k² になることを明らかにしよう。 	<p>相似な図形の相似比と面積の比との関係を探る活動を通して、面積の比は相似比の 2 乗になることに気付いたり、その理由を説明しよう。</p> <p>[思考・判断・表現]</p>
⑮	<p>相似な立体の相似比と表面積の比の関係について調べる活動を通して、表面積の比が相似比の 2 乗になることに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相似比が 1 : k である二つの三角錐の表面積の比が 1 : k² になることを明らかにしよう。 	<p>相似な立体の相似比と表面積の比の関係について調べる活動を通して、表面積の比は相似比の 2 乗になることに気付いたり、その理由を説明しよう。</p> <p>[思考・判断・表現]</p>
⑯	<p>相似な立体の相似比と体積の比の関係について調べる活動を通して、体積の比が相似比の 3 乗になることに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相似比が 1 : k である二つの直方体の体積の比が 1 : k³ になることを明らかにしよう。 	<p>相似な立体の相似比と体積の比の関係について調べる活動を通して、体積の比は相似比の 3 乗になることに気付いたり、その理由を説明しよう。</p> <p>[思考・判断・表現]</p>

⑰	<p>直接測ることが困難な2点間の距離や高さを求めることに気付く、その考えを説明する方法を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 測定が困難な2点間の距離を直接測らずに求めるにはどうすればよいか。 	<p>直接測ることが困難な2点間の距離や高さを求めるために、相似な図形を見だし、その性質を利用して2点間の距離や高さを求める方法を説明することができる。</p>	<p>直接測ることが困難な2点間の距離や高さを求めるために、相似な図形を見だし、その性質を利用して2点間の距離や高さを求める方法を説明している。[思考・判断・表現]</p>
⑱	<p>直接測ることが困難な2点間の距離を求める活動を通して、相似条件と三角形の決定条件をもとに元の図と相似な三角形をかくことで、直接測ることが困難な長さを測ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実測して求めた長さと相似な図形の性質を利用して実際の2点間の距離を求めよう。 	<p>直接測ることが困難な2点間の距離を求める活動を通して、相似条件と三角形の決定条件をもとに元の図と相似な三角形をかくことで、直接測ることが困難な長さを測ることができる。</p>	<p>直接測ることが困難な2点間の距離を、相似条件と三角形の決定条件をもとに、もとの図と相似な三角形をかくことで、直接測ることが困難な長さを測ることのできる長さに置き換えて考えられることに気付く、問題を解決している。[思考・判断・表現]</p>
⑲	<p>相似な立体の体積に関する問題を解く活動を通して、相似比と体積比との関係を利用して問題を解決することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題を理想化、単純化して相似比と体積比の関係を利用して問題を解決しよう。 	<p>相似な立体の体積に関する問題を解く活動を通して、相似比と体積比との関係を利用して問題を解決することができる。</p>	<p>相似比と体積比との関係を利用してするために、事象を理想化、単純化し数学的にモデリングすればよいことに気付く、相似な図形の性質を利用して問題を解決している。[思考・判断・表現]</p>
単元で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿			
問題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質を用いて論理的に考察し表現している姿 統一的・発展的に図形の性質を相似な図形の性質を用いて考察し表現している姿 		
関係構築力	自分と仲間の論を比較し、根拠が曖昧なところでは指摘し合ったり、仲間の論を取り入れられることで自分の論を修正、強化したりする姿		
貢献する人間性	学んだことだけでなく、自己の解決までの過程を内省し、自己の学び方について振り返る姿		
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て			
問題解決力	<ul style="list-style-type: none"> 系統性を生かし既習の学習過程を振り返る場を設定し、図形の性質を用いて論理的に考察し表現することができているかをノートでの記述や学習の振り返り文から見届け。 課題解決後にさらに追究できそうなことの見通しをもつ場を設定し、統一的・発展的に図形の性質を相似な図形の性質を用いて考察し表現できているかを、ノートの記述や学習の振り返り文から見届け。 		
関係構築力	同じ論もしくは異なる論の仲間と交流する場を意図的に設定することで、自分と仲間の論を比較し、根拠が曖昧なところは指摘し合ったり、仲間の論を取り入れることで自分の論を修正、強化したりするかができているかを、仲間との交流の様子やノートの記述、学習の振り返り文から見届け。		
貢献する人間性	学んだことだけでなく、自己の解決までの過程を内省し、自己の学び方について振り返るかができているかを振り返り文から見届け。		

4 教科にかかわる本時のねらい

長方形の各辺の中点を結んでできる四角形がひし形になることを証明する活動を通して、中点連結定理を通して、中点連結定理を用いて命題が正しいことを証明し、その過程を振り返り返すことで、もとの四角形の対角線のもつ特徴が、各辺の中点を結んでできる四角形がどんな四角形になるかを決定づける条件になっていることを考察することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

5 本時の展開 (11/18)

児童生徒の学習活動	教師の手立てと見届け
<p>1 前時に証明したことを振り返る</p> <p>「①四角形 ABCD の各辺の中点を結んでできる四角形 PQRS は平行四辺形になる。」</p> <ul style="list-style-type: none"> この命題を、対角線を引き2つの三角形に分けることで、中点連結定理を用いて証明することができた。 <p>2 前時に帰納的に見いだした命題を確認し、課題を設定する</p> <p>「長方形 ABCD の各辺の中点を結んでできる四角形 PQRS はひし形になる。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ひし形の定義からすると、前の時間の中点連結定理を用いた証明の方法が使えると思う。 周りの4つの三角形が合同あることを証明できれば、ひし形であることを証明できると思う。 	<p>(●)教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ●前時の板書を利用し、四角形 ABCD が一般的な形のときに、四角形 PQRS が平行四辺形になることを、中点連結定理で証明したことや、前時に見いだした命題を確認し、命題が正しいことを確認することで、本時の証明を進めていくときの手がかりとできるようにする。① ●各グループ内で命題を証明し確認する。その後、グループ間で証明を交流し、根拠が曖昧なところについては指摘し合い、必要などころは証明を修正、強化する。② ●「四角形 PQRS がひし形になる長方形ではない四角形 ABCD」を提示（気づいた生徒がいれば生徒に発言させる）し、「四角形 PQRS がひし形になることを決定づけている条件は何か。」を、さらに考察できるようにする。② ●新たに提示した四角形 ABCD の対角線の長さが等しいことは、生徒たちが考察していく中で必要であると気付いた時点で提示する。② ●分かったことやできるようにしたことだけでなく、解決までの過程を省察し、自分の学び方を振り返りまとめる。③
<p>長方形 ABCD の各辺の中点を結んでできる四角形 PQRS はひし形になることを証明しよう。</p>	
<p>3 命題が正しいことを証明し交流して確かめる (個人→グループ交流→全体交流)</p> <p>長方形 ABCD の対角線 AC をひくと、△ABC において、 P は辺 AB の中点、Q は辺 BC の中点であるから、中点連結定理より △ADC においても同様にして 長方形 ABCD の対角線 BD をひくと、△ABD において、 P は辺 AB の中点、S は辺 AD の中点であるから、中点連結定理より △CBD においても同様にして また、長方形の対角線は等しいので、四角形 PQRS はひし形である。 よって、4つの辺が等しいので、四角形 PQRS はひし形である。</p> <p>4 四角形 PQRS がひし形になる条件について再考する</p> <ul style="list-style-type: none"> 周りの三角形が合同であることで証明した方法は使えない。 この四角形の対角線の長さが等しければ、長方形 ABCD の時と同じようにできる。 四角形 PQRS がひし形になる条件には、対角線が関係していると思う。 四角形 ABCD の対角線をもとに中点連結定理を用いて四角形 PQRS がひし形かを証明しているから、四角形 PQRS がひし形になる条件は四角形 ABCD の対角線がもつ特徴によって決まってくる。 四角形 ABCD の対角線の長さが等しい場合、四角形 PQRS はひし形になる。 	<p>【見届けの視点】</p> <p>もとの命題の仮定を変えても四角形 PQRS がひし形になることについて、証明の過程を振り返り、対角線が四角形 PQRS の形を決定づける条件になることを考察する姿をノートの記述や仲間との交流の様子から見届ける (問題解決力)</p>
<p>はじめの命題が正しいことを中点連結定理やいろいろな図形の性質を根拠に証明することができた。ただし、初めは根拠が不十分だったけど、○○さんに指摘してもらえたことで、根拠を明確にして証明することができた。また、四角形 PQRS がひし形になる条件は、四角形 ABCD の対角線がもつ特徴によって決まってくるということが分かった。これは、証明の過程の中で、対角線と中点連結定理を関連させて四角形 PQRS がひし形かを証明するからだということも分かった。</p>	<p>【評価規準】</p> <p>中点連結定理を用いて、長方形の各辺の中点を結んでできる四角形がひし形になることを証明し、その過程を振り返ることでもとの四角形の対角線のもつ特徴が、各辺の中点を結んでできる四角形がどんな四角形になるかを決定づける条件になっていることを考察していることを考察している。〔思考・判断・表現〕</p>

1 単元名 (3) 生物の体のつくりと働き

2 指導の立場

(1) 題材について

本県は標高0mの低地から標高3000mにも及ぶ山岳地まで高低差のある土地であるが故の暖地性と寒地性を有し、変化に富んだ豊かな生態系を見ることができ、一方、様々な生物が互いに影響し合い保ってきた調和を人間が崩している現状もある。長良川に特定外来生物のユクチバスが見つかっただけが注目されているが、その何が問題で、その問題が我々の生活にどんな影響を与えるのかを理解しないと、今ある自然はさらに破壊されていくだろう。自然を守ろうとすると生きている、自然を知り、自然の上には我々の生活があると理解することから始まると考えられる。そのための手立てとなる考え方は「生物多様性」である。その考え方を構成する要素、種の多様性、遺伝子の多様性、生態系の多様性は理科の生命領域の学習内容と密接に関わっている。

本単元は、「第2分野 内容(3) 生物の体のつくりと働き」ア、イに基づいたものであり、生物多様性の理解の土台である、「どこにどんな生物がいるのか」という種の多様性の理解に繋がる単元である。具体的には、生物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生物と細胞、植物の体のつくりと働き、動物の体のつくりと働きについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。そして、「(3)生物の体のつくりと働き」の学習において最も大切にすべきことは、生徒に「生命や地球に関する事物・現象に完全に寄り添う態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになること」である。そのため、主に植物と動物の体の機能と構造を理解しようとする中で見えてくる生物の多様性と共通性を通して、ヒトである我々も生物の一種であるに過ぎず、どれもが優劣のない生命であると理解できるようにする。

また、本単元は第6学年の「B 生命・地球」(1)(2)(3)とも関係している。生徒は、人や他の動物と植物について、その体のつくりや生命を維持す

るための働きに関する基礎的な知識と実験、観察するための技能を、第6学年で身に付けている。また、生物と環境について追究する中で、生物と環境との関わりについてより妥当な考えをつくりだし、表現する経験を得ている。

このように、本単元は生物多様性の理解における基盤となる「種の多様性」を理解するための中核的な単元であり、「自然と共生していただくために自然や生物を大切にしよう」という考え方が獲得できる重要な題材である。

(2) 児童生徒について

多くの生徒は身の回りの生物について関心はあるが、実際に生物を観察したり触れたりした経験のない生徒も多い。その原因の一つに、現代の子どもの生活様式や取り巻く環境が“生きた”生物と直に触れ合えるものではなくなってきたことが挙げられる。自然と触れ合う機会が減少すること、それつまり生命領域で学んだことを発揮する機会が減少していることを意味している。そのため、生命領域の学習では自然の事物・現象に触れて「ヒトと他の生物は違うように見えて根幹では“生物”としてつながっている」という感動を味わい、「生物って面白い、もっと知りたい」という感情をもつことで、生命を大切にしていこうと態度を育めるようにしたい。そしてそれは、「どう生きるか」と教科を往還して育みたい資質・能力「貢献する人間性」につながると考える。

本単元では、できる限り実物に触れたり身近な生物を観察したりすることを通して生物を身近なものとして捉えようとするとともに、身の回りには多様な生物が存在しており、外部形態は異なっても生命を維持するための機能や構造はヒトと共通していることを理解することに重点を置いて指導する。

(3) 指導について

本時は、脊椎動物の中でも魚類の体の内部を観察することを通して、種を越えて共通する体のつくりに気付く、動物がもつ消化という働きやそのための構造を探究しようとする態度を育むことを目指す。生徒は「動物とは何か」に対する考えをもって本時に臨むことで、形態面での多様性の中にも生きるという機能面での共通性があることの理解への一歩を踏み出す。単元全体を通して動物が生きていくために必要な機能を実現するための体のつくりがあることに気付くよう、植物の学びを想起させたりヒト以外の動物の体の内部を観察させたりする指導を行い、目標を実現したい。

3 単元指導計画

学年	第8学年	単元名	第2分野 (3) 生物の体のつくりと働き (全38時間)
単元で育む資質・能力			
<p>○生物と細胞、植物や動物の体のつくりと働きを理解し、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けることができる。[知識及び技能] (3) ア</p> <p>○身近な植物や動物について、観察・実験を行い、その結果を分析して解釈し、生物のからだのつくりとはたらきについての規則性や関係性を表現することができる。[思考力、判断力、表現力等] (3) イ</p> <p>○生物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度で、自然を総合的に見ようとしている。[学びに向かう力、人間性等]</p>			
時	主な学習活動とねらい		評価規準
①	<p>何が「岐阜県のシンボル」なのだろうか。</p> <p>・岐阜県の特徴を考え、県のシンボルを調べる活動を通して、身の回りには様々な生物がいることに気付き、生物と共に生きている今の環境に興味をもつことができる。</p>		自分の身の回りにはどんな生物がいるのか調べようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]
②	<p>これまで学習してきた「生物」について整理しよう。</p> <p>・3年生から7年生まで学習してきた生物分野の知識を整理する活動を通して、主に植物と動物についての形態的特徴や成長過程等を系統的且つ表層的に学んできたことに気付き、生物のからだのつくりとはたらきをより詳しく知りたいという意欲を養う。</p>		生物のからだのつくりとはたらきをより詳しく知ろうとしている。[主体的に学習に取り組む態度]
③	<p>光合成はどこで行われているのだろうか。</p> <p>・光を当てた植物の葉の細胞を観察することを通して、葉緑体の部分だけにデンプン反応があることに気付き、光合成は葉緑体で行われていると考えることができる。</p>		光合成は葉の細胞の中の葉緑体内で行われていると理解している。[知識・技能]
④	<p>光合成で養分をつくりだすためには何が必要か。</p>		実験結果から光合成を行うために必要なものは光と二酸化炭素と水であると判断している。[思考・判断・表現]
⑤	<p>・光合成を行うために必要なものを確かめる実験を通して、光と二酸化炭素と水が必要であることに気付き、二酸化炭素中の炭素を取り入れることによって副産物の酸素が放出されることを理解できる。</p>		
⑥	<p>つくられた養分や吸い上げられた水はどのように体全体に運ばれるのか。</p>		植物には水分の通り道である道管と養分の通り道である篩管があると理解している。[知識・技能]
⑦	<p>・色水を吸わせた植物の根、茎、葉の断面を観察することを通して、根から葉まで色がついた管と色のついていない管があることに気付き、植物のからだには養分と水分を運ぶための管が通っていると理解することができる。</p>		

⑧	<p>植物は酸素を取り入れられないのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酸素で充満させた袋に入れた葉を暗所に置いたときの結果について仮説を立てることを通して、明所の葉のデンプン反応を調べれば呼吸によって放出された二酸化炭素を用いて光合成が行われることに気付く、植物も呼吸を行っていることを考察することができる。 	<p>植物は昼夜問わず呼吸をしていると考察している。[思考・判断・表現]</p>
⑨	<p>植物には気体を出し入れするための“口”はあるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物の葉や茎の観察を通して、穴の開いた部分があることに気付く、植物体の内外をつなぐはたらきをもった孔辺細胞があると理解することができる。 	<p>植物のからだには孔辺細胞によって開閉可能な気孔という穴があることを理解している。[知識・技能]</p>
⑩	<p>蒸散と吸水にはどんな関係があるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒸散量を制御した葉の吸水量の変化を調べる実験を通して、より蒸散ができる条件である植物の方が吸水する量が多いことに気付く、蒸散して体内の水分を放出することで新しい水分を根から吸収すると、実験結果から蒸散と吸水の関係性を見出すことができる。 	<p>蒸散を行い体内の水分を放出することで新しい水分を根から吸収するという蒸散と吸水の関係性を見いだしている。[思考・判断・表現]</p>
⑪	<p>植物のからだを「はたらき」と「つくり」でまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物のからだに関する知識を整理する活動を通して、植物のからだは「はたらき」のための「つくり」をしていることに気付くことができる。 	<p>植物のからだは「はたらき」のための「つくり」をしていることに気付いている。[知識・技能]</p>
⑫	<p>「動物とは何か」を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「動物とは何か」という問いについて対話する活動を通して、自分（ヒト）の生活から、植物が行う「自分で養分をつくりだす」というはたらきとつくりが動物にはないことに気付く、それが動物の定義に当てはまるものなのか確かめようとする態度を養う。 	<p>「動物とは何か」という問いに対する仮説を立て、その仮説が正しいかどうか確かめようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]</p>
⑬	<p>動物の体はどんなつくりをしているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の魚であり草食魚のアユ（成魚）と肉食魚のハスの形態的特徴を観察することを通して、動物の体の特徴は「他の生物を食べる」という生き残るための機能が根幹にある構造であることに気付く、消化の機能やそのための構造をより探究しようとする態度を養う。 	<p>動物がもつ消化という働きやそのための構造を探究しようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]</p>
⑭	<p>他の生物からどのように養分を取り出すのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物（イモ）と動物（魚）に消化酵素を加える実験を通して、特定の消化酵素と反応すると別の物質に変化することに気付く、他の生物のからだを分解して糖やアミノ酸という養分を取り出し出していることを判断することができる。 	<p>消化酵素を加えた生物体の反応から、取り込んだ生物体を有益な状態（養分）に変化させていると判断している。[思考・判断・表現]</p>

⑮	<p>腸は養分を吸収するためにどんなつくりをしているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 魚の腸の切片の観察を通して、腸の壁面に無数の突起物があることに気づき、表面積を大きくし効率よく養分を吸収できつくりになっていると考察することができる。 	<p>腸は養分を吸収する器官であり、柔毛によって効率的に養分を吸収できる構造になっている。[思考・判断・表現]</p>
⑯ ⑰	<p>取り込んだ養分をエネルギーに変えるための酸素はどのように体内に取り込んでいるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 魚のエラの観察を通して、ヒトの肺胞と同じように毛細血管が張り巡らされていることに気づき、肺に入れた酸素を血液に乗せて体内に送っていることを考察することができる。 	<p>肺に貯められた気体は血液に乗って全身に送られる構造になっていると考察している。[思考・判断・表現]</p>
⑱	<p>酸素を全身の細胞に送るために、心臓はどんなつくりをしているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> アユと鶏とブタの心臓を解剖することを通して、肺と心臓がつながっていることや心臓から全身に向かう血管があることに気づき、酸素の含まれた血液を全身に送るための構造だと理解することができる。 	<p>心臓は生命維持のために血液を循環させる構造をもつことを理解している。[知識・技能]</p>
⑳	<p>酸素を運ぶために、血液はどんなつくりをしているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> メダカの血流の観察を通して、血液は赤血球などの複数の成分で作られていることに気づき、血液は酸素だけでなく体内で発生した不要物も運搬するつくりがあると理解することができる。 	<p>血液は酸素だけでなく体内で発生した不要物も運搬するつくりがあることを理解している。[知識・技能]</p>
㉑	<p>体に不要なものはどこでどのように体外に出されるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 魚の腎臓の切片を観察することを通して、血管を取り囲むように筋肉が発達していることに気づき、血中から不要物を分別するように濾し取って不要物だけ排出する仕組みがあることを理解することができる。 	<p>血中から不要物を分別するように濾し取って不要物だけ排出する仕組みがあることを理解している。[知識・技能]</p>
㉒	<p>動物のからだを「はたらき」と「つくり」でまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物のからだに関する知識を整理する活動を通して、動物のからだも植物と同様に「はたらき」のための「つくり」をしていることに気づくことができる。 	<p>動物のからだも植物と同様に「はたらき」のための「つくり」をしていることに気付いている。[知識・技能]</p>
㉓	<p>「食べ物をエネルギーに変える」以外に、動物のからだにはどんなはたらきがあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギーを得ること以外に目を向けてはたらきを考えることを通して、生命維持活動の他にも環境下で生き抜くための様々なたらきがあると気付くことができる。 	<p>生命維持活動の他にも環境下で生き抜くための様々なたらき（感覚）があると気付いている。[知識・技能]</p>

27	<p>外界からの刺激を受け取るために、目や耳などの器官はどんなつくりをしているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模型を用いて各感覚器官の内部を見ることを通して、それぞれの刺激の性質に合わせた受容器官があることに気付く、各感覚器官が担うはたらきをすすめるためのつくりになっていると理解することができる。 	<p>各感覚器官が担う機能が遂行されるための構造を理解している。[知識・技能]</p>
28 29	<p>感覚器官で受け取られた刺激はどこを伝わってどのように反応を起こすのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ちる定規を手で取るという体験を通して、目で見ながら手を動かすまでに時間がかかるとに気付く、目で見た映像を脳で処理して筋肉に命令を出すという一連の流れがあり、からだに反応しているから時間がかかると判断することができる。 	<p>からだに動くまでに時間がかかるとは情報伝達の回路があるからと判断している。[思考・判断・表現]</p>
30	<p>神経を伝わって伝わった刺激を受けて体が動くために、骨と筋肉はどんなつくりをしているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模型を用いた骨を動かす体験を通して、骨についた筋肉の収縮によって骨が動かされていることに気付く、からだに動くためのつくりを理解することができる。 	<p>骨についた筋肉の収縮によってからだに動いていると理解している。[知識・技能]</p>
31	<p>「外界からの刺激を伝達しからだを動かす」ことを魚もしているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚に刺激を与えたときの動きを観察することを通して、明暗や水流などの刺激を受け取ってからだの動きを変化させていることに気付く、ヒトとの共通性を見出すことができる。 	<p>魚のからだの動きから、神経系と筋肉のはたらきについてヒトとの共通性を見いだしている。[思考・判断・表現]</p>
32 33	<p>水中の小さな生物は動物なのか植物なのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドリムシの観察を通して、葉緑体をもながらも動いたり他の生物を食べたりする生物がいることに気付く、動物や植物以外にも様々な種類の生物がいるだろうと他の生物群に興味をもつことができる。 	<p>動物と植物の性質をもちあわせた生物がいることに気付く、生物は動物や植物以外にどんな分類があるのかと調べようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]</p>
34	<p>生物のからだの「はたらき」と「つくり」についてまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物や動物のからだのつくりとはたらきを整理することを通して、形態の多様性の中にも生物としての共通性を見出し、ヒト以外の生物も「生物」だと認識し大切にしていこうとする態度を養う。 	<p>形態は違えど生命維持する機能には種を越えた共通性があることに気付く、身のまわりの生物を大切にしようとしている。[主体的に学習に取り組む態度]</p>
35 ～ 38	<p>自分はどんな自然の中で生きているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県博物館での実習を通して、自分の知らなかった生物が身の回りにはたくさんいることに気付く、自分の置かれている環境を「生物」というフィールドを通して俯瞰的に見ることが出来る。 	<p>自分の生活は他の生物との関わり合いの中で成り立っていることに気付く、さらに生物について知ろうとしている。[主体的に学習に取り組む態度]</p>

単元で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿	
問題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事象・現象から問題を見いだす姿。 ・既習事項を基に根拠のある予想を立て、見通しをもって観察、実験をしながら、科学的に探究することができる姿。
関係構築力	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事象・現象について、科学的に探究する中で、他者の意見を共感的・批判的に受けとめ、自己の考えの妥当性を検討し、強化・修正できる姿。
貢献する人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・生命領域の見方である「共通性・多様性」を働かせ、多様性の中にも共通性を見いだし本質を見極めようとしている姿。 ・生物多様性への理解を深め、他の生物を大切にしながら共生している姿。
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て	
問題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事象・現象に対して進んで関わる中で問題を見いだし、根拠のある予想を基に、見通しをもって観察、実験をしながら科学的に探究している姿を、探究の過程のそれぞれの場面から見届ける。
関係構築力	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前の事実に加え、調べた動物の特徴を基にして、動物の共通性について他者と対話する中で、自分の考えを相手に伝えたり相手の意見を聞いたりして、より明確な根拠で生物の共通性を見いだそうとする姿を交流の様子から見届ける。
貢献する人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・生命を頂くことで学びを深められていることを理解し、生体を丁寧に扱おうとする姿を実験・観察の様子から見届ける。

4 教科にかかわる本時のねらい

魚であり草食魚のアユと肉食魚のブラックバスと肉食魚の形態的特徴を観察することを通して、動物の体の特徴は「他の生物を食べる」という生き残るための機能が根幹にある構造であることに気付く、消化の機能やそのための構造をより深く探究しようとする態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕

5 本時の展開 (15/38)

児童生徒の学習活動	教師の手立てと見届け
<p>1 前時の学びを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物は自分で養分を作り出すことができただけで、動物はできない。 「動物とは何か」という問いに対して、「動くもの」「心臓があるもの」「他の生物を食べるもの」などの意見があったな。 ヒトの体や消化について6年生で学習したけれど、他の動物も同じなのかという疑問が出た。 7年生でイカの解剖をしたとき、イカにも心臓や消化管があったな。 観察するならば、ヒトとは異なる種の動物を見てみたい。観察できそうなのは爬虫類や魚かな。 	<p>(●)教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元を通して用いている「生物カード」を基に、前時までの植物の学びを振り返るとともに、植物と動物の違いや共通点を見いだせるようにする。 ●ヒトの体の内部との比較が自由に行えるよう、人体模型を教室前方に準備する。 ●素早く体の内部を観察できるよう、観察ガイド(腹の開き方、注意点を記載)を用意する。 ●食べるものや生活環境が異なる可能性を見いだせるよう、口や歯に着目した際には「なぜこのようなのだろうか?」と問いかける。 ●内部形態の観察時には、器官の名称や位置を類推できよう、対象動物と類似性のある動物の解剖図を用意する。 ○ヒトと魚類の共通性にも気付けるよう、ヒトの体のつくりと関連付けて考察している生徒の意見を全体に広げる。
<p>2 本時の課題を確認する</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">動物の体はどんなつくりをしているのだろうか。</p> <p>3 アユとブラックバスの外部形態を観察し特徴を見つけ、課題に対する仮説を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> 口の形が違うな。ブラックバスは口が大きくアゴがしっかりしているな。 アユには歯は無いけれど、唇の表面がザラザラしているな。ブラックバスは口の中にギザギザの歯があるな。 食べるものが違うのだから。食べるものによって体のつくりが異なるのかもしれない。 食べるものが違えば、体内のつくりも変わってくるかもしれない。 「何かを食べる」のだから、ヒトと同じように胃や腸など消化に関わる器官があるだろう。 <p>4 アユとブラックバスの体を解剖し、内部形態を観察し特徴を見つける</p> <p>5 内部形態を観察して気付いたことや考えたことを全体で交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> アユとブラックバスの内臓のつくりは似ているな。 魚類にある内臓とヒトにある内臓を比べると、名称が同じ器官が多くあることが分かる。 腸管は喉あたりから肛門まで一本でつながっていた。しかしアユとブラックバスでは腸の長さにし少し違いがあるな。 ブラックバスの胃からは、他の生物らしきドロドロになったものが出てきたな。 アユの腸管には黒いものが溜まっているな、これは何だろう。 <p>6 本時の学びを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> 魚類の体のつくりは、ヒトとの共通点も多かった。魚もヒトと同じ生物なのだな。 観察すると、植物には「食べる」ことに特化した体のつくりをしていることが分かるな。 口から入った食べ物は、胃や腸の中でどうなっていくのだろう。ドロドロにした次は…? アユとブラックバスでは口や歯の様子が違っていた。食べるものによって体のつくりを変えているのかもしれない。他の動物でも、食べるものによって体のつくりは違っているのだろうか。 食べるものが変わると、消化の仕方にも違いが出てくるかもしれない。 ヒトは肉や野菜、様々なものを食べるが、消化やそのためのつくりはどうかになっているのだろうか。 	<p>【見届けの視点】</p> <p>解剖図から臓器を類推したり2種の魚とヒトの体のつくりを比較したりして見つけた事実を基に、動物の体のつくりについて他者と対話する中で、他の生物を食べることで動物の重要な機能であり、そのための構造になっているという仮説を見いだしている姿を解剖時の様子から見届ける。(関係構築力)</p> <p>【評価規準】</p> <p>動物がもつ消化という働きやそのための構造を探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●解剖動物の生命から学んでいる事実を確認したり生命に対して感謝の念をもっている生徒の思いを全体で共有したりする。

メモ

【公開 I】1 年 1 組 音楽科学習指導案

北舎 3 階音楽室 舟橋 和恵

1 題材名 「おと」となかよくなるろう ～ときめきコンサート～

2 指導の立場

(1) 題材について

本題材は、第 1 学年音楽科「A 表現」(3)ア (アイ)、イ (ア)、ウ (ア)〔共通事項〕(1)ア、及び、図画工作科「A 表現」(1)イ (2)イ、「B 鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)アイにもとづく題材である。音楽科、図画工作科ともに「音」に着目した表現活動を設定し、それぞれの学びを往還することを通して、音の違い「音色」を捉えることができるようにする。また、音や音楽を自らつくったり活動を通して、主体的に学ぶ喜びを味わうことができるようにする。このように、音楽活動 (音遊び) や制作活動 (楽器作り) の楽しさを体験することを通して、音に関わる豊かな感性を育むために、音楽科、図画工作科の教科の特性を生かした題材を設定した。

音楽科では、打楽器を用いた「音遊び」を通して、打つ、振る、擦るなど奏法を変えると一つの楽器からいろいろな音色が出せることに気付く力をつける。また、見付けた音色を生かした「音楽づくり」では、打つ、振る、擦るなどの奏法を試しながら「〇〇みたいな音」や「元気な音」など自分の願いに合う音の出し方や音の組み合わせを工夫して、音楽づくりの発想を得るようになる。一方、図画工作科では、音が出る材料や仕組みを利用し、願いに合う楽器を作ったり演奏したりすることを通して作り出す喜びを味わい、仲間とともに作った音楽を披露する「ときめきコンサート」を行う。このように、音に共通した両教科の題材を合わせて配置することで、

いろいろな方法を試しながら、より自分の願いに合うものをつくりだす楽しさと音色を味わう楽しさを感じる姿を目指す。

(2) 児童生徒について

児童は、進んで新しい歌やリズム遊びを覚え、休み時間にも口ずさんだり体を動かしたりして日頃から音楽に親しんでいるが、自分の思いを自由に表現して楽しむ姿は少ない。これは、仲間と違う表現をしたり、正解がなく自由に表現したりすることに抵抗があるからだと考えられる。

これまで国語科においては、「声を揃える (拍)」「言葉 (リズム) 遊び」「文章 (歌詞) から様子を思い浮かべる」など、リズムや感性について関連させて学習を進めてきた。そこで本題材では、音楽科と図画工作科における教科内容の横断的視点に着目し、音が出るいろいろな材料や、その奏法を試す活動を通して、よりよいと感じるもの、願いに合うものを見付け、仲間と一緒に音楽活動を楽しむ過程に重点を置いて指導する。

(3) 指導について

本時は、図画工作科で制作した楽器を用いて学習を進める。音色に着目して鳴らし方を工夫し、仲間と音を繋げたり重ねたりする活動することを通して、願いに合った音色を見付けて表現することを目指す。

児童は、前時までに打楽器 (トライアングル・タンブリン・すず) のいろいろな奏法を探り、1 つの楽器からいろいろな音が出せることを見付け、お気に入りの音を使った音遊びを行って本時を迎える。本時は、自分の楽器を使い、さらにいろいろな鳴らし方を工夫して聴き比べ、より願いに合う音を決める。仲間と音を合わせる音楽づくりの発想をもとに、音の繋げ方や重ね方などを試し工夫することを繰り返し、願いに合った表現ができるようにしていきたい。

3 題材指導計画

学年	第1学年	題材名	「おと」となかよくなるうへとききコンサート～音楽3時間 図工3時間 合同1時間 全7時間
題材で育む資質・能力			
音楽科「A表現」(3)ア(アイ)、イ(ア)、ウ(ア) [共通事項] (1)ア	図画工作科「A表現」(1)イ(2)イ、「B鑑賞」(1)ア、[共通事項] (1)アイ		
<ul style="list-style-type: none"> ・打楽器による音遊びを通して、一つの楽器からいろいろな音が出せることや、鳴らし方と音色との関わりが気づく。[知識及び技能] ・打楽器の音色を生かした音遊びを通して、願いに合う音の出し方や組み合わせを工夫し、音楽づくりの発想を得る。[思考力、判断力、表現力等] ・打楽器の音色を生かした音遊びをしたり互いの演奏を聴いたりする活動を通して、打楽器の音色や音の組み合わせに興味をもち、生活の中の様々な音に親しむ。[学びに向かう力、人間性等] 	<ul style="list-style-type: none"> ・音が鳴る材料や仕組みから、思い付いたものをつくることを通して、いろいろな形や色、触った感じなどに気付き、手や体全体の感覚などを働かせて、自分の願いに合う楽器をつくる。[知識及び技能] ・材料を鳴らして感じたことや想像したことから、つくりたい楽器を決め、形や色、材料などを工夫して楽器をつくる。[思考力、判断力、表現力等] ・音が鳴る材料や仕組みから、思い付いた楽器をつくり、演奏することを通してつくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を想像しようとする。[学びに向かう力、人間性等] 		
時	主な学習活動とねらい	評価規準	主な学習活動とねらい
①	いろいろな音を見付けて鳴らそう。 ・打楽器（トライアングル、タンブリン、スズ）について、打つ、振る、擦るなどの演奏の仕方を試し、いろいろな音色の音を見付けよう。	いろいろな鳴らし方を試し、楽器の材質や演奏の仕方によって音色が変わることに気付いている。[知識・技能]	いろいろな音の出し方を見つけて、つくりたいものを決めよう。 ・色々な種類の材料をもとに、たたく、振る、弾く、擦るなどの音を出す基本的な仕組みを使って音を出し、楽器のイメージをもつ。
②	見付けた音を使って遊ぼう。 ・前時の学習で見付けた音を、友達と繋げたり重ねたりして演奏する。 ・いろいろな繋げ方や重ね方を試し、お気に入りの音楽をつくる。	自分の見付けた打楽器の音色や特徴を生かして、音の出し方や組み合わせを工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いをもっている。[思考・判断・表現]	材料を鳴らして感じたことをもとに、つくりたい楽器のイメージをもち、材料や仕組みなどを工夫して楽器をつくっている。[思考・判断・表現] 自分が目指す楽器になるような素材や形、製作方法等を選んでつくっている。 [知識・技能]

	主な学習活動とねらい	評価規準	主な学習活動とねらい	評価規準
③ 本時 (音楽科)	<p>お気に入りの音で、音楽をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図画工作科の学習でつくった自分の楽器を使って、音遊びをする。 ・ 音色に着目していろいろな鳴らし方を試し、仲間の音と組み合わせる。 	<p>いろいろな鳴らし方を試したり、音の組み合わせを工夫したりして、気に入った音を探している。 [思考・判断・表現]</p>	<p>音楽に合うようなかざりをつけて、じまんの楽器をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽の学習でつくった「音楽」をイメージして、色や模様を付ける。 ・ 演奏が楽しくなるような飾りを付ける。 	<p>「音楽」からイメージしたことを、色や模様で表現している。[思考・判断・表現]</p>
④	<p>「ときめきコンサート」をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時につくった音楽を発表する。 ・ 他のグループの音色の面白さを見付けながら発表を聴く。 		<p>自分や友達の楽器の音色に興味・関心をもち、互いの音や演奏の仕方を生かして表現する学習に楽しんで取り組んでいる。[主体的に学習に取り組む態度]</p>	
題材で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿				
問題解決力	音遊びを通して、お気に入りの音色を見付けたり、叩く、振る、弾く、擦るなどの鳴らし方を試したり、願いに合う音の組み合わせを探したりする姿。		色々な材料の中から使いたいものを選んで、叩く、振る、弾く、こするなどをして音を出すことを通して、自分のつくりたい楽器のイメージをもち、それに向かって工夫してつくる姿。	
関係構築力	いろいろな表現方法を試す活動を通して、互いの音を聴き合い、願いに合う音になるように仲間と音の組み合わせや演奏順を話し合う姿。		製作活動において、仲間と楽器のつくり方を交流したり教え合ったり、用具の貸し借り等をしたりしながら、自分のつくりたい楽器を製作する姿。	
貢献する人間性	打楽器や身近にあるものから出る音に興味をもち、いろいろな奏法で音遊びをしたり、仲間と合わせたりして音楽を楽しむ姿。		「ときめきコンサート」に向けて、自分の楽器の良さを生かせるように、音の鳴らし方を工夫したり、つくり直したりする姿。	
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て				
問題解決力	いろいろな奏法を試す活動を通して、楽器の鳴らし方と音色との関わりに気付き、願いに合う音の出し方を探しているか、活動の様子から見届けられる。		つくりたい楽器を自分で決め、音を出して試しながらつくっているか、壊れないようにつくり方や材料を考えてつくっているか、活動の様子から見届けられる。	
関係構築力	音遊びをする中で、互いの音を聴き合ったり話し合ったりしながら、どんな音をどのように組み合わせるかを決めようとしているかを、交流の様子から見届けられる。		製作活動の中で、教え合ったり、手伝ったり、用具を共有したりしているか、交流の様子から見届けられる。	
貢献する人間性	一つの楽器でも、奏法や音の組み合わせによっていろいろな音が出せることを楽しんでいるか、音遊びやコンサートでの様子がから見届けられる。		「ときめきコンサート」をすることを楽しみにしながら楽器の音やデザインを工夫してつくっているか、仲間と一緒に鳴らしたりしているか、製作活動やコンサートでの演奏の様子から見届けられる。	

4 教科にかかわる本時のねらい

楽器の音色に着目していろいろな鳴らし方や音の組み合わせ方を試す活動を通して、自分の願いに合った音を見付け、組み合わせを工夫して音楽をつくることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

5 本時の展開（3／4）

児童生徒の学習活動	教師の手立てと見届け
<p>1 本時のめあてを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> 1つの楽器から、いろいろな音が出せておもしろかったよ。 鳴らし方を変えると、音が変わったよ。 図画工作でつくった楽器でも、やってみたいな。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">お気に入りの音を使って、音楽をつくろう。</p> <p>2 図画工作科の学習でつくった楽器を使って、いろいろな鳴らし方を試し、仲間の音と組み合わせる（願いたいコーナー学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> 元気な音 強く叩くと大きな音が出て、元気な感じになったよ。 仲間と一緒に鳴らしたら、もっと大きくなって元気な音が出たよ。 やさしい音 ゆっくり揺らしたら、「さらさら～」と波の音みたいになったよ。 そっと擦って仲間と繋げたら、お話をしているみたいになったよ。 不思議な音 叩く場所を変えると、音色が変わっているいろいろな音が出たよ。 一緒に鳴らすメンバーを交代したら、不思議な音になったよ。 きれいな音 同じ種類の楽器の仲間と鳴らしたら、音色が揃ってきれいだったよ。 <p>3 中間交流を行い、音の組み合わせ方の工夫に気付く</p> <p>4 さらに工夫を重ね、音楽を完成する</p> <ul style="list-style-type: none"> 一緒に鳴らす相手を変えながら繰り返し返すと、もっとおもしろくなったよ。 1人→3人の順にしても、お話している感じがしたよ。 いろいろな鳴らし方が繋がって、楽しい音楽ができたね。 <p>5 振り返りを行う</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分の楽器で、いろいろな鳴らし方を試しながら、お気に入りの音で音楽を作ることができました。一人で鳴らすのもいいけど、仲間と一緒に鳴らすと、いろいろな音色の音楽ができたので嬉しかったです。お気に入りの音楽をみんなに聴いてもらいたいです。</p>	<p style="text-align: center;">教師の手立てと見届け</p> <p>（●教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童が学習への見通しや意欲がもてるよう、前時までの学習や本時したいことを確かめる。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">研究にかかわって 【見届けの視点】 いろいろな鳴らし方を試したり仲間の音と組み合わせたりする活動を通して、鳴らし方と音色との関わりに気づき、願いに合う音の出し方を探しているか、活動の様子や発言内容から見届ける。（問題解決力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「元気」「やさしい」などのコーナーを設定し、共通する願いの児童同士でグループができるようにする。 ●音色に着目している姿（音を聞く姿・音に着目した発言）を価値付け、ねらいに沿った活動ができるようにする。 ●一人で活動する児童や迷っている児童には、願いを確かめ、グループに入って活動してみるよう促し、表現の幅が広がるようにする。 ●中間交流では、特に順番・人数・重ね方等、組み合わせ方に関わる工夫を広め、後半の活動に生かせるようにする。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【評価規準】 自分の楽器でいろいろな鳴らし方を試したり、音の組み合わせを工夫したりして、気に入った音を探して表現している。 〔思考・判断・表現〕</p>

【公開1】7年2組 美術科学習指導案

南舎4階 美術室 岡田 春香

1 題材名 岐阜天井画～もし、令和の時代に加納城が甦ったら～

2 指導の立場

(1) 題材について

全国の神社仏閣や城に天井画が描かれてきた。見上げると広がる美しい世界。日本独特の木造建築の強度を増すために縦横に巡らされた梁。梁に囲まれた小さなキャンバスが、絢爛豪華な空間を生み出す。日本人が古来より親しんできた草花などが描かれ、西洋の天井画とは異なる魅力が醸し出す。

織田信長が天下統一の拠点とした岐阜城内にも豪華な天井画があったとされている。その下で信長は、心を尽くし客人をもてなしたのでろう。徳川の時代になり、城主を失った岐阜城天守閣は、加納の地に移された。その後、火災により消失し姿を消す。現在、金華山にそびえる岐阜城復興天守閣の天井画には、大河ドラマとタイアップした麒麟と龍が描かれ、戦国の時代とは異なる資料展示館の役割も担いながら訪れる観光客を楽しませている。

本校から南の方角に加納城があった。もし、今の時代に加納城が甦ったら？もし、加納城にも天井画があったとしたら？本題材は、架空の「令和の加納城」を想定し、岐阜天井画をデザインする。学習指導要領A表現(1)イ(ア)(イ)に関わって、岐阜県の魅力となる「もの」や「こと」を中心に描き、背景には、伝統文様を効果的に組み合わせる。見やすいように単純化し、大きさや配置を考えながら見る人にとって分かりやすく美しい調和のとれた構成を考える。着色には、アクリル絵の具を用い、自然の色をもとにした固有の色使いや色彩の効果を結び付けながら表現する。

(2) 児童生徒について

①教科横断的な学び

生徒は、家庭科の「衣文化」の題材で日本の伝統文様について学んだ。浴衣の着付け体験では、洋服にはない布地に染め上げられた和の文様の鮮やかさと調和のとれた美しさに引き込まれていた。また、「どう生きるか」の学習で、何度か加納城址公園を訪れており、そこへの馴染みがある。さらには6年生での「町づくり」において、加納地区の伝統行事を守る方の思いや和傘などの伝統工芸品にふれ、岐阜への郷土愛や伝統文化の魅力を感じている。こうした教科や領域で学んだ郷土・伝統への愛情を図画工作や美術で身につけた力と結び付けながら、思いを発信する力につなげたい。

②図画工作から美術へ

生徒は、初めてデザイン題材に取り組む。図画工作の学習では、自分の好きな形や色で思いを楽しく表現してきたが、デザインや工芸などに表現する活動では、相手を大切に思う視点が重要となる。伝える相手にとって、必要な情報なのか、だれが見ても分かりやすい内容となっているか考えていく必要がある。そこで、岐阜天井画を鑑賞する相手を岐阜県外に住む人、海外から訪れる人など具体的に想定することで、多様性や共生の視点をもたせながら個人としての感じ方や好みにとどまるのではなく、身近な人をはじめ誰にも共通して感じる感覚や心地よさを感じ取る力を養っていききたい。

(3) 本時の指導について

本時は、特にA表現(1)イ(イ)に関わって、主題がより相手に伝わるように、背景の文様とモチーフの組み合わせ方を考える。タブレット端末も活用しながら、構成を練り直し考えを深める。また、作品を指し示しながら説明し合う活動を設定し、一方的な伝達とならないよう、相手に対する視点を持ち、互いの作品のよさを味わったり、認め合ったりできるようにする。

3 題材指導計画

学年	第7学年	題材名	岐阜天井画～もし、令和の時代に加納城が甦ったら～（全13時間） 「A表現」(1)イ(ア)(イ)(2)ア(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(イ)、「共通事項」(1)アイ
題材で育む資質・能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、余白や単純化などが感情にもたらす効果を理解し、造形的な特徴などをとらえて全体の作風を捉える。[知識及び技能] ・アクリル絵の具の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫し、制作の順序を考えながら見直しをもって表す。[知識及び技能] ・岐阜天井画の目的をもち、美的感覚を生み出し、主題を分かちやすさと美しさの調和を考え、表現の構想を練る。[思考力、判断力、表現力等] ・天井画の目的と調和のとれた美しさを感じ取り、作者の心情や表現意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。[思考力、判断力、表現力等] ・美術の創造活動の喜びを味わい、天井画の目的や機能などを考えて、表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組む。[学びに向かう力、人間性等] 			
時	主な学習活動とねらい		
①	<p><u>岐阜天井画の題材について知る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・天井画や参考資料などを鑑賞しながら、仲間と対話することを通して、天井画の装飾としての効果や用いる場面、条件を理解し、題材への興味と作品へのイメージをもつことができる。 ・加納城の想像図を描くことができる。 		
② ③	<p><u>岐阜天井画の構成要素を考える。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の願いや思いをもとに、既習事項と結びつけながらマッピングする活動を通して、中心となるモチーフと背景となる文様を選択し、アイディアスケッチを描くことができる。 		
④ 本時	<p><u>アイディアスケッチをして構成を練る。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだモチーフと背景となる文様の構成を考える活動を通して、大きさや配置などの違いによる表現効果に気付き、分かりやすさと美しさの調和を考え、モチーフと文様を効果的に組み合わせることができる。 		
⑤	<p><u>下書きをする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクリル絵の具で彩色することを意識しながら、アイディアスケッチをもとに下書きをすることができる。 		
評価規準		<p>天井画の機能や調和のとれた美しさを感じ取り、天井画の目的や機能などを考え表現したり鑑賞したりする学習活動に関心をもって取り組む。[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>これまでの生活経験や学習したことの中から、相手に伝えたい岐阜の魅力を感じる「もの」や「こと」と、伝統文様のもつ意味とを結びつけながら表現したいことを考えている。[思考・判断・表現]</p> <p>大きさや配置の違いによる表現効果を理解し、より分かりやすく美しいモチーフと背景の文様の効果的な構成を考えている。[思考・判断・表現]</p> <p>既習事項である、アクリル絵の具の使い方や特性と結びつけながら、下書きをしている。[知識・技能]</p>	

⑥	<p>配色計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩などが感情にもたらす効果を理解し、色の性質を使って表現した資料を通して、作品全体の印象が異なることに気付くことができる。 イメージと色をつなげながら配色計画をすることができる。 	<p>形や色彩などが感情にもたらす効果を理解し、自然の色をもとにした固有色の良さや色の性質や効果と自分の作品のイメージとつなげて配色計画をしている。[知識・技能]</p>
⑦ ⑫	<p>配色計画を基に彩色をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 配色計画に沿って、絵の具の特性を理解して効率のよい順序を考えた彩色を行い、全体と部分のバランスを考えながら、見やすさや細部の描き込み、形と形の境目の仕上げに着目して描くことができる。 	<p>配色計画に沿って、彩色の順序や効率のよい順序を考えた彩色を行い、見やすさや細部の描き込み、形と形の境目の仕上げに着目して描いている。 [知識・技能]</p>
⑬	<p>鑑賞交流会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 天井に映し出された他の作品を鑑賞することを通して、表現の意図と工夫などに気付く、自分の見方や感じ方を広げることができる。 	<p>自他の作品を鑑賞し、心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げ、デザインの工夫、色の性質や感情効果を基に表現のよさや美しさを感じ取り、学習記録にまとめている。[思考・判断・表現]</p>
題材で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿		
問題解決力	<p>題材への見通しと、作品への願いをもち、単位時間ごとに課題意識をもって試行錯誤を繰り返しながら取り組む姿。他教科での学びと結びつけ発想や構想を深めたり、アクリル絵の具の特性を生かし表現方法を工夫し彩色したりする姿。</p>	
関係構築力	<p>仲間との対話的な活動を通して、作品を指し示しながら自分の思いを伝えたり、仲間の作品の造形的なよさや美しさを認め合ったりする中で、表現意図や工夫を感じ取ったり、作品を見直したり表現を深める姿。</p>	
貢献する人間性	<p>他者に対する心遣いを大切に、個人としての感じ方や好みにとどまらず、身近な人たちに共通に感じる感覚や心地よさを理解し、自然や生活環境、日用品、衣服類に見られる形や色の美しさを感じ取り、周囲との調和を考えながらよりよいものを追求する姿。</p>	
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て		
問題解決力	<p>制作工程に合わせて、発想を広げるためや表現を深めるための参考作品や資料、生徒のつまずきを解決するための比較資料などを提示し、生徒が課題意識をもちながら取り組めるようにする。発言や作品、学習記録の中の表現意図の深まりから見届ける。</p>	
関係構築力	<p>交流する視点をもち、表現したものを基に互いの思いを伝え合う対話的な活動を設定し、新たな見方、感じ方に気付く、客観的な見方や捉え方について考えたりできるようにする。交流の様子や発言、学習記録の変容から見届ける。</p>	
貢献する人間性	<p>日本の伝統的な装飾、表現様式や美意識について意図的に取り上げ、自分たちの身の回りにある構成や装飾のよさや面白さ、生活を楽しくしようとするとする美意識があることに気付くことができるようにする。</p>	

4 教科にかかわる本時のねらい

選んだモチーフと背景となる文様の構成を考える活動を通して、大きさや配置などの違いによる表現効果に気付き、分かりやすさと美しさの調和を考え、モチーフと文様を効果的に組み合わせることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

5 本時の展開（4/13）

児童生徒の学習活動

1 前時の振り返りをして、本時の課題につなげる

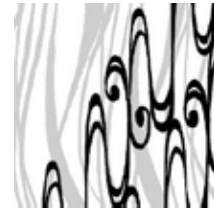
- ・家庭科でいいなと思った文様とモチーフを配置してみた。でも、どちらが主役かわからない。
- ・「どう生きるか」で調べた和傘と雨の文様を合わせたい。和傘を目立たせるにはどうしたらいいか。
- ・モチーフが動いているように見せたい。動きを出すにはどうするといいたろうか。

2 参考作品から、本時の課題をもつ

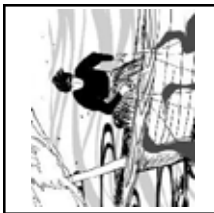
〔主題〕夏の夜、長良川に鵜舟が現れると辺りの空気が一変した。パチパチと音を立て川面に揺れる篝火。鵜と鵜匠の緊迫したやりとり。伝統を守ってきた者の気概と重さを感じさせろ。そんな鵜飼の雰囲気を出してみたい。
〔構成〕川面、篝火の反射、鵜、鵜匠、鵜舟の調和のとれた表現にしたい。



青海波
(文様の意味)



流水紋
(文様の大きさ、量)



(モチーフの大きさ) (モチーフの位置)



(モチーフの位置)

背景の文様とモチーフの大きさ、向き、配置を工夫してより主題が伝わる構成を考えよう。

3 構成の仕方を追求する

- ・文様を小さくしてみたら、モチーフとの差がついて見やすくなった。
- ・文様の量を減らして、和傘を大きくしてみたら目立つようになった。
- ・モチーフを中心からずらして配置してみたら、遠近感が出て動きが出た。明るく華やかにしたいから全体的に色を明るくしたらどうだろう。

4 本時の振り返りを行い、次時への課題をもつ（個人→全体交流）

文様の特徴的な部分だけを使うことにしたら見やすくなったと思う。モチーフを斜めにして、角度をつけたことで、迫力が増して堂々とした雰囲気が出た。伝えたいことがより伝わるようになったと思う。次からは、どんな色を塗っていくと効果的か考えていきたい。

教師の手立てと見届け

（●教科の資質・能力 ○自己表現に向かう資質・能力）

- 文様とモチーフの大きさや向き、配置を工夫することにより、作品の印象が変わることに気付く資料提示を行う。生徒の発言から、本時工夫する造形的な視点（大きさ、向き、位置など）を板書に位置付ける。
- 大きさ、向き、配置などを試したり、配色を考えたりしながら、構成を練ることができるようになるために、タブレット端末を活用するとよいことを伝える。
- 全体交流を通して、学習の成果を実感し、次時への見通しをもつ。

研究にかかわって

【見届けの視点】

主題を強く表現するために試行錯誤し、自己決定しながら発想や構想を深めている追求の姿を見届ける。（問題解決力）

【評価規準】

大きさや配置の違いによる表現効果を理解し、より分かりやすく美しいモチーフと背景の文様の効果的な構成を考えている。

〔思考・判断・表現〕

【公開 I】3年3組 保健体育科学習指導案

北体育館 中村 幸智

1 単元名 リズムダンス ～ふぞくっこリズムダンス3年～

2 指導の立場

(1) 題材について

学習指導要領解説では、リズムダンスとは「軽快なロックやサンバなどのリズムに乗って仲間とかかわって踊るのが楽しい運動で、いずれも自由に動きを工夫して楽しむ創造的な学習で進められるのが特徴」と示されている。中学年のリズムダンスは、自由に動きを工夫して楽しむ創造的な学習であるため、得意・不得意が見えにくく、勝敗もない。そのため多くの児童が安心して活動し、運動に親しむ態度を育てることができると期待される。さらに、話し合いで互いの考えを話し合ったり、仲間の踊りを認め合ったりしながらよりよいものを目指していくことで、個人や集団の課題を解決する学習を展開するのに適している題材でもある。そこで、リズムダンスの楽しさや喜びに触れ、リズムに乗って弾んで踊ったり、友達と関わり合ったりしながら、即興的に、自由に踊ることができるようになる。

(2) 児童生徒について

本学級は、体を動かすことが好きな児童が多く、体育の授業も意欲的に参加している姿が見られる。児童は、日常的にテレビや SNS 等でダンスに触れる機会が多く、リズムダンスは比較的に関心が高い単元である。また、仲間の動きを真似したり、一緒に動いたり仲間を意識する姿が増え、共に活動する楽しさを感じている。生活の中で、音楽が流れると自然に体が動いたり、踊ったりする児童もいる。しかし、興味関心があることと表現

することは別であり、身体の使い方やリズムの取り方に苦手意識をもっていたり、人前で踊ることに恥ずかしさを感じたりする児童もいる。これらの困り感を解消するために、アンケートから得た情報や学習の中の動きから配慮してグループをつくった。

(3) 指導について

爽やかなリズムに乗って全身で踊るためには、踊りへの抵抗感を減らす必要がある。そのため毎時間の導入時に、リズムダンスにつながる体や心をほぐすウォーミングアップ「まねっこ体操」を位置付ける。「まねっこ体操」は、教師の簡単な動きのまねをして、リズムに合わせて動く。そのウォーミングアップに手拍子を加えたり、自分なりの動きを付け加えたりしていくことで体や心がほぐれたり、即興的な動きを生み出したりできるようにしたい。

授業の前半では、毎時間ジャンル別の多様な曲を使いながら、曲のリズムの特徴からどんなイメージかを児童に問い、そのイメージをもとに動く時間を設ける。様々な動きを教師と一緒に体験することで、体全体を使った多様な動きを習得できるようにする。また、その動きの中から児童のお気に入りの動きを出し合い、つないだり、組み合わせたこと、後半での即興的に踊る活動の見通しをもてるようにする。

授業の後半では、グループでリズムの特徴に合った動きで踊ることに困り感がある児童に対しては、前半練習で踊った動きを取り入れてみたり、仲間の動きに対応して踊ったりするよう指導する。さらに、動きに変化をつけて踊ることができるよう「空間・体・リズム・友達」の4つの視点を提示する。この4つの視点「空間・体・リズム・友達」を生かすことで、動きが変化した児童を評価し、全体に広げること、新たな動きが習得できるようにしていく。

3 単元指導計画

学年	第3学年	単元名	リズムダンス（全6時間）
単元で育む資質・能力			
			<ul style="list-style-type: none"> ・リズムダンスの行い方を知るとともに、軽快なリズムに乗って全身で踊ることができるようにする。[知識及び技能] ・自己の能力に適した課題を見つけ、リズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを仲間に伝えることができるようにする。[思考力、判断力、表現力等] ・リズムダンスに進んで取り組み、誰とでも仲良く踊ったり、仲間の動きや考えを認めたり、場の安全に気を付けたりすることができる。[学びに向かう力、人間性等]
時	主な学習活動とねらい	評価規準	
①	<p>リズムダンスについて知ろう。(オリエンテーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲から、リズムダンスについてのイメージをもち、学習の流れや進め方を知ること、学習の見通しをもつことができる。 	リズムダンスについて知ること、表現運動領域の学習における既習の動きを想起し、学習の見通しをもっている。[主体的に学習に取り組む態度]	
②	<p>ロックのリズムに乗って、踊ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムの特徴を捉えた踊り方を工夫して（弾む動きに、ねじる・回るなど入れる）リズムダンスをすることができる。 	リズムの特徴を捉え、リズムに乗って全身で弾んで踊ったり、動きに変化を付けて踊ったりしている。[知識・技能]	
③	<p>ロックのリズムに乗って、友達とかがわり合いながら踊ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と関わり合いながらリズムダンスをすることができる。 	仲間や他のグループのよい動きを真似したり、取り入れたりすることで、動きの変化の付け方を見つげようとしている。[思考・判断・表現]	
④	<p>サンバのリズムに乗って、踊ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムの特徴を捉えた踊り方を工夫して（弾む動きに、ねじる・回るなど入れる）リズムダンスをすることができる。 	リズムの特徴を捉え、リズムに乗って全身で弾んで踊ったり、動きに変化を付けて踊ったりしている。[知識・技能]	
⑤	<p>サンバのリズムに乗って、友達とかがわり合いながら踊ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と関わり合いながらリズムダンスをすることができる。 	自己の動き（踊り）に適した動きの変化の付け方を選んだり、仲間のよい動きを認めたり、取り入れたりしている。[思考・判断・表現]	
⑥	<p>ダンス交流会をしよう。(学習のまとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの交流会で、友達やグループのよい動きに気付くことができる。 	リズムの特徴を捉えて即興的に踊ったり、踊り方を工夫して仲間と見せ合ったりすることなどに進んで取り組もうとしている。[主体的に学習に取り組む態度]	

単元で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿	
問題解決力	リズムダンスを通して、リズムの特徴を捉えて踊ったり、仲間のよい姿を取り入れたりしながら動きのコツを掴みよりよい動きを追求する姿。
関係構築力	リズムに乗って全身で弾んで踊ったり、動きに変化をつけて踊ったりするために、(よりよい動きを追究するために) 考えたことをリズム言葉や動作で仲間に伝えたり、仲間の助言や動作を自分の動きに取り入れたりする姿。
貢献する人間性	練習や交流会から、仲間のよい動きに気付き、自分の動きに取り入れたり、他の仲間に広げようとしたりする姿。
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て	
問題解決力	即興的に踊る動きを生み出すために、リズムの特徴のイメージを動きにした掲示を生かして、自分の動きに取り入れようとしているかを、活動の様子から見届ける。
関係構築力	よりよい動きにするために、考えたことをリズム言葉や動作で仲間に伝えたり、仲間の助言や動作を自分の動きに取り入れたりする姿から見届ける。
貢献する人間性	練習や交流会から、仲間のよい動きに気付き、自分の動きに取り入れたり、他の仲間に広げようとしたりする姿から見届ける。

4 教科にかかわる本時のねらい

リズムの特徴を捉え、リズムに乗って全身で弾んで踊ったり、動きに変化をつけて踊ったりすることができる。〔知識及び技能〕

5 本時の展開（4/6）

児童生徒の学習活動	教師の手立てと見届け
<p>1 ウォーミングアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 心と体をほぐすウォーミングアップ ①体じゃんけん ②まねっこ体操 全体会 <p>サンバのリズムを知り、サンバのリズムに乗って、踊ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> めあてを確認する。 曲のリズムの特徴やイメージを動きにする。 <p>3 前半練習</p> <ul style="list-style-type: none"> サンバのリズムに乗って先生や仲間と踊る。 サンバのリズムの5～6曲を通して、基本的なリズムの特徴をつかむ。 <p>・リズムの特徴をつかむために、リズムの曲調が異なる曲を使いながら動きを確認していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> どこをどう動かすのが確認できるように、提示しておく。 リズムの特徴を捉え、リズムに乗り、リズムに合わせて動くことで、自分たちの動きを自由に、即興的に踊るための手掛かりとする。 	<p>（●教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童が学習への見通しや意欲がもてるよう、前時までの学習の自分や仲間の動きを確かめ、本時の課題につなげる。 <p>研究にかかわって</p> <p>【見届けの視点】</p> <p>よりよい動きにするために、考えたことをリズム言葉や動作で仲間に伝えたり、仲間の助言や動作を自分の動きに取り入れたりする姿から見届ける。（関係構築力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○動きのコツを仲間の動きのよいところに指導する。 ●全体で弾んで踊ることができるよう意識させる。 ●リズムの特徴を捉えられるように、手拍子や、体の揺れなどで感じさせる。 ●動きに変化をつけることができるように、4つの視点「空間・体・リズム・仲間」を使い指導する。 ○リズムダンスに苦手意識をもっている仲間を支援しようとすると、自分の動かない動きや考えを認めようとする姿を認め広げる。 <p>【評価規準】</p> <p>リズムの特徴を捉え、リズムに乗って全身で弾んで踊ったり、動きに変化をつけて踊ったりしている。 〔知識・技能〕</p>
<p>4 中間研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> 前半練習で踊った中から、お気に入りの動きを出し合い、その動きをつないだり、組み合わせたりして、次の自由な動きにつながるようにする。 動きに変化をつけて踊ることができるよう4つの視点に注目させる。 <p>5 後半練習</p> <ul style="list-style-type: none"> サンバのリズムの特徴に合った動きで、グループ（3人）を中心に踊る。 基本的なステップからお気に入りの動きをつないだり、組み合わせたりして、自由に踊れるようにする。 グループで動きを合わせて踊ったり、反対の動きで踊ったりする。 <p>6 交流会、全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> グループのペア（3人と3人）を作り、交流会をする。（ペアのダンスを見たり、一緒にまねをして踊ったりしてお互いに認め合う場） 本時の振り返りをし、交流する。 	

【公開Ⅱ】7年2組 保健体育科学習指導案

南体育館 潮田 航大

1 単元名 球技 バレーボール

2 指導の立場

(1) 題材について

学習指導要領解説では、バレーボールについて「ネット型とは、コート上でネットを挟んで相対し、身体や用具を操作してボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。」と示されている。バレーボールは、6人対6人で互いに空中でボールをやり取りする対峙型の球技であり、他の対峙型の球技(卓球、テニス、バドミントン)と異なり、「コート内で複数人が協同して一定の回数内でボールをつなぎ、相手コートに返球し、相手は協同して守る。」という「協同攻防」の姿がある。ゲーム中は刻々と変化する事態に対応する力が求められるため、6人がそれぞれの役割や責任を果たすことが必要である。また、ボール操作する時間より、ボールを持っていない時間のほうが圧倒的に長いことからボールを持っていない時の動きに注目することが重要である。また、バスケットボール等の攻守入り乱れの競技とは違い、3本で返す間に、仲間と連携をしながら攻撃を組み立てやすい題材である。

(2) 児童生徒について

ほとんどの生徒が前期課程でソフトバレーボールを使用した4人制のキッチバレーボールを経験しており、1本目を拾った後、セッターの位置に動くことや2本目はセッターに受け渡すこと、カバラーの姿勢を理解している。本単元では、通常のバレーボールを使用している。そのため、返球し

ようとすときにうまくはじくことができず、仲間に安定したパスをすることや、相手コートに返球することに難しさを感じている。また、ボールを持っていない時に連動した動きを習得していないため、キッチした後、どこにパスを上げればよいのか迷ってしまい、保持する時間が長くなってしまいう状況が見られる。

本単元では、場面に応じた動きの判断をし、仲間と連携を意識した攻撃を組み立てることができるようにしていく。

(3) 指導について

本校では、バレーボールの醍醐味である「スパイクで決める3本返球」を義務教育の出口の姿と捉え、2年生から系統的にバレーボールの指導を行ってきた。7年生では、「安定したパスでボールをつなぎ、空いた場所をめぐる攻防ができる」ことを目標とした。

本単元では、場面に応じた判断ができるようにするために、ボールを見て声を出すことが必要であると考え、相手や仲間がボールを打つ瞬間に声を出すことや場面や状況に応じた声を使い分けて出すことを指導する。それらの声を支えに、それぞれの生徒が先を見通して動き、安定して3本返球ができるようにしたいと考える。

また、仲間との連携を意識した攻撃を組み立てるために、1本目、2本目、3本目の各場面でのボールを持っていない動きを2時間ごとに学習する単元構成にした。自分がボールを打つのか、仲間に任せるのか、任せるならどこに動くのかを瞬時に判断して動くことができるよう、繰り返し指導することで、練習したことがゲームに活かせるようにしたいと考える。

これらを通して、仲間同士で動きを要求したり、動きの良さやお互いの考え方を認め合ったりしながら、バレーボールの楽しさに触れていくことができるようにしたいと考える。

3 単元指導計画

学年	第7学年	単元名	球技 バレーボール (全15時間)
単元で育む資質・能力			
		<ul style="list-style-type: none"> ・ルールや技術を理解するとともに相手や仲間、ボールの動きに応じて身体を動かす、ボールをつなぎ、ボールをめぐる攻防ができる。〔知識及び技能〕 ・ボールをつなぐためにボール操作やボールをもたない動きについて自己やチームの課題を発見し、解決方法について考えたり助言したりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 ・バレーボールに積極的に取り組むとともに、1人1人の違いに応じたブレインなどを認めようとすることや仲間の学習を援助しようとするなど、人間性等〕 	
時	主な学習活動とねらい	評価規準	
①	<p>バレーボールの授業やゲームのルールを知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールの授業の流れやねらい、目標について知ることができる。 ・ふぞっく子バレーのルールを基にした試しのゲームからルールについて知ることができる。 <p>ルール</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1本目はキャッチしてもよい。ただし、体の方向転換やボールの保持は禁止。パスの形で行うこと。 2. 返球するまでにボールに触っていいのは1人1回のみ。 3. サープは、後衛にアンダーハンドサーブまたはオーバーハンドパスで行うこと。 4. ボールが落下したらローテーションを行う。 5. 相手コートに3本で返球すること。 	バレーボールの授業の流れやルールについて理解し、授業に向かう姿勢や目標を考え、取り組もうとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕	
②	<p>試しのゲームから自分たちに必要なことを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試しのゲームからボール操作や仲間の動きについて自分やチームの課題を見つけてることができる。 <p>ボールが地面に落ちないように、素早く反応ができ、仲間とパスをつなぐことができるゲームをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間（相手）やボールの動きを見て、予測し、体の向きを変えたり、1歩目を早く動き出したりすることができる。 ・素早くボールの落下地点に入るための基本姿勢やボールをもたないときの姿勢を身に付けることができる。 <p>仲間が取りやすいようボールを高く緩いパスを意識したゲームをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーバーハンドパスの基本姿勢や相手が取りやすいパスを身に付けることができる。 ・仲間（相手）との距離を考えてパスを出すことができる。 ・仲間とボールをつなぐために高さのある「ふわっ」としたパスをする必要性に気付くことができる。 	自分の動きや仲間の動きから課題を見つけ、課題を克服するための方法を考ええている。〔思考・判断・表現〕	
③	<p>ボールが地面に落ちないように、素早く反応ができ、仲間とパスをつなぐことができるゲームをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間（相手）やボールの動きを見て、予測し、体の向きを変えたり、1歩目を早く動き出したりすることができる。 ・素早くボールの落下地点に入るための基本姿勢やボールをもたないときの姿勢を身に付けることができる。 <p>仲間が取りやすいようボールを高く緩いパスを意識したゲームをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーバーハンドパスの基本姿勢や相手が取りやすいパスを身に付けることができる。 ・仲間（相手）との距離を考えてパスを出すことができる。 ・仲間とボールをつなぐために高さのある「ふわっ」としたパスをする必要性に気付くことができる。 	ボールの落下地点に入るために準備姿勢や予測、基本姿勢の大切さに気付き、実践することができる。〔知識・技能〕	
④	<p>仲間が取りやすいようボールを高く緩いパスを意識したゲームをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーバーハンドパスの基本姿勢や相手が取りやすいパスを身に付けることができる。 ・仲間（相手）との距離を考えてパスを出すことができる。 ・仲間とボールをつなぐために高さのある「ふわっ」としたパスをする必要性に気付くことができる。 	ボールの落下地点に入り、相手が取りやすいパスを意識して、高さのある、「ふわっ」としたパスをすることができる。〔知識・技能〕	
⑤	<p>返球しやすくするための1本目の動きをどうするか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1本目をパスするのかわからないかを判断し、声を出すことができる。 ・1本目をパスすると判断した場合、自分の位置やボールを確認し、仲間に安定したパスを出すことができる。 	実践したり、仲間と交流したりしながら、1本目から2本目につながる場面において、より3本目で返球しやすい動きを考えている。〔思考・判断・表現〕	
⑥ 本時			

	<ul style="list-style-type: none"> 1本目を取らないと判断したとき、2本目や3本目に備えて動くことができる。 パスをつなぐ場所はどこなのか、動く場所はどこなのかを実際に動いたり、話し合ったりして確認する。 		実践したり、仲間と交流したりしながら、2本目から3本目につながる場面において、より3本目で返球しやすい動きを考えている。[思考・判断・表現]
⑦	返球しやすくなるための2本目の動きをどうするか。		
⑧	<ul style="list-style-type: none"> 上がってきたボールの位置や上がってくるボールの方向に応じてパスをする仲間を判断することができる。 2本目は上げる方向に体を向け、ネット際に山なりのパスを出すことができる。 3本目を準備する際に返球しやすい動きをすることができる。 仲間や相手の位置確認をしたり、仲間がパスをしやすい空間を見つけ、仲間同士で声をかけ合ったりすることができる。 		
⑨	返球しやすくなるために3本目の動きをどうするか。		
⑩	<ul style="list-style-type: none"> 2本目のボールに応じて走り込み、相手コートに確実に返球することができる。 ボールに応じて確実に返球することができるよう、仲間に声掛けをすることができる。 3本目の返球をしないと判断したときに、相手からの返球に備えて定位置に戻ることが必要であることに気付き、相手からの返球に備えた1本目の動きをすることができる。 		
⑪	3本目を狙って返すゲームをしよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> 2本目のボールに応じて確実に返すのか、狙って返すのかを判断することができる。 ボールに応じて返球する動きができるよう、仲間に声掛けをすることができる。 得点できた場面から狙って返すための動きについて考えることができる。 		
⑫	リーグ戦を通して、課題や成果を見つけよう。		
⑬	ゲームを行っていく中でチームの特徴に応じて作戦を変えたり、チームや仲間の課題について明確にし、仲間とアドバイスをしあったりしながら動きを高めることができる。		
⑭			
⑮	仲間と楽しくバレーボールのゲームを行うことができる。		
問題解決力	単元で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿		
関係構築力	ゲームや練習を通して、見つけた自己や仲間、チームの課題について、よりよい動きを追究する姿。		
貢献する人間性	練習やゲームを通して見つけた課題に対して、実践したり、仲間と交流したりしながら考え、解決に向かう姿。 練習やゲームから相手チームや自チームの仲間の良い動きに気付き、自分に取り入れたり、チームの動きを高めようと声をかけ、作戦を考えようとしたりする姿。		
問題解決力	自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て		
関係構築力	試しのゲームから見つけた学習目標を設定し、単位時間ごとに課題意識をもちながら取り組んでいるか、仲間の意見からどのようなように変容したのかを学習力ードや動きから見届ける。		
貢献する人間性	仲間や相手、ボールの動きについて視点を与え、実践したり、仲間と交流したりしながらよりよい動きを追究する姿を練習やゲームなどから見届ける。全体会にて変容した姿の裏に仲間とどのような関わりがあったかを確認し、価値付ける。 相手チームや仲間の動きのよさに気付けるように、全体の前でチームを認め、価値付けるとともに、自分や自チームにも真似ができることがないかを考えさせる。		

4 教科にかかわる本時のねらい

1 本目から2本目をつなぐ場面において、実践したり仲間と交流したりしながら3本目より返球しやすい動きについて考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

5 本時の展開 (6/15)

児童生徒の学習活動

1 ウォーミングアップ

・円陣パスやネット越しのパス練習から自分の動きや仲間の動きについて確認し、パスをつなげるために必要な動きの課題を見つける。

2 全体会、グループ会

返球しやすくするための1本目の動きをどうするか。

・これまでの動きについて振り返り、1本目に安定したパスでつなぐことや2本目3本目に備えるために必要な動きについて考える。

3 前半練習

動きのパターン (1本目の判断から3本目に備えた動き)



動きを高めるために

○全員で声を出す。

・1本目を取る人「はい」

・1本目を取らない人「○○さん」

・相手や仲間、ボールの動きに合わせて全員が声を出す。

・相手からのサーブを取らないと判断したときに2本目や3本目に備えて動く。

・2本目や3本目を想定した動きに余裕をもたせるために1本目のパスを工夫する。

→「ぽーんっ」とした緩く、高さのあるパス。

・ボールが落下したら必要に応じてグループ会を行う。

・パスをつなぐ場所はどこなのか、動く場所はどこなのかを実際に動いたり、話し合ったりして確認する。

4 後半練習

・練習したことがゲームで実践できているのか確認する。

5 グループ反省会、全体会

・グループ反省会では、本時の課題について振り返り、全体会では、動きの高まりを確認する。

教師の手立てと見届け

(●教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力)

○ 前時までの自分の動きや仲間の動きを確かめ、本時の課題につなげたり、課題に必然性をもたせたりする。

研究にかかわって

【見届けの視点】

1本目は、2本目につながるように仲間に高く緩いパスをすするなどの動きの高まりや2本目や3本目を見越した動きを追究するために、仲間と意見を出し合いながら考えて動く姿を練習やゲームなどから見届ける。(関係構築力)

● ボールの道筋に応じた体の向きや動きを身に付けるために相手がボールを打つ瞬間に全員で声を出すように促す。

● 自陣でパスが繋がらないグループには、練習を止めて状況を確認し、よりよい動きを考えられる場を位置付ける。

○ 1本目から2本目の動きを高めるために、声を出したり、ボールの動きから瞬時に判断し、2本目や3本目を見越して動いたりしている生徒を価値付ける。

【評価規準】

実践したり、仲間と交流したりしながら、1本目から

2本目につながる場面において、より3本目で返球し

やすい動きを考えられている。〔思考・判断・表現〕

● 課題達成に近づけるように考えて行動していたグループや、動きがよくなったグループを紹介して、次時への課題につなげる。

1 題材名 生活に役立つ製品を作ろう～収納ラックの製作～

2 指導の立場

（1）題材について

現代の社会では、従来の大量生産・大量消費のものづくりが見直され、少ない資源やエネルギーで、より質の高いものを生産する、サステナビリテイに配慮したものづくりが推進されている。このような社会の変化に対応するために、生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想した具体化や、自らの問題解決を振り返る経験をし、この経験を基に今後の社会の発展と技術の在り方について考えることが大切である。

本題材は、学習指導要領の技術・家庭科の技術分野、A材料と加工の技術（2）アイに基づく題材である。生徒自身の生活の中から問題を発見させ、設定した課題の解決に向けて製作を行っていく。課題の設定から評価・修正までを通して、生徒には「○○という問題を解決するために、こんな作品を作りたい」という課題意識をもたせて本題材を行っていく。様々な工程を踏んで製作を行う中でも、このような課題意識が生徒の根底にあることで、行う作業の質（安全面、丁寧等）がよりよくなると考える。このような生活の中から発見した問題を解決する活動を通して、よりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することをねらいとして、本題材を設定した。

（2）児童生徒について

多くの生徒は、前期課程の「図画工作科」や「総合的な学習の時間」において、「のこぎり」や「げんこう」などの道具を用いたものづくりの経験がある。また、生徒同士のコミュニケーションも積極的である。そこで、本題材の製作開始時に2人ペアの設定をした。それにより同じ作品を製作する生徒同士でペアをすることで、作業を協力して行ったり、一緒によりよい方法を考えたりするなど、協働的な活動が期待できると考える。

しかし、自分で設計をして製作をするという経験は少なく、問題を見いだして課題を設定して、解決策を構想・具体化して、解決していく工程についての理解は不十分だと考えられる。また、道具の特徴を踏まえた正しい扱い方についての理解も乏しいと考える。

そこで、本題材では、生徒自身の生活の中から問題を見だし、設定した課題をもとに製作品を決定していく。また、使用する道具の正しい扱い方についても習得させていきたい。

（3）指導について

本時は、完成した製作品の評価・改善を行っていく。題材の初めに自分が設定した課題を解決できるようなものになっているか、加工や組み立てを適切に行えているかなどの観点から評価を行う。4人グループを編成し、自分の評価だけではなく、仲間からも意見や助言をもらうことで、多面的・多角的に作品を捉えた振り返りができ、改善へとつなげることができると考える。また、実際に収納するもの（本や小物等）を用いて、設定した課題にあった問題解決ができたかを確認していく。

3 題材指導計画

学年	第7学年	題材名	A材料と加工の技術 収納ラックの製作 (全17時間)
題材で育む資質・能力			
<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。[知識及び技能] 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想した具体化や、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を身に付ける。[思考力、判断力、表現力等] 自らの問題解決の過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとする態度を身に付ける。[学びに向かう力、人間性等] 			
時	主な学習活動とねらい		評価規準
①	生活の中から問題を発見して、課題を設定しよう。 生活の中から材料と加工の技術にかかわる問題を見いだして課題を設定できる。	生活の中から材料と加工の技術を見いだして課題を設定できる。	生活の中から材料と加工の技術に関わる問題を見いだし課題を設定している。[思考・判断・表現]
②	課題を解決するための構想を具体化しよう。 生活や社会の中から見いだした問題を材料と加工の技術によって解決する活動を通して、材料と加工の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決する力を身に付けることができる。課題を設定することができる。	課題を解決する活動を通して、材料と加工の技術を見いだして課題を設定し解決する力を身に付けることができる。	課題の解決策となる収納ラックの材料、大きさ、形状、構造などを使用場所や加工方法などの制約条件に基づいて構想し、設計や計画を考えている。[思考・判断・表現]
③	等角図のかき方を知ろう。 立体的な製作物を図で表す方法を考えることを通して、製作における図の役割や等角図のかき方を知り、自分が製作する作品について図でかき表すことができる。	図の役割や等角図のかき方を知り、かき表すことができる技能を身に付けている。[知識・技能]	図の役割や等角図のかき方を知り、かき表すことができる技能を身に付けている。[知識・技能]
④	第三角法による正投影図のかき方を知ろう。 身近な製品や自分の製作品で使用する部品を図で表す方法を考えることを通して、第三角法による正投影図のかき方を知り、自分の作品をかき表すことができる。	第三角法のかき方を知り、かき表すことができる技能を身に付けている。[知識・技能]	第三角法のかき方を知り、かき表すことができる技能を身に付けている。[知識・技能]
⑤	材料へ正確にけがきをしよう。 材料を正確にけがく方法を知ることを通して、さしがねの使用方法を理解し、基準面から垂直にけがくことができる。	さしがねの使用方法を理解し、基準面から垂直にけがくことができる技能を身に付けている。[知識・技能]	さしがねの使用方法を理解し、基準面から垂直にけがくことができる技能を身に付けている。[知識・技能]
⑥	切断線に沿って真つすぐに切断しよう。 のこぎり引きの示範の観察を通して、正確にのこぎり引きをするためのポイントに気付き、けがき線に沿ってまっすぐ直角に切断することができる。	材料の固定や作業動作、工具の特徴を生かした使用方法が大切であることを理解し、けがき線に沿って正確に切断できる技能を身に付けている。[知識・技能]	材料の固定や作業動作、工具の特徴を生かした使用方法が大切であることを理解し、けがき線に沿って正確に切断できる技能を身に付けている。[知識・技能]
⑦	部品の検査を行い、正しい寸法に仕上げよう。 さしがねや直角定規を用いて、切断面や寸法の検査を通して、正確に仕上げるためには、部品加工や修正が必要であることに気付き、ベルトサンダを使って、部品を仕上げることができる。	部品の検査（寸法・直角度・平面度）を行い、切削するなど必要に応じた改善・修正をしている。[知識・技能]	部品の検査（寸法・直角度・平面度）を行い、切削するなど必要に応じた改善・修正をしている。[知識・技能]
⑧	仮組み立てを行い、組み立てまでの見通しをもとよう。 仮組み立てを行うことを通して、くぎ接合の位置を確認し下穴をあけ、組み立てるまでの手順や組み立ての見通しをもつことができる。	組み立ての見通しをもち、完成までの正しい手順を理解している。[知識・技能]	組み立ての見通しをもち、完成までの正しい手順を理解している。[知識・技能]
⑨	ずれがないように正確に組み立てをしよう。 げんこの形の形を観察することを通して、げんこの正しい使い方や接着剤の必要性に気付き、手順を考えて、正確に組み立てることができる。	接合の種類に応じた適切な接合方法を理解し、順序を考えて組み立てることができる技能を身に付けている。[知識・技能]	接合の種類に応じた適切な接合方法を理解し、順序を考えて組み立てることができる技能を身に付けている。[知識・技能]
⑩			
⑪			
⑫			
⑬			
⑭			
⑮			

⑩	<p>表面処理を行って、作品を美しく仕上げよう。</p> <p>表面の処理には見た目を変えらるることと表面を保護する役割があり、それには様々な方法があることを理解することを通して、目的に合った方法を選択し美しく塗装することができる。</p>	<p>表面の処理の役割を理解し、目的に合った塗装ができる技能を身に付けている。[知識・技能]</p>	<p>表面の処理の役割を理解し、目的に合った塗装ができる技能を身に付けている。[知識・技能]</p>
⑪ 本 時	<p>製作品を振り返り、改善点や必要なことをまとめよう。</p> <p>作品の自己評価や仲間との意見交流を通して、自身の願いに沿った作品にするための改善点に気づき、作品の改善案について考えることができる。</p>	<p>仲間の意見を参考にしながら、作品の改善案を出し合っている。 [思考・判断・表現]</p>	<p>仲間の意見を参考にしながら、作品の改善案を出し合っている。 [思考・判断・表現]</p>
題材で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿			
問 題 解 決 力	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を設定し、試行錯誤をして問題に粘り強く取り組もうとする姿。 ・習得した知識や技能を生かし、課題を解決しようとする姿。 		
関 係 構 築 力	<p>仲間と協働して製作していく中で、仲間にアドバイスをしたり、サポートをしたりする姿。</p>		
貢 献 す る 人 間 性	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間との関わりの中で、分かったことやできるようになったこと、自分の学びを振り返っている姿。 ・これまでの学習を生かして作業工程を行い、成長した自分を振り返っている姿。 		
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て			
問 題 解 決 力	<p>題材や単位時間、次時への見通しをもった上で自身の目標を設定し、単位時間ごとに課題意識をもちながら取り組んでいるか、個人シートから見届ける。</p>		
関 係 構 築 力	<p>ペアで作業する中で、仲間へアドバイスをしたり、仲間からのアドバイスをもとに改善・修正したりしているか、協働の様子から見届ける。</p>		
貢 献 す る 人 間 性	<p>自分の考えや活動の学びをまとめる活動から、学んだことを自身の生活に取り入れようとする姿をワークシートから見届ける。</p>		

4 教科にかかわる本時のねらい

作品の自己評価や仲間との意見交流を通して、自身の願いに沿った作品にするための改善点に気付き、作品の改善案について考えることができる。

[思考力、判断力、表現力等]

5 本時の展開 (17/17)

児童生徒の学習活動	教師の手立てと見届け
<p>1 前時までの活動を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を完成させることができたため、本時はその評価と改善について考えていくことを確認する。 <p>2 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>製作品を振り返り、改善点や必要なことをまとめよう。</p> </div> <p>○評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用目的・使用条件に合うか。 ・ 組み立ては適切にされているか。 ・ 部品はしっかり加工されているか。 ・ 仕上げは適切にされているか。 等 <p>3 4人グループで、それぞれの作品に対して、気付いたことや改善案を考えて交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本の幅によって仕切り板を動かせると便利ではないかな。 ・ 家にある収納ボックスのように、仕切り板の高さが自由に換えられると、収納の幅が広がると思うよ。 <p>4 仲間の意見や自身の反省から、より最適な作品にするための改善点を考える</p> <p>① 仲間の発表から気づいたことや改善点をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収納する物の高さによって棚板の位置を変更できると便利だと思った。 <p>② 制作した作品がより良くなるための方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダボを用いて棚板の位置を変える方法があると思った。 <p>5 振り返りを行う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>多様な視点から作品を振り返ることで、材料取りから細かく考えることが必要であったり、目的に沿った設計が必要であったりするなど、改善点が多く見つかつた。次に製作することがあれば、自分の使用場面を具体的に想像し、より利便性の高いものを製作してみたいと思った。</p> </div>	<p>教師の手立てと見届け</p> <p>(●教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 完成した作品をもとにうまくいった点や改善点を考えさせる。 ● 考える際には、教科書 p 76 にある評価の観念の例を参考に、考えさせる。 ● ○発表方法について指導しておく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1人あたり5分。 ・ 問題解決シートを基に、製作品に込めた願いや評価、工夫について話す。 ・ 製作者の発表後に残りの3人から、意見や改善案を募る。 <p>○ 作品を手に取り、じっくり見ながら適切な改善ができるように、時間設定をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>研究にかかわって 【見届けの視点】</p> <p>4人グループの交流を通して、お互いの作品に対しての気づきや改善案を考え、仲間と意見を出し合っている様子から見届ける。 (関係構築力)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】</p> <p>仲間の意見を参考にしながら、作品の改善案を出し合っている。 [思考・判断・表現]</p> </div>

【公開 I】5年2組 家庭科学学習指導案

北校舎3階家庭科室 水谷 直美

1 題材名 ご飯とみそしるを食べて元気に

2 指導の立場

(1) 題材について

本題材は、第5学年の内容B衣食住の生活(2)調理の基礎(オ)にもとづく題材である。食事の役割や食事の大切さ、我が国の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解するとともに、それらに係る技能を身に付けることをねらいとしている。

ほとんどの児童が、米飯は毎日、みそ汁は2日に1回以上食べており、我が国の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁が児童の食生活において、大変身近なものであることが分かる。野菜を中心として肉や魚も実となるみそ汁は、実のバリエーションが豊富で、栄養面でも優れた料理である。そのため、題材の導入部分では、みそ汁を食べた経験を想起させて児童の学習対象への興味・関心を高めつつ、児童一人一人が生活に係る見方・考え方を働かせ、問題を見いだして課題を設定できるようにするために、みそ汁の調理の仕方について「おいしく元気に」という視点を与えていく。

また、日本の伝統的な食事を支えるだしのうまみを体感し、日常食にだしを取り入れようとする実践的な態度を養うようにする。そのために、だしを活用することでみその塩分を控えて調味することができ、ことに気付けさせ、みそ汁の調理の仕方について実習を通して学び、必要な知識及びそれらに係る技能が身に付くようにする。

そして、米飯に関する学習では、日本の主な農作物である米を昔からが主食としていることに気付くようにする。そして、米が水と熱でご飯へと変化する様子をガラス鍋実習で間近に見せ、炊飯器の中を想起させる。

(2) 児童生徒について

児童は、5年生から始まった家庭科の学習に対して、大変意欲的に取り組んでいる。それは、学習内容が児童自身の生活と密接につながっている身近に感じられるからであり、なにより、自分で調理したものを食べるという楽しさがあるからだ。また、4年生までに家庭で料理を作ったことがある児童は半数程度であり、包丁を使って調理したことがあるのは三分の一程度であった。経験が少ないからこそ、自分で調理することができて、それを味わったときの感動が大きいと考える。

ガスコンロの使い方を学習した「お茶をいれよう」では、熱湯の温度がお茶の味に影響することを学んだ。また、ゆで野菜の学習では、水からじゅじゅと沸く野菜と熱湯でさっとゆでる野菜があることを知り、食品に合わせて調理方法を変え、その重要性を理解することができた。

これらの既習内容と本題材を関わらせながら、みそ汁の実際の切り方や鍋に入れるタイミング、炊飯の火加減などを考えさせたい。そして、それぞれの家庭のみそ汁と比較しながら、だしのうまみや、実の特徴、みその風味を実感できるように指導したい。

(3) 指導について

本時は、日本の伝統的な日常食であるみそ汁の実を栄養バランスや季節などを考えながら選ぶ活動を通して、家族への思いをもとにした家庭実践の意欲を高めることを目指す。日本では古くから、こんぶやかたおぶし、煮干しなどの海産物、干しいたいけや切り干し大根などの野菜といった様々な食品からだしをとり料理に利用している。よって本題材では、煮干しだしのうまみを体感し、生活文化の継承の一端を担うようにする。また、本題材の前半で学習する五大栄養素と実の栄養をつなげて、家族のために栄養満点のみそ汁を作りたいという意欲をもてるような指導をしていく。

3 題材指導計画

学年	第5学年	題材名	ご飯とみそしるを食べて元気に(全9時間) B 衣食住の生活
題材で育む資質・能力			
			<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割や食事の大切さ、材料の分量や手順、調理計画、我が国の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方、調理に適した切り方、配膳及び後片付けについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。[知識及び技能] B (1) ア、(2) ア、(3) ア ・おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方に問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。[思考力、判断力、表現力等] B (1) イ ・家族の一員として生活をよりよくしようと、我が国の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返ったりして、生活を工夫し実践しようとする。[学びに向かう力、人間性等] B
時	主な学習活動とねらい		評価規準
①	<p>私たちはなぜ食べるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割を理解する。 ・五大栄養素の体内での働きを知り、食品を3つのグループに分けることができる。 		<p>食事の役割が分かり、日常の食事の大切さや五大栄養素について理解している。[知識・技能]</p>
②	<p>和食(ご飯とみそ汁)のよさを考えよう。</p> <p>日本の伝統的な日常食である和食が、ユネスコ無形文化遺産遺産に登録された理由を考え、和食のよさに気付くことができる。</p>		<p>米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解している。 [知識・技能]</p>
③	<p>米がご飯に変化するために必要な要素を見つけよう。</p> <p>米の変化を観察し、米を研ぐ(洗う)や吸水、加熱、蒸らしなど米飯の調理の仕方を理解することができる。</p>		<p>伝統的な日常食である米飯の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。[主体的に学習に取り組む態度]</p>
④	<p>ふっくら柔らかいご飯を炊こう。</p> <p>水加減、火加減に気を付けて、ガラス鍋でご飯を炊くことができる。</p>		<p>米飯の調理に必要な米や水の分量や計量、調理の仕方について理解しているとともに、炊飯が適切にできている。[知識・技能]</p>
⑤	<p>だしのうまみを味わおう。</p>		<p>だしのうまみを実感し、煮干しだしのみそ汁を作っている。</p>
⑥	<p>だしをとったみそ汁とだしをとらずに作ったみそ汁を比較し、だしの役割を考えられることができる。</p>		<p>[知識・技能]</p>

⑦	煮干しのだしで、うまみのあるみそ汁を作ろう。	みそ汁の調理に必要な材料の分量や計量、調理の仕方について理解しているとともに、みそ汁の調理が適切にできている。[知識・技能]
⑧	みそ汁の実の切り方や入れる順を理解し、だしのうまみを生かしたみそ汁を個別調理することができる。	
⑨	家族のために作るみそ汁の、調理計画を立てよう。	様々な食品の中から、自分や家族の好みに合わせてみそ汁の実を選び、調理実習計画を立てている。[思考・判断・表現]
本時	みそ汁がおいしくなるためのコツを理解し、家族のために作るみそ汁の調理実習計画を立てることができる。	
題材で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿		
問題解決力	日本の伝統的な日常食のよさを自分の食生活に生かすために、米の炊飯による変化やだしのうまみについて調べたり、自分の家の調理方法と比較したりする姿。	
関係構築力	仲間と交流し、仲間の家の炊飯のこつやみそ汁の調理方法を聞いたり自分の考えを伝えたりして、さらにより調理方法を工夫する姿。	
貢献する人間性	学校での調理実習をふまえて、家族が喜ぶ日常食の調理計画を立て、家庭で実践する姿。	
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て		
問題解決力	児童一人一人が自分の家庭の様子を取材し、その中から炊飯のこつやみそ汁の調理上の工夫を見つけたり、提示された科学的根拠から考察したりする場を設け、自分の調理計画に生かしているかを見届ける。	
関係構築力	仲間と交流する中で、自分が見つけた炊飯のこつやみそ汁の調理上の工夫を伝えたり、仲間の考えについて理由を一緒に考えたりしている交流の様子から見届ける。	
貢献する人間性	ご飯とみそ汁の調理上の工夫から学校での調理実習を振り返り、家族の好みや自分の調理技能を踏まえて、家庭で作るご飯とオリジナルみそ汁の調理計画を立てているかを見届ける。	

4 教科にかかわる本時のねらい

みそ汁がおいしくなるためのこつを理解し、家族のために作るみそ汁の調理実習計画を立てることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

5 本時の展開 (9/9)

	教師の手立てと見届け
<p>児童生徒の学習活動</p> <p>1 前時までの学習を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だしが有る無いでは、みそ汁の味が全然違ったよ。 ・煮干しだけで作ったみそ汁が、とてもおいしかった。 ・実を包丁で切るのが緊張したけれど、薄く切れた。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">家族のために作るみそ汁の、調理計画を立てよう。</p> <p>2 だしの試食やみそ汁実習で気づいたおいしいみそ汁のひみつを交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だしのうまみを生かす。 ・実の切り方、入れるタイミングに気を付ける。 ・みその風味を残す。 <p>3 前時のみそ汁実習で「うまかったから続けたいこと」「改善したいこと」を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・煮干しのだしは、魚の味がしつかり出ているから、家でも使ってみたい。 ・大根が少し硬かったから、もう少し細く切りたい。 ・味が濃くなったから、みそは味見をしながら少しずついれたい。 <p>4 自分の家で作るみそ汁実習の計画を立てる (個人→班交流→全体交流)</p> <p>【だし】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしい煮干しのだしになるように、煮干しの頭とはらわたを丁寧に取り除く。 ・煮干しでカルシウムも摂れるから、煮干しそのままにする。 <p>【実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんはねぎが好きだから、大きく切って入れよう。 ・大根はかたいから、次は干切りにする。 ・お母さんは彩りのために人参を入れてくれるから玉ねぎを入れよう。 ・弟は野菜が苦手だけれど、みそ汁なら食べられるから、実にしよう。 ・乾燥わかめは切らずに使えるし家にあるから、使ってみよう。 ・じやがいもは炭水化物の栄養が摂れるから、使ってみよう。 ・ねぎは柔らかい香りを楽しむ野菜だから、最後に入れよう。 ・秋はさつまいもが旬だから、入れたい。 <p>【みそ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みそは風味を残すために、最後に溶かし入れて沸騰させないように気を付けよう。 ・味見をしながら、少しずつみそを溶こう。 <p>5 自分の実習計画を見直し、付け加えたり替えたりする</p> <p>6 計画表に出来上がり予定図を描き、家庭で実践することへの意欲を高める</p>	<p>(●教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●だしのもつまみパワーを再確認し、本時への動機付けを行う。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">研究にかかわって 【見届けの視点】 家族のためにおいしく作りたいという願いを、実の種類や切り方で表現し、個々の願いに沿った計画になっているか、見届ける。(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●前時は共通のだし(煮干し)と実(大根、乾燥わかめ)でみそ汁の試作を行ったので、大根の軟らかさやみその風味についての考えを引き出すようにする。 ●その実を決めた根拠を明らかにして班交流できるように、計画表にその実のよさを記述できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・家族の好み ・季節の食品 ・栄養素 ●「家族が喜ぶポイントはこれだ！」を計画表に記入できるようにし、家庭での実践意欲を引き出すようにする。 ●葉物野菜、根菜類、薬味野菜によって、切り方や煮るタイミングが異なることに気を付けて計画できているか班内で確認する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">【評価規準】 様々な食品の中から、自分や家族の好みに合わせてみそ汁の実を選び、調理実習計画を立てている。 〔思考・判断・表現〕</p>

【公開1】5年3組 外国語科学習指導案

5年3組教室 伊藤 暢宏

分かる。しかし、中には間違いを恐れて、英語で発話したり仲間と活動したりすることに躊躇してしまふ姿が見られる。外国語科の授業では、自信をもって英語で会話をしたり発表したりできるように、Round 学習を通して繰り返し題材や言語材料に出会い、児童がそれらを自在に活用できるようにさせたいと考える。

1 単元名 Season 2 Round 4 Unit 5 地域のことを紹介しよう

2 指導の立場

(1) 題材について

本単元は、自分の知りたい場所や位置をたずねたり、相手を案内したりするために、場所や位置のたずね方や答え方などについて、短い話を聞いてその概要を理解したり、伝え合ったりする単元である。道案内では、Round 1～3で語句や表現に慣れ親しみ、Round 4ではそれをもとに実際に児童同士でロールプレイを行う。様々な場所への行き方をたずねたり、答えたりして、Where is ～? Go straight for ～ block(s). Turn left/right. You can see it on your left/right. などの表現や、建物などの語句の定着を図っていく。単元終了の活動では、「Dream Town Map」を完成させ、その地図を使って、道案内の活動を行う。

(2) 児童生徒について

本学級の児童は、活発な児童が多く様々な活動に対し積極的に取り組む姿が見られる。また、自分の課題に対して真剣に取り組める児童も多い。7月に行ったアンケート調査では、「英語は得意ですか」という質問に対し、「得意」「まあまあ得意」と肯定的に答えた児童は35人中25人。「英語のコミュニケーション活動は好きですか」という質問に対しては、「好き」「まあまあ好き」と答えた児童は35人中29人で、多くの児童が英語を学習することに對して肯定的で、その情意面が学習や活動への意欲につながっていることが

(3) 指導について

本時は、道案内をする活動を通して、目的地への道順について既習事項を用いて正しく説明したり、正しく理解したりすることを目指す。外国語科では、「言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する」ことを目標としている。児童が各々で作成した「Dream Town Map」を使用することで、**information gap** が生まれ、コミュニケーションを図る目的（児童が道案内をする必然性）をもって学習に取り組みると考えた。

また、児童はこれまでのRound 学習でUnit 5までに学習した表現を用いて、そこでできることやその感想を伝えたり、相手の好みをたずねたりし、表現の幅を広げることができるようしていく。

児童一人一人が相手意識をもって積極的にコミュニケーションを図り、コミュニケーションを取ることに楽しさや、コミュニケーションを取る際には、身振りや手振りを交えたり、話す速さや声の大きさに気を付けたりすることの大切さを感じさせたい。

3 単元指導計画

学年	第5学年	単元名	Season 2 地域のことを紹介しよう (全28時間)
単元で育む資質・能力			
<ul style="list-style-type: none"> 身近な人紹介や道案内、注文や会計の仕方の表現について理解することができる。〔知識及び技能〕 経験や生活となげながら、自分の考えや気持ちなどが他者に伝わるように工夫して伝えることができる。〔思考力、表現力、判断力等〕 他者の考えとの相違点や共通点に気付き、他者理解を深め、相手の立場に立って自分の考えや気持ちを伝えようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕 			
時	主な学習活動とねらい		
Round 1 ①～⑥	<p>話の内容をつかむ Round</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の話を聞く。 教師の質問に答える。 	<p>評価規準</p> <p>既習表現や単語などから話の内容を推測し、おおよその内容を理解することができる。〔知識・技能〕〔主体的に学習に取り組む態度〕</p>	
Round 2 ⑦～⑨	<p>話の内容を理解し、表現を知る Round</p> <ul style="list-style-type: none"> 動画を観聴する。 どのような表現が使われているかを交流する。 聞こえた表現を繰り返す。 	<p>身近な人紹介や道案内、注文や会計の仕方についての動画を視聴して、話の内容を掴み、その内容を伝えるために使われている表現を知ることができる。〔知識・技能〕</p>	
Round 3 ⑩～⑮	<p>自分のことを話したり相手のことを尋ねて知ったりする Round</p> <ul style="list-style-type: none"> Let's Listen に取り組み、聞いたことや表現を用いてやり取りする。 用いた表現を読んだり書いたりする。 	<p>身近な人紹介や道案内、注文や会計の仕方について、聞いたことや表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。〔思考・判断・表現〕</p>	
Round 4 ⑯～⑳ 本時 ㉑	<p>目的や場面、状況に応じて自在にコミュニケーションを図る Round</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や場面、状況等を把握し、自分の考えや気持ちを伝え合う。 他者との交流をもとに、考えや表現を再構築する。 	<p>身近な人紹介や道案内、注文や会計の仕方について、目的や場面、状況等に応じて、他者に伝わるように工夫しながら自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。〔知識・技能〕〔思考・判断・表現〕〔主体的に学習に取り組む態度〕</p>	
Round 5 ㉒～㉓	<p>自己の学びを確かめる Round</p> <ul style="list-style-type: none"> パフォーマンステスト（聞くこと・話すこと）に取り組む。 ペーパーテスト（聞くこと・読むこと・書くこと）に取り組む。 自分の学びを確かめ、次の目標をもつ。 	<p>身近な人紹介や道案内、注文や会計の仕方について、聞いたり読んだり話したり書いたりし、自分の学びを確かめることができる。〔知識・技能〕〔思考・判断・表現〕〔主体的に学習に取り組む態度〕</p>	
単元で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿			
問題解決力	外国語を用いて、自分の考えや気持ちを表現できるようにしたりという思いをもち、既習表現を活用し表現している姿。		
関係構築力	相手に伝わるように工夫して自分の考えや気持ちを伝えたり、話を聞いて他者の考えを理解したりすることで、相互理解を図っている姿。		
貢献する人間性	コミュニケーションを通して自分の成長や仲間のよさに気付いたり、自分の考えや気持ちを表現しようとしていたりしている姿。		
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見つけの視点と手立て			
問題解決力	身近な話題から課題を設定し、Round 学習を用いて繰り返し様々な言語材料に触れる機会を設けることで、スモールステップで発展的に活動を行い、単位時間ごとに課題意識をもちながら取り組んでいるか、活動の様子から見届ける。		
関係構築力	質問しながら話したり相手の話を繰り返したりするなど、対話の方略的能力を指導する。また、相手に伝わる児童の話し方や内容を交流会で広め、表現を再構築する場を位置付け、交流の様子から見届ける。		
貢献する人間性	児童にとって身近な話題から世界とのつながりに気付ける話題を提供する。自分や友達成長やよさを振り返る場を設け、価値付け、活動や交流の様子、振り返りの内容から見届ける。		

4 教科にかかわる本時のねらい

仲間に行ってみてみたいと思ってもらえるように、既習表現を用いて「Dream Town Map」の紹介をしたり、仲間の話を聞いて仲間の考えた「Dream Town」にある施設や、そこへの行き方について理解したりすることができる。

[知識及び技能]

5 本時の展開 (6/10)

児童生徒の学習活動	教師の手立てと見届け
<p>1 Song Time</p> <ul style="list-style-type: none"> 道案内についての表現や英語のリズムに親しみながら楽しく歌う。 <p>2 Small Talk</p> <ul style="list-style-type: none"> 「○○はどこにありますか。」について尋ねたり答えたりして伝え合う。 相手の話に対して、さらに質問したり反応したりしながら対話する。 <p>3 Today's Aim</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>仲間に行ってみてみたいと思ってもらえるように、「My Dream Town」を紹介しよう。</p> </div> <p>4 Enjoy Communication</p> <ul style="list-style-type: none"> 道案内についての表現を用いて、「Dream Town Map」にある施設までの行き方を説明する。 相手の道案内を聞いて、施設の場所を理解する。 教師の話聞き、目標に近づく姿を確認し、そのための方途を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: Where is zoo? B: Zoo? Go straight for two blocks. Turn right. Go straight for two blocks. Turn left. Go straight for one block. Turn right. Go straight. You can see it on your left. A: Here? B: Yes. That's right. Do you like animals? A: Yes, I do. I like pandas. Do you like pandas? B: No, I don't. I like tigers.</p> </div>	<p>(●)教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今までに学習した題材を繰り返し扱い、既習表現を活用し、定着させる場を設ける。 ●自分のことを詳しく伝える表現や、相手の話に対して質問したり反応したりする表現を確認し、活用できるようにする。 <p>○相手の反応に応じて繰り返したり、話し方を工夫したりしている児童や、相手の話に対して質問したり反応したりしている児童の表現を広め、他者意識をもって活動することができるようにする。</p>
<p>5 Kira-Kira Time</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の目標に沿って自己評価を行い、自分や仲間のがんばりや確かめたり次時の目標をもったりする。 教師による評価を聞く。 	<p>研究にかかわって</p> <p>【見届けの視点】</p> <p>相手に伝わるように工夫して道案内をする姿や、相槌を打ったり繰り返したりするなど共感的に相手の話を聞く姿から見届ける。(関係構築力)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童を価値付け、次時への願いをもたせる。 <p>【評価規準】</p> <p>既習表現を用いて道案内をしている。また、道案内を聞いて、相手の「Dream Town Map」のどの場所にどんな施設があるか理解している。[知識・技能]</p>

【公開1】8年2組 外国語科学習指導案

8年2組教室 浅井 拓也

1 単元名 Season 2 Round 3 Unit 4 Homestay in the United States

2 指導の立場

(1) 題材について

本単元は、登場人物の海斗が夏休みの間にホームステイを行い、ホストファミリーと生活する中で学んだことや考えたことを紹介する単元である。生徒は、海斗のアメリカでの生活や、他の登場人物のホームステイの感想から、日本の生活習慣や文化の違いを知り、ホストファミリーと共に暮らすためにどうすればよいかを考えることができる。旅行と違い、家族の一員として過ごすホームステイでは、ホストファミリーと円滑にコミュニケーションをとることが重要になる。本文では、海斗が家庭内でのルールを教わる場面や、ホームステイに関するアドバイス、他の登場人物のホームステイの感想などが紹介されており、生徒はコミュニケーションの大切さや難しさについても考えることができる。人によって考え方が違うことや、場所によってルールやマナーが違うということを知り、理解を深めることで、多様な考えの人と生活していくには、互いの考えや思いを尊重していくことが大切であるということに気付かせていきたい。そして、ホームステイをする上で大切なことは何かを考え、生徒それぞれが自分の意見を述べられるように指導していきたい。単元を通して学習の中では、本文の内容理解に加え、生徒それぞれの家庭での生活習慣やルールなどについても取り上げ、仲間と交流していく。帰宅時間や就寝時間のような生活習慣や、家族の一員としての役割など、自分の家庭では当たり前だと思っていることにも、各家庭によって違いがある

ことを知り、それにより自分と他者の生き方や考え方についても理解を深めていけるようにする。

(2) 児童生徒について

有名な観光地や食べ物など、海外の文化についてある程度の知識がある生徒は多いが、それぞれの家庭での過ごし方やマナー等については分かっていない生徒もいるため、本単元の学習を通して理解を深められるようにしていきたい。また、クラスの仲間と交流する際に自分の家庭でのルールなどを伝え合うことで、自分が当たり前だと思っていたことが他の家庭では当たり前とは限らないことに気付き、生徒の他者に対する見方が広がることにもつながると考える。

(3) 指導について

本時は、本文の概要を説明したり、家庭生活でのルールに関する自分の考えや思い、経験などを話したりする活動を通して、既習事項を正しく使いながら、考えや思いなどを表現することを目指す。教科書の登場人物たちのホームステイ先でのルールや生活の様子に対して自分はどう思うかを仲間へ伝えたり、自分の生活と比べながら話したりできるようにする。適宜、中間交流や質問の場を設け、仲間の表現から学んだり、困り感を解決したりすることができるようになり、自己表現の幅を広げることができるようしていく。

生徒は、Round 1 と Round 2 でリスニングや本文の読解を行い、そこで使われている言語材料を理解したり、本文の内容について大まかに捉えたりした上で本時を迎える。本単元で学習する have to や助動詞 must などの既習表現を用いながら、教科書の概要や自分の考えを伝えたり聞いたりすることができるようになる。また、仲間の考えや表現の仕方を知ることを通して、クラスの仲間についてより深く理解したり、英語による表現の仕方を工夫したりすることができるようになりたい。

3 単元指導計画

学年	第8学年	単元名	Season 2 Round 3 Unit 4 Homestay in the United States (全34時間)
単元で育む資質・能力			
<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を正しく使いながら、本文の概要やそれに対する自分の考えを表現するために、本文の詳しい内容や単語、文章の正しい発音方法などを理解することができる。また、海外の国の文化や生活習慣、他者と自分の考えの共通点や違いなどを知るとともに、それらに対する自分の考えをもつことができる。〔知識及び技能〕 本文の概要や、それらに対する自分の考えや経験について、相手に伝わるようにリテリングをすることができる。また、目的や場面、状況を理解し、相手を意識をもって、自分の考えや伝えたいことを表現することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 海外の国の文化や生活習慣、他者の考えや意見などに対する理解を深め、相手の理解を確かめながら話したり、相手の話を理解しようと努力したりしながら、自分の考えたことや思いを伝え合おうとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕 			
時	主な学習活動とねらい		
①	<p>単元のオリエンテーションを聞き、単元の流れを理解することができる。また、自分が興味をもっていることやその魅力について、仲間と紹介し合うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> トピックに沿った表現活動を行う。 	<p style="text-align: center;">評価規準</p> <ul style="list-style-type: none"> トピックについての自分の考えをもち、仲間とコミュニケーションをとることを通して、自分の考えを表現したり、仲間の考えを理解しようとしたりする姿。〔主体的に学習に取り組む態度〕 	
Round 1 ②～⑦	<p>本文の音声を聞き（リスニング）、概要を理解することができる。また、つかんだ概要についてリプロダクションを行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文のリスニングを行い、内容に関する簡単な問いに答える。 本文の概要について、リプロダクションを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の音声を聞き、その要点を捉え、語彙や表現方法を理解しようとしている姿。 本文の概要について、仲間とリプロダクションを行っている姿。〔知識・技能〕 	
Round 2 ⑧～⑳	<p>本文や単語の発音方法を知り、それを聞いたリ発音したりすることで、文字と音声を結びつけることができる。</p> <p>本文の読み取りを行い、要点や細部情報を理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 単語の発音練習をする。 本文の内容を読み取ったり、文章内で使われている表現方法を理解したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文や単語の音声を聞き、正しい発音について理解している姿。 本文の内容を読み取り、その要点や内容を理解し、語彙や表現方法を取り入れようとしている姿。〔知識・技能〕 	
Round 3 ㉑～㉓ 本時 ㉔	<p>教科書本文を音読したり、教科書の表現や既習表現を活用してその内容について相手に説明したりする活動を通して、教科書本文の概要や自分の考えなどを的確に表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文の音読を行う。 本文のリテリングを行う。（自分の考えや意見などを取り入れた上で話す活動が中心） 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を音読することで、その文章の発音や表現方法を理解し、語彙や言語材料を取り入れている姿。〔知識・技能〕 本文の概要だけでなく、自分の考えや経験を取り入れながら、リテリングをしている姿。〔思考・判断・表現〕 	

Round 4 ②⑨～③①	Unit4～Unit6の題材を中心とした表現活動に取り組み、目的や場面、状況に応じた表現方法を用いて、仲間に自分の意見を伝えることができる。また、相手意識を明確にもち、「何を、どのように」表現するの かを吟味しながら活動を行うことができる。 ・目的や場面、状況を考えながら、表現活動を行う。	・目的や場面、状況を意識し、相手意識を持ちながら、自分の考えや気持ちを仲間に伝えたり、他者の気持ちや考えを理解したりしている姿。[思考・判断・表現]
③②	出口の活動であるパフォーマンスに向けて、自分の考えを構築する。設定された課題に対して、目的や場面、状況に応じた表現方法を用いて、仲間に自分の意見を伝えられるように準備をする。 ・パフォーマンステストに向けての準備や練習を行う。	・目的や場面、状況を理解し、相手意識や目的意識をもって、自分の考えや伝えたいことを構築し、パフォーマンステストに向けて準備をしている姿。[思考・判断・表現]
出口の活動 ③③④	設定された課題に対して自分の意見を持ち、相手意識をしっかりともって意見を表現することができる。 ・パフォーマンステストを行い、自分や仲間のパフォーマンスについての振り返りを行う。	・目的や場面、状況を理解し、相手意識や目的意識をもって、自分の考えや伝えたいことを表現している姿。[思考・判断・表現] ・仲間の発表の姿から、内容面や表現面で自分に取り入れられるよさを考えながら学ぼうとする姿。[主体的に学習に取り組む態度]
単元で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿		
問題解決力	言語活動を通して、ラウンド学習で獲得した知識及び技能を活用しながら、教科書の登場人物たちのホームステイ先の生活の仕方やそれに対する自分の考えを話したり書いたりする姿。	言語活動を通して、ラウンド学習で獲得した知識及び技能を活用しながら、教科書の登場人物たちのホームステイ先の生活の仕方やそれに対する自分の考えを話したり書いたりする姿。
関係構築力	言語活動を通して、目的や場面、状況を考えながら、自分が伝えたいことが相手に伝わるように話したり、仲間の考えや意見を取り入れて自分の考えを再構築したりする姿。	言語活動を通して、目的や場面、状況を考えながら、自分が伝えたいことが相手に伝わるように話したり、仲間の考えや意見を取り入れて自分の考えを再構築したりする姿。
貢献する人間性	登場人物たちのホームステイ先での生活に関する概要を捉えたり、それらに対する自分の考えをもち、仲間と交流しながら考えを深めたり伝え合ったりしようにする姿。	登場人物たちのホームステイ先での生活に関する概要を捉えたり、それらに対する自分の考えをもち、仲間と交流しながら考えを深めたり伝え合ったりしようにする姿。
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て		
問題解決力	本文の概要やそれに対する自分の考えを表現するために、既習事項を用いながら単位時間ごとに課題意識をもって取り組んでいるかを学習の様子やワークシートへの記述などから見届ける。	本文の概要やそれに対する自分の考えを表現するために、既習事項を用いながら単位時間ごとに課題意識をもって取り組んでいるかを学習の様子やワークシートへの記述などから見届ける。
関係構築力	仲間との言語活動や中間交流など、他者の表現や考えを学ぶ場を設定し、自分の伝えたいことが相手に伝わるように表現しているかどうかや、仲間の意見を取り入れながら自分の考えや表現を再構築しているかを交流の様子から見届ける。	仲間との言語活動や中間交流など、他者の表現や考えを学ぶ場を設定し、自分の伝えたいことが相手に伝わるように表現しているかどうかや、仲間の意見を取り入れながら自分の考えや表現を再構築しているかを交流の様子から見届ける。
貢献する人間性	仲間との言語活動や中間交流など、他者の表現や考えを学ぶ場を設定してその様子を観察したり、考えたことや学んだことをまとめたワークシートの記述を読んだりして見届ける。	仲間との言語活動や中間交流など、他者の表現や考えを学ぶ場を設定してその様子を観察したり、考えたことや学んだことをまとめたワークシートの記述を読んだりして見届ける。

4 教科にかかわる本時のねらい

Unit 4 の概要を説明したり、家庭生活でのルールに関する自分の考えや思い、経験などを話したりする活動を通して、既習事項を正しく使いながら、自分の考えや思いなどを表現することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

5 本時の展開 (24/34)

児童生徒の学習活動	教師の手立てと見届け
<p>1 Small Talk… 2 ペア程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアを変えながら、トピックに対する自分の考えや気持ちなどを伝え合う。 ・全体交流の場で、英語表現などを確認し、次の活動に生かす。 <p>2 Today's Aim</p> <p>海斗たちのホームステイについて、自分の家での生活と比べながらリテリングしよう。</p> <p>3 Pair Activity① (Retelling ☆Speaking) … 1 ペア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの挿絵を用いながら、ペアとリテリングする。 <p>4 Reading textbook</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読後、教師が提示する挿絵やキーワードを元に、本文の概要を確認する。 <p>5 Teacher's Talk with ALT … 自分の表現に取り入れられるようにする。</p> <p>6 Pair Activity② (Retelling ☆Speaking) … 2 ペア程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で確認したことを踏まえ、別のペアとリテリングする。 <p>7 Sharing Time</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○さんは別の言い方で言い換えて話していたから、自分も取り入れて話してみたいな。 ・自分の家でのルールについても付け加えながら話してみよう。 <p>8 Pair Activity③ (Retelling ☆Speaking) … 2 ペア程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体交流で確認した表現を自分に生かし、さらに複数ペアとリテリングをする。 	<p>(●教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が交流する様子を見ながら、適宜全体交流をする。質問の場を設けたり、仲間の表現を紹介したりして、使える表現が広がるようにする。 ●一度リテリングを行い、うまく話せなかったことを話すことができるようにするために本時の学習があることを伝える。 ●教科書の内容を整理できるように、場面ごとの挿絵を見せて質問し、キーワードをもとに本文の概要を捉えられるようにする。 ○教師と ALT による家庭生活についての会話を聞かせたり、生徒に問いかけたりし、自分の考えや家庭でのルールなどを想起させた上でリテリングに取り組みめるようにする。 ○全体交流では、仲間の表現のよさを共有したり、質問の場を設けて確認したりすることで、様々な表現を取り入れて考えを再構築した上で、後半の交流に臨めるようにする。 <p>研究にかかわって</p> <p>【見届けの視点】</p> <p>自分の考えを取り入れながら、①何を、②どのように話せば相手に伝わるのかを考えてリテリングしている姿から見届ける。(問題解決力)</p>
<p>9 Evaluation Time … 最初に交流したペアと再度話す。話した後、1回目と変わった点や成長した点を伝え合い、1時間での学びや成長を確認し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目より詳しく伝えられていたね。 ・自分の考えを入れながら話せていいね。 	<p>【評価規準】</p> <p>本文の概要に、自分の考えや経験などを加えながら、10 文程度の正しい英文でリテリングをしている。〔思考・判断・表現〕</p>

メモ

【公開 I】4年2組 特別活動学習指導案

4年2組教室 桐山 裕也

- 1 題材名 上手な聴き方を知ろう
- 2 指導の立場
 - (1) 題材について
本単元は、小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別活動編にもとづく題材である。特別活動において育成を目指す資質・能力や、それらを育成するための学習過程の在り方として、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点で整理されている。「人間関係形成」は「人間関係をよりよく形成すること」と同じ視点として整理されている。
生徒指導提要（令和4年12月改訂）においても、常態的・先行的（プロアクティブ）生徒指導において、コミュニケーション力、人間関係形成力などを含む社会的資質・能力の育成の必要性が記されている。
これらを受け、人間関係を形成するためのスキルとして「アサーション・トレーニング」を行う。日常会話の中で「自分の主張も大切に伝えつつ相手の主張も大切に聴く」ことは相互交流においてとても大切である。アサーションを学ぶことで、自分の気持ちや考えを正しく表現するスキルを身に付けるだけでなく、自己理解や他者理解を深め、自己尊重の自己表現を理解し、よりよい人間関係を育むことができると考える。本時は、アサーティブな「聴き方」を中心に考えることで、よりよい人間関係を築いていこうとする態度の育成を目指している。

- (2) 児童生徒について
児童は、これまでにアサーティブな「伝え方」についての学習をしてい

る。アサーションタイプを「ジャイアン（攻撃的）」のび太くん（非主張的）」「しずかちゃん（アサーティブ）」の3タイプに分けられることを理解し、しずかちゃんの伝え方で言われると受け入れやすいという思いを抱き、その伝え方のポイントをまとめたり、練習したりしてきた。

しかし、日常生活の中では、相手の気になる行動に対してつい声を荒らげたり、改善させたいという思いはもっていても声をかけられなかったりという場面が多くある。「しずかちゃんタイプが望ましい」とは分かっているが「ジャイアンタイプ」や「のび太くんタイプ」になってしまっている現状である。そこで本時では、日常諸問題を扱うことで、自分の身の回りで起こりうる場面であることに気付かせ、自分事として捉えていけるようにしたい。また自分のタイプを振り返りつつ、どうするとアサーティブに関わりができるのか考えさせることで、自己の変容を促えさせ、日常場面へと広げていけるようにしたい。

(3) 指導について

本時は、「自己尊重の自己表現」にもとづいて、ロールプレイによる聴き方の実践練習を行う。実践練習では、話し手・聴き手・観察者の3つの役割を分担して行う。やりとりをした時の感想はもちろろん、第三者としての観察者を位置付けることで、客観的な評価を行い、自身の聴き方を振り返る場とする。この活動によって、コミュニケーションスキルを知識として理解するだけでなく、体験的に学習することを通して、普段の自分の関係構築の在り方について考え直すきっかけとしたい。また、表情や態度といった非言語的要素にも目を向けてこれからの人との関わりへの意欲をもたせたい。

授業の終末には振り返りを行う。これまでの自分を振り返りながら、「相手を大切にしたい聴き方」に対する考えの変容を促えられるようにしたい。

3 単元指導計画

学年	第4学年	題材名	上手な聴き方を知ろう (全3時間)
題材で育む資質・能力			
			<ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブな聴き方を理解し、そのポイントを見付けられることができる。[知識及び技能] (1) ア ・アサーティブな聴き方をするためにどうすればよいのか考えたり、仲間との交流から合意形成を図ったりしながら、対話することができる。[思考力、判断力、表現力等] (2) イ ・これまでの仲間とのやりとりを見つめ直し、よりよい人間関係を形成するためにはどうするとよいか振り返り、日常場面で生かしていこうとすることができる。[学びに向かう力、人間性等] (3) ウ ・アサーティブな表現を使うことのよさや、自他がよりよく生活するためにどうするとよいか見だし、実践しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
		主な学習活動とねらい	評価規準
①	<p>よりよい聴き方を見付けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つのパターンのやりとりから、どの聴き方が良いのか考える。 ・選んだ聴き方にはどんな特徴があるのか話し合う。 	望ましい聴き方は相手が話しやすくなる聴き方であることを理解し、その特徴について理解している。[知識・技能]	
② 本時	<p>上手な聴き方のポイントを考えて、使えるようになろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指したい聴き方になるためには、どんなポイントに気を付けるとよいか話し合う。 ・自分なりにポイントを踏まえた聴き方を実践する。 	聴き方のポイントを理解し、自分なりに活用できそうなポイントを選びながら、相手のことを考えた聴き方をしている。[思考・判断・表現]	
③	<p>相手にとって話しやすい聴き方をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の聴き方のポイントから更に広げていけることはないか考える。 ・様々な場面を想定して、実践する。 	聴き方のポイントを活用するだけでなく、更によりよい聴き方を目指すために、抑揚や表情などの新たな視点を見付け出し、日常場面でもそれらを生かして対話している。[主体的に学習に取り組む態度]	
題材で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿			
問題解決力	「アサーティブな聴き方」をするためにはどんなことに気を付けるとよいか、3つの例示や仲間との交流の中からポイントを見付け出し、そのポイントを意識して聴き方を実践している姿。		
関係構築力	相手が話しやすくなるように聴こうとしたり、仲間の聴き方に対してどうだったか感じたことを伝えたりする姿。		
貢献する人間性	「アサーティブな聴き方」をした仲間の良さを伝えたり、自分と仲間が不快な気持ちにならないように仲間の話を聴いたりする姿。自分の聴き方はどうだったか、仲間の聴き方と比べて交流したりしながら、「アサーティブな聴き方」を使おうとする姿。		
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て			
問題解決力	目指すべき姿をイメージしながら学習目標を設定し、単位時間ごとに自身の姿を見つめ、良さに気付いたり新たな視点を見いだしたりしたかどうか、学習記録表から見届け。		
関係構築力	仲間と会話をすることで、単位時間ごとに獲得すべきスキルやルールを意識したり、他者を意識した聴き方を考えたりしながら実践しているか、交流の様子から見届け。		
貢献する人間性	「自分ができるようになったこと・意識すべきことは何か」を考えることができたかワークシートや振り返りでの発言から見届け。またそのスキルを獲得することで何がよいか、日常の生活や自己の在り方を改善しようとしているかワークシートから見届け。		

- 4 領域にかかわる本時のねらい
3つのパターンの会話から、相手にとつてよりよい聴き方を考えることを通して、受容的に話を聴いてもらえる良さに気付き、自分も他者との対話の中で相手のことを考えた聴き方を実践していく方法を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力、表現力等〕
- 5 本時の展開 (2/3)

児童生徒の学習活動	教師の手立てと見届け
<p>1 アイズブレイク「そうだねゲーム」 A：「あれは〇〇ですね。」→B：「そうだね。」</p> <p>2 本時のめあてを確認する。 ・伝え方と同じで、聴き方にも3つのパターン（アグレッシブ、ノンアサーティブ、アサーション）があったな。 ・アイズブレイクでのシェアリングから、感じ方を交流する。 ・「しずかちゃん（アサーション）」のパターンで聴いても伝えらるとうれしいな。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">相手にとつて大切にされていると感じる聴き方をしよう。</p> <p>3 相手の話を聴くときに大切なことは何か確認する。 ・相手の方を向いて、最後まで話を聴くと大切にされている気がする。 ・あいづちを入れた方がよいのではないか。 ・もっと相手の話に反応をしてあげるとよいのではないか。 ・相手の言ったことを繰り返す。 ・質問する。</p> <p>4 聴き方ポイントを確かめる。 1、2こ：全体で確かめる。：相手の方を見る。うなずきながら聴く。等 3～6こ：ペアの子と一緒に考える。：相づちをうちながら。同じ言葉を繰り返す。等</p> <p>5 聴き方ポイントを意識して、実際に3人ペアで体験する。 (例) 今日の給食はごはんとお肉と牛乳とお肉と枝豆のサラダがでるんだよね。何っていうお肉かは忘れたけれど、なんかおいしそうじゃない？ ・(話し手) 聴き手が質問とかをしてくれると、話してよかったという気持ちになる。 ・(観察者) 今のやりとりは、前のめりになって聴こうとする姿から、相手の話を聴き逃さないようにしようとしていることが伝わってきてよかった。</p> <p>6 振り返りを行う。 ・今日の学習では、聴き方のポイントが分かった。聴き方1つでも相手に与える印象が変わってしまうから、話し手にとつて安心できる聴き方をこれから目指していきたい。</p>	<p style="text-align: center;">教師の手立てと見届け</p> <p>(●教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力) ○●児童が学習への見通しや意欲がもてるよう、学習記録表を用いて、前時までの学習や本時したいことを確かめる。 ○「自分が話し手の時にどんな気持ちになるのか」と問うことで、問題意識を高める。 ○受容的な聴き方のよさに気付くために、3つの行動を実演することで、問題解決に最適な行動を児童自身がイメージしやすいようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">研究にかかわって 【見届けの視点】 学習課題をもち、相手にとつてどんな聴き方をするかよいか聴き方のポイントを考えられているか。 (関係構築力)</p> <p>○「話が分からないときにはどうするか。」と問うことで、常に同じ行動場面ばかりではないことに気付く。 ○●「聴く」行動の思いを問い返すことで、他者を大切にしようとする思いに目が向けられるようにする。 ○●仲間との学びがより深められるよう、客観的に見ることでできる観察者を設定し、よりよい聴き方について評価する。観察者には、観察のポイントをワークシートに示すなど、視点を明確にする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】 聴き方のポイントを理解し、自分なりに活用できようなポイントを選びながら、相手のことを考えた聴き方をしている。〔思考・判断・表現〕</p>

メモ

【公開 I】8年1組 保健体育科学習指導案

8年1組教室 新井 敦子

1 単元名 健康な生活と病気の予防②

2 指導の立場

(1) 題材について

本単元は、第8学年の内容(1)ア(ウ)とイに基づき単元である。前期課程では健康の大切さや健康による生活、病気の起こり方や予防などについて学習している。また、第7学年では人間の健康は主体と環境が関わり合っており立つことを学習している。本単元では、健康を保持増進し、疾病を予防するためには、それに関わる要因への適切な対策があることを理解できるようにする必要がある。さらに、自他の健康に関心をもち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復に主体的に取り組む態度を身に付ける必要がある。

健康の保持増進や生活習慣などを予防するためには、不適切な生活行動を若い世代から続けることによって、様々な生活習慣病のリスクが高まることを理解させたり、健康診断やがん検診などで早期に発見することで疾病の回復につながることを理解させたりすることが重要であると考ええる。

(2) 児童生徒について

日常生活の会話や保健室に入室した時の問診から、生徒は、よい生活習慣が健康に結びつくことは知識として知っていると感じると感じる。しかし、就寝時刻が遅い、朝食がとれていないなど現実の生活に知識を活用している様子はあまり見られない。自分自身の健康を軽視しているわけではないが、それより

も友人とのつながりや楽しみに対する欲求が勝ってしまう。また、ほとんどの生徒が現時点では健康であるため、不適切な生活行動によるダメージがあったとしてもすぐに回復できてしまい、生活習慣を整えるということに切実感がない。今の自分が選択していることの積み重ねが、将来の自分につながっているというイメージもまだ希薄である。

(3) 指導について

本時は、がんという疾病にかかる仕組みやがんを引き起こす要因を通して生活習慣の重要性を再度理解させたい。その上で、実生活に生かすための調整力を高めたいと考える。

病気の発生に関わる主体の要因のうち、生活習慣や行動は自分で選択して変えられる部分であるが、変えるためには継続することが必要である。わかっているけれど変えられないのは意思の強弱ではなく、〇〇があるから無理、面倒くさいからできない、と自分で決めつけてしまっている部分が大さい。今日できなかつたなら明日〇〇できればいい、最近〇〇だから今週はこちらを選ぼう、という幅広い視点で生活全体を調整することが生活習慣改善の実現につながると思う。最終的には将来の自分に対して手紙を書くことで、喫煙や飲酒なども含め、今の自分の選択の積み重ねが将来の自分につながることを明確にイメージできるようにしたい。

3 単元指導計画

学年	第 8 学年	単元名	健康な生活と病気の予防② (全 3 時間)
単元で育む資質・能力			
<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病は日常の生活習慣が原因となって起こる疾病であり、適切な生活習慣によって予防できることを理解している。[知識及び技能] がんの発生要因や、がんの予防にも生活習慣が関係していることについて科学的に理解している。[知識及び技能] 健康な生活と疾病の予防に関わる情報から自分の課題を発見し、解決方法を考え選択して伝え合うことができる。[思考力、判断力、表現力等] 自他の健康に関心を持ち、現在及び将来の生活において、心身の健康の保持増進や回復を目指そうとしている。[学びに向かう力、人間性等] 			
時	主な学習活動とねらい		評価規準
	生活習慣病とはどんな病気かを知ろう。		
①	生活習慣が健康に及ぼす影響を考え、生活習慣病の予防について理解することができる。	生活習慣病は生活習慣が要因となって起こる疾病であり、適切な対策により、発症を予防できる可能性が高くなると理解している。[知識・技能]	
②	なぜ〇先生は生活習慣改善に成功したのだろうか。 生活習慣を改善した事例から、習得した知識を活用して課題を発見し、生活全体を長期的な視点で調整するための方法を考えることができる。	生活習慣病を予防するため情報等について、科学的根拠をもとに整理をしたり、生活と関連付けたりして課題を発見するとともに、知識を活用して生活習慣病を予防するための方法を考えている。[思考・判断・表現]	
③	自分ができる生活習慣の改善を考えよう。 自分の 1 週間の生活記録と今の健康状態をもとに課題を発見し、習得した知識を活用して生活習慣改善の方法を考えることができる。	将来の自分のために、これまで学んだことを活かして現実的な生活習慣改善方法を考えている。[主体的に学習に取り組む態度]	
単元で自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿			
問題解決力	健康のため、科学的根拠に基づき実現可能な生活習慣改善方法を考える姿。		
関係構築力	交流時に考えを伝え合い、相手の意見を認めたり共感したりする姿。		
貢献する人間性	過去の自分の選択が今の自分につながっていることを実感し、今の自分の選択が将来の自分につながることを具体的に考える姿。		
自己実現に向かうための資質・能力を発揮している姿の見届けの視点と手立て			
問題解決力	自分の生活習慣の課題を具体的に捉え、自分の生活様式に適した「よい生活習慣」を実現させるための改善方法を考えているか、発言やワークシートの記入から見届ける。		
関係構築力	仲間との対話の中で相手が悩んでいる点に共感したり、双方の意見を取り入れて共に考えたりしているか、交流の様子から見届ける。		
貢献する人間性	自分の生活様式や性格に合った生活習慣改善方法を考えているか、将来の自分に向けての手紙の内容から見届ける。		

4 教科にかかわる本時のねらい

自分の1週間の生活記録と今の健康状態をもとに課題を発見し、習得した知識を活用して生活習慣改善の方法を考えることができる。〔学びに向かう力・人間性等〕

5 本時の展開 (3/3)

児童生徒の学習活動	教師の手立てと見届け
<p>1 がんについてのイメージや知っていること、疑問などを挙げる (自由交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死ぬ病気 ・やせる ・うつる? ・自分もなる? ・なる人とならない人の違いは? <p>2 がんができる仕組みや日本のがんの現状について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんはもともと自分の細胞なのか。だから、うつる病気ではないの。 ・変異しても、修復や排除の仕組みがある。体の仕組みを正常に働かせることが大事。 ・「遺伝」は大きな要素だが、「生活」は自分次第で変えられる。だったら変えたい。 <p style="text-align: center;">自分ができる生活習慣の改善を考えよう。</p> <p>3 自分の1週間の生活表を見直して、翌週から自分が調整できる生活習慣とその手立てを考える</p> <p>てワークシートに記入する (個人→自由交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今週は寝るのが遅かったから、疲れ気味。塾がないこの日は早く寝る。 ・睡眠時間は、土日たくさん寝ることで普段足りない分を取り戻す。 ・給食以外であまり野菜を食べていないから、休みの日に外食するなら野菜メニューを選ぶ。 ・私は朝、時間がいないからインスタントスープを飲んでいる。日曜日は自分で作ってみようかな。 <p>4 がんの危険性を減らす5つの健康習慣を参考に、考えたことを生かして30年後、1年後の自分に手紙を書く</p>	<p>(●教科の資質・能力 ○自己実現に向かう資質・能力)</p> <p>○がんのできる仕組みや現状について視覚的に理解させるため、図やグラフなどを使用する。また、がんと生活習慣や遺伝との相関関係を理解させるためにがん検診の間診票を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族にがん患者がいる、またはがんで亡くなっている生徒がいる前提で話す。また、小児がんなど生活習慣が関わっていないがんについて触れ、偏見が起きないようにする。 <p>研究にかかわって</p> <p>【見届けの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の生活習慣の問題点を調整するための手立てが科学的根拠に基づいているかを、発言や記入内容から見届ける。(問題解決力) ○実行不可能な手立てを安易に出すことが考えられる。前時の学習を想起させ、これぐらいならできるといいう幅をもたせた現実的な手立てでいいという視点を再確認する。 ●仲間との学びがより深められるよう、交流の際には、相手の考えの根拠を尋ねたり、相手の考えからヒントを得たりする姿を価値付ける。 <p>【評価規準】</p> <p>将来の自分のために、これまで学んだことを生かして現実的な生活習慣改善方法を考えている。〔主体的に学習に取り組む態度〕</p>
<p>30年後の自分へ</p> <p>仕事で忙しすぎて、外食ばかりになっていませんか?今の自分は唐揚げとかフライが大好きだけど、脂が血管に溜まっていくから食べるときは一緒に野菜もとろうと決めました。タバコは煙が苦手だし美容のために吸っていないと思いますよ。</p> <p>1年後の自分へ</p> <p>受験勉強は予定通り進んでいきますか?当日ベストな状態で迎えるためにも、疲れがたまってきたと思ったら、まず寝てください。夜遅くまで起きているとおなかもすくけど、食べるものは考えてね。カブプラメンもいけど、たまにしておこう。</p>	

あ と が き

2020年からの新型コロナウイルス感染症の流行や世界的な異常気象等、将来の変化を予測することが困難な時代だからこそ、子供たちには、現在と未来に向けて、自らの人生を自分の力で切り拓いていってほしいと願っています。

本校では、令和2年度から文部科学省の「研究開発学校」の指定を受け、実践を積み重ねてきています。今述べたように、予見不可能な未来を自分らしく生きるため、子供たち一人一人が「自分はどう生きるか」を問い続け、納得解や最適解を求め、自己実現していこうとする力と人間性の育成を目的とした義務教育9年一貫の教育課程の研究開発に取り組んでいます。

今年度は特に、新領域「どう生きるか」において、以下の3点に重点を置きました。

- ① カリキュラムの全体像を発達の段階に照らして整え、実践した。
- ② 学習過程において、「探究サイクルの過程を行き来して深めていく学び」「ジレンマやエラーを想定した指導計画」「道徳的価値と向き合うための時間の確保」「内省の時間を位置付け、自分の生き方を見つめること」を大切にしました。
- ③ 学習評価として、「ポートフォリオ」「ルーブリック」を作成し、継続的に見直すことができるようにした。

今回、授業を公開し研究紀要をまとめることで、改めて子供一人一人に目を向け、その子の願いや切実感を大切にし、「自己実現に向かう児童生徒」を子供の姿で検証していきたいと考えています。真摯にそして誠実に取り組んできた実践ではありますが、まだまだ未熟で拙いものです。皆様のご教示とご指導、ご批正を賜ることができましたら幸いです。

本日の授業公開や研究紀要を作成にあたり、多くの方から御指導いただきましたことを深く感謝申し上げます。令和2年度より継続して研究の方向性について御指導いただきました運営指導委員の皆様、文部科学省、岐阜県教育委員会、岐阜市教育委員会の関係者様、岐阜大学教育学部の皆様には厚く御礼申し上げます。さらに、本校の「人間教育」の理念に賛同し、学校を支え、惜しみなく協力をいただきました保護者の皆様、学校評議員の皆様にも改めて感謝申し上げます。

また、ご多用のところ教育研究会にご参会くださいました全国の皆様に、あわせてご礼申し上げます。

令和5年11月4日
岐阜大学教育学部附属小中学校
校長 横山 真一

研究同人

【R5年度】

今村 光章	丸山 早苗	横山 真一	野口 正史	岸 貴彦
水崎 綾香	沖田 由香	小笠原 淳	伊藤 潤	高木 俊裕
野々村 琢磨	岸 周吾	今西 賀寿真	江口 隆寛	三戸 まみ
新井 敦子	森田 裕代	上原 純	舟橋 和恵	田中 雄也
北川 基洋	林 賢太郎	青木 笙悟	下川 舞子	中村 幸智
岩田 尚之	窪田 泰三	桐山 裕也	三輪 佳祐	潮田 航大
干場 康平	佐藤 睦	伊藤 暢宏	富倉 亮	鈴木 香子
牧村 拓	土開 敏真	平尾 龍平	磯谷 直毅	岡田 春香
水谷 直美	大坪 雅詩	高橋 亮	浅井 拓也	大塚 光朗
岩崎 英之	丹下 侑輝	岡本 恭子	渡辺 雅己	豊吉 章孝
土生 雄一	小寺 真実子	河合 真理	新居 豊子	平野 和俊
葛西 希美	須田 詩音	横田 満里		

【R4年度転出職員】

宮川 浩司	各務 至	石田 華映	藤井 祐矢	山田雄一朗
浅賀 崇史	兼松 明	早野 洋子	河合 美保	古村真里江
松井 さやか	宮下 和弥	佐藤 蒼馬		

【R3年度転出職員】

須本 良夫	古賀 英一	西野 美佳	淀川 雅夫	佐合 佑介
大羽 淳也	栗本 麻衣	鳥井 雄介	浅井 洋佑	千嶋 里英
三橋 直哉	平光 良平	金森 夕貴	田中 菜帆	杉山 翔乙
長尾 亮	荘加 菜摘			

【R2年度転出職員】

中村 俊彦	佐藤 秀行	古川 貴之	南谷 雄一	小林 達也
高橋 直子	市橋 聖也	金澤 史斗	浅野 綾子	福岡 晶子

【研究開発学校運営指導委員会】※順不同、敬称略

京都大学大学院教育学研究科准教授
東京学芸大学教育学部教授
国立教育政策研究所教育課程研究センター統括研究官
岐阜県教育委員会事務局学校支援課教育主管
岐阜県立岐阜工業高等学校長
郡上市立郡南中学校長
岐阜市立岐阜小学校長
岐阜大学教育学部長
岐阜大学教育学部附属学習協創開発研究センター長
岐阜大学教育学部教授

石井 英真
高橋 純
西野真由美
山田 高秀
堀 秀樹
三島 晃陽
藤田 忠久
山田 雅博
益子 典文
今村 光章

中間研究報告

「自己実現に向かう児童生徒の育成」

令和5年11月4日 発行

編集・発行 岐阜大学教育学部附属小中学校

代表者 統括校長 丸山 早苗

〒500-8482 岐阜市加納大手町74

TEL 058-271-3545

FAX 058-271-1816

※「中間研究報告」の内容、掲載写真等をご活用される場合は、
本校へご連絡ください。